

Oracle8 Server エラー・メッセージ : Vol.1

リリース 8.0

1998 年 2 月

部品番号 A56828-1

Oracle8 Server エラー・メッセージ : Vol. 1

部品番号 A56828-1

リリース 8.0

第 1 版 : 1998 年 2 月

原本名 : Oracle8 Error Messages

原本部品番号 : A58512-01

原本主著者 :

原本協力者 : Yitzkik Brenman, Sandy Dreskin, Jeff Hebert, Jacinda Johnson, Mark Kennedy, Judy Latham, Pricilla Lee, Cathy Novak, Nik Ormseth, Tom Pfaeffle, Brian Quigley, sandy Venning

Copyright © Oracle Corporation, 1997, 1998

All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラムの使用、複製、または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。

本書の情報は、予告なしに変更されることがあります。本書に問題を見つけたら、当社にコメントをお送りください。オラクル社は、本書の無謬性を保証しません。

危険な用途への使用について

当社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、又は医療の分野など、本質的に危険が伴うアプリケーションを用途として特に開発されておられません。当社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は顧客各位の責任と費用により行っていただきたく、万が一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、当社および開発元である米国 Oracle Corporation (その関連会社も含みます。)は一切責任を負いかねます。

ORACLE は、Oracle Corporation の登録商標です。

本文中の他社の商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目 次

はじめに	vii
1 メッセージの使用方法	
メッセージ関連のマニュアル	1-1
Oracle Server	1-1
製品固有	1-1
オペレーティング・システム固有	1-2
メッセージの精度	1-2
メッセージの形式	1-2
メッセージにおける埋込み変数の認識	1-2
メッセージ・スタック	1-3
オラクル社カスタマー・サポートへの連絡	1-3
Oracle 例外メッセージ	1-4
トレース・ファイル	1-4
警告ファイル	1-5
2 ConText Option メッセージ	
ConText Option エラー・メッセージ: DRG-10000 ~ DRG-12100	2-1
3 Oracle Trace メッセージ	
サーバー・メッセージ: EPC-00000 ~ EPC-00400	3-1
ユーザー・インタフェース・メッセージ: EPCW-00000 ~ EPCW-00999	3-29
ユーザー・インタフェース・メッセージ: EPCW-01000 ~ EPCW-01999	3-36

4	エクスポート・メッセージ	
	エクスポート・メッセージ :00000 ~ 00199.....	4-1
5	Image Data Cartridge メッセージ	
	Image Data Cartridge エラー・メッセージ : IMG-00001 ~ IMG-00715.....	5-1
6	インポート・メッセージ	
	インポート・メッセージ :00000 ~ 00100.....	6-1
7	Names Server Network Management プロトコル・メッセージ	
	Names Server Network Management プロトコル・エラー・メッセージ : NMP-00001 ~ NMP-00011	7-1
8	エージェント・メッセージ	
	エージェント構成およびスタートアップ・メッセージ : NMS-00000 ~ NMS-00050	8-1
	エージェント・ロギング・メッセージ : NMS-00051 ~ NMS-00075	8-2
	データベース・サブエージェント : NMS-00200 ~ NMS-00250	8-3
	サブエージェント・ロギング・メッセージ : NMS-00250 ~ NMS-00275	8-3
	エージェント操作メッセージ : NMS-00301 ~ NMS-00350	8-4
	エージェント・ファイルの暗号化 : NMS-00351 ~ NMS-00360	8-6
	未要求イベント実行 : NMS-00361 ~ NMS-00370.....	8-7
	ジョブおよびイベント : NMS-00600 ~ NMS-00799.....	8-8
	エージェント・ロギング・メッセージ : NMS-00900 ~ NMS-00999	8-8
	エージェント・エラー・メッセージ : NMS-01000 ~ NMS-01099	8-10
	内部エージェント・エラー・メッセージ : NMS-01200 ~ NMS-01999	8-12
	コンソールのエージェント・エラー : NMS-05000 ~ NMS-05999	8-12
9	Oracle Names Client メッセージ	
	Oracle Names Client および Client/Server エラ ー・メッセージ : NNC-00001 ~ NNC-00501.....	9-1
10	Native Naming メッセージ	
	Native Naming 一般エラー・メッセージ : NNF-00001 ~ NNF-00999	10-1
	DCE CDS アダプタ・エラー・メッセージ : NNF-01000 ~ NNF-01999.....	10-2
	NIS アダプタ・エラー・メッセージ : NNF-02000 ~ NNF-02999.....	10-17
	BIND/DNS エラー・メッセージ : NNF-03000 ~ NNF-03999.....	10-18

	ネイティブ名前変換ツール・メッセージ: NNF-04000 ~ NNF-04999	10-18
11	Oracle Names 制御メッセージ	
	Oracle Names 制御ユーティリティ・エラー・メッセージ: NNL-00001 ~ NNL-01073	11-1
12	Oracle Names Server メッセージ	
	Oracle Names Server エラー・メッセージ: NNO-00050 ~ NNO-00712	12-1
13	ネーム・サーバー・ネットワークのプレゼンテーション層 メッセージ	
	ネーム・サーバー・ネットワークのプレゼンテーション層: NPL-00400 ~ NPL-00420	13-1
14	オブジェクト型トランスレータ・メッセージ	
	オブジェクト型トランスレータ初期化メッセージ	14-2
	オブジェクト型トランスレータ解析解除メッセージ: 00200 ~ 00210	14-6
	オブジェクト型トランスレータ型ファイル・メッセージ: 00301 ~ 00326	14-7
15	サーバー・メッセージ: ORA-00000 ~ ORA-02350	
	Oracle Server: 00000 ~ 00100:	15-1
	マルチスレッド・サーバー: 00101 ~ 00149	15-10
	Oracle*XA メッセージ: 00150 ~ 00159	15-13
	分散トランザクション・メッセージ: 00160 ~ 00199:	15-14
	制御ファイル・メッセージ: 00200 ~ 00249	15-15
	アーカイブおよび回復メッセージ: 00250 ~ 00299	15-22
	REDO ログ・ファイル・メッセージ: 00300 ~ 00369	15-29
	KCB メッセージ: 00370 ~ 00389	15-39
	REDO ログ・ファイル・メッセージ: 00390 ~ 00399	15-41
	Oracle の互換性: 00400 ~ 00420	15-42
	ライセンス・メッセージ: 00436 ~ 00437	15-43
	分離プロセスの起動メッセージ: 00440 ~ 00460	15-44
	分離プロセスの終了メッセージ: 00470 ~ 00485	15-45
	インタラプト・ハンドラ・メッセージ: 00486 ~ 00569	15-47
	SQL*Connect ファイルのオープンおよび読み込みメッセージ: 00570 ~ 00599	15-48
	Oracle 例外メッセージ: 00600 ~ 00639	15-48
	SQL*Connect メッセージ: 00640 ~ 00699	15-49
	ディクショナリ・キャッシュ・メッセージ: 00700 ~ 00709	15-49

メッセージ変換メッセージ: 00816 ~ 00816.....	15-50
SQL の解析メッセージ: 00900 ~ 00999.....	15-50
ユーザー・プログラム・インタフェース・メッセージ: 01000 ~ 01099.....	15-65
Oracle ファイル・メッセージ: 01100 ~ 01250.....	15-78
SQL の実行メッセージ: 01400 ~ 01489.....	15-105
その他、ANALYZE、SQL の解析、実行: 01490 ~ 01499.....	15-118
Oracle コマンド・メッセージ: 01500 ~ 01699.....	15-120
SQL の解析メッセージ: 01700 ~ 01799.....	15-154
日付関数メッセージ: 01800 ~ 01899.....	15-168
SQL の解析メッセージ: 01900 ~ 02039.....	15-176
分散トランザクション・メッセージ: 02040 ~ 02099.....	15-195
プリコンパイラ・ランタイム SQLLIB メッセージ: 02100 ~ 02139.....	15-204
SQL の解析メッセージ: 02140 ~ 02299.....	15-204
SQL へのオブジェクト拡張機能メッセージ: 02300 ~ 02350	15-223

はじめに

このマニュアルでは、Oracle8 製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて説明します。このマニュアルでは、次の製品のメッセージを説明します。

- Oracle8 ConText Option
- Oracle8 Image Data Cartridge
- Oracle8 Enterprise Manager
 - Oracle8 Enterprise Console および関連サービス
 - Database tools メッセージ
 - Oracle8 パフォーマンス監視ツール
 - SQL エンジンおよび行モード・メッセージ
- Oracle8 Names
- Oracle8 Server
 - SQL プロセッサ
 - PL/SQL
 - Server Manager
 - プリコンパイラ、Export および Import ユーティリティ
 - Recovery Manager
 - SQL*Loader
- Oracle8 Spatial Data Cartridge
- Oracle8 Solaris プロトコル・アダプタ
- Oracle8 Video Server
- Oracle8 Windows NT プロトコル・アダプタ

- Net8 および SQL*Net リリース 2.0 以降
 - Transparent Network Substrate (TNS)
 - 接続マネージャ
 - Oracle8 プロトコル・アダプタ
 - Oracle8 Advanced Networking Option
- SNMP for Oracle8 Names
- ネイティブ・ネーム・アダプタ

このマニュアルでは、各メッセージについて、メッセージの文、考えられる原因の説明と対処方法を説明しています。メッセージが警告であったり、エラーの発生を表している場合には、解決方法を示します。

対象読者

このマニュアルは、すべての Oracle8 ユーザーを対象にしています。

構成

Oracle8 Server エラー・メッセージ, リリース 8.0 は全部で 3 冊あります。それぞれの内容は次のとおりです。

Vol.1

- 第 1 章 メッセージの使用方法
- 第 2 章 ConText Option メッセージ
- 第 3 章 Oracle Trace メッセージ
- 第 4 章 Export メッセージ
- 第 5 章 Image Data Cartridge メッセージ
- 第 6 章 インポート・メッセージ
- 第 7 章 Names Server ネットワーク管理プロトコル・メッセージ
- 第 8 章 エージェント・メッセージ
- 第 9 章 Oracle Names クライアント・メッセージ
- 第 10 章 Native Naming メッセージ
- 第 11 章 Oracle Names 制御メッセージ
- 第 12 章 Oracle Names Server メッセージ
- 第 13 章 Names Server ネットワーク・プレゼンテーション・レイヤー・メッセージ

第 14 章 Object 型トランスレータ・メッセージ

第 15 章 Server メッセージ:ORA-00000 ~ ORA-02350

Vol.2

第 1 章 メッセージの使用方法

第 2 章 サーバー・メッセージ:ORA-02351 ~ ORA-29799

第 3 章 PL/SQL メッセージと FIPS メッセージ

Vol.3

第 1 章 メッセージの使用方法

第 2 章 プリコンパイラ・メッセージ

第 3 章 SQL*DBA メッセージ

第 4 章 SQL*Loader メッセージ

第 5 章 SQL*Module メッセージ

第 6 章 Recovery Manager メッセージ

第 7 章 BFILE-Related メッセージ

第 8 章 Oracle Video Server メッセージ

第 9 章 Security Manager メッセージ

第 10 章 メッセージとコード

第 11 章 Storage Manager メッセージ

第 12 章 Instance Manager メッセージ

第 13 章 Backup および Recovery Manager メッセージ

第 14 章 Schema Manager メッセージ

第 15 章 一般的な Oracle Enterprise Manager メッセージ

第 16 章 Oracle8 Visual Information Retrieval Cartridge メッセージ

第 17 章 Oracle Performance Manager メッセージ

第 18 章 Oracle TopSessions メッセージ

第 19 章 Tablespace Manager メッセージ

第 20 章 Console メッセージ

第 21 章 Daemon メッセージ

第 22 章 ジョブ・システム・メッセージ

関連資料

このマニュアルの中で、他の資料の情報を参照している箇所があります。このマニュアルで参照している関連資料は、次のとおりです。

- Oracle Server の概要および機能については、『Oracle8 Server 概要』を参照してください。
- Oracle Server の管理については、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。
- Oracle Server でのアプリケーションの開発方法については、『Oracle8 Server アプリケーション開発者ガイド』を参照してください。
- 前のバージョンの Oracle から Oracle8 への移行手順については、『Oracle8 Server 移行ガイド』を参照してください。
- Oracle SQL コマンドおよびファンクションについては、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。
- Oracle Server にバンドルされているユーティリティ (Export、Import、SQL*Loader など) については、『Oracle8 Server ユーティリティ』を参照してください。
- ホスト・オペレーティング・システムで稼動している Oracle Server 固有の情報については、各オペレーティング・システムに対応する Oracle マニュアル (タイトルはオペレーティング・システムによって異なります) を参照してください。使用可能であれば、システム・リリースも参照してください。
- Net8 については、『Net8 管理者ガイド』を参照してください。データの暗号化、外部認証サービス、Oracle DCE 統合など Oracle Advanced Networking Option に組み込まれている機能については、『Oracle Advanced Networking Option 管理者ガイド』を参照してください。Oracle 固有の認証および認可サービスについては、『Oracle Security Server ガイド』および『Oracle Cryptographic Toolkit ガイド』を参照してください。

オラクル社は、配布媒体上で使用可能な形式でいくつかのファイルを提供する場合があります。これらのファイルには、このマニュアルに記載されていない Oracle ソフトウェアのマイナー・リリースについての説明があります。通常、これらのファイルは、README.DOC および BUGFIX.DOC、BUGHST.DOC、RESTRICT.DOC という名前で提供されます。マニュアルに記載されていないソフトウェア情報については、これらのファイルを参照してください。

追加情報:

上記ファイルの名前および位置は、オペレーティング・システムによって異なる場合があります。これらのファイルについては、各オペレーティング・システムに対応した Oracle マニュアルを参照してください。

オラクル社カスタマー・サポートへの連絡

オラクル社カスタマー・サポートの電話番号は次のとおりです。(営業時間はサポート契約書類に記載されています):

- 米国内の電話番号 : **1.415.506.1500**.
- ヨーロッパの電話番号 : **+44.1344.860160**
- アジアの電話番号 : **+81.3.5717.1850**

オラクル社カスタマー・サポートに電話する前に、次の事項を確認してください。

- あなたの CSI 番号 (ある場合) あるいは、特定のプロジェクト情報などの連絡詳細。
- オラクル・サーバーと関連製品のリリース・レベル。(たとえば、Oracle8 Server リリース 8.0.3.0 および Oracle Forms リリース 4.5.6.3.2 など)
- オペレーティング・システムの名前とリリース・レベル。パッチやパッケージを含む。
- 問題に伴うエラー・コード、番号、詳細。
- 次の問題の詳細について項目。
 - 何が起きたのですか。たとえば、使ったコマンド、得られた結果、など。
 - 問題が起きたのはいつか。たとえば、時間帯、特定のコマンドの後で、オペレーティング・システムやオラクルのアップグレードの後で、など。
 - 問題が起きた場所はどこですか。たとえば、特定のシステムで、あるいは特定のプロセスやあるいは表を使っている時など。
 - どの程度の問題ですか。たとえば、本番システムが使えないか、それほど深刻でもない問題なのか、など。事態は悪くなっているか。

起きたことと、起きなかったことの両方を覚えていてください。

- 問題が起きた前後に記録されたトレース・ファイル、コア・ダンプ、ログ・ファイルのコピー。

インストール関係の問題では、次の項目を確認してください。

- ORACLE_HOME ディレクトリの内容と、Staging 領域がある場合は、その内容。
- \$ORACLE_HOME/orainst ディレクトリ内のインストール・ログ・ファイル install.log および sql.、make.log、os.log. の内容。

詳細は、<http://www.oracle.com/support> を参照してください。

メッセージの使用方法

この章では、メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。ここでは次の項目を扱います。

- メッセージ関連のマニュアル
- メッセージの精度
- メッセージの形式
- メッセージにおける埋込み変数の認識
- メッセージ・スタック
- オラクル社カスタマー・サポートへの連絡
- Oracle 例外メッセージ
- トレース・ファイル
- 警告ファイル

メッセージ関連のマニュアル

Oracle Server

これらのメッセージは、Oracle プログラムの実行時に Oracle Server によって生成されます。このマニュアルには、Oracle 製品および Tools に共通するメッセージを記載します。

製品固有

これらのメッセージは各製品ごとに異なり、マニュアルの文章はその製品用のものです。たとえば、Macintosh 上で SQL*Net を使うには、SQL*Net 文書、『Macintosh 用 SQL*Net マニュアル』に書かれたメッセージを参照する必要があります。

オペレーティング・システム固有

これらのメッセージは各オペレーティング・システムに固有のものです。各オペレーティング・システムには、一定の範囲のメッセージ・コード番号が割り当てられています。たとえば、ORA-7500 ~ ORA-7999 の範囲のメッセージは DEC VAX/VMS メッセージ用であり、これらのメッセージは該当するオペレーティング・システム固有のマニュアルに記載されています。

メッセージの接頭辞を見れば、そのメッセージの情報がどこに記載されているか分ります。たとえば、このマニュアル中のメッセージには "ORA" の接頭辞が付いているものがあります。最初にチェックする使っている Oracle Server 用のマニュアルで、接頭辞がないメッセージがある場合、そのマニュアルをチェックします。

メッセージの精度

このマニュアルのメッセージで第一に重要なのは、その精度です。時折、バージョン・アップのときにメッセージに変更があり、Oracle ソフトウェアと一致しない場合があります。万一このマニュアルと異なるメッセージが出力された場合は、次のリリースのソフトウェアに改訂版のメッセージ・テキストが発行されますので、お待ちください。矛盾がみられる場合には、マニュアル巻末の「マニュアル・コメント用紙」を使用して問い合せてください。

メッセージの形式

表示されるすべてのメッセージには、どのプログラムから出力されたかを示す接頭辞が付いています。たとえば、接頭辞 "ORA" は、Oracle 製品によって生成されたメッセージに表示します。このマニュアルに記載されているメッセージはこの接頭辞ごとに並んでいます。次の表に、メッセージの接頭辞とメッセージが記載されている章を示します。

なお、メッセージはすべてメッセージ・コード番号に従って示されています。メッセージを検索するときは、このメッセージ・コード番号を使用してください。

メッセージにおける埋込み変数の認識

メッセージの発見と訂正を容易にするため、Oracle ではある種のメッセージにオブジェクト名、数、文字列が埋め込まれています。これらの埋め込まれた変数は *name*, *num*, *str* などで表されます。たとえば、次のようなメッセージがあるとします。

```
ORA-00020: maximum number of processes (num) exceeded
```

このメッセージは実際には次のように表示されます。

```
ORA-00020: maximum number of processes (50) exceeded
```

メッセージ・スタック

「メッセージ・スタック」が表示されることがよくあります。メッセージ・スタックは、Oracle の各レベルから出力される一連の関連メッセージです。

次のメッセージ・スタックは一般的な例です。

```
ORA-06502: PL/SQL: numeric or value error
ORA-06512: at "SCOTT.VALUE_ERR", line 1
ORA-06512: at line 1
```

次のメッセージ・スタックは VAX/VMS の例です。

```
ORA-01034: Oracle not available
ORA-07625: smsget: $MGBLSC failure
%SYSTEM-W-NOSUCHSEC, no such (global) section
```

この例の場合、スタックの一番下のメッセージは VMS オペレーティング・システムから出力されたものです。システム内の各レベルで検出されるメッセージは、その原因をたどるときに役立ちます。たとえば、上記の場合、Oracle がまだ起動されていないためにシステム・グローバル領域 (SGA) が存在せず、Oracle Server を使用できない可能性もあります。オラクル社カスタマー・サポートに連絡する場合、必ずメッセージのスタック全体を報告してください。

オラクル社カスタマー・サポートへの連絡

ある種のメッセージが発生した場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡することをお勧めします。カスタマー・サポートに連絡するときは、次の情報を用意してください。

- Oracle が稼働しているオペレーティング・システム、そのリリース番号とハードウェア。
- Oracle Server の詳細なリリース番号。たとえば、8.0.2 または 7.1.3。
- エラー発生時に実行していたすべての Oracle プログラム（バージョン番号も含む）。たとえば、SQL*Net V2.0 または SQL*Forms V3.0。
- メッセージ・コードまたはメッセージがいくつか表示されている場合、出力順の正確なコード番号とメッセージ本文。
- 問題の重大度：次の順位に従います。
 - 1 = プログラムを実行できない。操作に重大な影響がある。
 - 2 = プログラムが実行できる。操作は非常に制限される。
 - 3 = 限定された機能でプログラムを実行可能。操作全体ではそれほど重大ではない。
 - 4 = 問題はユーザーが回避できる。操作に対する影響はきわめて小さい。

さらに、次の情報を提供してください。

- ユーザーの氏名
- 会社名
- 会社の Oracle サポート ID 番号
- 電話番号

Oracle 例外メッセージ

Oracle の広範な自動検査機能は、内部エラーの検出に役立ちます。あいまいなメッセージでユーザーが困惑しないように、Oracle 内部例外として次のメッセージが一括して出力されます。

```
ORA-00600: internal error code, arguments: [num], [], [],[],[],[]
```

このメッセージは実際には次のように表示されます。

```
ORA-00600: internal error code, arguments: [1042], [3],[upilam], [],  
[],[]
```

メッセージ文の後には、エラーの発生地点および属性を示す引数が最高 6 個まで表示されます。第 1 の引数は内部エラー番号を示します。他の引数は各種の数値、名前、文字列です。空のカッコは無視してかまいません。

ユーザーにメッセージが返されるだけでなく、このメッセージの原因に関する情報と一緒に内部エラーが警告ファイルに書込まれます。警告ファイルには、内部エラーによって生成されたトレース・ファイルの保存位置も書き込まれます。トレース・ファイルと警告ファイルについては、次の節を参照してください。

この ORA-00600 メッセージが出力された場合、ソフトウェアのバグとしてオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

トレース・ファイル

Oracle インスタンスを起動するとき、ユーザー・プロセスまたはバックグラウンド・プロセスで予期しないイベントが発生するときには、必ずトレース・ファイルが 1 つ作成されます。トレース・ファイル名には、インスタンス名、プロセス名、Oracle プロセス番号が含まれています。ファイル拡張子つまりファイル・タイプは、通常 TRC となります。それ以外の場合についてはオペレーティング・システム固有のマニュアルに記述されています。このトレース・ファイルにはシステム・グローバル領域、プロセス・グローバル領域、スーパーバイザ・スタック、レジスタのダンプが入っています。

2 つの初期化パラメータがトレース・ファイルの保存位置を指定します。

BACKGROUND_DUMP_DES

Oracle バックグラウンド・プロセス PMON および DBWR、LGWR、SMON によって作成されたトレース・ファイルの保存位置を指定します。

USER_DUMP_DEST

SQL*DBA、SQL*Plus、Pro*C などのユーザー・プロセスによって作成されたトレース・ファイルの保存位置を指定します。

警告ファイルには、内部エラーが発生したときに生成されるトレース・ファイルの保存位置が書き込まれます。警告ファイルについては、次の節を参照してください。

問題の診断に使用する前に、トレース・ファイルをフォーマットする必要があります。トレース・ファイルをフォーマットするためには、たいいていのシステムで利用可能であり、各オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルに記述されている DUMPFMT ユーティリティを使用してください。オラクル社カスタマー・サポートは、問題を解決するためにフォーマット済みのトレース・ファイルを要求することがあります。

トレース・ファイルの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

警告ファイル

警告ファイルは、内部エラーやバックアップのような管理作業に関する情報を記録したログ・ファイルです。内部エラーが発生した場合、メッセージは端末の画面に表示されるだけでなく、警告ファイルにも書き込まれます。Oracle は内部エラーに関する他の情報、たとえば、エラーなどによって生成されたトレース・ファイルの名前および位置などを、警告ファイルに書き込みます。

警告ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります。警告ファイルの位置は、バックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルの位置と同じです。この位置は、初期化パラメータ BACKGROUND_DUMP_DEST で指定されます。詳細は、各 Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを参照してください。

オペレータのコンソールを使用している場合、Oracle からのメッセージがコンソールに表示されることがあります。重要なメッセージは、オペレータのコンソールだけでなく警告ファイルにも書き込まれます。Oracle 以外のメッセージもコンソールに表示される場合があるため、Oracle の管理作業やエラーをトレースするには、コンソール・ログよりも警告ファイルの方が適しています。

警告ファイルには、バックアップやオンライン REDO ログ・ファイルのアーカイブのような管理作業の情報も記録されます。警告ファイルの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ConText Option メッセージ

ConText Option エラー・メッセージ : DRG-10000 ~ DRG-12100

DRG-10000: 列 : %(1)s.%(2) の読み込みに失敗しました。

原因: 指定されたテキストの列の読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: この列が存在するかどうかを確認してください。

DRG-10001: 結果表 : %(1)s にアクセスできません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはサーバーに書き込み権限がありません。

解決方法: 結果表を確認してください。

DRG-10002: 結果表に挿入できません。

原因: テキスト・サーバーに挿入権限がないか、表領域がなくなりました。

解決方法: 権限および表領域を確認してください。

DRG-10003: 列 : %(1)s.%(2)s の読み込みに失敗しました。

原因: 指定されたテキストの列の読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: この列が存在するかどうかを確認してください。

DRG-10004: ドキュメント表 : %(1)s にアクセスできません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはサーバーに書き込み権限がありません。

解決方法: ドキュメント表を確認してください。

DRG-10005: ドキュメント表に挿入できません。

原因: テキスト・サーバーに挿入権限がないか、表領域がなくなりました。あるいはドキュメントが大きすぎます。

解決方法: 権限、表領域またはドキュメントのサイズを確認してください。

DRG-10006: 列 : %(1)s.%(2)s の読み込みに失敗しました。

原因: 指定され、ハイライトされた列の読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: この列が存在するかどうかを確認してください。

DRG-10007: ハイライト表 : %(1)s にアクセスできません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはサーバーに書き込み権限がありません。

解決方法: ドキュメント表を確認してください。

DRG-10008: ハイライト表に挿入できません。

原因: ConText サーバーに挿入権限がないか、表領域がなくなりました。

解決方法: 権限および表領域を確認してください。

DRG-10009: 別スキーマの表へのアクセスは許可されていません。

原因: 別スキーマの結果表を使用しようとしています。

解決方法: 自分のスキーマに結果表を作成してください。

DRG-10010: 要求された列は結果表 : %(1)s に存在しません。

原因: 指定された表に、TEXTKEY、SCORE、CONID、CURID の列が存在しません。

解決方法: 結果表の列を確認してください。

DRG-10011: オブジェクト名 : %(1)s が無効です。

原因: 指定された表、列、またはプロシージャ名の形式が無効です。名前が長すぎるか、無効な文字が含まれています。無効なパラメータを渡した可能性があります。

解決方法: パラメータ値を確認してください。

DRG-10012: コールバック : %(1)s を実行できません。

原因: コールバックが存在していないか、許可がない可能性があります。

解決方法: コールバック・パラメータを確認してください。

DRG-10013: システム記憶問合せを保存できません。

原因: このユーザーには、システム SQE を保管する権限がありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10014: システム記憶問合せを削除できません。

原因: このユーザーには、システム SQE を削除する権限がありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10015: 外部 LOB ファイルにアクセスできません : %(1)s

原因: このユーザーにファイルにアクセスする OS 権限がないか、またはファイルが存在しません。

解決方法: 指定された位置にファイルが存在するかどうか、適切なアクセス許可があるかどうかを確認してください。

DRG-10100: 無効な引数 : %(1)s が見つかりました。

原因: 無効なコマンド引数が指定されました。

解決方法: 正しい引数をマニュアルで調べて、コマンドを再実行してください。

DRG-10101: 引数 : %(1)s の値がありません。

原因: この引数には値が必要です。

解決方法: 正しい引数値を指定して、コマンドを再実行してください。

DRG-10102: 必須の引数 : %(1)s が足りません。

原因: この引数は必須です。

解決方法: 引数を指定して、コマンドを再実行してください。

DRG-10103: 引数 : %(1)s の値が無効です

原因: この引数に無効な値が渡されています。

解決方法: この引数の正しい値を、ドキュメンテーションで調べてください。

DRG-10200: サーバー・パーソナリティ・マスク : %(1)s は無効です。

原因: サーバー・パーソナリティ・マスクの指定が無効です。

解決方法: マニュアルを参照して、正しいマスクを指定してください。

DRG-10201: デクショナリ・キャッシュのロードに失敗しました。

原因: デクショナリ・キャッシュのロードに失敗したため、デクショナリが矛盾した状態になっている可能性があります。

解決方法: デクショナリ QA レポートを実行し、オラクル社カスタマー・サポートに QA レポートを報告してください。

DRG-10202: サーバーは登録に失敗しました。

原因: データ・デクショナリへのサーバーの登録に失敗しました。

解決方法: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10203: サーバー名 : %(1)s のサーバーは存在しません。

原因: 存在しないサーバー名で更新が行われました。

解決方法: サーバー名を訂正してください。

DRG-10204: サーバーの更新に失敗しました。

原因: サーバーの更新に失敗しました。

解決方法: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10205: サーバーの削除に失敗しました。

原因: データ・デクショナリからのサーバーの削除に失敗しました。

解決方法: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10206: キュー : %(1)s、ステータス : %(2)s の更新に失敗しました。

原因: 指定されたキューが存在しないか、新しい状態が現在の状態に適切ではありません。

解決方法: キュー名が正しいかどうか、指定された状態が正しいかどうかを確認してください。

DRG-10301: サーバーからの応答待機中にタイムアウトしました。

原因: 現在のシステム・ロードを処理するには実行しているサーバーが十分でないか、コマンドの未処理分が大きくなったか、あるいはサーバーが実行されていません。このメッセージは、要求を処理しようとしてサーバーの 1 つがクラッシュした場合にも、内部エラーとして表示されます。

解決方法: 実行しているサーバー数が十分かどうか、正しい型のコマンドを処理しているかどうかを確認してください。たとえば、すべてのサーバーが問合せコマンドを排他的に処理するように設定されていると、DDL コマンドはタイムアウトになります。サーバーのログ・ファイルも確認してください。

DRG-10302: サーバーからの応答待機中に中断されました。

原因: 要求が完了する前に、ユーザーが割り込みました。

解決方法: 要求を再起動してください。

DRG-10303: 処理すべきコマンドをキューに入れられませんでした。

原因: 指定されたコマンド (複数の場合もある) が、キューに入りませんでした。これは、システムの負荷がかなり高くなっていることを表しますが、内部エラーが発生している可能性があります。

解決方法: コマンドを処理するサーバーが実行されているかどうかをチェックしてください。

DRG-10304: ConText サーバーにコマンドを送信中に予期せぬエラーが発生しました。

原因: ConText サーバーにコマンドを送信中に予期せぬエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-10305: パイプ %(1)s が満杯です。

原因: パイプが満杯のため、パイプ・コマンドが送信できません。

解決方法: パイプ・コマンドを処理する ConText サーバーが実行されているかどうかを確認してください。

DRG-10306: サーバーはコマンド処理中に予期せず終了しました。

原因: コマンドの実行中にサーバーがシャットダウンしました。これは、シャットダウンの異常終了かサーバーの内部エラーが原因です。

解決方法: 終了したサーバーで内部エラーが発生している場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-10307: サーバーが実行されていません。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクパーソナリティ・マスクで実行されている ConText サーバーがないため、コマンドが処理できません。

解決方法: 正しいパーソナリティ・マスクパーソナリティ・マスクで ConText サーバーを開始してください。

DRG-10308: 必須の %(1)s パーソナリティ・マスクで稼動しているサーバーはありません。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクパーソナリティ・マスクで実行されている ConText サーバーがないため、コマンドが処理できません。

解決方法: 正しいパーソナリティ・マスクパーソナリティ・マスクで ConText サーバーを開始してください。

DRG-10309: %(1)s サーバー (パラレル %(2)s 操作実行用) が足りません。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている ConText サーバーの数が足りないため、パラレル・コマンドが処理できません。

解決方法: 必要な並行度をサポートする正しいパーソナリティ・マスクで ConText サーバーを開始してください。

DRG-10310: 要求を処理する前にサーバーがシャットダウンしました。

原因: 要求を処理する前に、ConText サーバーがシャットダウンしたか、終了したため、コマンドが完了できませんでした。

解決方法: 正しいパーソナリティ・マスクで別の ConText サーバーを開始してください。

DRG-10500: CREATE_INDEX に失敗しました : 列指定 :str

原因: 指定された列にテキスト索引が作成できませんでした。

解決方法: スタック上の次のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-10501: ポリシー名を指定してください。

原因: このプロシージャ・コールには、ポリシー名が必要です。

解決方法: ポリシー名を指定して、プロシージャを再度呼び出してください。

DRG-10502: ポリシー : %(1)s は存在しません。

原因: 指定されたポリシーが存在しないか、アクセス権がありません。

解決方法: 最初に列ポリシーを作成してください。

DRG-10503: テキスト・キーを指定する必要があります。表に主キーがありません。

原因: テキスト・キーには、単一の列一意キーが必要です。このキーの長さは、64 バイト以下でなければなりません。このようなキーが UNIQUE 索引として定義されていないか、主キーまたは UNIQUE キー制約として宣言されていません。

解決方法: 表に適切なテキスト・キーを作成するか、このプロシージャ・コールにテキスト・キーを明示的に指定してください。

DRG-10505: 作業環境 ID: %(1)s(作業環境: %(2)s) は無効です。

原因: 対応するフレームワーク¥オブジェクトの作業環境 ID が無効です。

解決方法: 正しい作業環境 ID を指定して再起動します。

DRG-10506: 表: %(1)s が存在しません。

原因: 指定した表、ビュー、シノニムがありません。表の読み込み中に、許可問題が発生した可能性もあります。

解決方法: 正しい表名を指定して再起動します。

DRG-10507: ポリシー名: %(1)s が重複しています。

原因: 指定されたポリシーは、すでにディクショナリ内に存在します。

解決方法: このポリシーは、更新または削除することができますが、この操作は、テキスト列で使用可能なテキスト索引がない場合にだけ実行できます。

DRG-10508: このプロシージャはまだ実現されていません: %(1)s

原因: このプロシージャは現在実現されていません。

解決方法: 同じ結果を得るには、代替のプロシージャを使用してください。そうでなければ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-10509: %(1)s は無効なテキスト列です。

原因: 指定された列が無効です。

解決方法: 次の値が有効かどうかを確認してください

- a) テキスト列が ConText でサポートされているデータタイプのもので。
- b) 使用部内の有効な表名、列名

DRG-10510: テキスト・キーの列: %(1)s が存在しない、長すぎる、一意ではないのいずれかです。

原因: 指定されたテキスト・キーがテキスト表の列でないか、64 バイトを超えています。

解決方法: 指定されたテキスト・キーを確認してください。

DRG-10511: 指定したポリシーに対する索引は存在しません。

原因: このポリシーに索引が作成されていません。

解決方法: 索引を作成してから、この操作を行ってください。

DRG-10512: ディクショナリ・キャッシュは一杯です。

原因: ディクショナリ・キャッシュが一杯です。

解決方法: DICT_CACHE_SIZE 構成パラメータの値を大きくして、サーバーを再起動してください。

DRG-10513: オブジェクト作業環境: ポリシー: %(1)s のロードに失敗しました。

原因: ディクショナリ内に、このポリシーに無効な作業環境があります。

解決方法: DBA に連絡してください。

DRG-10514: 作業環境: %(1)s は存在しません。

原因: 指定された作業環境名が存在しません。

解決方法: 正しい作業環境名を指定して再試行します。

DRG-10515: 使用中の作業環境: %(1)s は削除できません。

原因: 作業環境名が、1 つ以上のポリシーに参照されています。

解決方法: ポリシーを削除してから、作業環境を削除してください。

DRG-10516: Oracle エラーが発生したため、DDL 操作の実行に失敗しました。

原因: Oracle エラーのため、要求された DDL 操作が失敗しました。

解決方法: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10517: 操作: %(1)s は実行できません。ポリシー: %(2)s の索引が存在しています。

原因: 列に索引が存在するため、操作が失敗しました。

解決方法: 操作を続行する場合には、索引を削除してください。

DRG-10518: %(1)s 要求と矛盾する操作が進行中です。

原因: 別のセッションでこの索引が使用されています。次のような原因が考えられます。

a) DML がリクエストされ、DDL が処理中である。

または

b) DDL が要求され、そのポリシーで DML が処理されている。

解決方法: あとでもう一度実行してください。

DRG-10519: この索引はすでに最適化されています。

原因: あるプロセスで索引の最適化ができる場合、別のセッションでその索引が最適化されている可能性があります。

解決方法: あとでもう一度実行してください。ただし、索引が最適化されている場合、再度最適化する必要はありません。

DRG-10520: テキスト索引の削除に失敗しました : 列ポリシー =%(1)s

原因 : Oracle エラーのため、要求された削除操作が失敗しました。

解決方法 : スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10521: テキスト索引へのアクセスに失敗しました : 列ポリシー =%(1)s

原因 : 別のセッションで索引が使用されています。

解決方法 : あとでもう一度実行してください。

DRG-10522: テキスト索引へのアクセス解放に失敗しました : 列ポリシー =%(1)s

原因 : 内部エラーが発生しました。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-10523: ポリシー : %(1)s はすでに存在しています。

原因 : 指定されたポリシーは、すでに存在します。

解決方法 : ポリシーを再作成する場合には、ポリシーを削除してください。

DRG-10524: 列指定に表名がありません。

原因 : ポリシー名の指定で表名が指定されていません。

解決方法 : テンプレート・ポリシーを作成する場合には、表名に 'TEMPLATE_POLICY' を使用してください。ポリシー名を指定する構文は、'[owner.[table.]]column' です。

DRG-10525: 複合テキスト・キーはサポートされていません。

原因 : テキスト・キーは、単一の列一意キーでなくてはなりません。このキーの長さは、64 バイト以下でなければなりません。(マスター細目表では、2 つの列一意キーが必要です。) この条件を満たすキーが見つかりません。

解決方法 : UNIQUE 索引、または主キー、UNIQUE キー制約を介して、適切なテキスト・キーを作成してください。

DRG-10526: このオブジェクトには型 : %(1)s を索引付けできません。

原因 : TABLE または VIEW、SYNONYM 以外のオブジェクトに索引を作成しようとしています。

解決方法 : このようなオブジェクトに索引を作成してはなりません。

DRG-10527: 無効な索引レベル : %(1) です。

原因 : 作成している索引で、サポートされていない索引レベルが使用されました。

解決方法 : 作業環境の設定を確認してください。

DRG-10528: このテキスト・キーのデータ型はサポートされていません。

原因 : テキスト・キーのデータ型が無効な表にポリシーを作成しようとしています。

解決方法 : テキスト・キーを VARCHAR2、NUMBER、VARCHAR、DATE、CHAR、MLSLABEL のいずれかに変更してください。

DRG-10529: 属性名は無効です: オブジェクト名=%(1)s、属性名=%(2)s

原因: 無効な属性に値を設定しようとしています。この属性は、このオブジェクトではサポートされていません。

解決方法: 正しい属性名を指定してください。

DRG-10530: 属性名は無効です: オブジェクト名=%(1)s、属性名=%(2)s

原因: 属性に無効な値を設定しようとしています。

解決方法: 属性のデータ型に正しい属性値を指定してください。

DRG-10531: パラレル・パラメータは 1 以上でなければなりません。

原因: パラレル=0 の CREATE_INDEX がコールされました。

解決方法: 1 以上の値を指定してください。

DRG-10532: 共有レベル・パラメータは 1 または 0 でなければなりません。

原因: 共有レベルの値に 1 または 0 以外の値が設定された CONTAINS がコールされました。

解決方法: 1 または 0 の値を指定してください。

DRG-10533: ユーザー名: %(1)s は無効です。

原因: 無効なユーザー名が指定されました。

解決方法: 正しいユーザー名を指定してください。

DRG-10534: 索引はすでに存在しています。

原因: 作成しようとした索引は、すでに存在しています。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10535: テキスト索引の最適化に失敗しました: 列ポリシー=%(1)s

原因: Oracle エラーのため、要求された最適化操作が失敗しました。

解決方法: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10536: ポリシーの作成に失敗しました。ポリシーの所有者が表の所有者と異なります。

原因: ポリシー名に指定された所有者と列に指定された所有者が一致していません。現ユーザーがデフォルトになります。

解決方法: ポリシー名または列の指定を修正して、プロシージャを再度コールしてください。

DRG-10537: テキスト・キー: %(1)s の %(2)s の長さが 64 バイトの制限を超えています。

原因: テキスト・キーには、単一の列一意キーが必要です。このキーの長さは、64 バイト以下でなければなりませんが、この条件を満たすキーが見つかりません。

解決方法: UNIQUE 索引または主キー、UNIQUE キー制約を介して、適切なテキスト・キーを作成してください。

DRG-10538: テキスト索引 : %(1)s %(2)s を作成できません。

原因: 指定された作業環境の属性により、無効な DDL 文が生成されました。

解決方法: サーバー・ログで無効な SQL 文を確認してください。このポリシーの作業環境属性を訂正してください。

DRG-10539: ストップ・ワード : %(1)s はすでに存在しています。

原因: 指定されたストップ・ワードがすでに存在しています。

解決方法: ワードを再作成する場合には、重複しているワードを削除してください。

DRG-10540: NULL のストップ・ワードは許可されていません。

原因: 指定されたストップ・ワードが NULL です。

解決方法: ストップ・ワードを再作成する場合には、NULL のストップ・ワードを削除してください。

DRG-10541: ストップ・リスト・エントリ : %(1)s の長さが制限を超えています。

原因: ストップ・リスト・エントリが 64 文字の最大長を超えています。

解決方法: ストップ・リスト・エントリを再作成する場合には、ストップ・リスト・エントリの長さを短くしてください。

DRG-10542: ワード : %(1)s をストップ・リストに追加したため、最大長を超えました。

原因: ストップ・リスト・エントリが、最大値の 255 を超えています。

解決方法: ストップ・リストを再作成する場合には、エントリの数 を 255 以下にしてください。

DRG-10544: 作業環境作成用のフレームワーク・オブジェクト : %(1)s は無効です。

原因: オブジェクト型が無効な作業環境を作成しようとしてしました。

解決方法: 有効なフレームワーク・オブジェクトを使用して、作業環境を作成してください。

DRG-10545: 別のユーザーのスキーマにはポリシーを作成できません。

原因: 別のユーザーのポリシーを作成しようとしてしました。

解決方法: データ・ソース所有者または CTXSYS がポリシーを作成してください。

DRG-10547: 作業環境 : %(1)s.%(2)s はすでに存在しています。

原因: 指定された作業環境は、すでに存在します。

解決方法: 作業環境を再作成する場合には、作業環境を削除してください。

DRG-10548: ユーザー名 : %(1)s の長さが制限を超えています。

原因: ユーザー名が 30 文字の最大長を超えています。

解決方法: 再作成する場合には、ユーザー名の長さを短くしてください。

DRG-10549: オブジェクト名 : %(1)s の長さが制限を超えています。

原因: オブジェクト名が 30 文字の最大長を超えています。

解決方法: オブジェクト名を再作成する場合には、オブジェクト名の長さを短くしてください。

DRG-10550: ポリシー名または作業環境名に対する構文が不適当です。

原因: ポリシーまたは作業環境に余分なピリオド (.) が含まれています。

解決方法: 再作成する場合には、作業環境またはポリシー名の構文を確認してください。

DRG-10551: 表名 : %(1)s の長さが制限を超えています。

原因: 表名が 30 文字の最大長を超えています。

解決方法: 再作成する場合には、ユーザー名の長さを短くしてください。

DRG-10552: 列名 : %(1)s の長さが制限を超えています。

原因: 列名が 30 文字の最大長を超えています。

解決方法: 再作成する場合には、列名の長さを短くしてください。

DRG-10553: 列指定 : %(1)s の構文に誤りがあります。

原因: 列の指定に余分なピリオド (.) が含まれています。

解決方法: 再作成する場合には、列の指定の構文を確認してください。

DRG-10554: パラレル索引の最適化は、オプション : %(1)s ではサポートされていません。

原因: パラレル索引の最適化は、2 表圧縮でだけサポートされています。

解決方法: このオプションを順番に実行するか、2 表圧縮オプションを使用してください。

DRG-10555: パラレル索引の最適化は %(1)s の処理に失敗しました。

原因: この内部エラーは、パラレル処理中に検出されました。

解決方法: 解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。問題が解決するまでは、元の最適化されていないテキスト索引を使用してください。

DRG-10556: 索引最適化で無効なオプション : %(1)s が指定されました。

原因: 指定されたオプションはサポートされていません。サポートされているオプションは、次のとおりです。

1. DR_OPTIMIZE_LAZY_DELETES または Garbage Collection
2. DR_OPTIMIZE_COMPACT_INDEXES または In-place compaction
3. DR_OPTIMIZE_COMPACT_NEW または 2-table compaction

解決方法: 上記のいずれかのオプションを指定してください。

DRG-10557: シノニムはデータ・ソースとして使用できません。

原因: ポリシーのデータ・ソースは、表またはビューでなければなりません。シノニムに対するポリシーの作成は、現在サポートされていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10558: テンプレート・ポリシー : %(1)s にテキスト索引を作成できません。

原因: テンプレート・ポリシーにテキスト索引を作成しようとしてしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10559: テキスト・キーを指定する必要があります。データ・ソースがビューです。

原因: データ・ソースがビューのポリシーを作成する場合には、主キーとして使用するビューの列を指定しなければなりません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10560: 行番号の列 : %(1)s が存在しない、長すぎる、一意ではないのいずれかです。

原因: 指定された行番号がテキスト表の列でないか、または 64 バイトを超えています。

解決方法: 指定された行番号を確認してください。

DRG-10561: マスター / ディテール・データ・ソースには行番号を指定する必要があります。

原因: マスター / ディテール・データ・ソースを作成する場合には、細目表の行番号列が指定されていなければなりません。行番号列は、同じマスター・レコードの細目レコード中で一意です。

解決方法: このプロシージャ・コールで行番号列を指定してください。

DRG-10562: 行番号を指定するのは、マスター / ディテール・データ・ソースの場合だけです。

原因: マスター / ディテール・データ・ソースでないポリシーを作成する場合は、行番号を指定してはなりません。

解決方法: このプロシージャ・コールで行番号列を指定しないでください。

DRG-10563: テキスト・キーを指定する必要があります。複合主キーが見つかりません。

原因: マスター / ディテール・データソースのテキスト・キーは、2 列の一意キーにする必要があります。このようなキーが主キーまたは UNIQUE キー制約として定義されていません。

解決方法: 表に適切なテキスト・キーを作成するか、このプロシージャ・コールにテキスト・キーを明示的に指定してください。

DRG-10564: テキスト・キーの列 : %(1)s が複合キーの一部ではありません。

原因: マスター / ディテール・データソースの場合には、テキストキー列は 2 列の複合キーの一部でなければなりません。テキスト・キー列が半分より多くの部分を、行番号が半分より少ない部分を形成します。

解決方法: 指定されたテキスト・キーを確認してください。

DRG-10565: 属性 : %(1)s の値が多すぎます (最大 %(2)s 個)。

原因 : 属性に指定した値が多すぎます。

解決方法 : 指定する値を少なくしてください。

DRG-10566: 必須の属性 : %(1)s が欠落しているか、または NULL です。

原因 : 作業環境に必須の属性が指定されていません。

解決方法 : 必須の属性を指定してください。

DRG-10567: ポリシーまたはソース ID が重複しています。

原因 : ポリシーまたはソース ID が重複しています。

解決方法 : TX_DDLCREATE_POLICY か、CREATE_SOURCE を使ってください。

DRG-10568: ソース : %(1)s が存在しません。

原因 : 指定されたソースが存在していないか、あるいはアクセス権がありません。

解決方法 : 最初にソースを作成してください。

DRG-10569: 表または列 : %(1)s が存在しません。

原因 : 指定された表、ビュー、シノニム、または列が存在しません。表の読み中に、許可問題が発生した可能性もあります。

解決方法 : 正しい表名または列名を指定して再起動します。

DRG-10570: 別のユーザーのスキーマに作業環境は作成できません。

原因 : 別のユーザーの作業環境を作成しようとしてしました。

解決方法 : 所有者または CTXSYS、CTXADMIN ロールを持つユーザーが作業環境を作成してください。

DRG-10571: フレームワーク・オブジェクト : %(1)s は無効です。

原因 : 無効なオブジェクト型が指定されました。

解決方法 : 有効なフレームワーク・オブジェクトを使用してください。

DRG-10572: フレームワーク・クラス : %(1)s は無効です。

原因 : 無効なフレームワーク・クラスが指定されました。

解決方法 : 有効なフレームワーク・クラスを使用してください。

DRG-10573: 索引が廃止されています。upgrade_index を実行してください。

原因 : 廃止された索引を指定しています。

解決方法 : CTX_DDL.UPGRADE_INDEX を使って索引をアップグレードしてください。

DRG-10574: テキスト索引のアップグレードに失敗しました。列ポリシー =%(1)s。

原因: Oracle エラーのため、アップグレード操作を失敗しました。

解決方法: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10575: 索引はすでに最新のものになっています。

原因: 最新の索引をアップグレードしようとした。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10576: %(1)d から %(2)d へのアップグレードの中。

原因: 索引のアップグレード操作に失敗しました。

解決方法: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10577: 構造体問合せ基準は 256 文字を超えることはできません。

原因: 構造化された問合せ基準は、256 文字を超えることはできません。

解決方法: 構造化された問合せ基準を短くしてください。

DRG-10578: テキスト・キーの長さが、限度の 256 文字を超えています。

原因: テキスト・キーの長さが、限度の 256 文字を超えています。

解決方法: テキスト・キーを短くしてください。

DRG-10579: テキスト問合せ基準を与えてください。

原因: テキスト問合せ基準は必須です。

解決方法: テキスト問合せ基準を与えてください。

DRG-10580: 有効な値 :%(1)s。

原因: アクションに無効な値が指定されました。

解決方法: リストにある有効な値の 1 つを指定してください。

DRG-10600: 列 :%(1)s の DML キューへの登録に失敗しました。

原因: トリガーをセットアップできないため、要求された列に対する更新をモニターできません。

解決方法: スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。必要であれば、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対する更新は、索引になりません。

DRG-10601: DML キューへの列の登録解除に失敗しました。

原因: トリガーのセットアップが削除できないため、要求された表に対する更新をモニターできません。

解決方法: スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。必要であれば、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対する更新は、索引になりません。

DRG-10602: 列 : %(1)s(主キー : %(2)s) に対する DML 変更のキューイングに失敗しました。

原因: 指定された列に対する変更が記録できません。

解決方法: スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。必要であれば、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対する更新は、索引になりません。

DRG-10603: 現在時刻への同期に失敗しました。

原因: 同期に失敗しました。

解決方法: スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。

DRG-10604: 日付 : %(1)s への同期に失敗しました。

原因: 同期に失敗しました。

解決方法: スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。

DRG-10605: システムが同期された日付の問合せに失敗しました。

原因: 同期された日付の問合せに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-10606: サーバーは DML キューへのアクセスに失敗しました。

原因: DML キューへのアクセス中にエラーが発生しました。

解決方法: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10607: サーバー : %(1)s への要求の再キューイングに失敗しました。

原因: DML 操作のバッチ処理中にサーバーが異常終了しました。回復機構が、異常終了したサーバーで作業していた主キーのキューイングを再度試みましたが、これらの行のキューイングに失敗しました。

解決方法: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10608: DML の完了待機中にタイムアウトしました。

原因: DML の完了待機中にタイムアウトしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10700: %(1)s: %(2)s の作業環境パラメータを認識できません。

原因: 作業環境パラメータを認識できません。

解決方法: 作業環境の設定を訂正し、再度実行してください。

DRG-10701: 最大値 : %(3)s より大きな値がパラメータ : %(2)s(%(1)s) に許可されました。

原因: 作業環境の値が多すぎます。

解決方法: 値の数を調整して、再実行してください。

DRG-10702: 最低 %(3)s 個の値をパラメータ : %(2)s(%(1)s) に指定してください。

原因: パラメータの値が少なすぎます。

解決方法: 作業環境の設定を訂正し、再度実行してください。

DRG-10703: %(1)s パラメータ : %(2)s の値の型は、%(3)s 型を指定してください。

原因: 値の型が正しくありません。

解決方法: 作業環境の設定を訂正し、再度実行してください。

DRG-10704: %(1)s パラメータ : %(2)s の値は、有効範囲 %(3)s ~ %(4)s 外です。

原因: パラメータが範囲外です。

解決方法: 作業環境の設定を訂正し、再度実行してください。

DRG-10705: パラメータ : %(2)s(%(1)s) は、デフォルト値 : %(3)s に設定されました。

原因: パラメータの設定が間違っています。デフォルトの値に設定されています。

解決方法: 作業環境の設定を訂正し、再度実行してください。

DRG-10706: パラメータ : %(2)s(%(1)s) が、最大サイズ %(3)s バイト) を超えています。

原因: パラメータのバイト数が大きすぎます。

解決方法: 作業環境の設定を訂正し、再度実行してください。

DRG-10707: パラメータ : %(2)s(%(1)s) の値は、ドメインに対して無効です。

原因: パラメータ %(2)s が数え上げ可能なドメインにありましたが、その値はこのドメインに有効ではありません。

解決方法: 作業環境の設定を訂正し、再度実行してください。

DRG-10708: printjoins と skipjoins に共通な文字があります。

原因: printjoins と skipjoins の間に文字がありません。printjoins と skipjoins に共通な文字がある lexer 作業環境を作成しようとしてしました。

解決方法: 属性値を訂正して、再実行してください。

DRG-10709: 基本文字変換は現行のキャラクタ・セットではサポートされていません。

原因: 基本文字変換がサポートされるのは、キャラクタ・セットが 8 ビットより少なく、基本文字形式が 8 より少ない場合です。

解決方法: 基本文字変換を使用禁止にしてください。

DRG-10710: 細目表はローカル表でなければなりません。

原因: リモート表が細目表として指定されています。

解決方法: ローカル表を細目表として指定してください。

DRG-10711: 細目表 %(1)s が有効な表かビューではありません。

原因: 無効な表が細目表として指定されています。

解決方法: 有効な表あるいはビューを細目表として指定してください。

DRG-10712: 列 %(1)s が細目表 %(2)s に存在しません。

原因: lineno またはキーに無効な列が指定されています。

解決方法: 細目表に有効な列を指定します。

DRG-10713: マスター細目属性が無効です

原因: マスター細目作業環境に、無効な属性値が指定されています。

解決方法: マスター細目作業環境を作り直します。

DRG-10714: 表 %(1)s、キー %(2)s、LINENO %(3)s、テキスト %(4)s。

原因: マスター細目作業環境に次の値が使われています。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-10715: ユーザー : %(1)s には %(2)s への選択アクセス権がありません。

原因: ポリシーの所有者がアクセスできない細目表が指定されています。

解決方法: ユーザーに選択アクセスを許可します。

DRG-10716: 細目テキスト列 %(1)s は、CHAR、または VARCHAR2、LONG である必要があります。

原因: DETAIL_TEXT に無効な列が指定されています。

解決方法: 作業環境に指定した値を訂正してください。

DRG-10717: 細目キー列 (%(1)d) がマスターキー列 (%(2)d) に合致していません。

原因: マスター表主キー内の列数と、細目表外部キー内の列数は一致しなければなりません。

解決方法: 作業環境属性に指定した値を訂正してください。

DRG-10718: startjoins と endjoins に同じ文字があります。

原因: startjoins と endjoins で共通の文字を持つことはできません。startjoins と endjoins に共通な文字がある lexer 作業環境を作成しようとしてしました。

解決方法: 属性値を訂正して、再実行してください。

DRG-10719: printjoins と startjoins に共通の文字があります。

原因: printjoins と startjoins で共通の文字を持つことはできません。printjoins と startjoins に共通な文字がある lexer 作業環境を作成しようとしてしました。

解決方法: 属性値を訂正して、再実行してください。

DRG-10720: printjoins と endjoins に同じ文字があります。

原因: printjoins と endjoins で共通の文字を作り出そうとしてしました。printjoins と endjoins で、共通の文字を持つ lexer 作業環境を作成しようとしてしました。

解決方法: 属性値を訂正して、再実行してください。

DRG-10721: skipjoins と startjoins に共通の文字があります。

原因: skipjoins と startjoins で共通の文字を持つことはできません。skipjoins と startjoins で共通の文字を持つ lexer 作業環境を作成しようとした。

解決方法: 属性値を訂正して、再実行してください。

DRG-10722: endjoins と skipjoins に共通な文字があります。

原因: endjoins と skipjoins で共通の文字を持つことはできません。endjoins と skipjoins に共通な文字がある lexer 作業環境を作成しようとした。

解決方法: 属性値を訂正して、再実行してください。

DRG-10800: 問合せ : %(1)s %(2)s %(3)s に失敗しました。

原因: 問合せ処理に失敗しました。

解決方法: スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10801: テキスト問合せに失敗しました。

原因: 問合せの contains 部分の処理に失敗しました。

解決方法: スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10802: 不適切な引用符が見つかりました: オフセット: %(1)s

原因: SQL 問合せが無効です。

解決方法: 引用符を適切に対応させてください。

DRG-10803: 不適切なカッコが見つかりました: オフセット: %(1)s

原因: SQL 問合せが無効です。

解決方法: カッコを適切に対応させてください。

DRG-10804: FROM 句がありません: オフセット: %(1)s

原因: SQL 問合せが無効です。

解決方法: 必要な FROM 句がない副問合せを選択してください。

DRG-10805: FROM 句が重複しています: オフセット: %(1)s

原因: SQL 問合せが無効です。

解決方法: FROM 句が重複している副問合せを選択してください。

DRG-10806: SELECT 文以外で WHERE 句が見つかりました: オフセット: %(1)s

原因: SQL 問合せが無効です。

解決方法: WHERE キーワードを SELECT 文の中に入れてください。

DRG-10807: 1 つの SELECT 文内で複数の WHERE 句が見つかりました: オフセット: %(1)s

原因: SQL 問合せが無効です。

解決方法: 1 つの SELECT 文内で WHERE 句を 1 つにしてください。

DRG-10808: SELECT 文以外で ORDER BY 句が見つかりました : オフセット : %(1)s

原因 : SQL 問合せが無効です。

解決方法 : ORDER BY キーワードを SELECT 文の中に入れてください。

DRG-10809: 1 つの SELECT 文内で複数の ORDER BY 句が見つかりました : オフセット : %(1)s

原因 : SQL 問合せが無効です。

解決方法 : 1 つの SELECT 文内で ORDER BY 句を 1 つにしてください。

DRG-10810: SELECT 文以外で GROUP BY 句が見つかりました : オフセット : %(1)s

原因 : SQL 問合せが無効です。

解決方法 : ORDER BY キーワードを SELECT 文の中に入れてください。

DRG-10811: 1 つの SELECT 文内で複数の GROUP BY 句が見つかりました : オフセット : %(1)s

原因 : SQL 問合せが無効です。

解決方法 : 1 つの SELECT 文内で GROUP BY 句を 1 つにしてください。

DRG-10812: SELECT 文以外で HAVING 句が見つかりました : オフセット : %(1)s

原因 : SQL 問合せが無効です。

解決方法 : HAVING キーワードを SELECT 文の中に入れてください。

DRG-10813: 1 つの SELECT 文内で複数の HAVING 句が見つかりました : オフセット : %(1)s

原因 : SQL 問合せが無効です。

解決方法 : 1 つの SELECT 文内で HAVING 句を 1 つにしてください。

DRG-10814: SELECT 文以外でキーワードが見つかりました : オフセット : %(1)s

原因 : SQL 問合せが無効です。

解決方法 : SQL 問合せを修正してください。

DRG-10815: ファジー・マッチの単語が最低の 3 文字未満です。

原因 : ファジー・マッチの単語は少なくとも 3 文字以上に設定してください。

解決方法 : より長いファジー・マッチの単語を選択してください。

DRG-10816: 表示 / ハイライト・コールに失敗しました。

原因 : CTX_QUERY.HIGHLIGHT のコールに失敗しました。

解決方法 : スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10817: CONTAINS の検索語指定がストップ・ワードまたはストップ・ワードの節 :%(1)s で構成されています。

原因: CONTAINS 問合せ内の 1 つ以上の検索語が、ストップ・ワードだけで構成されているか、ストップ・ワードだけの句になっています。

解決方法: ストップ・ワードを置換するか、ストップ・ワードのない句の中でストップ・ワードを使用してください。

DRG-10818: 列ポリシーで指定されずに soundex が使用されています。

原因: 問合せで Soundex を使用するには、SOUNDEX_AT_INDEX 属性が列ポリシーのワードリスト作業環境に指定されていなければなりません。

解決方法: 問合せから Soundex オペレータを削除するか、Soundex が有効な Wordlist 作業環境を使って列ポリシーを再構築し、列の索引を作り直してください。

DRG-10819: contains カーソルをオープンできませんでした。

原因: contains カーソルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

解決方法: スタック上の付随するエラー・メッセージを参照してください。

DRG-10820: contains カーソル ID が無効です。

原因: ID が存在しない contains カーソルをフェッチまたはクローズしようとしてしました。

解決方法: フェッチまたはクローズの起動を調べてください。

DRG-10821: contains カーソルがオープンされていません。

原因: オープンしていない contains カーソルからフェッチしようとしてしました。

解決方法: 問合せから soundex を削除するか、列ポリシーを再構築してください。

DRG-10822: 問合せ名が重複しています。

原因: すでに存在する名前を使用して、格納された問合せを作成しようとしてしました。

解決方法: 別の名前を使用してください。

DRG-10823: 問合せ名が無効です。

原因: 指定した問合せ名が無効です。

解決方法: 問合せ名を確認してください。

DRG-10824: 有効範囲が無効です。

原因: 指定した有効範囲が無効です。

解決方法: SYSTEM または SESSION を使用してください。

DRG-10825: 記憶問合せが存在していないか、再定義されています :%(1)s

原因: 指定された記憶問合せが存在していないか、再定義されています。

解決方法: 問合せ名を確認してください。

DRG-10826: 指定したテキスト・キーをもつ文書が見つかりません。

原因: 指定したテキスト・キーをもつ文書がありません。

解決方法: テキスト・キーを確認してください。

DRG-10827: 2 ステップまたはメモリー内問合せが、実行されませんでした。

原因: COUNT_LAST が、最後の 2 ステップまたはメモリー内の問合せから hit の数を戻しました。したがって、COUNT_LAST を実行する前に、2 ステップあるいはメモリー内の問合せを実行しなければなりません。

解決方法: COUNT_LAST を実行する前に、2 ステップあるいはメモリー内の問合せを実行してください。

DRG-10828: トークン %(1)s が、列 %(2)s の最大の長さよりも長くなっています。

原因: フィードバック表に挿入されるトークンが、最大の列長さより長くなっています。

解決方法: 問合せを変更し、それにしたがってフィードバック表の列サイズか、フィードバック・プロシージャ引数を変更してください。

DRG-10829: フィードバック id %(1)s が、%(2)s バイトの最大長さよりも長くなっています。

原因: フィードバック id が、feedback_id 列で可能な最大長さよりも長くなっています。

解決方法: feedback_id を小さくしてください。

DRG-10830: 共有レベルが 0 か 1 ではありません。

原因: 共有レベルに無効な値を指定しました。

解決方法: 0 か 1 に等しい共有レベルだけを使ってください。

DRG-10831: フィードバック表 %(1)s に挿入できません

原因: フィードバック表に挿入する権限はありません。

解決方法: 権限の有無をチェックしてください。

DRG-10832: フィードバック表 %(1)s から削除できません。

原因: フィードバック表から削除する権限がありません。

解決方法: 権限の有無をチェックしてください。

DRG-10833: フィードバックに失敗しました。

原因: フィードバック要求の処理に失敗しました。

解決方法: スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10834: セクション名 %(1)s の大文字フォームが長すぎます。

原因: セクション名の大文字フォームが、サポートされている長さより長くなっています。

解決方法: セクションを加える時には、セクション名の長さを短くしてください。

DRG-10835: WITHIN オペレータがテーマ索引をサポートしていません。

原因: WITHIN オペレータがテーマ索引問合せに使われています。

解決方法: WITHIN オペレータを取り除いて、問合せを書き直してください。

DRG-10836: WITHIN オペレータに渡される副問合せに、WITHIN を含めることはできません。

原因: 副問合せに使われている WITHIN オペレータが、WITHIN 問合せに渡されました。

解決方法: ネストされた WITHIN オペレータを取り除いて、問合せを書き直してください。

DRG-10837: セクション %(1)s が存在しません。

原因: CTX_USER_SECTIONS に存在しないセクション名です。

解決方法: 有効なセクション名で問合せを書き直してください。

DRG-10900: メモリーが足りません。

原因: これ以上メモリーを割り振ることができません。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-11000: サーバーまたはクライアントの回復実行に失敗しました。

原因: サーバーかクライアントで回復が実行されていません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11100: データベースに接続できません。

原因: Oracle データベースに接続できません。

解決方法: Oracle エラーおよび接続文字列を確認してください。

DRG-11101: ファイル: %(1)s のオープンに失敗しました。

原因: ファイルのオープンに失敗しました。

解決方法: ファイルが存在するかどうか、アクセス権があるかどうかを確認してください。

DRG-11102: 割り当てられた lexer は、言語設定: %(1)s では動作できません。

原因: マルチバイト言語の設定で、シングルバイトの lexer が選択されました。

解決方法: RDBMS 言語設定またはテキスト列の lexer を確認してください。

DRG-11104: ConText エラー:

原因: スタック上の次のエラーを見てください。

解決方法: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-11105: 表示に失敗しました : 列 : %(1)s

原因: 行が表示できません。

解決方法: スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-11106: ユーザー・データベース・セッションが、この操作中に強制終了されました。

原因: このデータベース・セッションは存在しないか、または終了しました。

解決方法: ConText 操作の実行中にユーザー・データベース・セッションが終了した理由を調べてください。

DRG-11107: パス指定 : %(1)s は無効です。

原因: 指定したパスが無効です。

解決方法: パス指定を確認してください。

DRG-11108: 指定したファイル名 : %(1)s は無効です。

原因: 指定したファイル名が無効です。

解決方法: ファイル名が空白で開始したり、終了していないかどうか、無効な文字が含まれていないかどうか、などの問題を調べてください。

DRG-11109: 割り当てられた lexer は、%(1)s 問合せオペレータをサポートしていません。

原因: この lexer は、この問合せ演算子をサポートしていません。

解決方法: 問合せでこの演算子を使用しないでください。

DRG-11200: プラスタ・フィルタは、ステータス : %(1)d で失敗しました。

原因: MasterSoft プラスタ・フィルタが失敗しました。

解決方法: プラスタ・フィルタの状態コードの意味を調べて、問題を訂正してください。

コードの意味は、次のとおりです。

- 1 ユーザー・ファイル名のオープン中のエラー
- 2 読み込み操作中のエラー
- 3 変換ファイルのオープン中のエラー
- 4 書き込み操作注のエラー
- 5 変換ファイル内に無効なデータ
- 6 例外ファイルのオープン中のエラー
- 7 例外ファイルの書き込み中のエラー
- 8 メモリー取得中のエラー
- 9 ドキュメントが無効
- 10 出力の領域不足

- 11 変換文書が tgt には大きすぎます。
- 12 変換中の警告
- 13 変換が取り消された
- 14 コマンド行のパラメータが無効です。
- 15 暗号化されたファイルが保存された
- 16 コンバータに致命的なエラーが起きました。
- 17 Lseek に失敗

DRG-11201: 入力フォーマットを認識できませんでした。

原因: このプロパティでは、フィルタがドキュメントのフォーマットを自動的に認識するように指定されています。このドキュメントには、フィルタが認識できるフォーマットがありません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11202: フィルタ・フォーマット : %(1)s は無効です。

原因: 指定したフォーマット番号が無効です。

解決方法: フォーマット番号を確認してください。

DRG-11203: フォーマット : %(1)d(2)d はサポートされていません。

原因: このフォーマットは自動認識されましたが、このフィルタがサポートするフォーマットではありませんでした。

解決方法: ドキュメントのフォーマットを確認してください。

DRG-11204: ユーザー・フィルタ・コマンドが長すぎます。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドは、32 文字以下でなければなりません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11205: ユーザー・フィルタ・コマンドに無効な文字が含まれています。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドには、スラッシュ、カッコ、セミコロンなどの特殊文字は使用できません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11206: ユーザー・フィルタ・コマンド : %(1)s を実行できませんでした。

原因: 外部フィルタ・コマンドを実行できません。

解決方法: コマンドが要求されたディレクトリにあるかどうか、そのコマンドが実行可能かどうかを確認してください。外部の実行可能なフィルタに要求されるディレクトリはオペレーティング・システムごとに特定されています。

たとえば、UNIX に基づいたオペレーティングシステムでは、実行可能なコマンドは `$ORACLE_HOME/ctx/bin` になければなりません。

ウィンドウズ NT では、実行可能なコマンドは `ORACLE_HOME\BIN` になければなりません。

DRG-11207: ユーザー・フィルタ・コマンドが状態 : %(1)s で終了しました。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドがエラー状態で終了しました。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11208: ORACLE_HOME が設定されていません。

原因: 環境変数 `ORACLE_HOME` が設定されていません。

解決方法: `ctxsrv` を実行している時、環境変数 `ORACLE_HOME` が設定されていることを確認してください。

DRG-11209: この文書書式ではマークアップはサポートされていません。

原因: フィルタがマークアップをサポートしていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11210: この文書書式では ICF はサポートされていません。

原因: フィルタが ICF をサポートしていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11211: 書式 : %(1)s のユーザー定義フィルタが重複しています。

原因: 指定された書式の実行可能ファイルは、すでに存在しています。

解決方法: 再作成する場合には、重複している書式を削除してください。

DRG-11212: 属性 =%(1)s のフォーマット ID が登録されていません。

原因: フォーマット ID に値が指定されていません。

解決方法: 再作成する場合には、フォーマット ID を指定してください。

DRG-11213: 属性 =%(1)s の実行可能名が提供されていません。

原因: 実行可能名が提供されていません。

解決方法: 再作成する場合には、実行可能名を指定してください。

DRG-11214: この書式に使用できるフィルタがありません。

原因: この書式に使用できるユーザー定義のフィルタまたはプラスタ・フィルタがありません。

解決方法: この書式にユーザー定義のフィルタを登録してください。

DRG-11215: ユーザー定義フィルタ使用時にはハイライト処理はサポートされません。

原因: この文書にユーザー定義のフィルタが使用されています。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11216: FORMAT および EXECUTABLE は同時に使用できません。

原因: このタイルには、1 つの属性しか設定できません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11300: 問合せの解析に失敗しました。

原因: SELECT 文が解析または変換できませんでした。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11301: 解析した文が長すぎます。

原因: 変換後の問合せを保持する領域が足りません。

解決方法: 変換される問合せの長さを短くしてください。

DRG-11302: 検索文字列を指定してください。

原因: CONTAINS() 関数の 2 番目の引数は、文字列でなければなりません。

解決方法: CONTAINS() 関数の構文をチェックしてください。

DRG-11303: contains のラベル: '%(1)s' が重複しています。

原因: この CONTAINS() ラベルはすでに指定されています。

解決方法: CONTAINS() ラベルが一意であることを確認してください。

DRG-11304: contains のラベル値: '%(1)s' が長すぎます。

原因: CONTAINS ラベルの値が長すぎます。

解決方法: すべてのラベルが指定された長さ以内になるようにしてください。

DRG-11305: score のラベル: '%(1)s' に対応する contains がありません。

原因: SCORE() 関数内のラベルに対応する CONTAINS() がありません。

解決方法: 参照されているラベルがすべて定義されているかどうかを確認してください。

DRG-11306: 列: '%(1)s' には索引付けするポリシーはありません。

原因: この列に、索引付けするポリシーが定義されていません。

解決方法: ポリシーを作成して、この列に索引付けをしてください。

DRG-11307: contains() の解析に失敗しました。

原因: CONTAINS() 関数の構文が無効です。

解決方法: CONTAINS() 関数の構文をチェックしてください。

DRG-11308: score() の解析に失敗しました。

原因: SCORE() 関数の構文が無効です。

解決方法: SCORE() 関数の構文をチェックしてください。

DRG-11309: handle() の解析に失敗しました。

原因: HANDLE() 関数の構文が無効です。

解決方法: HANDLE() 関数の構文をチェックしてください。

DRG-11310: 文の置換に失敗しました。

原因: 文の再作成された部分の置換に失敗しました。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11311: contains() の実行に失敗しました。

原因: 問合せ内の CONTAINS() の 1 つが実行できませんでした。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11312: 問合せの実行に失敗しました。

原因: 変換された問合せが実行できませんでした。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11313: contains() が WHERE 句以外にあります。

原因: CONTAINS() 関数は、WHERE 句以外では使えません。

解決方法: 問合せを再構成してください。

DRG-11314: score() が FROM 句の中にあります。

原因: SCORE() 関数は、FROM 句では使えません。

解決方法: 問合せを再構成してください。

DRG-11315: handle() が SELECT リスト以外にあります。

原因: HANDLE() 関数は、SELECT リスト以外では使えません。

解決方法: 問合せを再構成してください。

DRG-11316: バインド変数名の解析に失敗しました。

原因: コロンの後には有効な識別子を指定しなければなりません。

解決方法: 識別子がすべて有効かどうかを確認してください。

DRG-11317: SELECT リストの解析に失敗しました。

原因: SELECT リストの解析中に構文エラーが見つかりました。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11318: FROM 句の解析に失敗しました。

原因: FROM 句の解析中に構文エラーが見つかりました。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11319: WHERE 句の解析に失敗しました。

原因: WHERE 句の解析中に構文エラーが見つかりました。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11320: 階層構造の問合せは使用できません。

原因: ツリーを超えた句を使用する問合せはサポートされていません。

解決方法: ツリーを超えた句を使っている問合せには () を使用しないでください。

DRG-11321: ORDER BY 句の解析に失敗しました。

原因: ORDER BY 句の解析中に構文エラーが見つかりました。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11322: GROUP BY 句の解析に失敗しました。

原因: GROUP BY 句の解析中に構文エラーが見つかりました。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11323: SELECT 句の外の解析に失敗しました。

原因: SELECT 句の外の解析中に構文エラーが見つかりました。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11324: 解析状態が未定義です。

原因: 解析状態が未定義なため、エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11325: 変換コンポーネントが失敗しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11326: 問合せのクローズに失敗しました。

原因: DR\$CONTAINS または DR\$BIND テーブルから問合せ情報を削除できませんでした。

解決方法: 問合せとセッションの識別子が実行した問合せに対応しているかどうかを確認してください。

DRG-11327: 列: '%(1)s' が明確に定義されていません。

原因: テキスト関数に使用された列名が複数の表に存在し、索引付けするポリシーがあります。列の参照には TABLE.COLUMN または TABLE_ALIAS.COLUMN を使用します。

解決方法: 複数の表に存在する列名の参照には、上記の例のように表名 (または表別名) とピリオド (.) を接頭辞としてつけてください。

DRG-11328: 解析した問合せの保存に失敗しました。

原因: 変換された問合せが保存できません。

解決方法: 他のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。

DRG-11329: セッション固有の結果表の共有レベルはサポートされていません。

原因: このモードの操作は、インプリメントされていません。

解決方法: 結果表の共有レベルに特有の問合せ query または contains を使用してください。

DRG-11330: 結果表の割当てに失敗しました。

原因: 票数の最大値に達したか、別の Oracle エラーが発生しました。

解決方法: アクティブでないセッションの表を削除してください。

DRG-11400: キー :%(1)s での文書の解析に失敗しました。

原因: 言語抽出に指定された文書が解析できませんでした。この文書は、完全な英文になっていません。

解決方法: 文書の内容を確認してください。

DRG-11401: ポリシー名は長すぎます。

原因: サービス要求に渡されたポリシー名が最大ポリシー名サイズを超えています。

解決方法: ポリシー・パラメータを確認してください。

DRG-11402: 結果表の名前は長すぎます。

原因: サービス要求に、最大表名サイズを超えた表名パラメータが渡されました。

解決方法: 結果表パラメータを確認してください。

DRG-11403: 主キーの値は長すぎます。

原因: サービス要求に、主キーの最大長 (64 バイト) を超えた主キー・パラメータが渡されました。

解決方法: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11404: 主キーの値は指定されていません。

原因: サービス要求に NULL の主キー・パラメータが渡されました。

解決方法: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11405: 負数のタイムアウト期限値は使用できません。

原因: サービス要求に負数のタイムアウト期限パラメータが渡されました。タイムアウト期限は、正数でなければなりません。

解決方法: タイムアウト期限パラメータを確認してください。

DRG-11406: 実行すべき保留要求はありません。

原因: 実行すべき保留要求はありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11407: 題名結果表 : %(1)s は誤ったフォーマットです。

原因: 指定された結果表に必要な列がないか、これらの列の型または長さが正しくありません。

解決方法: 結果表の列名および型を確認してください。列には、CID(NUMBER) および PK(VARCHAR2(64))、THEME(VARCHAR2(2000))、WEIGHT(NUMBER) がなければなりません。

DRG-11408: カタログ結果表 : %(1)s は誤ったフォーマットです。

原因: 指定された結果表に必要な列がないか、これらの列の型または長さが正しくありません。

解決方法: 結果表の列名および型を確認してください。列には、CID(NUMBER) および PK(VARCHAR2(64))、CATALOG(VARCHAR2(2000))、WEIGHT(NUMBER) がなければなりません。

DRG-11409: 要約結果表 : %(1)s は誤ったフォーマットです。

原因: 指定された結果表に必要な列がないか、これらの列の型または長さが正しくありません。

解決方法: 結果表の列名および型を確認してください。列には、CID(NUMBER) および PK(VARCHAR2(64))、POV(VARCHAR2(256))、GIST(LONG) がなければなりません。

DRG-11410: 結果表 : %(1)s に挿入できませんでした。

原因: 結果表に言語出力を挿入しているときに、Oracle エラーが発生しました。

解決方法: Oracle エラー・コードに対応する処置を行ってください。

DRG-11411: 主キー値 : %(1)s で文書を検索できませんでした。

原因: サービス要求に指定された文書が存在しません。

解決方法: サービス要求とデータ・ソースを調べて、要求した文書に正しい主キー値があるかどうかを確認してください。

DRG-11412: 新規要求を送信する前に、保留中の要求を実行しなければなりません。

原因: 新規要求を送信する前に、保留中の要求を実行しなければなりません。

解決方法: 保留中の要求を送信するか、取り消してください。

DRG-11413: 要求ハンドル : %(1)s は無効です。

原因: 要求ハンドルが無効です。

解決方法: 要求ハンドルを確認してください。

DRG-11414: 削除する要求がありません。

原因: 要求がすでにサーバー上で実行されているか、要求ハンドルが無効か、あるいはユーザーの要求ではありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11415: %(1)s コールバック : %(2)s を実行できませんでした。

原因: コールバックが存在しないか、要求側にこのプロシージャに対する実行許可がありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11416: ConText サーバーは、要求を完了する前に終了されました。

原因: このサービス要求を処理していた ConText サーバーが要求を完了する前に終了しました。

解決方法: 要求を再送信してください。

DRG-11417: %(1)s 解析機能の警告です。

原因: 言語抽出に指定した文書は、指定された解析機能で解析されましたが、信頼性は高くありません。

解決方法: 文書の内容を確認するか、言語の設定を変更してください。

DRG-11418: %(1)s 解析機能: 文書の内容が十分ではありません。

原因: 言語抽出に指定した文書は、指定された解析機能で解析されましたが、文書の内容が言語抽出には不十分でした。

解決方法: 文書の内容を確認するか、言語の設定を変更してください。

DRG-11419: 優先順位は 0 から 10 でなければなりません。

原因: 1 から 10 まででない優先順位が指定されました。

解決方法: 有効な優先順位を指定してください。

DRG-11420: 設定ラベル : %(1)s が無効です。

原因: 無効な設定ラベルが指定されました。

解決方法: 指定した設定ラベルを変更してください。

DRG-11421: ConText 言語サービスは使用できません。

原因: 言語サーバー以外で L パーソナリティを試みました。

解決方法: 完全な ConText サーバーを使用してください。

DRG-11422: 言語の初期化に失敗しました。

原因: 言語サービスの初期化に失敗しました。メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: サーバーを再起動してください。

DRG-11423: efx_setting 表から言語設定を読み取ることができません。

原因: CTX_SETTINGS 表は存在しません。またはその表には行がありません。

解決方法: ctxset.dmp ファイルを CTXSYS としてインポートしてください。

DRG-11424: ファイル ctxset.dmp を ctxsys としてインポートしてください。

原因: ConText Linguistics ポートを使うにはその前に言語設定が必要です。

解決方法: ctxset.dmp ファイルを CTXSYS としてインポートしてください。

DRG-11425: 設定レベル %(1)s が無効です。

原因: 無効な設定レベルが指定されました。

解決方法: 有効な設定レベルを指定してください。

DRG-11426: フィルタからの読み込むときに内部エラーが発生しました。

原因: フィルタから読み込む時にエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11427: 有効な設定レベルは %(1)s です。

原因: 有効な設定レベルが指定されました。

解決方法: 有効な設定レベルはリストされたとおりです。

DRG-11428: ConText lexicon 辞書にアクセスできません。

原因: 辞書表 (DR\$LEXICON) が存在していないか、無効になっている可能性があります。

解決方法: 辞書表が存在しており、移入されていることを確認してください。存在していない場合または移入されていない場合は、CTXSYS としてインポートしてください。

DRG-11429: %(1)s

原因: エラーが発生しました。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-11430: 辞書バージョン %(1)s がエンジンバージョン %(2)s と一致しません。

原因: このバージョンのコンテキストには、辞書表が古すぎます。

解決方法: ctxlex.dmp を CTXSYS としてインポートして、辞書表を最新のものにしてください。

DRG-11431: 表 dr\$lexicon を削除してから、ctxlex.dmp を ctxsys としてインポートしてください。

原因: DR\$LEXICON 表が無効です。

解決方法: 表 dr\$lexicon を削除してから、ctxlex.dmp を ctxsys としてインポートしてください。

DRG-11432: ConText 辞書のアクセス中に Oracle エラーが発生しました。

原因: 辞書へのアクセス時に Oracle エラーが発生しました。

解決方法: Oracle エラー・スタックを参照して、適切なアクションを行ってください。

DRG-11433: 辞書が不完全です。

原因: 辞書表が十分に移入されていません。

解決方法: 辞書表を削除してから、ctxlexl を CTXSYS としてインポートしてください。

DRG-11500: 行: %(1)s で予期せずファイルの終わりになりました。

原因: 現レコードの終わりになる前に、ファイルのロードが終了しました。

解決方法: ロードするファイルの終わりにあるレコードおよびキーワードを確認してください。

DRG-11501: 列名を指定してください。%(1)s(行: %(2)s) が見つかりました。

原因: 列名またはキーワードの綴りが間違っている可能性があります。

解決方法: 指定された行の近くの綴りと句読点を確認してください。

DRG-11502: 識別子: %(1)s が、列名のかわりに行: %(2)s で見つかりました。

原因: 列名の綴りが間違っている可能性があります。

解決方法: 指定された行の近くの綴りを確認してください。

DRG-11503: 行: %(1)s で、ファイル: %(2)s の読み込みに失敗しました。

原因: ファイル名が間違っているか、file_type が正しくないか、あるいはファイル・システムのエラーです。

解決方法: ファイル名および型、ファイルの整合性 (またはその両方) を確認してください。

DRG-11504: 行: %(1)s で LONG 値がオーバーフローしている可能性があります。

原因: 値が長すぎて、ロード・バッファがいっぱいになりました。

解決方法: 現行表に挿入するデータの長さを確認してください。

DRG-11505: 行: %(1)s で LONG 値が指定したバッファをオーバーフローしました。

原因: LONG バッファの長さを LONG データの長さが超えています。

解決方法: longsize パラメータの値を大きくしてください。

DRG-11506: insert 文は、文の最大長を超えています。

原因: 文の合計の長さが、データベースの最大値を超えました。

解決方法: 列名を短くするか、列数を少なくしてください。

DRG-11507: 指定した LONG 値のパラメータ: %(1)s は無効です。

原因: オプション引数が無効です。

解決方法: LONG バッファ・サイズに 0 より大きい値を KB 単位で指定してください。

DRG-11508: 行 : %(1)s の LONG データは見つからないか、無効です。

原因: データか、データ・ファイルのいずれかが無効です。

解決方法: ファイルが存在しているかどうか、アクセス可能かどうかを確認してください。

DRG-11509: エラーのため、行 : %(1)s のレコードは無視されました。

原因: この行のデータを解析しているときに、エラーが発生しました。

解決方法: エラーのある行を別のロード・ファイルに移動して、修正してください。

DRG-11510: 分割ファイルを読み込もうとして、ファイル・エラーが発生しました。

原因: 分割ファイルが見つからないか、読み込めません。

解決方法: 分割ファイルの名前と位置を確認してください。

DRG-11511: %(2)s トークン (行 : %(1)s) が誤っているか、または存在しません。

原因: 必要なトークンが見つかりません。

解決方法: 影響のあるレコードをエラーのあるロード・ファイルに移動して、修正してください。

DRG-11512: 行 : %(1)s に値を指定してください。

原因: テキストに値がありません。

解決方法: 影響のあるレコードをエラーのあるロード・ファイルに移動して、修正してください。

DRG-11513: 行 : %(1)s に開始トークンが見つかりません。

原因: 位置または綴りが間違っています。

解決方法: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11514: 行 : %(1)s で回復不能なエラーが発生しました。

原因: 前のメッセージを参照してください。

解決方法: 前のエラーを参照してください。

DRG-11515: 指定された値は、行 : %(1)s で定義された長さを超えています。

原因: データが長すぎて、列に入りません。

解決方法: データの長さを訂正して、挿入してください。

DRG-11516: 指定したロード・ファイルは見つかりませんでした。

原因: 指定したファイルは見つかりませんでした。

解決方法: ロード・ファイルの名前および位置、許可、型を確認してください。

DRG-11517: 指定した表は、LONG または LONG RAW 列を含んでいません。

原因: テキストは、LONG または LONG RAW 型の列に挿入しなければなりません。

解決方法: 表名および表定義を確認してください。

DRG-11518: シソーラス・ロード・ファイルの行: %(1)s の構文に誤りがあります。

原因: ロード。ファイルは、ロードするシソーラスに固有の形式をしていなければなりません。

解決方法: マニュアルを参照して、正しい構文を調べてください。

DRG-11519: 行 %(1)s で、句が認められている最大長より長いので切り捨てます。

原因: 最大値より長い句を検出しました。

解決方法: 該当する行の句の長さを短くしてください。

DRG-11520: ファイル %(1)s をオープンできないか、または書込むことができません。

原因: ファイルにオープンまたは書き込みを試みましたが、失敗しました。

解決方法: システム管理者に連絡して、ファイルの有無とそのファイルに対する特権を確認してください。

DRG-11521: シソーラス: %(1)s が見つかりません。

原因: エクスポートするシソーラスが見つかりません。

解決方法: シソーラス名の綴りを確認してください。

DRG-11522: オブジェクト %(1)s が見つかりません。

原因: ユーザーまたはテーブルのどちらかが存在しません。

解決方法: ユーザー名およびテーブル名を確認してください。

DRG-11523: ユーザー %(1)s が %(2)s に対する UPDATE または SELECT 特権をもっていません。

原因: ユーザーには、リストされたオブジェクトに対する UPDATE または SELECT 特権は許可されていません。

解決方法: ユーザー特権を確認してください。

DRG-11524: テキスト・キー値が定りません。

原因: 指定された値の数がテキストキーの数と一致しません。

解決方法: テキストキーの数と同じ数の値を指定してください。

DRG-11525: この操作を実行するためには、少なくとも CTXUSER のロールを果たさなければなりません。

原因: ユーザーが CTXUSER の CXTAPP または CTXADMIN のロールを果たしていません。

解決方法: ユーザーに適切なロールを与えてください。

DRG-11526: テキスト・オブジェクトの検証時にエラーが発生しました。

原因: テキスト・オブジェクトの検証時にエラーが発生しました。

解決方法: Oracle エラーを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-11527: テキスト表 %(1)s に LONG または LONG RAW 列がありません。

原因: 指定された表に LONG または LONG RAW 列がありません。

解決方法: 指定された表を確認してください。

DRG-11528: LONG または LONG RAW 列のエクスポート時にエラーを検出しました。

原因: LONG または LONG RAW 列のエクスポート時にエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージを参照してください。

DRG-11529: ファイルへの書き込み時にエラーを検出しました。

原因: ファイルが存在しません。

解決方法: ファイルが存在しているかを確認してください。

DRG-11530: LONG または LONG RAW 列の更新時にエラーを検出しました。

原因: LONG または LONG RAW 列の更新時にエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージを参照してください。

DRG-11531: ファイルからの読み込み時にエラーを検出しました。

原因: バッファに中味がありません。

解決方法: ファイルが存在するかを確認してください。

DRG-11532: 行に指定されたテキスト・キーがありません。

原因: 表の中の行に指定されたテキスト・キーがありません。

解決方法: 有効なテキスト・キーを使ってください。

DRG-11533: 更新のために指定された行をロックできません。

原因: 列のプロセスに行のロックがあります。

解決方法: ロックをリリースするか、またはロックがリリースされるまで持ってください。

DRG-11534: 主キー値がありません。

原因: 主キー値が指定されていません。

解決方法: 主キー値を指定してください。

DRG-11600: URL 保存 : %(1)s が永続的に移動されました。

原因: URL が参照している文書が永続的に移動されました。

解決方法: 文書の新しいアドレスを調べてください。

DRG-11601: URL 保存 : %(1)s に対する要求の構文に誤りがあります。

原因: クライアントが正しい要求を送信できません。

解決方法: 解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11602: URL 保存 : %(1)s へのアクセスには認証が必要です。

原因: パスワードまたは認証が必要です。

解決方法: 必要なアクセス権を取得するか、URL を確認してください。

DRG-11603: URL 保存 : %(1)s へアクセスするにはペイメントが必要です。

原因: URL にアクセスするにはペイメントが必要です。

解決方法: URL を確認するか、またはアクセスに必要であればペイメントを行ってください。

DRG-11604: URL 保存 : %(1)s へのアクセスは否認されました。

原因: URL へのアクセスが否認されました。

解決方法: URL を確認してください。URL が正しい場合には、URL へのアクセスは試みないでください。

DRG-11605: URL 保存 : %(1)s で指定された文書が見つかりません。

原因: 指定されたホストに文書がありません。

解決方法: URL を確認してください。

DRG-11606: URL 保存 : %(1)s へのアクセスがクライアント要求の待機中にタイムアウトしました。

原因: クライアントからタイムアウト周期内に応答がありませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11607: URL 保存 : 誤った応答が原因で、%(1)s へのアクセスが否認されました。

原因: URL の Web サーバーが HTTP プロトコルに準拠していません。

解決方法: リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

DRG-11608: URL 保存 : %(1)s のホスト部分が誤って指定されています。

原因: URL のホスト部分が解析できません。

解決方法: URL を確認してください。

DRG-11609: URL 保存 : %(1)s で指定されたローカル・ファイルをオープンできません。

原因: ローカル・ファイルがオープンできませんでした。

解決方法: URL を確認してください。

DRG-11610: URL 保存 : %(1)s で指定されたローカル・ファイルを読み込むことができません。

原因 : ローカル・ファイルの読み込みに失敗しました。

解決方法 : システム管理者に連絡してください。

DRG-11611: URL 保存 : %(1)s で指定されたプロトコルが不明です。

原因 : 解析したプロトコルが http でも file でもありませんでした。

解決方法 : URL を確認してください。

DRG-11612: URL 保存 : %(1)s で指定されたホストが不明です。

原因 : 指定されたホストのアドレスが解決できませんでした。

解決方法 : URL を確認してください。

DRG-11613: URL 保存 : %(1)s で指定されたホストへの接続が拒否されました。

原因 : 指定されたホストへの接続が拒否されました。

解決方法 : URL を確認してください。

DRG-11614: URL 保存 : %(1)s に指定されたホストとの通信がタイムアウトしました。

原因 : ネットワーク操作がタイムアウトしました。

解決方法 : あとでもう一度試みてください。Web サーバーとのネットワーク接続が切断されている可能性があります。

DRG-11615: URL 保存 : ネットワーク内の %(1)s へ送信する書き込みが失敗しました。

原因 : Web サーバーへの書き込み中に不明なエラーが発生しました。

解決方法 : ネットワーク接続を確認してください。

DRG-11616: URL 保存 : %(1)s へアクセスしようとするリダイレクションが多すぎます。

原因 : URL へアクセスしようとする HTTP 連鎖のリダイレクションが多すぎます。

解決方法 : リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

DRG-11617: URL 保存 : URL: %(1)s が長すぎます。

原因 : URL 文字列の長さが URLSIZE を超えています。

解決方法 : URLSIZE 属性の値を大きくしてください。

DRG-11618: URL 保存 : %(1)s で示された文書が大きすぎます。

原因 : 文書の大きさがユーザーの設定した最大サイズを超えています。

解決方法 : URL にアクセスしないか、文書サイズの制限を大きくしてください。

DRG-11619: URL 保存 : 表内の行が空です。

原因 : 行が削除されているか、あるいは欠落しています。

解決方法 : 必要であれば、表を確認してください。

DRG-11620: URL 保存 : スレッド操作のエラーです。

原因 : スレッド操作が失敗しました。

解決方法 : システム管理者に連絡してください。

DRG-11621: URL 保存 : %(1)s に関するソケット・オープン・エラーです。

原因 : ソケット・オープンに失敗しました。オープンしているファイル記述子が多すぎる可能性があります。

解決方法 : 起動するスレッドの最大値を減らしてください。

DRG-11622: URL 保存 : %(1)s の読み込みについての不明な HTTP のエラーです。

原因 : ConText が認識できない HTTP エラーが発生しました。

解決方法 : HTTP エラー・コードを調べてください。有効な場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11623: URL 保存 : %(1)s の読み込みについての不明なエラーです。

原因 : ConText が認識できないエラーが発生しました。

解決方法 : 解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-11624: 属性 %(2)s%(1)s は無効です : 有効範囲は %(3)s から %(4)s の間です。

原因 : ConText が認識できないエラーが発生しました。

解決方法 : 属性値を変更して、再送信してください。

DRG-11625: MAXURLS * URLSIZE は %(1)s 未満でなければなりません。

原因 : MAXURLS * URLSIZE は制限値を超えることはできません。

解決方法 : MAXURLS または URLSIZE の場合は制限値より小さい値を入力してください。

DRG-11700: シソーラス : %(1)s はすでに存在しています。

原因 : 同じ名前のシソーラスが存在します。

解決方法 : 別の名前を使用してください。

DRG-11701: シソーラス : %(1)s は存在しません。

原因 : シソーラスは存在しません。

解決方法 : 別のシソーラスを使用するか、シソーラスを作成してください。

DRG-11702: %(1)s

原因 : 問合せてシソーラス演算子の解析中にエラーが発生しました。詳細は、エラー・メッセージを参照してください。

解決方法 : エラー・メッセージを参照してください。

DRG-11703: この機能を実行するには、ユーザー : %(1)s には最低 CTXAPP ロールが必要です。

原因: 権限が不十分です。

解決方法: ユーザーに CTXAPP ロールを付与してください。

DRG-11704: 句 : %(1)s が存在しません。

原因: 句が存在しません。

解決方法: 別の句を使用するか、あるいは句を作成してください。

DRG-11705: %(1)s から %(2)s にマルチレベルにジャンプしています。

原因: シソーラス・ロード・ファイルに、解析できないマルチレベル・ジャンプがあります。

解決方法: シソーラス・ファイルを修正してください。

DRG-11706: 無効なリレーション %(1)s

原因: 無効なリレーションが指定されました。

解決方法: 有効なリレーションを指定して、再送信してください。

DRG-11707: 有効なリレーション : %(1)s

原因: 無効なリレーションが指定されました。

解決方法: 有効なリレーションはリストされているとおりです。

DRG-11800: ロード元のソース名が欠落しています。

原因: ソース名が指定されていません。

解決方法: 解決方法 : ソース名を指定してください。

DRG-11801: ソース名 : %(1)s はユーザー : %(2)s 用にすでに存在しています。

原因: 同じユーザーに重複したソース名が使用されました。

解決方法: 別のソース名を使用してください。

DRG-11802: ユーザー : %(1)s にはソースの作成に必要な CTXAPP ロールがありません。

原因: ユーザーに CTXAPP ロールがありません。

解決方法: ユーザーに CTXAPP ロールを付与するか、CTXSYS としてソースを作成してください。

DRG-11803: CTXAPP では他のユーザーのソースは作成できません。

原因: CTXAPP ユーザーは他のユーザーのソースは作成できません。

解決方法: CTXAPP ユーザーは自分のソースだけを作成できます。

DRG-11804: ソースの作成中にエラーが発生しました。

原因: Oracle エラーが見つかりました。

解決方法: Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-11805: 表所有者がソース所有者と異なります。

原因: 表所有者がソース所有者と異なります。

解決方法: 正しいソース所有者または表所有者を指定してください。

DRG-11900: bin 名がありません。

原因: bin 名が指定されていません。

解決方法: bin 名を指定してください。

DRG-11901: 親の bin: %(1)s が存在しません。

原因: 親の bin が存在しません。

解決方法: 親の bin を作成するか、有効な親の bin を指定してください。

DRG-11902: bin 名: %(1)s はすでに存在しています。

原因: 同じ名前の bin が存在します。

解決方法: 別の bin 名を指定してください。

DRG-11903: bin: %(1)s が存在しません。

原因: bin が存在しません。

解決方法: 既存の bin 名を指定してください。

DRG-11904: 問合せ: %(1)s はポリシー: %(2)s に対して存在しません。

原因: 存在していない問合せを削除しようとしてしました。

解決方法: 問合せ、ポリシー名を確認してください。

DRG-11905: 再編成リストの位置: %(1)s が正しくありません。

原因: 位置が 1 より小さくなっているか、子の数より多くなっています。

解決方法: 再編成リストを確認してください。

DRG-11906: 再編成リストの bin に親が複数あります。

原因: bin がすべて同胞ではありません。

解決方法: bin の親名を確認してください。

DRG-11907: 再編成リストで同じ位置が複数使用されています。

原因: 再編成リストに重複した位置があります。

解決方法: 再編成リストを確認してください。

DRG-11908: フォントの太さ: %(1)s は無効です。有効範囲は 0.1 から 10 の間です。

原因: フォントの太さが無効です。

解決方法: フォントの太さを調整してください。

DRG-11909: bin に指定された lexer: %(1)s が正しくありません。

原因: lexer が存在しません。

解決方法: 指定された lexer を確認してください。

DRG-11910: ユーザー : %(1)s には bin: %(2)s で DML を実行するために必要な許可がありません。

原因: ユーザーに必要な許可がありません。

解決方法: bin 名を確認してください。

DRG-11911: 同胞 : %(1)s が存在しません。

原因: 指定された同胞 bin 名が存在しません。

解決方法: bin 名を確認してください。

DRG-11912: ID: %(1)s(bin: %(2)s) は正でなければなりません。

原因: bin 問合せのグループ ID は、正数でなければなりません。

解決方法: グループ ID を変更してください。

DRG-11913: 挿入位置 : %(1)s - %(2)s が正しくありません (bin: %(3)s)。

原因: ピア bin の挿入位置を示す bin 名が無効です。

解決方法: bin 名と、そしてそれらが連続しているかどうかを確認してください。

DRG-11914: 提示された %(1)s は、%(2)s の親であると同時に子でもあります。

原因: 親子関係変更操作が可能なため、ツリー内で循環します。

解決方法: 親の binID と bin ツリーの構造を確認してください。

DRG-11915: 指定されたパス : %(1)s は bin ツリーに存在しません。

原因: ctx_bin.get_id のコールで、無効なパスが使用されました。

解決方法: パスと bin ツリーの構造を確認してください。

DRG-11916: 同胞 : %(1)s はすでに同じ名前で存在しています。

原因: 親が共通の子の名前は、すべて一意でなければなりません。

解決方法: bin 名を確認してください。

DRG-12000: ユーザー・トランスレータ・コマンドが長すぎます。

原因: ユーザー・トランスレータ・コマンドは、32 文字以下でなければなりません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-12001: ユーザー・トランスレータ・コマンドに無効な文字が含まれています。

原因: ユーザー・トランスレータ・コマンドには、スラッシュ、カッコ、セミicolonなどの特殊文字は使えません。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-12002: ユーザー・トランスレータ・コマンド: %(1)s を実行できませんでした。

原因: ユーザー・トランスレータ・コマンドが実行できません。

解決方法: ユーザー・トランスレータ・コマンドが必要なディレクトリに存在していることおよび実行可能な形式になっていることを確認してください。ユーザー・トランスレータ実行可能コマンドに必要なディレクトリは、オペレーティング・システムによって異なります。たとえば、UNIX 対応オペレーティング・システムでは、ユーザー・トランスレータ実行可能ディレクトリは、`$ORACLE_HOME/cfx/bin` にあります。WindowsNT の場合は、ユーザー・トランスレータ実行可能ディレクトリは、`ORACLE_HOME\BIN` になければなりません。

DRG-12003: ユーザー・フィルタ・トランスレータのステータスが %(1)s です。

原因: ユーザー・トランスレータ・コマンドがエラー状態で終了しました。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-12004: ORACLE_HOME が設定されていません。

原因: ORACLE_HOME が設定されていません。

解決方法: ctxsrv 実行時に ORACLE_HOME が設定されているかどうかを確認してください。

DRG-12005: ユーザー・トランスレータがファイル: %(1)s で失敗しました。

原因: ユーザー・トランスレータがファイルの変換に失敗しました。

解決方法: ログ・ファイルで、実行されたコマンドを調べてください。

DRG-12006: ユーザー・トランスレータで一時名の作成に失敗しました。

原因: トランスレータが、一時ファイル名の作成に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-12007: 変換に失敗しました。

原因: トランスレータ・オブジェクトが失敗しました。

解決方法: 原因が不明な場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

DRG-12100: 読取り機でファイル: %(1)s がスキップされました。

原因: 処理できないため、読取り機はこのファイルをスキップしました。

解決方法: ファイルおよびトランスレータの順序が正しいかどうかを調べてください。

DRG-12201: セクション・グループ %(1)s はすでに存在します。

原因: 同じ名前のセクション・グループがすでに存在します。

解決方法: 別名を使うかまたは、すでに存在している名前を削除してください。

DRG-12202: セクション・グループ作成時のエラー

原因: セクショングループの作成時にエラーを検出しました。

解決方法: エラー・メッセージを参照して、適切なアクションを取ってください。

DRG-12203: セクション・グループ %(1)s が存在しません。

原因: 指定されたセクション・グループは存在しません。

解決方法: すでに存在するセクション・グループを指定してください。

DRG-12204: セクション・グループ %(1)s の削除時のエラー

原因: セクション・グループの削除時にエラーを検出しました。

解決方法: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切なアクションを行ってください。

DRG-12205: top_level と enclose_self が共に設定されています。

原因: top_level と enclose_self が一度に設定されています。

解決方法: top_level と enclose_self のどちらかの設定を解き、セクションを作成し直してください。

DRG-12206: 開始タグ %(1)s は、セクション・グループ %(2)s にすでに存在します。

原因: 指定された開始タグは同じセクションにすでに存在します。

解決方法: そのセクションに別の開始タグを指定してください。

DRG-12207: 終了タグ %(1)s は、セクション・グループ %(2)s にすでに存在します。

原因: 指定された終了タグは同じセクションにすでに存在します。

解決方法: そのセクションに別の終了タグを指定してください。

DRG-12208: 同じ開始タグと終了タグがセクション・グループ %(1)s にすでに存在します。

原因: 同じ開始タグと終了タグがすでに同じセクションに存在します。

解決方法: そのセクションに別の開始タグまたは終了タグを指定してください。

DRG-12209: セクション・グループ %(2)s にセクション %(1)s の終了タグと同じ開始タグがあります。

原因: 指定された開始タグは、同じセクション・グループの終了タグと同じになっています。

解決方法: 別の開始タグを指定してください。

DRG-12210: セクション %(1)s の追加時のエラー

原因: セクションの追加時に Oracle エラーを検出しました。

解決方法: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な解決方法を行ってください。

DRG-12211: セクションまたはセクション識別子 %(1)s が存在しません。

原因: 削除するセクション名またはセクション識別子が存在しません。

解決方法: 存在するセクション名またはセクション識別子を指定してください。

DRG-12212: セクション %(1)s の削除時のエラー

原因: セクションの削除時に Oracle エラーを検出しました。

解決方法: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な解決方法を行ってください。

DRG-12213: 他のユーザーのセクション・グループまたはセクションは作成または削除できません。

原因: 自分のセクション・グループ・オブジェクトだけを作成または削除できます。

解決方法: 所有者には自分のオブジェクトだけを作成または削除するようにさせてください。

DRG-12214: この型の名前は欠落しています: %(1)s

原因: 操作にはセクション名またはセクション・グループ名が必要です。

解決方法: セクション名またはセクション・グループ名を指定してください。

DRG-12215: 開始タグと終了タグは同じにすることはできません。

原因: 開始タグと終了タグは別になければなりません。

解決方法: 開始タグと終了タグは別々に指定してください。

DRG-12216: 終了タグが、セクション・グループ %(2)s のセクション %(1)s の開始タグと同じになっています。

原因: 指定された終了タグが同じセクション・グループの開始タグと同じになっています。

解決方法: 別の終了タグを指定してください。

DRG-12217: 開始タグと終了タグは 64 バイトを超えることはできません。

原因: 最大制限値 64 バイトを超える開始タグまたは終了タグを指定しました。

解決方法: 64 バイト以内の開始または終了タグを指定してください。

DRG-12218: セクション・グループ名が欠落しています。

原因: このアクションを実行するためにはセクション・グループ名を指定しなければなりません。

解決方法: セクションまたはセクション・グループの作成時にセクション・グループ名を指定してください。

DRG-12219: セクション名が欠落しています。

原因: セクションの作成時にセクション名を指定しなければなりません。

解決方法: セクション名を指定してください。

DRG-12220: 開始タグが欠落しています。

原因: セクションの作成時に開始タグを指定しなければなりません。

解決方法: 開始タグを指定してください。

DRG-12221: セクション・グループを指定できません。-- 作業環境 %(1)s で使用中です。

原因: 索引ポリシーに使用している作業環境でセクション・グループを指定しようとしてしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-12222: 最大オープン・セクション数 (%(1)s) を超えました。

原因: ドキュメントが、同時にオープンできる最大セクション数を超えています。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-12223: 指定したセクション名 %(1)s は予約名です。

原因: セクション名に予約名を使用しようとしてしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

DRG-12300: ワードリストが soundex(I1W) 表の作成に失敗しました。

原因: ワードリスト環境が無効か、またはデータベースに問題があります。

解決方法: ワードリスト環境および ConText サーバー・ログを確認してください。

DRG-12301: ワードリストが soundex(I1W) 表の索引を作成するのに失敗しました。

原因: ワードリスト環境が無効か、またはデータベースに問題があります。

解決方法: ワードリスト環境および ConText サーバー・ログを確認してください。

DRG-12400: テンプレート %(1)s が空です。

原因: テンプレートが空です。

解決方法: テンプレートが正しくインストールされているかを確認してください。

DRG-12401: テンプレートが無効です。: ループ内の問合せ。

原因: CTX REPEAT タグ内では CTX EXEC タグをつけることはできません。

解決方法: CTX EXEC タグを削除してください。

DRG-12402: エラー処理テンプレート %(1)s、行 %(2)s。

原因: テンプレートの処理時にエラーが発生しました。

解決方法: スタック上の他のエラーを参照して、適切な解決方法を行ってください。

DRG-12403: テンプレート %(1)s が見つかりませんでした。

原因: そのテンプレートは存在しません。

解決方法: テンプレート名とそのテンプレートがインストールされているかを確認してください。

DRG-12404: 複数のテンプレート %(1)s が見つかりました。

原因: 同じ名前のテンプレートが複数見つかりました。

解決方法: 必要に応じてテンプレートを削除してください。

DRG-12405: CTX REDIRECT または CTX LABEL タグの処理時にエラーが発生しました。

原因: タグの構文エラーです。

解決方法: タグ構文を修正してください。

DRG-12406: CTX EXEC タグ属性 %(1)s が無効です。

原因: 属性が正しく指定されていません。

解決方法: 指定された属性の構文を確認してください。

DRG-12407: CTX REPEAT タグ属性 %(1)s が無効です。

原因: 属性が正しく指定されていません。

解決方法: 指定された属性の構文を確認してください。

DRG-12408: 無効な変数参照 : %(1)s.%(2)s。

原因: 参照された変数が存在しません。

解決方法: ラベルと列名を確認してください。

DRG-12409: %(1)s でのラベル構文エラー

原因: CTX EXEC タグの SQL に、ラベルまたはラベル型の正しくない構文があります。

解決方法: CTX EXEC タグの SQL 属性を確認してください。

DRG-12410: CTX EXEC タグを処理できませんでした。

原因: CTX EXEC タグの SQL 属性の処理時にエラーが発生しました。

解決方法: スタック上の他のエラーを参照して、適切な解決方法を行ってください。

DRG-12411: SQL 処理エラー : %(1)s。

原因: CTX EXEC タグの SQL 属性から SQL を間違えて実行しました。

解決方法: SQL 属性の SQL を確認してください。

DRG-12412: Template Processor 属性 %(1)s が欠落しているか、または無効です。

原因: HTML 指定された属性が入力フィールドでは欠落しているか、または無効です。

解決方法: INPUT で Template Processor 固有の属性を調べてください。

DRG-12422: クライアントへの書き込みに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12430: 必須の引数が欠落しています : %(1)s。

原因: この引数は必須です。

解決方法: この引数を指定した状態で URL を送り直してください。

DRG-12431: 構成セクションが見つかりません。

原因: 構成セクション %(1)s が見つかりません。

解決方法: この引数を修正した状態で URL を送り直してください。

DRG-12432: 構成ファイル %(1)s が見つかりません、または読み取ることができません。

原因: 構成ファイルの処理時にエラーが発生しました。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12433: %(1)s JDBC ドライバ・クラスのロードに失敗しました。

原因: ドライバ・クラスが無効です。

解決方法: システム管理者に連絡して、構成を修正してください。

DRG-12434: 構成 : %(1)s 情報を使って接続しようとしたが失敗しました。

原因: 構成情報が正しくありません。

解決方法: システム管理者に連絡して、構成を修正してください。

DRG-12435: ハイライト表の割当てに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12436: ドキュメント表の割当てに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12437: ハイライト表のリリースに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12438: ドキュメント表のリリースに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12439: ハイライト表の読込みに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12440: ドキュメント表の読み込みに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

DRG-12441: ハイライト表数のカウントに失敗しました。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

Oracle Trace メッセージ

サーバー・メッセージ : EPC-00000 ~ EPC-00400

次のエラーは、サーバー側 (CLI、サービス、フォーマッタ、レポータなどを含む) の Oracle Trace エラー・メッセージです。

EPC-00002: 渡された機能 ID が無効です。

原因: 無効な製品 ID が渡されました。

解決方法: 1 から 999999 の間で有効な製品 ID を指定してください。

EPC-00003: 渡された機能バージョンが無効です。

原因: 無効な製品バージョン番号が渡されました。

解決方法: 11 より小さい製品バージョン番号を指定してください。

EPC-00004: 機能登録 id が無効です。

原因: 無効な製品登録 ID が渡されました。

解決方法: 256 より小さい製品登録 ID を指定してください。

EPC-00006: コレクションは使用不可です。

原因: コレクションが停止したか、またはイベントが収集されていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00007: 機能バージョンが必要です。

原因: 製品バージョン番号が未指定です。

解決方法: 製品バージョン番号を指定してください。

EPC-00008: この機能に対して epc_init が 2 回コールされました。

原因: epc_init ルーチンが製品によってすでにコールされています。

解決方法: コード・パスを調べて、epc_init が 1 回だけコールされていて、正しい位置にあるかどうかを確認してください。

EPC-00009: データ・キャプチャ・ファイルが存在しません。

原因: 収集用のデータ・ファイルがありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00011: Oracle TRACE ソフトウェアがインストールされていません。

原因: Oracle Trace ソフトウェアがインストールされていません。

解決方法: Oracle Trace ソフトウェアをインストールしてください。

EPC-00015: ヒープ領域が不足しています。

原因: Oracle Trace のメモリーが足りません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00016: 最小イベントが無効です。

原因: イベント番号が FDF で指定されている最小値より小さいです。

解決方法: 有効なイベント番号を指定してください。

EPC-00017: 最大イベントが無効です。

原因: イベント番号が FDF で指定されている最大値より大きいです。

解決方法: 有効な最大イベント番号を指定してください。

EPC-00019: 共有メモリーに接続できません。

原因: Oracle Trace が共有メモリーに接続できません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00020: メモリーへのアクセスを取得できません。

原因: マップされたメモリー管理 .dat ファイルの 1 つが満杯になったときに、Oracle Trace は、そのファイルのサイズを拡張することができませんでした。これは、Windows NT の場合にだけ発行されます。その他のプラットフォームでは、ユーザーの処置がなくても、必要に応じてファイルは拡張されます。

解決方法: 現在実行している Oracle Trace コレクションが *.dat ファイル上のスペースを解放するまで待ってください。Oracle Trace コレクションが実行されていない場合には、otrcrcf イメージを実行して、空の dat ファイルを新たに作成することができます。otrcrcf を実行するときに、必要に応じてより大きいファイル・サイズを指定することもできます。

EPC-00023: 機能は収集していません。

原因: コレクションはアクティブですが、製品の一部ではありません。

解決方法: 現在の製品バージョンが収集用に指定されているかを確認してください。

EPC-00024: 共有メモリーを切り離せません。

原因: Oracle Trace が共有メモリーから切り離せません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00030: コレクションがありません。

原因: 削除するコレクションが見つかりません。

解決方法: 存在するコレクションの名前を指定してください。

EPC-00034: mutex 作成中にエラーが発生しました。

原因: エラーは、mutex 作成中に発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00035: レコード長が無効です。

原因: epc_event コールで間違ったレコードの長さが見つかりました。

解決方法: epc_event コールで有効なレコードの長さについての情報は、『Oracle Trace User's Guid』を参照してください。

EPC-00036: 渡されたイベントが無効です。

原因: 無効なイベント数値がパスされました。

解決方法: 有効なイベント数値を指定してください。

EPC-00037: イベントが指定されていません。

原因: イベントに対して 0 が指定されています。

解決方法: 有効なイベント数値を指定してください。

EPC-00038: ハンドルが指定されていません。

原因: start_event または end_event コールのハンドルに対して 0 が指定されています。

解決方法: コールのハンドル・アドレスを指定してください。

EPC-00039: 指定されたイベントが収集していません。

原因: 製品は収集していますが、イベントは収集していません。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00040: DCF への書き込みでエラーが発生しました。

原因: データがデータ・コレクション・ファイルに書込めません。

解決方法: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00043: mutex ロックの獲得でエラーが発生しました。

原因: mutex ロックを取得しようとしている間にエラーが発生します。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00044: mutex のロック解除でエラーが発生しました。

原因: mutex のロックを解除しようとしている間にエラーが発生します。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00046: 一般エラー・メッセージ。

原因: 原因が不明なエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00047: スレッドが無効です。

原因: 無効なスレッド値が渡されました。

解決方法: 有効なスレッド値についての情報は、『Oracle Trace User's Guide』を参照してください。

EPC-00048: スレッドがありません。

原因: スレッドが渡されていません。スレッドを 1 つ渡す必要があります。

解決方法: スレッドを渡してください。

EPC-00049: thread_id が現行スレッドではありません。

原因: 現行スレッドにコンテキストが設定されていません。

解決方法: 現行スレッドにコンテキストを設定してください。

EPC-00050: 渡されたイベント・レコード引数が無効です。

原因: 無効なイベントのレコード引数が渡されました。

解決方法: コードおよび正しい引数値を確認してください。

EPC-00051: 制約が存在しません。

原因: epc_remove_reg_id コールが、存在していない制約に作成されます。

有効な制約を指定してください。

EPC-00053: Regid がすでに存在しています。

原因: epc_add_reg_id コールに指定された制約がすでに存在します。

処置は必要ありません。

EPC-00054: 機能の限度を超えています。

原因: 一度に収集できるアクティブな機能は、5 つまでです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00055: dcf のオープンでエラーが発生しました。

原因: データ・コレクション・ファイルをオープンしようとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00056: filename のオープンでエラーが発生しました。

原因: データ・コレクション定義ファイルをオープンしようとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00057: cf 項目番号が無効です。

原因: 無効な製品間項目番号が指定されました。

解決方法: 1 から 14 までの製品間番号を指定してください。

EPC-00058: epc_init コールが必要です。

原因: An epc_init コールが見つかりませんでした。

解決方法: コードを調べて、epc_init が正しい位置でコールされているかどうかを確認してください。

EPC-00062: コレクションはすでにアクティブです。

原因: 指定されたコレクションはすでにアクティブです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00063: fdf ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: epc_collect コールで指定されている FDF ファイルを読み込もうとしている間にエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00064: dcf の作成でエラーが発生しました。

原因: データ・コレクション・ファイルを作成しようとしているときにエラーが発生しました。

オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00065: cdf filename の作成でエラーが発生しました。

原因: 指定されたコレクション定義ファイルを作成しようとしているときにエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00066: cdf filename の書き込みでエラーが発生しました。

原因: 指定されたコレクション定義ファイルに書き込もうとしているときにエラーが発生しました。

解決方法: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。そうでなければ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00067: fdf のオープンでエラーが発生しました。

原因: 製品定義ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00068: cdf 内でシーク・エラーが発生しました。

原因: コレクション定義ファイルでシーク・エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00069: os 名マシン名取得エラー

原因: オペレーティング・システムが確認されませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00070: ホスト名取得エラー

原因: ホスト名が確認されませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00071: max_event は 0 より大きくなければなりません。

原因: 無効な最大値イベントが epc_init コールで指定されました。

解決方法: 0 より大きい最大値イベントを指定してください。

EPC-00072: returned_eflags が必要です。

原因: epc_init コールで予期した returned_eflags パラメータが見つかりませんでした。

解決方法: epc_init コールで必須な情報を指定してください。

EPC-00073: オフセット値が無効です。

原因: 無効なオフセット値が epc_init コールで指定されました。

解決方法: 有効なオフセット値を指定してください。

EPC-00074: shmem id またはファイル名が必要です。

原因: epc_init コールで予期した共有メモリー ID またはファイル名が見つかりませんでした。

解決方法: epc_init コールで必須な情報を指定してください。

EPC-00075: ファイル名が必要です。

原因: ファイル名が見つかりませんでした。

解決方法: ファイル名を指定してください。

EPC-00076: predefined_eventflags が必要です。

原因: epc_init コールで予期した predefined_eventflags パラメータが見つかりませんでした。

解決方法: epc_init コールで必須な情報を指定してください。

EPC-00077: オプション値が無効です。

原因: 無効なオプションが epc_init コールで指定されました。

解決方法: epc_init コールに有効なオプションを指定してください。

EPC-00078: まだインプリメントされていません。

原因: この機能はまだサポートされていません。

解決方法: この機能は使わないでください。処置は必要ありません。

EPC-00079: ファイルの追加に失敗しました。

原因: コレクション定義ファイル作成中にディスク領域を超えました。

解決方法: ディスク領域を増加してください。

EPC-00080: ファイル追加シークに失敗しました。

原因: コレクション定義ファイル作成中にディスク領域を超えました。

解決方法: ディスク領域を増加してください。

EPC-00081: 追加書き込みに失敗しました。

原因: コレクション定義ファイル作成中にディスク領域を超えました。

解決方法: ディスク領域を増加してください。

EPC-00082: 追加書き込みに失敗しました。

原因: コレクション定義ファイル作成中にディスク領域を超えました。

解決方法: ディスク領域を増加してください。

EPC-00083: fdf の作成でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00084: メモリー・マッピングに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00085: メモリー・マッピングの解除に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00086: メモリーのマッピング解除の前にマッピングが必要です。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00087: CLI ジョブを開始します ...

原因: この条件は、CLI ジョブの開始を通知するために使用されます。これはエラーではありません。

解決方法: なし。

EPC-00088: lsf パッケージに対するコールに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00089: event_id が、epc_init で指定された max_event を超えています。

原因: event_id が epc_init に指定された最大値を超えています。

解決方法: 有効な event_id を指定してください。

EPC-00090: バージョン・レコード書込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00093: 内部エラー: 引数が無効です。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00094: システム・タイムスタンプ・コールが失敗しました。

原因: Oracle Trace はシステムのタイムスタンプを取得できませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00095: 新規 Reg ID レコードの追加でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00096: Reg ID ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00097: 新規 Reg ID ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: ユーザーに、Oracle Trace .dat ファイルがあるディレクトリ (たとえば、\$ORACLE_HOME/otrace/admin) に対する書込みアクセスがない可能性があります。

解決方法: ディレクトリに対するアクセス権を与えるか、またはオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00098: Reg ID の削除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00099: Reg ID 詳細の削除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00100: 新規 Reg ID 詳細レコード用の空きスロットの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00101: 指定プロセスの 1 次 Reg ID レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00102: 指定されたプロセスの Reg ID データのフェッチでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00103: Reg ID コンテキストが無効です。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00104: Reg ID データが無効で一貫性がありません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00105: Reg ID 文字列が無効です。たとえば、長すぎます。

原因: 渡される登録 ID 文字列が無効です (長すぎるため)。

解決方法: 有効な登録 ID 文字列を指定してください。

EPC-00106: 次の Reg ID レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00107: 次の Reg ID 詳細レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00108: Reg ID ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00109: Reg ID レコードの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00110: Reg ID ファイル・ヘッダーの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00111: Reg ID 環境変数にエラーが発生しました。たとえば、定義されていません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00112: ファイルの extend_count 設定エラー

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00113: 新規 COL レコードの追加中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00114: COL ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00115: COL ファイル環境変数が無効 / 欠落しています。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00116: コレクションがすでにファイル内に存在しています。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00117: COL ファイル作成エラーです。

原因: ユーザーに、Oracle Trace .dat ファイルがあるディレクトリ (たとえば、\$ORACLE_HOME/otrace/admin) に対する書き込みアクセスがない可能性があります。

解決方法: ディレクトリに対するアクセス権を与えるか、またはオラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

EPC-00118: COL レコードの削除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00119: 指定 COL レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00120: COL コンテキストが無効 / 未定義です。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00121: コレクション名が無効 / 未定義です。

原因: 「コレクションの起動」などの Oracle Trace 操作では、ユーザー指定のコレクション名が必要ですが、指定されていません。

解決方法: コレクション名が指定されているかどうかを確認してください。指定されている場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00122: 次の COL レコードの取得でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00123: COL ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00124: COL レコードの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00125: COL ファイル・ヘッダーの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00126: COL ファイル extend_count の設定でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00127: 機能イベント・フラグの更新でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00128: プロセス・イベント・フラグの更新でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00129: PRO レコードの追加でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00130: PRO ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00131: PRO ファイルの作成中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00132: PRO レコードの削除 / 解放でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00133: CLI ジョブを完了しました。

原因: CLI ジョブの完了を合図するために使用されている条件です。これはエラーではありません。

解決方法: なし。

EPC-00134: PRO_REGID to PRO_FAC の追加でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00135: PRO_REGID の削除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00136: レジスター PID を PRO から取得できません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00137: PRO ファイル・コンテキストが、無効かまたは未定義です。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00138: 次の PRO レコードのフェッチに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00139: PRO ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00140: PRO ファイル・レコードの読み込みに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00141: PRO ヘッダーの読み込み (マップ) 中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00142: PRO ファイル extend_count の設定に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00143: PRO レコードの更新に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00147: ジョブ ID が指定されていません。

原因: CLI の開始および停止コレクションのユーザー指定のジョブ ID が指定されていません。または、Oracle Trace 内部エラーが発生しています。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00148: コレクション状態: アクティブ

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00149: コレクション状態は、未定義です。

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00150: コレクション状態はアクティブです。

原因: これは、Oracle Trace の内部エラーです。通常は、戻されません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00151: コレクション cdf ファイルと dat ファイルを削除しました。

原因: これは成功メッセージです。

処置は必要ありません。

EPC-00152: 入力パラメータ・ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace CLI が必要とするパラメータ・ファイルが、ユーザーによって提供されていないか、そうでなければ、Oracle Trace の内部エラーです。

解決方法: 可能なら、そのパラメータ・ファイルを提供してもらってください。不可能なら、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00153: 指定された CLI コマンドが無効または未確定です。

原因: Oracle Trace CLI に無効または不完全なコマンド動詞が指定されたか、コマンドがまったく使用されていません。

解決方法: 完全な CLI コマンド動詞 (たとえば、"start") を指定して、コレクションを開始してください。

EPC-00154: 制限が無効か、または指定されていません。

原因: CLI が、値が欠落しているか無効な入力制限レコードを検出しました。

解決方法: CLI で制限入力を使用するには、それが完全かどうかを確認してください。

EPC-00155: 制限の最大数を超過しています。

原因: CLI ユーザーが最大値より多い制限レコードを入力しました (最大値は現在 5 です)。

解決方法: CLI パラメータに渡される入力制限を減少させてください。

EPC-00156: Oracle ホーム・パラメータが指定されていません。

原因: 環境変数 ORACLE_HOME が定義されていないままで Oracle Trace CLI から要求されます。

解決方法: ORACLE_HOME を定義して、CLI 関数を戻してください。

EPC-00157: コレクションを開始しました。

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00158: コレクションが完了しました。

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00159: ユーザー名 / パスワード (またはサービス名) がありません。

原因: Oracle Trace データのフォーマットなど、Oracle データベースにアクセスする場合には、ユーザーは、有効なデータベース・アカウントのユーザー名、パスワード、データベース・サービス名を指定して、完全な Oracle データベース接続文字列を作成しなければなりません。

解決方法: 欠落している接続文字列コンポーネントを指定してください。

EPC-00160: コレクションのアクティブ化にエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace は、コレクションをアクティブにできませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00161: cdf ファイルの変更でエラーが発生しました。

原因: コレクションのアクティブ化中にエラーが発生しました。

解決方法: CDF および FDF といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00162: コレクションをアクティブにする時に fdf ファイルにエラーが発生しました。

原因: コレクションをアクティブにする時にエラーが発生しました。

解決方法: CDF および FDF といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00163: ORACLE_HOME の変換でエラーが発生しました。

原因: 環境論理 ORACLE_HOME の変換中にエラーが発生しました。

解決方法: ORACLE_HOME 定義を確認するか、DBA に連絡してください。

EPC-00164: プロダクト管理ディレクトリ名変換でエラーが発生しました。

原因: 環境論理 ORACLE_HOME の変換中にエラーが発生しました。

解決方法: ORACLE_HOME 定義を確認するか DBA に連絡してください。

EPC-00165: プロダクト・ディレクトリ名変換でエラーが発生しました。

原因: 環境論理 ORACLE_HOME の変換中にエラーが発生しました。

解決方法: ORACLE_HOME 定義を確認するか DBA に連絡してください。

EPC-00166: コレクションの取消してエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00167: コレクション・ファイルは限界に達しました。

原因: コレクションが開始されたときに指定された最大ファイルサイズを超えていました。

解決方法: 処置は必要ありません。以降のコレクションのために、最大ファイルサイズを増加してください。

EPC-00168: ORACLE_HOME へのファイルパスを取り除いている間にエラーが発生しました。

原因: 環境論理 ORACLE_HOME の変換中にエラーが発生しました。

解決方法: ORACLE_HOME 定義を確認するか DBA に連絡してください。

EPC-00169: cdf ファイルの削除でエラーが発生しました。

原因: コレクション .cdf ファイルを削除しようとするときにエラーが発生すると、Oracle Trace CLI がこのエラーを通知します。多くの場合、このエラーはファイルが存在しない (すでに削除されてしまっている) か、ファイルが保護されているために発生します。

解決方法: ファイルが存在しているかどうか、ファイルが保護されているかを確認してください。

EPC-00170: コレクション dat ファイルの削除のエラー。

原因: コレクション .dat ファイルを削除しようとするときにエラーが発生すると、Oracle Trace CLI はこのエラーを通知します。多くの場合、このエラーはファイルが存在しない (すでに削除されてしまっている) か、ファイルが保護されているために発生します。

解決方法: ファイルが存在しているかどうか、ファイルが保護されているかを確認してください。

EPC-00171: Ttl 走査エラーです。

原因: 入力パラメータの走査中に、Oracle Trace CLI エラーが発生しました。これは、通常戻されない内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00175: トレース CLI イメージが見つからないか、または実行可能ではありません。

原因: Oracle Trace CLI イメージ otrccol が ORACLE_HOME/bin にないか、アクセスが拒否されました。

解決方法: イメージが存在する場合には、実行できるように保護設定を変更してください。存在しない場合には、システムに Oracle をインストールした責任者に確認するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00176: フォーマットを完了しました。

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00177: フォーマットを開始しました。

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00178: Ttl ジョブ名が指定されていません。

原因: これは、通常戻されない Oracle Trace の内部メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00179: ユーザー・アクションまたは最大ファイルサイズ(あるいはエラー)によってコレクションが停止しました。

原因: このメッセージは Oracle Trace CLI から戻されたメッセージで、ユーザーが明示的にコレクションを停止したか、あるいはディスクが満杯になるか、その他のエラー条件でコレクションが終了した場合に戻されます。

解決方法: ユーザーがコレクションを停止していない場合には、ディスクの使用率を調べて、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00180: フォーマットしたデータの削除を開始しました。

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00181: フォーマットしたデータの削除を完了しました。

原因: これは成功メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00182: OCI データベース・アクセスのエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace CLI データベース・アクセスの間にエラーが発生しました。

解決方法: EPC_ERROR.LOG ファイルで詳細を調べてから、処理を継続してください。

EPC-00220: 項目が見つかりません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00224: レポート・ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace がレポート・ファイルへのデータの書き込みができませんでした。

解決方法: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00225: time() エラーです。

原因: Oracle Trace レポータがシステムから時間の取得に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00226: localtime() エラーです。

原因: Oracle Trace レポータがシステムからローカル時間の取得に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00227: 最初の fac_regid を検査しようとしてシーク・エラーが発生しました。

原因: 最初の製品登録 ID を搜している間に Oracle Trace レポータでシーク・エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00228: 一致する機能が見つかりません。

原因: Oracle Trace レポータが指定された製品の検索に失敗しました。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00229: eve レコードの前に eveite レコードがあります。

原因: Oracle Trace レポータはイベント・レコードの前の項目レコードを検索しました。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00230: イベント・レコードがありません。

原因: Oracle Trace レポータがイベント・レコードの検索に失敗しました。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00233: %s を %s に割当て中にエラーが発生しました。

原因: メモリー割当てエラーが発生しました。

解決方法: アプリケーションでのメモリーの使用状況を確認してください。それらに問題がない場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00234: メモリーを calloc できません。

原因: メモリー割当てエラーが発生しました。

解決方法: アプリケーションでのメモリーの使用状況を確認してください。それらに問題がない場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00235: ファイル *filename.dat* が見つかりません。

原因: データ・ファイルが見つかりません。削除されて、もう存在していない可能性があります。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00236: ファイル *filename.cdf* が見つかりません。

原因: コレクション定義ファイルが見つかりません。削除されて、もう存在していない可能性があります。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00237: cdf ファイル内に不明なレコードがあります。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00238: .cdf ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00240: 挿入フィールド内の位置調整が無効です。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00241: 挿入フィールド内の整合性にエラーがあります。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: .CDF および .DAT といっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00242: ファイル *filename* がオープンできません。

原因: 指定されたファイルがオープンされませんでした。

解決方法: ファイルの保護が正しいことを確認してください。

EPC-00243: ファイル *filename* を作成できません。

原因: 指定されたファイルが作成されませんでした。

解決方法: ファイルの保護が正しいことを確認してください。

EPC-00245: *filename* でマップ・エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00246: eventflag の更新中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00247: .fdf ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00248: cdf ファイル内に不明なレコードがあります。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: .CDF ファイルといっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00251: 追加シーク操作に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00252: 追加読み込みに失敗しました。

原因: FDF 追加操作中にファイルの読み込みでエラーが発生しました。

解決方法: コレクションをアクティブにするに指定した FDF に対して、保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00253: 追加書込みに失敗しました。

原因: FDF 追加操作中にファイルの書込みでエラーが発生しました。

解決方法: コレクションをアクティブにするに指定した FDF に対して、保護が正しいかどうかを確認してください。問題がない場合、十分な ディスク領域があることを確認してください。

EPC-00257: 読み込みエラーです。

原因: ファイルを読み込みもうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

解決方法: ファイルの保護が正しく、問題が繰り返し発生する場合、これは Trace 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00258: filename 内の書込みエラー。

原因: ファイルを読み込みもうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

解決方法: ファイルの保護が正しく、問題が繰り返し発生する場合、これは Trace 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00259: filename でシーク・エラーが発生しました。

原因: ファイルを読み込みもうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

解決方法: ファイルの保護が正しく、問題が繰り返し発生する場合、これは Trace 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00260: ファイルの拡張でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace は、ファイルを拡張できませんでした。

解決方法: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00261: filename 内のマップ読み込みエラー。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00262: filename 内のマップ書込みエラー。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00263: マップのロック・エラーです。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00264: 間違ったファイル・ポインタです。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00266: コレクション *name* 内の mutex のロック解除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00267: フラッシュ・エラーの数値 *:number*, コレクション *name* に発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00268: ロックの取得でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00269: ロックのテストでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00270: *name* 内のファイルのマップ解除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00271: ファイル *filename* の更新でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00281: *filename* 内の論理エラー。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00282: *name* 内の COL ファイルのアクセスでエラーが発生しました。

原因: 収集する .dat ファイルに保護問題がある可能性があります。保護が正しい場合、このエラーは Oracle Trace 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00283: コレクション *name* の開始でエラーが発生しました。

原因: CDF または FDF ファイルに保護問題がある可能性があります。

解決方法: その他のエラー・メッセージがこのメッセージといっしょに示されます。これらメッセージに示された処置を行ってください。

EPC-00284: FDF ファイル内でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: FDF ファイルといっしょにバグ・レポートを送信してください。

EPC-00285: FDF ファイル内のエラー。ファイルが空です。

原因: FDF ファイルが不正な方法で編集されている可能性があります。

解決方法: 他のノードから他の FDF のコピーを取得してください。

EPC-00286: コレクション名で fdf、cdf ファイルを追加中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: レビューに使用可能な FDF および CDF ファイルを用意して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00287: fdf 処理で予期しないレコードが検出されました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: レビューに使用可能な FDF ファイルを用意して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00290: gethostname コールが失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00291: プロセス・レコード用の空き領域が見つかりません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00296: uname システム・コールに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00297: データ・ファイル *filename* への書き込みでエラーが発生しました。

原因: データ・ファイルの保護に問題があるか、データ・ファイルが満杯です。

解決方法: 必要であれば、保護問題を訂正してください。それでもエラーが発生する場合は、Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00298: *name* 内の mutex のロックでコールがエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00299: オフセット *number* がアクティブなコレクションンと一致していません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00300: コレクション *name* がアクティブなコレクションと一致していません。

原因: コレクションは存在していないので停止できません。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00301: コレクション *name* は見つかりましたが、アクティブではありません。

原因: コレクションはすでに停止されています。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00305: 空きコレクション・エントリの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00306: ファイル *filename* から報告するデータがありません。

原因: これは、Oracle Trace Reporter エラーです。.DAT ファイルに保護問題があるか、データを収集する処理が実行されていません。

解決方法: .DAT ファイルの保護を確認してください。それ以外は、何もする必要はありません。

EPC-00307: Oracle Commit 中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00308: Oracle 文の実行でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00309: filename の解析でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: レビューに使用可能な .CDF および .DAT ファイルを用意して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00310: ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: メッセージ・ファイルに保護問題がある可能性があります。

解決方法: メッセージ・ファイルの保護が正しいことを確認してください。そうでなければ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00311: EPC_PRO プロセス・ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: これはインストレーション・エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00313: EPC_COL コレクション・ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: これはインストレーション・エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00314: dcf 本体の読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: レビューに使用可能な CDF および .DAT ファイルを用意して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00315: 開始ハンドル・レコードの作成でエラーが発生しました。

原因: Reporter メモリーに問題がある可能性があります。

解決方法: レビューに使用可能な .CDF および .DAT ファイルを用意して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00316: プロセス・レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: レビューに使用可能な CDF および .DAT ファイルを用意して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00318: データ・ファイル *filename* の作成でエラーが発生しました。

原因: ディスク領域に問題がある可能性があります。

解決方法: 十分なディスク領域があることを確認してください。それでもエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00319: コレクションの開始に必要なユーザー情報がありません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00322: プロセス・レポート・ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: これは、プロセス・レポートが作成されないことを示します。ディスク領域またはプロテクトの問題の可能性があります。

解決方法: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。そうでなければ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00323: 機能登録レコードと一致するプロセス・レコードが見つかりません。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: レビューに使用可能な CDF および .DAT ファイルを用意して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00330: 探索ディレクトリ引数が無効です。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00331: 機能定義ディレクトリ・ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: otrace/admin/fdfdir.dat ファイルの指定のに保護問題がある可能性があります。

解決方法: ファイルの保護が正しく、問題が繰り返し発生する場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00332: 機能 info レコード用のメモリーの割当てでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00334: 機能 info ポインタのリスト用のメモリーの割当てでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00335: fdf レコード用のメモリーの割当てでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00337: 使用方法 : *command [-w[*wid*] -l[*len*] -P -p[*pid*] -h] input_file [output_dir]*

原因 : Oracle Trace Report コマンドが不正に使用されています。

解決方法 : 正しいパラメータを正しい順序で指定して、コマンドを再送信してください。

EPC-00338: 未使用プロセス・レコードの削除でエラーが発生しました : オフセット *number*.

原因 : これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00339: 未使用コレクションの削除でエラーが発生しました : オフセット *number*

原因 : これは Oracle Trace 内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPC-00342: データベースで、収集 *:id* が見つかりません。(-f を使用して再実行してください。)

原因 : Oracle Formatter はデータ・ファイルの指定されたコレクション ID を検索できませんでした。

解決方法 : -f パラメータを指定して Reporter を再実行し、データ・ファイル全体をフォーマットしてください。

EPC-00344: フォーマットする新規データはありません。終了します。

原因 : 新しいデータを含むデータ・ファイル形式を作成しようとした。

解決方法 : 処置は必要ありません。

EPC-00349: Oracle7 のデータベース・コレクションの起動でエラーが発生しました。サーバー・システムの EPC_ERROR.LOG を参照してください。

原因 : このエラーには、いくつかの原因が考えられます。

解決方法 : 特定のエラー番号について EPC_ERROR.LOG を参照してください。

EPC-00350: collection_id: id のフォーマットを途中終了しています。データベースから削除して、再フォーマットしてください。

原因: このメッセージには、いくつかの原因が考えられます。ユーザーがフォーマット操作を取り消した場合、このメッセージはエラー・メッセージではなく、単なる情報メッセージの場合である場合があります。

解決方法: -f パラメータを指定して、フォーマットを再実行し、異常終了する前にフォーマットしたデータを再フォーマットしてください。

EPC-00351: ユーザーによってフォーマットが停止されました。

原因: Oracle Trace Format 操作は停止されました。

解決方法: 処置は必要ありません。

EPC-00352: このファイルは存在しています。別の名前を選択してください。

原因: 指定されたファイル名はすでに存在しています。

解決方法: 新しいファイル名を指定してください。

ユーザー・インタフェース・メッセージ: EPCW-00000 ~ EPCW-00999

これらのメッセージは、Oracle Trace Manager によって生成される重大なエラー・メッセージです。

EPCW-00001: データベース・エラーです。

原因: データベースへのアクセス中に問題が発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ自身にある追加情報を参照してください。

EPCW-00002: コレクションの開始でエラーが発生しました。

原因: Oracle Enterprise Manager にジョブを送ろうとしている間に問題が発生します。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00003: コレクション入力ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: コレクションの入力ファイルを作成 / 書込みしている間に問題が発生します。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00004: コレクションスクリプト・ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace ジョブ tcl ファイルを検索しようとしている間に問題が発生します。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00005: Oracle Enterprise Manager 検索キャッシュのアクセスでエラーが発生しました。

原因: Oracle Enterprise Manager 検索キャッシュへのアクセス中に問題が発生しました。

解決方法: Oracle Enterprise Manager が実行されており、Oracle Trace のバージョンとの互換性があるバージョンであることを確認してください。

EPCW-00006: 状態変更通知のための Oracle Trace の登録でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace のアクティブ・オブジェクトを登録しようとしているときに問題が発生しました。

解決方法: Oracle Trace 登録入力正しいことを確認してください。

EPCW-00007: 警告 - Oracle Enterprise Manager には不明な宛先データベースです。

原因: ユーザーが指定したデータベースは、Oracle Enterprise Manager 検索キャッシュにありませんでした。

解決方法: なし。これは警告メッセージです。

EPCW-00008: データベースを渡さなければなりません。

原因: ユーザーから要求されたデータベース名が渡されていません。

解決方法: データベース名を入力してください。

EPCW-00009: ユーザー名を渡さなければなりません。

原因: ユーザーから要求されたユーザー名が渡されていません。

解決方法: ユーザー名を入力してください。

EPCW-00010: パスワードを渡さなければなりません。

原因: ユーザーから要求されたパスワードが渡されていません。

解決方法: パスワードを入力してください。

EPCW-00011: Oracle Trace の初期化でエラーが発生しました -Oracle Enterprise Manager は実行されていません。

原因: Oracle Enterprise Manager は実行されていなければなりません。

解決方法: Oracle Enterprise Manager を起動して、Oracle Trace を再起動してください。

EPCW-00012: Oracle Trace Repository への接続でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace Repository への接続でエラーが発生しました。

解決方法: 特定の Oracle Trace に問題があるかどうかを判断してください。問題がある場合、新規に作成されたリポジトリへの接続を試みてください。新規のリポジトリでまだ問題がある場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00013: Oracle Enterprise Manager 検索の実行エラー

原因: Oracle Enterprise Manager の検索中に問題が発生しました。

解決方法: Oracle Enterprise Manager 検索が正しく機能しているかどうかを確認してください。正しく機能している場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00014: Oracle Enterprise Manager コンソールでの通信でエラーが発生しました。

原因: OLE 経由の Oracle Enterprise Manager で通信している間に問題が発生しました。あるいは、間違った Oracle Enterprise Manager コンソールがロードされていました。

解決方法: Oracle Enterprise Manager と Oracle Trace のバージョンが合致しているかどうかを確認してください。一致している場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00015: OLE の初期化に失敗しました。OLE ライブラリが正しいバージョンであるかどうかを確認してください。

原因: OLE DLL のバージョンが間違っています。

解決方法: 製品を再インストールしてください。

EPCW-00016: Oracle Enterprise Manager 検索キャッシュでの更新でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace の検索中に問題が発生しました。

解決方法: Oracle Enterprise Manager/Oracle Trace の両バージョンには互換性がありません。

EPCW-00017: 進行ウィンドウをクローズして状態メッセージを破棄してもよろしいでしょうか？

原因: Oracle Trace の検索停止を促します。

解決方法: なし。

EPCW-00018: コレクション %s の起動に失敗しました。

原因: コレクションの起動に失敗しました。

解決方法: コレクションの開始を再試行してください。

EPCW-00019: コレクション %s の停止に失敗しました。

原因: コレクションの停止中に問題が発生しました。

解決方法: コレクションの停止を再試行してください。

EPCW-00020: ナビゲータ・データの表示でエラーが発生しました。

原因: ナビゲータに情報を表示している間に問題が発生しました。

解決方法: スクリーンをリフレッシュするか、Oracle Trace マネージャを再起動してください。

EPCW-00021: Oracle Enterprise Manager が実行されていません。製品ファイルの編集しか使用可能ではありません。

原因: Oracle Enterprise Manager は実行されていませんが、ユーザーがコマンド行で管理モードを指定しました。

解決方法: なし。ユーザーが使用できるのは、製品作成 / 編集だけです。

EPCW-00022: Oracle Trace のリソース DLL をロードすることができません。

原因: Oracle Trace は言語特定のリソース DLL が検索できませんでした。

解決方法: 正しいインストレーションと仮定すると、これは内部の問題です。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00023: ナビゲータ・データの表示でエラーが発生しました。

原因: Oracle Enterprise Manager 検索エラー

解決方法: これは内部の問題です。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00024: 最低 1 つのイベント設定を指定しなければなりません。

原因: コレクション・ウィザードで、最低 1 つのイベント設定が指定されていなければなりません。

解決方法: コレクション・ウィザードで、最低 1 つのイベント設定を指定してください。

EPCW-00025: 期限が指定されていなければなりません。

原因: コレクション・ウィザードで、期限が指定されていなければなりません。

解決方法: コレクション・ウィザードで期限を指定してください。

EPCW-00026: Oracle Trace ノードが見つかりません。Oracle Trace 検索を実行しますか？

原因: ノードが見つからないと、製品起動時に検索を実行するようにユーザーにプロンプトが出されます。

解決方法: 検索を実行して、このメッセージが再度発行されないようにしてください。

EPCW-00027: Oracle Trace はすでに実行しています。

原因: クライアントでは、1 つだけ Oracle Trace のインスタンスを実行できます。

解決方法: クライアントでこれ以上 Oracle Trace のインスタンスを実行しないようにしてください。

EPCW-00028: コレクション %s のフォーマットに失敗しました。

原因: 自動フォーマット中にコレクション・ジョブを失敗したか、スタンドアロン・フォーマットのジョブを失敗したかのいずれかです。

解決方法: フォーマットを再試行してください。それでも失敗する場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00029: 進行ウィンドウをクローズして状態メッセージを破棄してもよろしいでしょうか？

原因: ユーザーがコレクション・ファイルの削除を終了させようとしている。

解決方法: 適切なボタンを押してください。

EPCW-00030: 進行ウィンドウをクローズして状態メッセージを破棄してもよろしいでしょうか？

原因: ユーザーがコレクションの形式ファイルの削除を終了させようとしています。

解決方法: 適切なボタンを押してください。

EPCW-00031: Oracle Enterprise Manager のバージョン取得中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Enterprise Manager から現行のバージョンを取出しているときに問題が発生しました。

解決方法: これは内部の問題です。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00032: リポジトリから Oracle Trace バージョンが読み込めません。

原因: Oracle Trace Manager から現行のバージョンを読み込もうとしているときに問題が発生しました。

解決方法: これは内部の問題です。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00033: Oracle Trace が Oracle Enterprise Manager と互換性がありません。

原因: Oracle Trace と Oracle Enterprise Manager のデータベースのバージョンに互換性がありません。

解決方法: Oracle Trace リポジトリをアップグレードしてください。

EPCW-00034: このバージョンの Oracle Trace は、使用している Oracle Trace と互換性がありません。

原因: Oracle Trace バージョンがリポジトリと同期が取れていません。

解決方法: これは内部の問題です。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00035: リポジトリにデータが挿入できません。

原因: Oracle Trace Manager が、Oracle Trace リポジトリにデータを挿入できません。

解決方法: エラー・メッセージ・ボックスからテキストを保存してオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00036: リポジトリのデータの更新でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace マネージャは、Oracle Trace リポジトリへのデータは更新できません。

解決方法: エラー・メッセージ・ボックスからテキストを保存してオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00037: リポジトリからのデータ削除でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace マネージャは、Oracle Trace リポジトリからデータを削除できません。

解決方法: エラー・メッセージ・ボックスからテキストを保存してオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00038: リポジトリからのデータ選択でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace マネージャは、Oracle Trace リポジトリからデータを選択できません。

解決方法: エラー・メッセージ・ボックスからテキストを保存してオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00039: コレクション名は 16 文字を超えることはできません。

原因: コレクション名は 16 文字を超えることはできません。

解決方法: コレクション名が 16 文字を超えないように変更してください。

EPCW-00040: コレクション名は一意でなければなりません。

原因: コレクション名は一意でなければなりません。

解決方法: コレクションが一意になるように変更してください。

EPCW-00041: アウトプット・ファイル名は 8 文字を超えることはできません。

原因: コレクション出力ファイル名は 8 文字を超えないようにしなければなりません。

解決方法: コレクション出力ファイル名が 8 文字を超えないように変更してください。

EPCW-00042: 出力ファイル名が無効か欠落しています。

原因: コレクション出力ファイル名を指定してください。

解決方法: コレクション出力ファイル名を変更してください。

EPCW-00043: 進行ウィンドウをクローズして状態メッセージを破棄してもよろしいでしょうか？

原因: ユーザーがコレクションの削除を終了させようとしている。

解決方法: アクションを終了させるか継続させてください。

EPCW-00044: 出力ファイル名が無効か欠落しています。

原因: 有効なコレクション名が必須です。

解決方法: 有効なコレクション名を継続して入力してください。

EPCW-00045: 説明は 2000 文字を超えることはできません。

原因: ユーザーが説明フィールドへ 2000 文字を超えた入力しました。

解決方法: 説明テキストを切捨ててください。

EPCW-00046: エラーのため、コレクションが削除できません。 %s を Oracle Trace リポジトリから削除できません。

原因: 失敗したコレクションの削除中にジョブの 1 つを送りました。

解決方法: ユーザーはリポジトリから削除されるコレクション・オブジェクトを指示できます。

EPCW-00047: リポジトリの妥当性チェック中にエラーが発生しました。

原因: リポジトリを更新することが必要か、リポジトリ・スクリプト が不正かのいずれかです。

解決方法: リポジトリを更新するか、スクリプトが不正な場合はオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00048: スケジュール情報の取得中にエラーが発生しました。前のスケジュールに戻します。

原因: おそらくスケジュール制御の内部問題があります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EPCW-00049: 名前にエラーがあります。名前には特殊なシンボルは使用できません。

原因: 名前に英数字でない文字が使用されました。

解決方法: 名前には英数字の文字だけを使用してください。

EPCW-00050: ノード %s の設定およびノードの子を非活動にする間にエラーが発生しました。

原因: ノードおよびそのすべての子 (そのノード上のインストレーションおよび製品) の設定中にエラーが発生したため、検索時に非アクティブにできませんでした。データベースのアップデート時にデータベース・エラーが発生した可能性があります。

解決方法: データベース・エラーのメッセージで詳しい情報が提供されます。この情報を使用して処置を決めるか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ユーザー・インタフェース・メッセージ : EPCW-01000 ~ EPCW-01999

これらのメッセージは、Oracle Trace Manager によって生成される重大でないエラー・メッセージです。

EPCW-01000: 選択された項目 %s はすでに追加されています。

原因:すでにその項目を含むイベントへ項目を追加しようとした。

解決方法: イベントへの項目の追加は行わないでください。

EPCW-01001: イベント番号が一意ではありません。

原因: ユーザーが製品中の一意ではないイベント番号のイベントを追加または変更しようとした。

解決方法: 異なるイベント番号を選択してください。

EPCW-01002: 項目番号が一意ではありません。

原因: ユーザーが製品中の一意ではない項目番号の項目を追加または変更しようとしていました。

解決方法: 異なる番号を選択してください。

EPCW-01003: 製品定義ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: 製品作成または編集中の .fdf ファイルの書込み中にエラーが発生しました。

解決方法: パス名が正しいことを確認してください。

EPCW-01004: 製品から設定されたこのイベントを完全に削除するには、ファイル %s を削除してください。

原因: ユーザーが設定されたイベントを削除したため、対応する .fdf ファイルが自動的に削除されないことを示す警告が出されました。

解決方法: .fdf ファイルを手動で削除してください。

EPCW-01005: 製品定義ファイル %s の読み込みでエラーが発生しました。

原因: 製品作成または編集時の .fdf ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: おそらく不正な .fdf ファイルなので、他の .fdf ファイルを読み込んでみてください。

EPCW-01006: FONT FACE="TIMES">%s ファイル %s がファイル %s の製品 %s と一致していません。

原因: 複数の .fdf ファイルが読み込まれましたが、このようなイベントが発生しました。

解決方法: 製品編集時に同時に読み込まれた .fdf ファイルが同じ製品かどうかを確認してください。

EPCW-01007: 項目番号 %i は異なったファイル %s で異なった定義がされています。

原因: 同じ製品の 2 つの異なる .fdf ファイルの項目定義が一致していません。製品の .fdf ファイルがすべて同期が取れている場合には、これらはすべて一致していなければなりません。

解決方法: それぞれの .fdf ファイルを読んで、エラーのある項目の違いを調べてください。エラーのある項目を含んでいるファイルを訂正してから、すべての製品ファイルを読み込んでください。

EPCW-01008: イベント番号 %i は異なったファイル %s で異なった定義がされています。

原因: 同じ製品の 2 つの異なる .fdf ファイルのイベント定義が一致していません。製品の .fdf ファイルがすべて同期が取れている場合には、これらはすべて一致していなければなりません。

解決方法: それぞれの .fdf ファイルを読んで、エラーのあるイベントの違いを調べてください。エラーのあるイベントを含んでいるファイルを訂正してから、すべての製品ファイルを読み込んでください。

EPCW-01009: %s フィールドを書き込んでください。書き込みが要求されています。

原因: ユーザーがすべての必要な情報を与えずにダイアログ・ボックスを終了させようとしていました。

解決方法: ダイアログ・ボックスを終了させようとする前に指定された フィールドを埋めてください。

EPCW-01010: 項目番号が有効ではありません。

原因: 指定された項目番号が、ユーザー定義の項目に許可された範囲内にありません。

解決方法: 異なる項目番号を選択してください。

EPCW-01011: 項目名が一意ではありません。

原因: 一意でない項目名を持つ項目を追加しようとしてしました。項目名は製品内で一意でなければなりません。

解決方法: 異なる項目名を使用してください。

EPCW-01012: イベント名が一意ではありません。

原因: 一意でないイベント名を持つイベントを追加しようとしてしました。イベント名は製品内で一意でなければなりません。

解決方法: 異なるイベント名を使用してください。

EPCW-01013: イベント・セット名設定が一意ではありません。

原因: 一意でないイベント・セットを追加しようとしてしました。イベント・セット名は製品内で一意でなければなりません。

解決方法: 異なるイベント・セット名を設定してください。

EPCW-01014: イベントは項目を含んでいません。

原因: ユーザーが項目を含んでいないイベントを作成または編集しようとしていました。イベントには、少なくとも1つの項目が必要です。

解決方法: イベントへ項目を追加してください。

EPCW-01015: イベント設定はイベントを含んでいません。

原因: ユーザーがイベントを含んでいないイベント設定を作成または編集しようとしていました。イベント・セットには、少なくとも1つのイベントが必要です。

解決方法: イベント設定にイベントを追加してください。

EPCW-01017 イベント・セット・ファイル %s は、すでにイベント・セット %s に存在しています。

原因: イベント・セット・ファイルはすでに存在しています。Oracle Trace では、イベント・セット・ファイルの上書きはできません。

解決方法: イベント・セット・ファイル・パスを変更して新しいファイルにイベント・セットを保存するか、既存のイベント・セット・ファイルを削除してください。

EPCW-01018 サービスに接続できません。ユーザー名およびパスワードが正しいこと確認してください。

原因: 与えられたユーザー名とパスワードでサーバーに接続できませんでした。

解決方法: ユーザー名とパスワードがサーバーに対して正しいことを確認し、やり直してください。

EPCW-01019 製品 %s の製品定義ファイルの読み込みに失敗しました。要求されたすべてのイベント・セットが見つかりませんでした。

原因：製品作成または編集中の .fdf ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法：編集されているファイルの 1 つが、ALL クラスを含むことを確認してください。

EPCW-01020 製品 %s ファイル %s にファイル %s の ALL Event セットにはないイベントが含まれています。

原因：複数の .fdf ファイルが読み込まれ、1 つのファイルが ALL クラスから失われたイベントを参照しました。

解決方法：ALL クラスを含む .fdf ファイルが、読み込まれている .fdf ファイルと一致していることを確認してください。

エクスポート・メッセージ

この章では、エクスポート・ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle8 Server ユーティリティ』を参照してください。

この章に記載されているメッセージは、接頭辞 EXP（エクスポートを意味する）が付いた形で表示されます。

エクスポート・メッセージ :00000 ~ 00199

EXP-00000: エラーが発生したためエクスポートを終了します。

原因: エクスポート・ユーティリティで Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00001: データ・フィールドの切詰めがありました (列長さ =num、バッファ・サイズ =num、取出し =num)。

原因: エクスポートは、データ・バッファ内の列に収められませんでした。

解決方法: 表示されたサイズ・パラメータと付随するメッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートにエクスポートの内部エラーとして報告してください。(表の一部はすでにエクスポートされています。次の表からエクスポートが続行されます。)

EXP-00002: エクスポート・ファイルへ書き込み中にエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、おそらく装置エラーのために、エクスポート・ファイルに書き出せませんでした。通常、このメッセージの次にオペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが続きます。

解決方法: 適切な処置を行ってデバイスを復元してください。

EXP-00003: セグメントに対する領域定義がありません (name、num)。

原因: エクスポート・ユーティリティは、クラスまたは索引、表について領域定義を見つけれませんでした。

解決方法: 付随するメッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートにエクスポートの内部エラーとして報告してください。

EXP-00004: ユーザー名またはパスワードが無効です。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードが指定されました。

解決方法: 有効なユーザー名 / パスワードを指定して再試行します。

EXP-00004: ユーザー名またはパスワードが無効です。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードが指定されました。

解決方法: 有効なユーザー名 / パスワードを指定して再試行します。

EXP-00005: ログオンに失敗しました。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードで繰り返しログオンしようとしてしました。

解決方法: ユーティリティを停止した後、有効なユーザー名 / パスワードを指定してから再起動し、再試行します。

EXP-00006: 矛盾した内部エラーです。

原因: エクスポート・ユーティリティのデータ構造が壊れました。

解決方法: 付随するメッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートにエクスポートの内部エラーとして報告してください。

EXP-00007: ディクショナリには *name.name* に対する列がありません。

原因: エクスポートは、データ・ディクショナリからうまく列の情報を収集できませんでした。表が削除されている恐れがあります。

解決方法: エクスポート処理を再度実施して、このエラーが再発する場合には、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00008: Oracle エラー : *num* が発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、参照できる Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00009: *name's* の表 *name* をエクスポートする権限がありません。

原因: 別のユーザーの表をエクスポートしようとしてしました。別のユーザーの表をエクスポートできるのは、データベース管理者 (DBA) だけです。

解決方法: エクスポートの実施をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00010: *name* は有効なユーザー名ではありません。

原因: 無効なユーザー名が指定されました。

解決方法: ユーティリティを停止した後、有効なユーザー名を指定してから再起動し、再試行します。

EXP-00011: 名前 *name* は存在しません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、指定された表を見つけられませんでした。

解決方法: 正しい表名を指定して再試行します。

EXP-00012: num は有効なエクスポート・モードではありません。

原因: 無効なエクスポート・モードが指定されました。

解決方法: 有効なエクスポート・モードを指定して再試行してください。

EXP-00013: 「Y」, 「N」, RETURN で応答してください(「.」で終了します)。

原因: 無効な応答が入力されました。

解決方法: メッセージ中に示された応答のいずれかを入力してください。

EXP-00014: 表 *name* の行 *num* でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、行を取り出している時に、Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00015: 表 *name* の行 *num*、列 *name*、データ型 *num* でエラーが発生しました。

原因: 原因: エクスポート・ユーティリティは、列を取り出している時または書き出している時に、Oracle エラーを検出しました。前記の付随する Oracle メッセージを調べると、さらに情報が得ることができます。

解決方法: Oracle エラーを修正して再試行してください。

EXP-00016: デフォルト監査オプションの読み込み中に Oracle エラーが発生しました。

原因: 原因: エクスポート・ユーティリティは、デフォルト監査オプション（更新用オプション、削除用オプションなど）を読み込んでいる時に、Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00018: データ型 :*num*(列: *name* 表: *name.name*) はサポートされていません。

原因: エクスポートは、参照されたデータ型をサポートしていません。

解決方法: 条件に合うデータ型（CHAR、または NUMBER、DATE、LONG、RAW）を使用して、再試行してください。

EXP-00019: パラメータ処理に失敗しました (EXP HELP=Y を入力するとヘルプ表示)。

原因: 無効なコマンド行パラメータが指定されました。

解決方法: オンライン・ヘルプ画面で有効なパラメータ値を調べて、実施し直してください。

EXP-00020: サイズ: *num* のメモリーの割当てに失敗しました。

原因: 原因: エクスポート・ユーティリティは、必要なメモリーをうまく割り当てられませんでした。

解決方法: メモリーをとらないようにエクスポート・バッファ・サイズを削減するか、またはエクスポート・ユーティリティ用に実行時のメモリー・サイズを増やします。

EXP-00021: FULL データベース・モードでのみ増分エクスポートは実行可能です。

原因: 増分エクスポートを実施するときに、USER モードまたは TABLE モードが指定されました。

解決方法: 解決方法: FULL データベース・モード (FULL=Y) を指定し、再試行してください。

EXP-00022: 増分エクスポートの実行は SYS または SYSTEM でなければなりません。

原因: 増分エクスポートの実施に必要な権限がありません。増分エクスポートを実施できるのは、SYS ユーザーおよび SYSTEM ユーザーだけです。

解決方法: 増分エクスポートの実施をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00023: FULL データベース・エクスポートの実行は DBA でなければなりません。

原因: FULL データベース・エクスポートの実施に必要な権限がありません。データベース管理者 (DBA) だけが、FULL データベース・エクスポートを実施できます。

解決方法: 全データベース・エクスポートの実施をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00024: エクスポート・ビューがインストールされていないため DBA に連絡してください。

原因: 必要なエクスポート・ビューがインストールされていません。

解決方法: データベース管理者 (DBA) に、必要なエクスポート・ビューをインストールするよう依頼してください。

EXP-00025: ディクショナリに制約: *name.num* に対する列がありません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、データ・ディクショナリから照会された制約に関する列の情報を、うまく収集できませんでした。この制約は変更された可能性があります。

解決方法: エクスポート処理を再度実施して、このエラーが再発する場合には、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートへ報告してください。

EXP-00026: 1 つだけのパラメータ (TABLES、OWNER、または FULL) を指定できます。

原因: 競合するエクスポート・モードが指定されました。

解決方法: パラメータを 1 つだけ指定し、再試行してください。

EXP-00027: Oracle ブロック・サイズの計算に失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、Oracle ブロック・サイズをうまく計算することができませんでした。

解決方法: エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

EXP-00028: 書出し用の name をオープンできません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、書出し用のエクスポート・ファイルをうまくオープンできませんでした。通常、このメッセージの次にオペレーティング・システムからの装置メッセージが続きます。

解決方法: 適切な処置を行ってデバイスを復元してください。

EXP-00029: 増分エクスポートモードと一貫エクスポートモードの両方を指定できません。

原因: 原因: 一貫エクスポートと増分エクスポートの両方が指定されました。

解決方法: なし。一貫モードは打ち切られました。

EXP-00030: 読み込み中に予期しない EOF が見つかりました。

原因: ユーザー入力を読み込み中に EOF を検出しました。

解決方法: エクスポートする入力をリダイレクトするときに、エラーがないかどうかファイルを確認してください。

EXP-00031: 配列サイズの範囲が無効です。配列サイズ :num を使用してください。

原因: 指定した配列サイズの値が有効な範囲に入っていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

EXP-00032: DBA 以外は他のユーザー・オブジェクトをエクスポートできません。

原因: データベース管理者 (DBA) だけが他のユーザーへエクスポートできます。非データベース管理者が (エクスポートはそのユーザーではないので) 所有者 = ユーザーを指定しようとした。

解決方法: データベース管理者にこの操作の実行を依頼してください。

EXP-00033: 環境キャラクタ・セットが見つかりません。

原因: 環境キャラクタ・セットはなくなったか、または不正確に指定されました。

解決方法: 環境キャラクタ・セットが正確に指定され存在することを確かめてください。

EXP-00034: ROWID 上にエラーが発生しました。ファイル #num、ブロック #num、スロット #num

原因: エラーが発生した ROWID を識別しました。

解決方法: 解決方法: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

EXP-00035: QUERY パラメータは、表モードのエクスポートだけに有効です。

原因: エクスポート・コマンド内で QUERY パラメータを指定しましたが、表モードエクスポートを実行していません。QUERY パラメータはユーザー・モード・エクスポート、フル・エクスポート、適正時点回復エクスポートでは使えません。

解決方法: 表に行のサブセットを選択する場合は、表を表モードエクスポートで別にエクスポートしなければなりません。エクスポートの間に実行したい表の名前と問合せを指定する表モード・エクスポート・コマンドを発行してください。

EXP-00036: オブジェクト *name* がディクショナリ内に存在しません。

原因: 指定されたオブジェクトがディクショナリ内にありません。オブジェクトはエクスポート中に削除された可能性があります。

解決方法: オブジェクトは存在しないので、処置は必要ありません。

EXP-00037: データベースのバージョンと互換性のないビューをエクスポートします。

原因: エクスポート・ユーティリティは、データベース・バージョンより高いバージョンになるので、互換性がありません。

解決方法: データベースと同じエクスポート・ユーティリティのバージョンを使用してください。

EXP-00038: CLUS\$ のハッシュ・クラスタ ID が無効です。

原因: CLUS\$ のファンクション ID は無効な数値です。CLUS\$ は壊れています。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00040: ダンプ・ファイルとログ・ファイルは異ならなければなりません。

原因: ダンプ・ファイルとログ・ファイルは同一ファイルであってはなりません。

解決方法: ダンプ・ファイルとログ・ファイルに対して異なるファイル名を指定して、操作を再試行してください。

EXP-00041: サーバー *name* でエクスポートが行われましたが、ユーザー *name* のキャラクタ・セット *name* が異なります。

原因: 指定された NLS_LANG/NLS_NCHAR パラメータは PROPS\$ に指定されたサーバーの値と互換性がありません。

解決方法: NLS_LANG/NLS_NCHAR のクライアント値をサーバーの値に変更し、操作をやり直してください。

EXP-00042: PROPS\$ に NLS_CHARACTERSET/NLS_NCHAR_CHARACTERSET がありません。

原因: NLS_CHARACTERSET/NLS_NCHAR_CHARACTERSET の値が PROPS\$ 表に入力されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00043: 列 *name* が *name* (表 *name*) である行に、無効なデータ・ディクショナリ情報が入っています。

原因: エクスポート・ユーティリティはデータ・ディクショナリから無効なデータを検索しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00044: 表領域の適正時点 (Point-in-Time) 回復エクスポートを行うには DBA でなければなりません。

原因: ユーザーには表領域の適正時点 (Point-in-Time) 回復エクスポートを実行する権限がありません。

解決方法: データベース管理者に表領域の適正時点 (Point-in-Time) 回復エクスポートを依頼してください。

EXP-00045: 表領域 SYSTEM は適正時点回復にエクスポートはできません。

原因: 表領域 SYSTEM は回復セットの一部にできません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00046: 表領域 *name* が存在しません。

原因: 指定された表領域がディクショナリに存在しません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00047: 適正時点 (Point-in-Time) 回復セットで表領域名が見つかりません。

原因: 適正時点 (Point-in-Time) 回復で表領域名が入力されていません。

解決方法: 適正時点 (Point-in-Time) 回復オプション・セットに表領域名を入力してください。

EXP-00048: 表領域の適正時点 (Point-in-Time) 回復オプションが設定されていません。

原因: 適正時点 (Point-in-Time) 回復で表領域オプションが使用されていません。

解決方法: 表領域オプションは必ず適正時点 (Point-in-Time) 回復オプション・セットとともに使用してください。

EXP-00049: *name* オプションは適正時点 (Point-in-Time) 回復エクスポートでは使用できません。

原因: 指定されたオプションは適正時点 (Point-in-Time) 回復エクスポートでは使用できません。

解決方法: 正しいオプションのリストは『Oracle 8 Server ユーティリティ・ガイド』を参照してください。

EXP-00050: パーティション・エクスポート *name* は区分されていない表 *name* では実行できません。

原因: パーティション・エクスポートで指定された表はパーティション表ではありません。

解決方法: 表モードを使用するか非パーティション表を指定してください。

EXP-00051: name - 与えられたパーティション名が *name* がありません。

原因: 指定されたパーティション名がパーティション表がありません。

解決方法: 正しい表またはパーティション名を指定したかを確認してください。

EXP-00052: パーティション *name* の行 *num* でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、列を取り出している時に、参照できる Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00053: 表内部にネストされた表があるため、表 *name* 上で QUERY を実行することができません。

原因: 1 つあるいは複数のネストされた表を内部に持つ表で QUERY を指定しました。QUERY パラメータは内部にネストされた表で指定することはできません。

解決方法: QUERY パラメータを無視して、表全体をエクスポートしてください。

EXP-00054: 区分されたオブジェクト (*name*) の記憶領域定義が見つかりません。

原因: パーティション表 / 索引の記憶領域定義が見つかりません。

解決方法: エラー・メッセージを控えて、エクスポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

EXP-00055: *name.name* にエクスポート禁止のマークがあります。

原因: オブジェクトは NOEXP\$ 表でエクスポート不可とマークされています。

解決方法: データベース管理者に連絡してください。

EXP-00057: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

原因: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

解決方法: エラー・メッセージを控えて、エクスポートの内部バグとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

EXP-00058: *name* プロファイルに対するパスワード検証ファンクションがありません。

原因: プロファイル用のファンクションが見つかりません。

解決方法: プロファイルが正しく作成されているかどうかを確認してください。

EXP-00059: オブジェクト型の ID を文字に変更しているときに、エラーが発生しました。

原因: オブジェクト型識別子が無効な長さであるため変換できません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00060: 1 個のオブジェクト型に複数の TYPE BODY があります。

原因: 1 個のオブジェクト型に対して複数の TYPE BODY が検索されました。

解決方法: TYPE BODY を削除してください。削除できない場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00061: ネストした表の外側の表の名前が見つかりません。

原因: 内側のネストした表のビット・マップ索引または使用可能後アクションのエクスポート中に、NTABS 表を使用して外側の表の名前を見つけることができませんでした。

解決方法: 表が適切に定義されていることを検証してください。

EXP-00062: オブジェクト型のソース文が無効です。

原因: オブジェクト型の SOURCE\$ の文では TYPE が見つかりませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00063: 言語ハンドルの変更中にエラーが発生しました。

原因: 言語ハンドルを変更できません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00064: name は内側のネストした表なので、エクスポートできません。

原因: 内側のネストした表を、親表なしでエクスポートしようとしてしました。

解決方法: 内側のネストした表の親をエクスポートしてください。

EXP-00065: ダンプ・ファイルに LOB を書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 現行の LOB はダンプ・ファイルへ書き込めません。

解決方法: 書き込み失敗の原因を特定し、修正してください。

EXP-00066: オブジェクト表 *name* にオブジェクト識別子索引がありません。

原因: すべてのオブジェクト表にはオブジェクト識別子索引がなければなりませんが、指定された表はオブジェクト識別子列に索引がありません。

解決方法: 型表を作成し直して、操作を再試行してください。

EXP-00067: ダイレクト・パスではオブジェクトまたは LOB データを含む *name* をエクスポートできません。

原因: ダイレクト・パスはエクスポートで LOB またはファイル、オブジェクト・データ型を含む表はエクスポートできません。

解決方法: これらのデータ型を含む表のエクスポートには従来型パス・エクスポートを使用してください。

EXP-00068: ビューに依存ビューが多すぎます。

原因: 200 より多い依存ビューがあるビューをエクスポートしようとしてしました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00070: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

原因: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00071: QUERY パラメータがダイレクト・パス・エクスポートと互換性がありません。

原因: ダイレクト・パス・エクスポートの QUERY パラメータに値を指定しました。QUERY パラメータはダイレクト・パス・エクスポートと共に使用することはできません。

解決方法: DIRECT=N を持つエクスポート・コマンドを発行しなおすか、コマンド・ラインから DIRECT パラメータを無視してください。

EXP-00072: エクスポート・ファイル *name* のクローズでエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

EXP-00073: ダンプ・ファイルが小さすぎます

原因: FILESIZE パラメータか VOLSIZE パラメータを指定しました。(プラットフォームが VOLSIZE パラメータをサポートしている時)。パラメータの値が小さすぎて、エクスポート・ファイルとデータについてのヘッダー情報を保持できません。

解決方法: FILESIZE パラメータか VOLSIZE パラメータの値を増加してください。

EXP-00074: VOLSIZE の端数を切り捨てます。新しい値は *num* です。

原因: VOLSIZE パラメータは RECORDLENGTH の倍数でなければなりません。けれども、VOLSIZE に指定された値はこの条件を満たしていません。VOLSIZE の値が端数を切り捨てられ、ダンプ・ファイルに使われる RECORDLENGTH の倍数になりました。

解決方法: 処置は必要ありません。VOLSIZE か RECORDLENGTH パラメータを変更し、メッセージを消すことができます。このファイルをインポートする時は、このメッセージが報告する VOLSIZE 値を指定しなければなりません。

EXP-00075: FILESIZE の端数を切り捨てます。新しい値は *num* です。

原因: FILESIZE パラメータは RECORDLENGTH の倍数でなければなりません。けれども、FILESIZE に指定された値はこの条件を満たしていません。FILESIZE の値が端数を切り捨てられ、ダンプ・ファイルに使われる RECORDLENGTH の倍数になりました。

解決方法: 処置は必要ありません。FILESIZE か RECORDLENGTH パラメータを変更し、メッセージを消すことができます。このファイルをインポートする時は、このメッセージが報告する FILESIZE 値を指定しなければなりません。

EXP-00258: ファイル *name* へのエクスポートを継続しています。

Image Data Cartridge メッセージ

Image Data Cartridge エラー・メッセージ : IMG-00001 ~ IMG-00715

IMG-00001: Image Data Cartridge 環境を初期化できません。

原因: イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00502: スケール値が無効です。

原因: イメージ・プロセス機能用のパラメータ解析中に無効なスケール値が検索されました。

解決方法: 正しい有効なスケール値を使って、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列についての構文を説明する Image Cartridge Documentation を参照してください。

IMG-00505: CUT 四角形の値が見つかりません。

原因: 指定している四角形に、不正な値を使っています。

解決方法: 左下および右上の頂点に、4 つの整数値を正しく使用します。

IMG-00506: CUT 四角形の値が余分です。

原因: 指定している四角形に、不正な値を使っています。

解決方法: 左下および右上の頂点に、4 つの整数値を正しく使用します。

IMG-00510: アプリケーション特定のメッセージです。

原因: イメージ・プロセス機能用のパラメータ解析中に構文エラーが検索されました。

解決方法: 正しい有効なパラメータ値を使って、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列についての構文を説明する Image Cartridge Documentation を参照してください。

IMG-00511: アプリケーション特定のメッセージです。

原因: イメージ・データへのアクセス中にエラーが検索されました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00531: イメージ処理コマンドが空または NULL です。

原因: 空または NULL のイメージ処理コマンドが、イメージ・プロセス機能を通されました。

解決方法: 正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列についての構文を説明する Image Cartridge Documentation を参照してください。

IMG-00599: 内部エラーが発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00601: イメージのコピー中にメモリー不足になりました。

原因: イメージのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い切っています。

解決方法: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00602: イメージ・データにアクセスできません。

原因: イメージ・ファイルの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

IMG-00603: ソース・イメージ・データにアクセスできません。

原因: ソース・イメージの CONTENT 属性が無効です。

解決方法: 確実にソース・イメージの CONTENT 属性をイメージ・データといっしょにします。

IMG-00604: 宛先イメージ・データにアクセスできません。

原因: 宛先イメージの CONTENT 属性が無効です。

解決方法: 確実に宛先イメージの CONTENT 属性を、有効な LOB ロケータといっしょにします。

IMG-00606: イメージ・データにアクセスできません。

原因: 無効なイメージにアクセスしようとした。

解決方法: 確実に CONTENT 属性をイメージ・データといっしょにします。

IMG-00607: 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージの CONTENT 属性が無効です。

解決方法: 確実に宛先イメージの CONTENT 属性を初期化された BLOB ロケータおよび十分な表領域といっしょにします。

IMG-00609: BFILE に格納されているイメージの読み込みができません。

原因: BFILE に格納されているイメージを読み込むためにオープンできません。

解決方法: イメージ・ファイルの権限および読み込み可能なイメージ・ファイルのディレクトリへのアクセスを確実にします。

IMG-00701: 空のイメージのプロパティ設定ができません。

原因: CONTENT 属性にデータがありません。

解決方法: ORDImgB または ORDImgF 型の CONTENT 属性へのイメージ・データの移入方法に関する情報については、Image Cartridge Documentation を参照してください。

IMG-00702: イメージ処理環境の初期化ができません。

原因: イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00703: イメージ・データの読み込みができません。

原因: CONTENT 属性にデータがありません。

解決方法: ORDImgB または ORDImgF 型の CONTENT 属性へのイメージ・データの移入方法に関する情報については、Image Cartridge Documentation を参照してください。

IMG-00704: イメージ・データの読み込みができません。

原因: CONTENT 属性にデータがありません。

解決方法: ORDImgB または ORDImgF 型の CONTENT 属性へのイメージ・データの移入方法に関する情報については、Image Cartridge Documentation を参照してください。

IMG-00705: サポートされていないか、または破損している入力形式です。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00706: サポートされていないか、または破損している出力形式です。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00707: イメージ・データにアクセスできません。

原因: イメージ・ファイルの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

IMG-00710: 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージが無効です。

解決方法: 確実に宛先イメージの CONTENT 属性を初期化された BLOB ロケータおよび十分な表領域といっしょにします。

IMG-00711: 宛先イメージのプロパティを設定できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00712: 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージが無効です。

解決方法: 確実に宛先イメージの CONTENT 属性を初期化された BLOB ロケータおよび十分な表領域といっしょにします。

IMG-00713: サポートされていない宛先イメージ・フォーマットです。

原因: サポートされていない形式にイメージを変換する要求になっています。

解決方法: サポートされている形式について、Oracle Image Cartridge Documentation を参照してください。

IMG-00714: 内部エラーが発生しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMG-00715: BFILE に格納されているイメージをオープンできません。

原因: BFILE に格納されているイメージを読み込むためにオープンできません。

解決方法: イメージ・ファイルの権限および読み込み可能なイメージ・ファイルのディレクトリへのアクセスを確実にします。

インポート・メッセージ

この章では、インポート・ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle8 Server ユーティリティ』を参照してください。

この章に記載されているメッセージは、接頭辞 IMP が付いた形で表示されます。

インポート・メッセージ :00000 ~ 00100

Trusted Oracle を使用している場合、その環境のエラー・メッセージ情報については Trusted Oracle ドキュメンテーションを参照してください。

IMP-00000: エラーが発生したためインポートを終了します。

原因: インポート・ユーティリティは、Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00001: 「Y」 「N」 RETURN で応答してください(「.」で終了します)。

原因: 無効な応答が入力されました。

解決方法: メッセージ中に示された応答のいずれかを入力してください。

IMP-00002: 読み込み用の name をオープンするのに失敗しました。

原因: インポート・ユーティリティは、読み込み用のエクスポート・ファイルのオープンに失敗しました。通常、このメッセージの次にオペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが続きます。

解決方法: 適切な処置を行ってデバイスを復元してください。

IMP-00003: Oracle エラー :num が発生しました。

原因: インポート・ユーティリティが、Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00004: ユーザー名またはパスワードが無効です。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードが指定されました。

解決方法: 有効なユーザー名 / パスワードを指定して再試行します。

IMP-00005: ログオンに失敗しました。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードで繰り返しログオンしようとした。

解決方法: 有効なユーザー名またはパスワードを指定して再試行してください。

IMP-00006: サイズ: *num* のメモリーの割当てに失敗しました。

原因: インポート・ユーティリティは、必要なメモリーを割り当てられませんでした。

解決方法: メモリーをとらないようにインポート・バッファ・サイズを削減するか、またはインポート用の実行時のメモリー・サイズを増やします。

IMP-00007: 別のユーザーのアカウントにインポートを行うにはデータベース管理者でなければなりません。

原因: 別のユーザーのアカウントにインポートするのに必要な権限がありません。データベース管理者だけが別のユーザー・アカウントにインポートできます。

解決方法: インポートの実施をデータベース管理者に依頼してください。

IMP-00008: エクスポート・ファイルで不明な文が見つかりました。

原因: インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルの文を認識できませんでした。エクスポート・ファイルが壊れたか、インポート内部エラーが発生した恐れがあります。

解決方法: エクスポート・ファイルが不正な場合、新規のエクスポート・ファイルで再試行してください。そうでない場合には、インポート内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートへ報告し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00009: エクスポート・ファイルが異常終了しました。

原因: このエクスポート・ファイルは、異常終了したエクスポート・セッションで作成された可能性があります。

解決方法: その場合には、エクスポートおよびインポートを実施し直します。そうでない場合には、これをインポートのバグとして報告し、エラーの原因となったエクスポート・ファイルをオラクル社カスタマー・サポートに提出してください。

IMP-00010: 有効なエクスポート・ファイルではありません。ヘッダーは検証に失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティによって生成されたファイルではないのか、またはファイルが壊れたかのいずれかです。

解決方法: ファイルが実際にエクスポート・ユーティリティによって生成されたものである場合は、このエラーをインポート・バグに報告し、このエクスポート・ファイルをオラクル社カスタマー・サポートに提出してください。

IMP-00011: フォーマットされた表データは現在サポートされていません。

原因: フォーマットされた表データを収録するエクスポート・ファイルをインポート処理しようとしています。インポート・ユーティリティは、バイナリ表データを収録しているエクスポート・ファイルだけをサポートしています。

解決方法: バイナリ表データのみを収録するエクスポート・ファイルを使用して、再試行してください。

IMP-00012: ヘッダーでのエクスポート・モード *num* が無効です。

原因: エクスポート・ファイル・ヘッダーに指定したエクスポート・モードは無効です。

解決方法: エクスポート・ファイルが壊れているかどうか確認してください。壊れていない場合には、これをインポートのバグとして報告し、エクスポート・ファイルをオラクル社カスタマー・サポートに提出してください。

IMP-00013: データベース管理者だけが別のデータベース管理者がエクスポートしたファイルをインポートできます。

原因: データベース管理者によって生成されたエクスポート・ファイルをインポートするのに必要な権限がありません。データベース管理者だけが、そうしたファイルをインポートできます。

解決方法: インポートの実施をデータベース管理者に依頼してください。

IMP-00014: オプション名が必要ですが、データベース内に存在しません。

原因: 入力したコマンドには、オプションを指定する必要があります。オプションがインストールされていない、あるいはオプションを記述する行が表 `V$OPTION` にありません。

解決方法: メッセージで指定されたオプションと一緒に Oracle をインストールし直してください。

IMP-00015: オブジェクトがすでに存在しているため次の文は失敗しました。: *str*

原因:すでにオブジェクトが存在しているため、インポート・ユーティリティはオブジェクトを作成できませんでした。

解決方法:すでに表が存在しているため表が作成されない場合でも、このようなエラーを無視して行をインポートするには、`IGNORE=Y` を指定します。

IMP-00016: 要求されたキャラクタ・セットの変換 (*num* から *num*) はサポートされていません。

原因: インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルの文字形式をマシン本来の文字形式に変換できませんでした。

解決方法: エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットと突き合わせるため、`NLS_LANG` 環境変数を設定することによって、ユーザーのキャラクタ・セットを変更します。

IMP-00017: Oracle エラー :num で次の文は失敗しました。 str

原因: Oracle エラーが発生したために、インポート・ユーティリティはエクスポート・ファイルの文をうまく実行できませんでした。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00018: 前の表の部分インポート完了 :num 行インポートされました。

原因: Oracle エラーのために、表が部分的にしかインポートされませんでした。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00019: Oracle メッセージ :num のために行が拒否されました。

原因: インポート・ユーティリティは、ある行をインポートしようとした時に、参照番号付きの Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00020: LONG 列は列バッファ・サイズ (num) に対して大きすぎます。

原因: 列のバッファが小さすぎます。これは通常、LONG データをインポートするときに起こります。

解決方法: たとえば、10,000 バイトの挿入バッファ・サイズを 66,000 バイトかそれ以上に増加してください。このステップ・バイ・ステップ方式を使ってください。バッファ・サイズが大きすぎても同じような問題が起きる可能性があるからです。

IMP-00021: OS エラーが発生しました。エラー・コードは dec: num, hex: 0xnum です。

原因: オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システム特定 Oracle ドキュメンテーションで参照番号付きメッセージを参照し、適切な処置を行ってください。

IMP-00022: パラメータ処理に失敗しました (ヘルプ表示のため "IMP HELP=Y" を入力)。

原因: 無効なコマンド行パラメータが指定されました。

解決方法: オンライン・ヘルプ画面で有効なパラメータ値を調べて、実施し直してください。

IMP-00023: インポート・ビューがインストールされていません。データベース管理者に連絡してください。

原因: 必要なインポート・ビューがインストールされていません。

解決方法: データベース管理者に、必要なインポート・ビューをインストールするように依頼してください。

IMP-00024: FULL インポート・モードで FROMUSER または TABLES パラメータは指定できません。

原因: インポート指定の FULL=Y と矛盾するパラメータが指定されました。

解決方法: FULL=Y を指定しないで、再試行してください。

IMP-00025: DBA のエクスポート・ファイルに対しては FROMUSER を TOUSER と共に指定してください。

原因: データベース管理者のエクスポート・ファイルをインポートする時に、TOUSER パラメータを指定しただけで、FROMUSER パラメータを指定していません。

解決方法: どのユーザーのオブジェクトをインポートするかをインポート・ユーティリティが認識できるように、FROMUSER パラメータを指定してください。

IMP-00027: 以前の表の部分インポートのロールバックに失敗しました。

原因: インポート・ユーティリティは、部分インポートをロールバックしようとしている時に、Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。次に Oracle にログオンして、部分インポートがコミットされなかったことを確認してください。

IMP-00028: 前の表の部分インポートがロールバックされました (num 行)。

原因: インポート・ユーティリティは、表をインポートしようとしている時に、Oracle エラーを検出しました。

解決方法: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。必要に応じて、表を再インポートしてください。

IMP-00029: 所有者 *name.name* では表名を修飾できません。FROMUSER パラメータを使用してください。

原因: 次の例に示されているように、表名が所有者名で修飾されました。これは許可されていません。

```
IMP SYSTEM/MANAGER TABLES=(SCOTT.EMP,SCOTT.DEPT)
```

解決方法: 次の例に示されているように、FROMUSER パラメータを使用して表の所有者を指定してください。

```
IMP SYSTEM/MANAGER FROM USER=SCOTT TABLES=(EMP,DEPT)
```

IMP-00030: ファイル *name* の作成に失敗しました。

原因: インポート・ユーティリティは、指定した書込み可能なファイルの作成ができませんでした。

解決方法: ファイル名とファイル・システムを確認して、エラーの原因を探します。

IMP-00031: FULL=Y を指定するか、FROMUSER/TOUSER または TABLE 引数を指定してください。

原因: データベース管理者はフル・インポートか部分インポートかを指定しませんでした。

解決方法: データベース管理者は、フル・インポートでない場合は、FROMUSER/TOUSER または TABLE 引数を指定する必要があります。

IMP-00032: SQL 文がバッファより長すぎます。

原因: バッファは、読み込まれる SQL 文に対して小さすぎます。

解決方法: バッファを大きくして再実行してください。また、インポート・データ・ファイルが壊れる可能性もあります。

IMP-00033: 警告: 表 *name* がエクスポート・ファイルにありません。

原因: 指定された表の名前がエクスポート・ファイルにありませんでした。

解決方法: 表の指定を修正してください。

IMP-00034: 警告: FROMUSER:*name* はエクスポート・ファイルにありません。

原因: 指定された FROMUSER 名がエクスポート・ファイルにありませんでした。

解決方法: FROMUSER 指定を訂正してください。

IMP-00036: 環境キャラクタ・セットが見つかりません。

原因: インポート・ユーティリティが認識しない環境キャラクタ・セットが指定されました。

解決方法: コマンド行パラメータ CHARSET(リリース 6 についてのみ) または環境変数 NLS_LANG に指定されたキャラクタ・セットの綴りが正しいことを確認してください。

IMP-00037: キャラクタ・セット・マーカが認識できません。

原因: エクスポート・ファイルが壊れています。

解決方法: エクスポート・ファイルの壊れていないバージョンを入手してください。エクスポート・ファイルが壊れていない場合、インポート内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートへ報告し、エクスポート・ファイルを 送付してください。

IMP-00038: 環境キャラクタ・セットが見つかりません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMP-00039: VOLSIZE がエクスポート :*num* に使われる値と一致しません。

原因: VOLSIZE に指定された値が、エクスポート・ファイルの作成中に指定された値に一致しません。

解決方法: 指定した VOLSIZE 値が正しいと思う時は、正しいファイルをインポートに指定しているかどうかを確認してください。正しいファイルを指定していて、値が正しいかどうかが不確実な場合は、インポート・コマンドを実行し直してください。その時、VOLSIZE=0 に指定してください。

IMP-00040: FILESIZE がエクスポート :num に使われる値と一致しません。

原因: FILESIZE に指定された値が、エクスポート・ファイル作成中に指定された値に一致しません。

解決方法: 指定した FILESIZE 値が正しいと思われる時は、正しいファイルをインポートに指定しているかどうかを確認してください。正しいファイルを指定していて、値が正しいかどうか不確実な場合は、インポート・コマンドを実行し直してください。その時、FILESIZE=0 に指定してください。

IMP-00041: 警告: オブジェクト作成の際、コンパイル・エラーが発生しました。

原因: このエラーに従う SQL 文のオブジェクトは、コンパイル・エラーを伴って作成されました。ビューに対してこのエラーが発生した場合は、ビューの実表が欠落していた可能性があります。

解決方法: これは警告メッセージです。そのオブジェクトは、使用前に再コンパイルする必要があります。

IMP-00042: CHARSET を使用しましたが、エクスポート・ファイルにはすでに特定のキャラクタ・セットがあります。

原因: 特定の埋込みキャラクタ・セット ID を持つエクスポート・ファイルを処理する際に、他の特定のキャラクタ・セットの使用の要請がありました。エクスポート・ファイルの ID は、正確であり、使用する必要があります。

解決方法: コマンド行から CHARSET キーワードを削除してください。

IMP-00043: エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットは矛盾しています。

原因: エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットおよび環境のキャラクタ・セット (または CHARSET キーワードで指定されるキャラクタ・セット) は矛盾しています。1 つのキャラクタ・セットは ASCII ベースのものであり、その他はすべて EBCDIC ベースのものであります。

解決方法: CHARSET キーワードで正しいキャラクタ・セットを指定してください。

IMP-00044: 文のために十分なメモリーの割当てができません。

原因: インポート・ユーティリティは、指定された文を読み込んで実行するのに十分なメモリーの割当てができませんでした。

解決方法: データベース・バッファ用の割当てを減らしてインスタンスを再起動し、インポート・コマンドを再実行してください。

IMP-00045: エクスポート・ファイル num から VOLSIZE 値を使っています。

原因: IMPORT コマンド内で VOLSIZE パラメータが指定されていないか、VOLSIZE=0 を指定し、0 以外の値の VOLSIZE でエクスポートが作成されました。インポートはエクスポート・ファイルで指定された値を使います。

解決方法: 処置は必要ありません。

IMP-00046: エクスポート・ファイル *num* から FILESIZE 値を使っています。

原因: IMPORT コマンド内で FILESIZE パラメータが指定されていないか、FILESIZE=0 を指定し、0 以外の値の FILESIZE でエクスポート・ファイルが作成されました。インポートはエクスポート・ファイルで指定された値を使います。

解決方法: 処置は必要ありません。

IMP-00050: ダンプ・ファイルとログ・ファイルを同一のものにできません。

原因: 同一の名前がダンプ・ファイルとログ・ファイルに指定されました。

解決方法: ダンプ・ファイルとログ・ファイルに対して異なる名前を指定して、操作を再試行してください。

IMP-00051: ダンプ・ファイルをエクスポートしたダイレクト・パスには無効な列長が入っています。

原因: 列のピースの処理中に無効な列長が見つかりました。

解決方法: エクスポート・ファイルが壊れていないことを確認してください。またはインポート / エクスポート・ユーティリティの内部バグとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00052: 警告: サーバーとの空きリスト通信にイベントを設定できません。

原因: 現行のセッションにイベントが設定できません。

解決方法: インポートが失敗した場合、インポートするユーザーに ALTER SESSION PRIV を付与し、操作を再試行してください。

IMP-00053: インポート・モードがエクスポート・ダンプ・ファイルと互換性がありません。

原因: 指定されたインポート・オプションは適正時点 (Point-in-Time) 回復のダンプ・ファイルと互換性がありません。

解決方法: 適切なダンプ・ファイルを生成するか適正時点 (Point-in-Time) 回復インポート・モードを使用してください。

IMP-00054: 表領域の適正時点 (Point-in-Time) 回復のインポートを行うにはデータベース管理者でなければなりません。

原因: ユーザーには表領域の適正時点 (Point-in-Time) 回復インポートを実行する権限がありません。

解決方法: 表領域の適正時点 (Point-in-Time) 回復インポートの実施をデータベース管理者に依頼してください。

IMP-00055: 警告: パーティション *name.name* がエクスポート・ファイルに見つかりません。

原因: パーティション名がエクスポート・ファイルにありませんでした。

解決方法: パーティション名が表に属していることを確認してください。

IMP-00057: 警告: ダンプ・ファイルに表の全パーティション・データが含まれない可能性があります。

原因: この表インポートに使用されたダンプ・ファイルは、エクスポートされた表に属する全データを含まない可能性があります。

解決方法: 必要な全データがエクスポートされたことを確認するか、パーティション・インポートを試行してください。

IMP-00059: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

原因: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

解決方法: インポート・ユーティリティの内部バグとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

IMP-00060: 警告: オブジェクト型 *name.name* が存在しないか、または、異なる識別子を持っているので、表 *name.name* をスキップします。

原因: 表が必要とするオブジェクト型が目標システムに存在していないか、存在していても異なるオブジェクト識別子を持っています。

解決方法: 目標システムに有効な識別子を持つオブジェクト型を作成してください。

IMP-00061: 警告: オブジェクト型 *name.name* は、異なる識別子ですすでに存在します。

原因: オブジェクト型はすでに目標システムに存在しますが異なる識別子を持つため作成できません。

解決方法: 目標システムからこのオブジェクト型を削除して操作を再試行してください。

IMP-00062: 警告: オブジェクト型 *name.name* のダンプ・ファイルの識別子が無効です。

原因: オブジェクト型の識別子を表す文字列がオブジェクト識別子に変換できません。

解決方法: 内部エラーです。

IMP-00063: 警告: オブジェクト型 *name.name* が作成できないか、または、異なる識別子を持っているので、表 *name.name* をスキップします。

原因: 表で使用しているオブジェクト型の作成中にエラーが生じました。

解決方法: インポート・ログを確認してオブジェクト型が作成できない理由を判断してください。オブジェクト型が異なるオブジェクト識別子ですすでに存在している場合、このオブジェクト型を削除してインポートを再試行してください。

IMP-00064: エクスポートにより、LOB の定義が切捨てられました。

原因: ダンプ・ファイルの作成でエクスポート・ユーティリティが LOB の全内容を書き込むことができませんでした。そのためインポート・ユーティリティは LOB の内容を再構成できません。現行の表のインポートの残りはスキップされます。

解決方法: エクスポートしたデータベースで無効な行を削除し、操作を再試行してください。

IMP-00065: オブジェクト内の lobs をインポートで再作成できません。

原因: インポートしたオブジェクト内の LOB の再作成でエラーが生じました。

解決方法: インポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

IMP-00066: PROPS\$ に NLS_CHARACTERSET がありません。

原因: PROPS\$ には NLS_CHARACTERSET の値がありません。

解決方法: インポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

IMP-00067: サーバー・キャラクタ・セットのハンドルを変換できませんでした。

原因: 内部エラーです。

解決方法: インポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

IMP-00068: 環境各国文字キャラクタ・セットが検索できません。

原因: インポート・ユーティリティが認識しない環境各国文字キャラクタ・セットが指定されました。

解決方法: 環境変数 NLS_GCHNR で指定された各国文字キャラクタ・セットの綴りが正しいことを確認してください。

IMP-00069: 環境各国文字キャラクタ・セットのハンドルに変換できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: インポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

IMP-00070: ダンプ・ファイル内の LOB の定義がデータベースと矛盾しています。

原因: ダンプ・ファイルの 1 行当たりの LOB の数が、挿入先の表の 1 行当たりの LOB の数と異なります。

解決方法: インポートする表をエクスポートした表の属性レイアウトと一致するように修正してください。

IMP-00071: インポートした表と既存の表のオブジェクト識別子が一致しません。

原因: エクスポートしたオブジェクト表で使用されているオブジェクト識別子と異なるオブジェクト識別子で再作成された表にデータをインポートしようとしてしました。この状況では、ダンプ・ファイルに含まれているこの表に対する REF も無効となります。

解決方法: インポートの前に問題のオブジェクト表を削除してください。

IMP-00072: 警告: オブジェクト表のオブジェクト識別子が無効です。

原因: 表のオブジェクト識別子を表す文字列が内部オブジェクト識別子に変換できません。

解決方法: インポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

IMP-00073: FILE ロケータ *name.name* は *name.name* に切捨てです。

原因: エクスポート・サーバーのキャラクタ・セットからインポート・サーバーのキャラクタ・セットへの変換で、ファイルの属性または列に対して指定されたディレクトリと名前の文字列が FILE 記述子内で許可されている最大文字列長を超えています。文字列はサポートされている最大長に切り捨てられます。

解決方法: ディレクトリの別名と外部ファイル名を、指定された FILE 列または属性の切り捨てられた名前と一致するように改名してください。

IMP-00074: ALL_CONSTRAINTS.BAD による制約フラグは 2000 年にはブレイクします。

原因: 制約がデータベースに存在し、年を完全に指定せずに日付値を指定しています。こうした制約は西暦 2000 年にブレイクします。

解決方法: ALL_CONSTRAINTS に問合せ、不正とマークされた制約を修正してください。

IMP-00075: 警告: ネストされた表に行の一部または重複する行が含まれている可能性があります。

原因: データの外部または外部のネストされた表への挿入中にエラーが発生しました。エラーが外部表で発生した場合、行はまだ内部表に挿入されたままです。エラーが外部表で発生した場合、データはまだ外部表および内部表に挿入されたままです。この結果、重複した内部表または部分的論理行が発生する可能性があります。

解決方法: 表のデータを調べてください。不正な行または表全体を削除し、インポートを再実行してください。

IMP-00076: PROPS\$ に NLS_NCHAR_CHARACTERSET がありません。

原因: PROPS\$ に NLS_NCHAR_CHARACTERSET の値がありません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMP-00077: サーバーの各国文字セットのハンドルに変換できません。

原因: 原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMP-00078: FILE ロケータをサーバーのキャラクタ・セットにある *name.name* に変換できません。

原因: (1) 現行のエクスポート・ファイルは Oracle8.0 の Beta-2 を使用して生成されました。(2) 表の列内に ADT の属性として表示されるファイルがありました。(3) エクスポート・サーバーのデータベースのキャラクタ・セットはインポート・サーバーのデータベースのキャラクタ・セットとは違います。(4) ファイルのファイル名または別名がインポート・サーバーのキャラクタ・セットに変換された時、サイズが大きくなりました。

これらの条件にすべて当てはまる時、文字列を変換すると列のデータが破損する可能性があります。インポートは変換を進めずに、文字列を古いキャラクタ・セットでファイルに残します。

解決方法: インポートの完了後、ディレクトリの別名と外部ファイル名を、ターゲット・データベースの本名と一致するように改名してください。

IMP-00079: 警告: この表にある各国文字キャラクタ・セット・データは不適切な場合があります。

原因: 8.0.2 エクスポートでの問題のため、NCHAR および NVARCHAR2 列の各国文字セットがエクスポート・サーバーのデータベースにあると不正に仮定され、エクスポート・クライアントのデータベース・キャラクタ・セットに変換されました。この変換が正しいのは、エクスポート・サーバーのデータベース・キャラクタ・セットがエクスポート・クライアントの各国文字キャラクタ・セットと同じで、エクスポート・クライアントのデータベース・キャラクタ・セットがエクスポート・クライアントの各国文字キャラクタ・セットと同じ場合です。これ以外の組合わせはすべて不正です。このエクスポート・ダンプ・ファイルは 8.0.2 エクスポートにより生成されたので、サーバー・キャラクタ・セットはその基準に合致しません。

解決方法: 各国文字キャラクタ・データを調べてください。不正な場合、正しいデータでデータを更新してください。

IMP-00080: LONG 列または LONG コマンドの文字変換中にエラーが発生しました。

原因: LONG 列または LONG コマンドでのデータの個別文字変換中に、致命的な変換エラーが発生しました。文字の切捨てが発生したか、または無効なキャラクタ・セット・ハンドルが使用されました。

解決方法: 違うキャラクタ・セットでインポートを再試行してください。

IMP-00081: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

原因: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

IMP-00082: 文字列フォーマットから内部への ROWID 変換中にエラーが発生しました。

原因: ROWID をダンプ・ファイルから内部フォーマットに変更しているときに、エラーが発生しました。

解決方法: インポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

IMP-00083: ダンプ・ファイルが増分エクスポートを含んでいません。

原因: インクリメントインポートが要求され、インポート・コマンドに指定されたダンプ・ファイルがユーザーか、表エクスポートのどちらかです。

解決方法: コマンド・インポート・コマンドを再発行してください。その時、インクリメント・エクスポートを含んだダンプ・ファイル名を指定してください。

IMP-00084: インクリメント・インポートをユーザーか、表インポートと混合しようとししました。

原因: インクリメント・インポートが FROMUSER あるいは TOUSER、TABLE 修飾子と一緒に要求されました。インクリメント・インポートは、別の修飾子がいっしょに指定されていると実行できません。

解決方法: 実行するのはインクリメント・インポートか、フル・インポートか、ユーザー・インポートか、表インポートかを決定し、適切な修飾子といっしょにインポート・コマンドをインポート・コマンドを作成し直してください。

IMP-00085: 予期しないファイル順序番号が見つかりました。%u が予期されたのに、%u が見つかりました。

原因: エクスポート・ファイル内のヘッダーが、複数のエクスポート・ファイル複数エクスポート・ファイルが書かれている順番を追跡するために使われている順序番号を含んでいます。最初のエクスポート・ファイルは 1 番の順序番号、2 番目のファイルは 2 番というように割り当てられています。このメッセージは、予期されない番号がファイル・ヘッダーに見つかった時に表示されます。

解決方法: インポート・コマンドを実行し直します。その時、Export がファイルを書いた順番でファイルを指定してください。

IMP-00086: ファイル・ヘッダーが一致していません。

原因: 複数ファイル・エクスポートで、2 番目以降のファイルを確認する間に、Import が最初のファイルの値に一致しないヘッダー・フィールドを見つけました。

解決方法: Export が作成したファイル名をチェックし、そのファイルを正しくインポート操作に指定したかどうかを確認します。

IMP-00215: エクスポート・ファイル・セットに次のファイル名を入力してください。

Names Server Network Management プロトコル・メッセージ

Names Server Network Management プロトコル・エラー・メッセージ : NMP-00001 ~ NMP-00011

NMP-00001: 値が大きすぎます。

原因: SNMP プログラム・インタフェースが受け取った値が、そのプロセスにとって大きすぎます。このエラーは通常、問題の原因のより詳細な値を記述するエラーの下に表示されます。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMP-00002: SNMP 変数の名前が無効です。

原因: 要求する変数名の 1 つまたは複数が存在していないため、SNMP 要求は処理されません。このエラーは通常ユーザーには表示されませんが、通常標準の "soft" エラー条件の一部であるトレース・ファイルでは表示されます。

解決方法: このエラーは、管理サーバーがバージョンの非互換等から制御プログラムによって要求される操作をサポートしていないことを示します。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが持続し、トレース・ファイルで認識されたように、"soft" エラー条件の一部として発生しない場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMP-00003: SNMP 変数値が無効です。

原因: SNMP プログラム・インタフェースはサポートされていないデータ型の変数値を受け取りました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP から TNS へとゲートウェイを経由して Oracle サービスに要求を送信した場合、エラーが発生して、サービスは要求を理解できません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが持続する、あるいは Oracle 制御プログラム

が要求を Oracle サービスに送信するときに発生する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMP-00004: SNMP 変数は読み専用です。

原因: リモート・サーバー上の変数値および読み取り専用の変数を変更しようとしています。このエラーは通常、より詳細な問題を記述するエラーの下に表示されます。

解決方法: 読み取り専用の変数は変更しないようにしてください。

NMP-00005: 一般 SNMP エラーです。

原因: 他の特定された状況には該当しない SNMP のエラーが発生しました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP から TNS へとゲートウェイを経由して Oracle サービスに要求を送信した場合、エラーが発生して、サービスは要求を理解できません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが持続する、あるいは Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMP-00006: SNMP コンテキストが初期化されていません。

原因: 内部機能が初期化できない SNMP ハンドルを使おうとしています。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMP-00007: I/O 障害が発生しました。

原因: SNMP プログラム・インタフェースが SNMP 要求の送信または受信を試行しましたが、ある種のネットワーク障害のため、不可能でした。このエラーは通常、より詳細な問題を記述するエラーの下に表示されます。通常この問題は、制御プログラムがサービスとの交信を試行し、サービスが予期せず終了したり、または制御プログラムとサービス間のネットワーク・パスが割込まれた時です。

解決方法: 質問中のマネジメント・プラットフォームが、正しいバージョン番号で SNMP 要求を確実に送信するようにしてください。エラーが持続する、あるいは Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMP-00008: SNMP メッセージのバージョンが無効です。バージョン 0 が必要です。

原因: SNMP プログラム・インタフェースは間違ったバージョン番号のプロトコル要求を受信しました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP から TNS へとゲートウェイを経由して Oracle サービスに無効な形式の要求を送信した場合、エラーが発生します。

解決方法: 質問中のマネジメント・プラットフォームが、正しいバージョン番号で SNMP 要求を確実に送信するようにしてください。エラーが持続する、あるいは Oracle

制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMP-00009: SNMP 初期化が失敗しました。

原因: SNMP プログラム・インタフェースが初期化されないのは、エラー・メッセージ・ファイルが検索できない、またはパラメータ表に奇形な snmp. コミュニティ・パラメータ値があるからです。

解決方法: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあるかを確認します。パラメータ表のロード・エラー用にトレースおよび参照をオンにします。

NMP-00010: メモリーが足りません。

原因: プログラム・インタフェースのメモリーが足りません。

解決方法: メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

NMP-00011: 内部 SNMP プログラム・インタフェース・エラーです。

原因: SNMP プログラム・インタフェース内で内部エラーが発生しました。このエラーは通常、より詳細な問題を記述するエラーの下に表示されます。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

エージェント・メッセージ

エージェント構成およびスタートアップ・メッセージ : NMS-00000 ~ NMS-00050

NMS-00001: 警告 : service を SNMP マスター・エージェントに接続できません。

原因 : 指定されたサービスは SNMP マスター・エージェントに交信できませんでした。Oracle がこのプラットフォームをサポートしているマスター・エージェントがインストールされていないか、または起動されていません。このプラットフォームに特定のメッセージが続いて表示されます。これは警告なので、エージェントはコンソールと交信できます。

解決方法 : Oracle ドキュメンテーションを参照して使用するプラットフォームを探してください。その上で、正しい SNMP マスター・エージェントがインストール / 起動済みであることを確認してください。

NMS-00002: Service がメモリーの割当てに失敗しました。

原因 : 指定されたサービスは snmp.ora パラメータをすべて保持するために十分なメモリーを割当てることができませんでした。パラメータが大きすぎる場合もありますが、システム・エラーの可能性もあります。

解決方法 : システム構成を確認し、可能ならば、実行しているプロセス数を削減してください。問題が解決されない場合、この問題をオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

NMS-00003: Service を検索できないか、形式が正しくありません。

原因 : snmp.ora ファイルを指定されたサービスでオープンまたは読み込みができませんでした。このファイルの位置はプラットフォームにより異なりますが、通常別の SQL*Net パラメータ・ファイルと同じディレクトリにあります。問題が固有パラメータにトレースできる場合、詳細なエラー・メッセージが続いて表示されます。

解決方法 : ドキュメンテーションを参照して使用するプラットフォームを探し、その上で正しい位置にファイルを作成してプログラムを再起動してください。

NMS-00005: snmp.ora に、snmp.visibleservices パラメータがないか、または空です。

原因: snmp.ora ファイルに構成された snmp.visibleservices パラメータがないか、snmp.ora ファイルが空です。

解決方法: snmp.ora ファイルを編集または作成して、再試行してください。

NMS-00006: 要求パラメータ:parameter snmp.ora にありません。

原因: snmp.ora ファイルには示されたパラメータがありません。このパラメータが要求されました。これが通常発生するのは、snmp.visibleservices で言及されたサービスの 1 つが、前に示したように、1 つかそれ以上のパラメータを指定するように要求したためです。

解決方法: snmp.ora ファイルを編集または作成して、再試行してください。

NMS-00007: Service がメモリーの割当てに失敗しました。

原因: 指定されたサービスはメモリーの割当てができませんでした。

解決方法: システム構成を確認し、可能ならば、実行しているプロセス数を削減してください。問題が解決されない場合、この問題をオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

NMS-00008: 環境変数 name が設定されていません。

原因: この環境変数は見つかりませんでした。

解決方法: この環境変数をエージェントが使用できるようにしてください。

エージェント・ロギング・メッセージ : NMS-00051 ~ NMS-00075

これらのメッセージはエラーを示していません。

NMS-00051: Name がマスター・エージェントに正しく接続されました。

原因: サブエージェントが問題なくマスター・エージェントに接続されました。

解決方法: なし。

NMS-00052: マスター・エージェントから正しく切り離されました。

原因: サブエージェントがマスター・エージェントから正しくログしました。これは通常シャットダウン・プロセスの一部です。

解決方法: なし。

NMS-00055: オプション・パラメータ:parametersnmp.ora にありません。デフォルトを使用します。

原因: snmp.ora ファイルには示されたパラメータがありませんでしたが、これはオプションです。サービスはかわりにそのパラメータにデフォルト値を使用しました。

解決方法: デフォルト以外の値が要求される場合、snmp.ora ファイルを編集または作成して、再試行してください。

データベース・サブエージェント：NMS-00200 ~ NMS-00250

NMS-00202: データベースへの接続に失敗しました。

原因：データベース・サブエージェントがデータベースに接続できませんでした。詳細なエラー・メッセージが続いて表示されます。

解決方法：『Oracle7 Server』メッセージで詳細なエラー・メッセージを参照してください。

NMS-00203: データベースから切断中にエラー *error_number* が発生しました *:name*。

原因：データベース・サブエージェントがデータベースに接続できず、指定されたエラーの数値およびテキスト・メッセージを受け取りました。詳細なエラー・メッセージが続いて表示されます。

解決方法：『Oracle7 Server』メッセージで詳細なエラー・メッセージを参照してください。

NMS-00204: アドレス *TNS_address* でのリスニングに失敗しました。

原因：おそらくデータベース・エージェントの別のインスタンスが使用しているので、データベース・サブエージェントはこの TNS アドレスでリスニングできませんでした。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。

解決方法：データベース・エージェントの別のインスタンスがすでに実行している場合、そのまま実行を続けるか、または終了して再試行してください。

NMS-00205: データベース *:name* に、ユーザー名 / パスワード *:string* で接続できません。

原因：おそらくデータベース・エージェントの別のインスタンスが使用しているので、データベース・サブエージェントはこの TNS アドレスでリスニングできませんでした。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。

解決方法：データベース・エージェントの別のインスタンスがすでに実行している場合、そのまま実行を続けるか、または終了して再試行してください。

NMS-00206: データベース *name* からのキャラクタ・セット取出しに失敗しました。

原因：キャラクタ・セット情報が使用不可です。

解決方法：*nlc_database_parameters* 表が存在するかどうかを確認してください。

サブエージェント・ロギング・メッセージ：NMS-00250 ~ NMS-00275

これらのメッセージは情報のみを提供し、エラーを示しません。

NMS-00250: データベース・サブエージェントが開始しました。

原因：データベース・サブエージェントが正しく起動しました。

解決方法：なし。

NMS-00251: データベース・サブエージェントが停止プロセスを開始しました。

原因：データベース・サブエージェントが停止コマンドを受け取り、処理しています。

解決方法：なし。

NMS-00252: データベース・サブエージェントが停止しました。

原因: 停止プロセスが完了しました。これは最後のメッセージ出力であるはずです。

解決方法: なし。

NMS-00253: データベース *name* に正しく接続されました。

原因: サブエージェントがこのデータベースに正しくログオンしました。データベースが停止して再起動した場合にも、このメッセージが表示されます。

解決方法: なし。

NMS-00254: データベース *name* から正常に切断されました。

原因: サブエージェントがこのデータベースから正しくログオフしました。これは通常シャットダウン・プロセスの一部です。

解決方法: なし。

NMS-00255: データベース *name* が到達不能になりました。トラップが送られました。

原因: このデータベースがアクセス不可能になり、サブエージェントが SNMP トラップを送信しました。データベースが故意に停止された可能性もあるので、これは必ずしも問題ではありません (サブエージェントはアクセス不可能の原因を判断できません)。トラップの宛先は通常エージェント構成の一部として設定されます。

解決方法: 停止が故意でない場合、Oracle7 サーバー・メッセージを参照してください。トラップが管理ステーションで受け取られない場合、プラットフォーム SNMP ドキュメンテーションを参照し、確実に管理ステーションのアドレスをマスター・エージェントに正しく構成してください。

エージェント操作メッセージ : NMS-00301 ~ NMS-00350

NMS-00302: ユーザー・キューを初期化できません。

原因: エージェントは、ユーザー・データを保持するファイルを初期化できませんでした。次のメッセージが詳細を説明します。

解決方法: 解決方法が見つからなければ、エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMS-00303: イベント登録キューを初期化できません。

原因: エージェントは、イベント登録データを保持するファイルを初期化できませんでした。次のメッセージが詳細を説明します。

解決方法: 解決方法が見つからなければ、エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMS-00304: ジョブ・キューを初期化できません。

原因: エージェントは、ジョブ・データを保持するファイルを初期化できませんでした。次のメッセージが詳細を説明します。

解決方法: 解決方法が見つからなければ、エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMS-00305: イベント・オカレンス・キューを初期化できません。

原因: エージェントは、イベント・オカレンス・データを保持するファイルを初期化できませんでした。次のメッセージが詳細を説明します。

解決方法: 解決方法が見つからなければ、エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMS-00306: ジョブ・ステータス・キューを初期化できません。

原因: エージェントは、ジョブ状態データを保持するファイルを初期化できませんでした。次のメッセージが詳細を説明します。

解決方法: 解決方法が見つからなければ、エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMS-00307: RPC レイヤーを初期化できません。

原因: リモート・プロシージャ・コールを初期化できませんでした。次のメッセージが詳細を説明します。

解決方法: 解決方法が見つからなければ、エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NMS-00308: アドレスのリスニングに失敗しました。別のエージェントが実行されている可能性があります。

原因: エージェントの接続キャッシュを初期化できませんでした。このメッセージが表示されるのは、通常別のエージェントの実行中です。一度に実行できるのはコピー 1 つだけです。

解決方法: 別のエージェントが実行している場合、それを終了してから要求されたエージェントを実行してください。

NMS-00309: 内部アドレスを初期化できません。

原因: 内部 RPC のエージェント・アドレスが初期化できませんでした。おそらくエージェントの別のコピーが実行しているからです。

解決方法: エージェントの別のコピーが実行している場合、両方のエージェントを中断し再試行してください。

NMS-00310: 予備のアドレスを初期化できません。

原因: ファイル転送 RPC のエージェント・アドレスが初期化できませんでした。おそらくエージェントの別のコピーが実行しているからです。

解決方法: エージェントの別のコピーが実行している場合、両方のエージェントを中断し再試行してください。

NMS-00311: 言語 ID を初期化できません。

原因: エージェントの言語 ID が初期化できませんでした。

解決方法: 言語 ID 環境の変数がエージェントに正しくありません。

NMS-00312: ファイル *filename* のオープン中に、エラーが発生しました。

原因: エージェントがこのファイルをオープンできませんでした。

解決方法: ディレクトリが存在し、エージェントにそれに書込む必須許可があることを確認してください。

NMS-00313: ディレクトリ : *name* にアクセスできません。

原因: エージェントがこのディレクトリにアクセスできませんでした。もしくは、ディレクトリが存在していません。

解決方法: ディレクトリが存在し、エージェントにそれに書込む必須許可があることを確認してください。

NMS-00314: snmp.ora 内の dbsnmp.spawnaddress パラメータがありません。

原因: dbsnmp.spawnaddress パラメータは 7.3.2.1 から要求され、後にリリースします。これは dbsnmp. アドレスとは異なるアドレスである必要があり、ファイル転送およびソフトウェア・マネージャに使用されます。

原因: dbsnmp.spawnaddress パラメータを snmp.ora に追加してください。

NMS-00315: Tcl パッケージ索引の作成に失敗しました。

原因: tcl パッケージ索引を作成できませんでした。

解決方法: \$ORACLE_HOME/ ネットワーク / エージェント / ライブラリ・ディレクトリ内の共有ライブラリがすべて正しいことを確認してください。

NMS-00316: init.tcl の初期化に失敗しました。

原因: tcl7.5 init.tcl ファイルを初期化できませんでした。

解決方法: \$ORACLE_HOME/ ネットワーク / エージェント / tcl 内に正しい init.tcl のバージョンがあることを確認してください。

エージェント・ファイルの暗号化 : NMS-00351 ~ NMS-00360

NMS-00351: 与えられた暗号キーは、ファイルの暗号化で使用したキーと違います。

原因: キーが起動時に与えられた場合、最後に使用したキーには合致しません。キーが起動時に与えられなかった場合、ファイルは非デフォルト・キーで暗号化されたので、キーを指定する必要があります。どこにも隠されていないので、Oracle はキーを回復できません。

解決方法: キーを思い出せなければ、後で思い出した場合に備えて、ファイルを保存してください。

NMS-00352: パスワード・ファイルが見つからないか、または読み込めません。

原因： "password_file=" 引数がコマンド行にタイプされなかった場合に、このメッセージが起動時に表示されますが、示されたファイルが見つからない、読み込めない、またはテキストの行を含んでいませんでした。(安全上の理由により、パスワード・ファイルの名前はエコーされません。)

解決方法： 正しいファイル名を入力し、そのファイル名が確実に最低 6 文字以上のテキスト行を 1 つ以上持つようにしてください。

NMS-00355: パスワードは少なくとも 6 文字以上に設定してください。

原因： ユーザーがキーにタイプしましたが、短すぎます。メッセージ 00352 を参照してください。

解決方法： 6 文字から 8 文字で入力してください。

未要求イベント実行 : NMS-00361 ~ NMS-00370

NMS-00361: oemevent が不十分な引数で起動されました。

原因： oemevent が少なすぎる引数でコールされました。

解決方法： oemevent は次のように起動してください。

oemevent eventname object severity message [result...]

場所：

eventname は有効な Oracle Enterprise Manager のイベント名です。

object はイベントが適用されるサービスまたはリソース名です。

severity は次のうち 1 つです。¾ アラート、警告、または消去。

message はエラー・メッセージ・テキストで、Oracle Enterprise Manager のコンソールに伝達されます。

result は 0 以上の文字列で、イベントの結果戻されます。

NMS-00362: イベント名が無効です。

原因： oemevent に渡された最初の引数が、有効な Oracle Enterprise Manager のイベント名ではありません。

解決方法： 有効な Oracle Enterprise Manager のイベント名で oemevent を起動してください。

NMS-00363: セキュリティ・レベルが有効ではありません。

原因： oemevent に渡された 3 番目の引数が、有効な Oracle Enterprise Manager のイベント名ではありません (アラート、警告、または消去です)。

解決方法： 有効な Oracle Enterprise Manager のセキュリティ・レベルで oemevent を起動してください。

NMS-00364: oemevent がコンタクト・エージェントに接続できません。

原因: oemevent がエージェント Comm プロセスで、接続を確立できませんでした。

解決方法: エージェント Comm プロセスが実行しており、接続を受け入れ、snmp.ora ファイルのエージェント・アドレスが正しいことを確認してください。

NMS-00365: エージェントへの ReportEvent RPC が失敗しました。

原因: oemevent が、ReportEvent RPC をエージェント Comm プロセスに送信できませんでした。

解決方法: エージェントが実行していることを確認してください。oemevent の実行を再試行してください。

ジョブおよびイベント : NMS-00600 ~ NMS-00799

ジョブまたは登録イベントの実行中は、これらのメッセージをコンソールに 送り返してもかまいません。

NMS-00600: 引数が足りないか、または正しくありません。

原因: 事前定義済みのイベントまたはジョブが、必要な数以下の引数または誤った型の引数で、起動されました。

解決方法: ドキュメンテーションを確認し、再試行してください。問題が解決できなければ、エージェントとコンソールのインストールされたバージョンが確実に合致するようにしてください。

エージェント・ロギング・メッセージ : NMS-00900 ~ NMS-00999

これらのメッセージはエージェント・ログ・ファイルでのみ表示され、必ずしもエラーを示すわけではありません。

**NMS-00900: イベント *event_name* を *user_name* で *service_name* に登録しました ;
id=event_id。**

原因: エージェントがこのイベントをサービスのユーザーで登録しました。イベント、ユーザーおよびサービスの内部 ID 番号がメッセージに表示されます。

解決方法: なし。

NMS-00901: イベント *event_name* が既存の登録と重複しています ; 拒否されました。

原因: 既存の登録と同一だったので、登録が拒否されました。

解決方法: なし。

NMS-00902: イベント登録、*id event_id* をキャンセルします。

原因: エージェントがイベント登録を取消します。

解決方法: なし。

NMS-00903: イベント : *event_id* のオカレンスが、*user_name* に通知されました。

原因: エージェントがイベントのオカレンス・レポートを通知し、指定したユーザーに登録されました。

解決方法: なし。

NMS-00904: ジョブ: *job_number* が終了しました。

原因: このジョブ番号のスケジュールが終了しました。

解決方法: なし。

NMS-00905: ジョブ: *job_number* を実行中です。

原因: エージェントがこのジョブ番号を実行しています。

解決方法: なし。

NMS-00906: ジョブ: *job_number* を取り消します。

原因: このジョブが、コンソールの要求で取り消されています。

解決方法: なし。

NMS-00907: フィックスアップ・ジョブ *job_number* がイベント *event_id* に実行しています。

原因: イベントが発生したので、このフィックスアップ・ジョブが実行しています。

解決方法: なし。

NMS-00908: 正常に停止されました。

原因: dbsnmp_stop コマンドを lsnrctl から受け取りました。

解決方法: なし。

NMS-00909: Comm プロセスが再起動しました。

原因: Worker プロセスが、タイムアウト周期で Comm プロセスから応答を得なかったので、再起動しました。これはエラーであるか不明です。この問題が繰り返し発生する場合は、コンソールとの通信に問題がある可能性があります。

解決方法: トレースがオンならば、Comm プロセスのトレース・ファイルを調べてください。トレースがオンでなく、しかも問題が繰り返される場合は、エージェントを停止し、トレースをオンにして再起動してください。

NMS-00910: *user_name* のジョブ *job_number* をスケジュール *schedule_number* でスケジュールしました ; *id=internal_id*。

原因: このジョブのスケジュール要求をコンソールから受け取り、ジョブをスケジュールしました。内部 ID 番号がメッセージに表示されます。

解決方法: なし。

NMS-00911: ユーザー *user_name* のジョブ *job_number* を取消しています。

原因: このジョブ番号がコンソールに取消されました。

解決方法: なし。

NMS-00912: ジョブ: *job_number* のステータスが、ユーザー: *user_name* に通知されました。

原因: 完了したジョブ状態がコンソールに通知されました。

解決方法: なし。

**NMS-00913: ユーザー *user_name* をアドレス *address*、言語 *name* で登録しました;
id=user_id。**

原因: ユーザーが指定されたパラメータで登録されました。ユーザーの内部 ID もメッセージに表示されます。

解決方法: なし。

NMS-00914: ジョブ: *job_number* が成功しました。

原因: このジョブ番号が実行され、成功を通知しました。

解決方法: なし。

NMS-00915: ジョブ *job_number* に失敗しました、エラー・コード = *error_code*。

原因: 指定されたジョブ ID に失敗し、エラー・コードが表示されました。完全な出力がコンソールに戻されました。

解決方法: なし。

NMS-00916: *user_name* に対して *address* からのファイル転送が要求されました。

原因: 指定したファイルが指定したアドレスからフェッチされました。

解決方法: なし。

エージェント・エラー・メッセージ : NMS-01000 ~ NMS-01099

これらのエラー・メッセージはコンソールに表示されることもあります。ソフトウェアの問題を示す場合もあります。特定のケースでは、ユーザーの処置で問題を消去できます。

NMS-01001: イベント・ファイル *filename* が存在しません。

原因: 指定されたイベントをインプリメントする .tcl ファイルがエージェントに存在しないので、登録できませんでした。

解決方法: エージェントのインストールを確認し、必要な場合は、正しいバージョンを再インストールしてください。

NMS-01002: サービス名が無効です。

原因: イベント登録で、データベースまたはサービス名が指定されましたが、エージェントがモニターしません。

解決方法: コンソールの構成ファイル、およびエージェントの snmp.ora ファイルを確認してください。

NMS-01003: ユーザー・データが見つかりません。

原因: エージェントで登録されていないユーザーが、イベントに指定されました。ユーザー登録ファイルが、意図せずに削除されました。

解決方法: コンソールからログ・オフおよびログ・バックすると、問題が解決できる可能性があります。

NMS-01004: ユーザー言語が無効です。

原因: イベント登録で、ユーザーに登録された言語文字列が無効でした。言語は、コンソール・マシンで NLS_LANG 環境変数から抽出します。

解決方法: NLS_LANG 環境変数の設定を確認してください。必要ならば修正し、コンソールからログ・オフし、その後ログ・バックしてください。

NMS-01005: イベント・スクリプト *filename* 評価に失敗しました。

原因: 指定されたイベントの Tcl スクリプトが評価に失敗しました。Tcl が検索した指定されたエラーは、コンソールに戻されました。不正な引数がイベントに指定されたか、または事前定義済みのイベントを実行するエージェント許可を可能にする catsnmp.sql スクリプトを実行していない可能性があります。

解決方法: コンソールに戻された結果を確認してください。必要ならば、Tcl スクリプトを修正してください。

NMS-01006: ジョブ・ファイル *filename* が存在しません。

原因: 指定されたジョブをインプリメントする .tcl ファイルがエージェントに存在しないので、登録できませんでした。

解決方法: エージェントのインストレーションを確認し、必要な場合は、正しいバージョンをインストールしてください。

NMS-01007: セグメントが存在しません。

原因: 指定されたセグメントがデータベースで見つかりませんでした。

解決方法: SQL 文、特にジョブまたはイベント・パラメータが正しいことを確認してください。

NMS-01008: パラメータが存在しません。

原因: 指定されたパラメータが V\$SYSSTAT 表で見つかりませんでした。

解決方法: SQL 文、特にジョブまたはイベント・パラメータが正しいことを確認してください。

NMS-01009: ユーザー定義プログラムを実行できません。

原因: 指定されたユーザー定義プログラムが、エージェントで実行できませんでした。

解決方法: ユーザー定義プログラムが存在し、エージェントがそれを実行できることを確認してください。

NMS-01010: svrmgr1 または sqldb が存在しません。

原因: ユーザー定義プログラムが存在し、エージェントがそれを実行できることを確認してください。

解決方法: エージェントが svrmgr1 または sqldb を起動できることを確認してください。

NMS-01011: 日付書式が無効です。

原因: 日付書式が mm/dd/yy 書式ではありません。

解決方法: 日付書式を修正してください。

NMS-01012: データベースは NOARCHIVELOG モードです。

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードです。

解決方法: データベース・アーカイブ・ログ・モードを変更して、オンにしてください。

NMS-01013: sqlplus は存在しません。

原因: 実行する sqlplus が存在しません。

解決方法: エージェントが svrmgr1 または sqldb を起動できることを確認してください。

内部エージェント・エラー・メッセージ : NMS-01200 ~ NMS-01999

NMS-01200: NMS がユーザー名 *user_name* の位置確認に失敗しました。イベント *event_id* のオカレンスを削除しています。

原因: ファイルが sync 外です。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

NMS-01201: Tcl インタプリタを作成できません。

原因: イベント登録で、エージェントが Tcl インタプリタを作成してイベントを処理できませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

コンソールのエージェント・エラー : NMS-05000 ~ NMS-05999

NMS-05000: Hot Backup を開始できません。

原因: SQL 文の呼出しに失敗しました。

解決方法: 判断してください。

NMS-05002: オフライン・バックアップを行っています。

原因: オフライン・バックアップが進行中です。

解決方法: 判断してください。

NMS-05003: 表領域がオフラインになっています。

原因: 表領域がオフラインです。

解決方法: 判断してください。

NMS-05004: Hot Backup を終了できません。

原因: SQL 文の呼出しに失敗しました。

解決方法: 判断してください。

NMS-05005: Cold Backup を開始できません。

原因: SQL 文の呼出しに失敗しました。

解決方法: 判断してください。

NMS-05006: オフライン・バックアップがまもなく行われます。

原因: オフライン・バックアップがまもなく行われます。

解決方法: 判断してください。

NMS-05007: Cold Backup を終了できません。

原因: SQL 文の呼出しに失敗しました。

解決方法: 判断してください。

NMS-05008: データベースが起動していません。

原因: データベースが起動していません。

解決方法: 判断してください。

NMS-05009: ログオンできません。

原因: ログオンできません。

解決方法: 判断してください。

NMS-05010: データベースが実行しています - シャットダウンしてください。

原因: データベースが実行しており、シャットダウンする必要があります。

解決方法: 判断してください。

NMS-05011: データベースが実行されていません - 起動してください。

原因: データベースが実行しておらず、起動する必要があります。

解決方法: 判断してください。

Oracle Names Client メッセージ

Oracle Names Client および Client/Server エラー・メッセージ : NNC-00001 ~ NNC-00501

NNC-00001: 最大数の接続がすでにオープンされています。

原因: 使用可能なすべてのネーム・サービスが要求を処理しています。

解決方法: ネーム・サーバーの実行中に問題が発生した場合、names.max_open_connections の値を増加させます。クライアント・プログラムで問題が発生した場合、トレースをオンにして失敗した操作を再実行します。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00002: ストリーム: *str* のリスニングでエラーが発生しました。

原因: ネーム・サーバーが指定されたアドレスでリスニングすることを要求されましたが、失敗しました。おそらくアドレスが違っているか、インストールされていない SQL*Net プロトコル・アダプタを使用したからです。

解決方法: アドレスが正しいフォームで指定され、システムにインストールされているプロトコル・アダプタを使用していることを確認します。

NNC-00003: ストリーム: *str* のオープンでエラーが発生しました。

原因: ネーム・サーバーまたはクライアント・プログラムで他のサーバーへの接続をオープンしようとして失敗しました。サーバーが停止しているか、そのサーバーへのネットワーク経路が機能していないためと考えられます。このエラーは通常、より詳細な問題を記述するエラーの下に表示されます。

解決方法: 接続先サーバーがアドレスを使用してリスニングするのと、2つの終点間でのネットワークの接続性があることを確認します。

NNC-00004: 接続が無効です。

原因: ネーム・サーバーまたはクライアント・プログラムから他のサーバーへの接続にエラーがあります。サーバーが停止しているかそのサーバーへのネットワーク経路が機能していないためと考えられます。このエラーは通常、より詳細な問題を記述するエラーの下に表示されます。

解決方法: 接続先サーバーがアドレスを使用して実行およびリスニングするのと、2つの終点間でのネットワークの接続性があることを確認します。

NNC-00005: ストリーム・サブシステムを初期化できません。

原因: ネーム・サービス・ストリーム・サブシステムが起動できません。おそらく、TNS エラー・メッセージ・ファイルが見つからないためだと考えられます。

解決方法: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあるかを確認します。

NNC-00050: メッセージ・フォーマット・エラーです。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースから不正なネーム・サーバーのメッセージが受信されました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00051: メッセージ内容エラーです。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースから不正なネーム・サーバーのメッセージが受信されました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00052: クライアントとサーバー・プロトコルのバージョンに互換性がありません。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースが、プロトコルのバージョンに互換性がないネーム・サーバーのメッセージを受信しました。このエラーは、さまざまなプロトコル・バージョンのクライアントとサーバーが通信を試みている場合に発生します。

解決方法: クライアントおよびサーバーの古いソフトウェアを互換性のある新しいソフトウェアにアップグレードします。

NNC-00053: メッセージの送受信中に ASN.1 エラーが発生しました。

原因: 名前サーバーあるいは名前サーバー・プログラム・インタフェースがメッセージを送るか受け取ろうとしましたが、ASN.1 エラーのために失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00400: メモリーを使い果たしました。

原因: プログラム・インタフェースのメモリーが足りません。

解決方法: メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

NNC-00401: プログラム・インタフェース初期化に失敗しました。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを初期化できません。おそらく TNS またはネーム・サーバーのエラー・メッセージのファイルが見つからないためであると考えられます。

解決方法: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあるかを確認します。

NNC-00402: プログラム・インタフェース初期化解除に失敗しました。

原因: 内部機能によるネーム・サーバーのプログラム・インタフェースの初期化解除中に内部エラーが発生しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00403: プログラム・インタフェースが初期化されていません。

原因: 内部機能がまだ初期化されていないネーム・サービスのプログラム・インタフェースを初期化解除しようとした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00404: 供給されたバッファ・サイズ: *str* が最小値: *str* より小さいです。

原因: 呼出側からネーム・サーバー・プログラム・インタフェースに与えられたメモリー・バッファがインタフェースの要求より小さすぎます。このエラーは通常、より詳細な問題を記述するエラーの下に表示されます。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00405: ネットワーク障害が発生しました。

原因: クライアント・プログラムとネーム・サーバー間のネットワーク接続に障害が発生しました。サーバーが停止しているか、サーバーへのネットワーク経路が機能を停止しているためと考えられます。このエラーは通常、より詳細な問題を記述するエラーの下に表示されます。

解決方法: ネーム・サーバー管理者に連絡し、接続されているサーバーが実行されていて、使用しているアドレスをリスニングし、2つのエンド・ポイント間がネットワーク接続されていることを確認します。

NNC-00406: 名前 *str* は存在していません。

原因: ユーザーが存在していないグローバル名に関連している情報を要求しました。

解決方法: 存在するグローバル名を使用し失敗した操作を再試行してください。

NNC-00407: 名前要求の別名ループです。

原因: グローバル名に関連する情報を取出そうとするときにネーム・サービスが「別名ループ」を発見しました。別名ループは、別名 X が、別の別名 Y を指すとき、その Y がデータを含むグローバル名を指さずに、X を指し返している場合に起こります。

解決方法: 調査および固定された別名ループがあることをネーム・サーバーの管理者に連絡し、修正してもらいます。

NNC-00408: 名前: *str* はありますが必要なデータがありません。

原因: ユーザーがグローバル名に関連した情報を要求しました。問題の名前は存在しましたが、必要とされる情報の型が含まれていません。

解決方法: 必要とされる名前を含む型で失敗した操作を再試行してください。

NNC-00409: 一時ネーム・サービスは使用できません。

原因: クライアントの要求を処理可能なネーム・サーバーがないか、ネーム・サーバーが一時的にクライアントの要求をハンドルできません。この状態は通常一時的なもので、プログラム・インタフェースがネーム・サーバー要求を発行したが必要なサーバーから適時に応答が返ってこなかった場合に発生します。このような遅れは、一時的にネットワークやネーム・サーバーの負荷が大きい場合に発生します。

解決方法: 失敗した操作を再試行してください。エラーが続く場合、クライアントおよび必要なネーム・サーバー間のネットワークが接続されていることを確認し、ネーム・サーバーが実行されていることを確認してネーム・サーバーの管理者に連絡してください。

NNC-00410: サーバー・アドレス・リストが無効です。

原因: SQLNET.ORA 内の names.preferred_servers パラメータの形式が間違っています。

解決方法: アドレス・リストが正しい形式になっていることを確認してください。

NNC-00411: デフォルトのドメイン名 *str* が無効です。

原因: SQLNET.ORA の names.default_domain パラメータが無効です。

解決方法: パラメータの値が有効なグローバル名であることを確認してください。グローバル名で利用できる文書を参照してください。

NNC-00412: 無効な名前 *str* です。

原因: 無効なグローバル名がネーム・サーバー・プログラム・インタフェースに処理するように与えられました。

解決方法: 有効なドメイン名を与えます。エラーの原因が内部機能による場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00413: 一般障害が発生しました。

原因: 他の特定された状況には該当しないネーム・サーバー・プログラム・インタフェース・エラーが発生しました。このエラーの後に通常、より特定された低レベルの情報が表示されます。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00414: name-value にバインディングする文字列 *str* が無効です。

原因: 無効な name-value にバインディングする文字列値がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、文字列引数をバインディングする有効な name-value で、失敗した操作を再試行してください。または、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNC-00415: セクション識別子 *str* が無効です。*str* から *str* の間に設定してください。

原因: 内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを呼び出しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00416: ユーザー・コールバック・ファンクションがエラー番号: *str* を返しました。

原因: 内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを呼び出しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNC-00417: 名前 *str* はすでに存在します。

原因: 呼び出し側がすでに存在する名前を新しいグローバルな名前として作成しようとしています。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、まだ存在していない名前で、失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00418: 子があるので、名前 *str* を変更できません。

原因: 呼び出し側でグローバル名の削除または名前の変更を試みましたが、名前スペースでこの名前の下に子の名前があるので変更できません。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、リーフ・ノードの名前で、失敗した操作を再試行してください。または、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00419: 認可サーバーに到達できません。

原因: 操作を受け取ったサーバーが要求に指定された名前を所有せず、その名前を所有するサーバーの位置が確認できないため、ネーム・サーバー要求が処理できません。このエラーは通常一時的なもので、要求を受け取るサーバーと要求の最後の接続先サーバー間の経路が切断されているか、または最後の接続先が停止しているために発生します。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。エラーは通常一時的なもののなので、失敗した操作を再試行するといてい解決します。失敗が持続する場合、失敗した操作を処理できるネーム・サーバーがおそらく停止しているか、またはアクセスできないかです。ネーム・サーバーの管理者に連絡し、サイトのネーム・サーバーが実行しており、正しく構成されていることを確認してください。

NNC-00420: 操作できません。

原因: 操作を受け取ったサーバーがそれを処理することができないため、ネーム・サーバー要求が処理できません。問題が発生するのは、通常管理者がなんらかの理由で特定のサーバーで要求処理を使用禁止したためと考えられます。

解決方法: ネーム・サーバー管理者に連絡し、要求の処理ができなくなっている理由を調べます。

NNC-00421: 無効な変更 *str* を発見しました。 *str* から *str* の間に設定してください。

原因: 内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを呼び出しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNC-00422: データ型名: *str* が無効です。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なデータ型名を渡しました。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用中エラーが発生する場合、有効な型の名前で、失敗した操作を再試行してください。または、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNC-00423: データ項目構文コード :str が無効です。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なデータ型コードを渡しました。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用中エラーが発生する場合、有効な型の名前で、失敗した操作を再試行してください。または、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00424: アドレス :str が無効です。

原因: 無効なアドレス値がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用中エラーが発生する場合、有効なアドレス引数で、失敗した操作を再試行してください。または、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNC-00425: メタデータ違反です。

原因: 呼び出し側が、ネーム・サーバー変更要求を発行しましたが、データ型メタデータ制限に違反するので、その要求は処理されません。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用中エラーが発生する場合、データ型のためのメタデータ制約を違反しない上で操作してください。典型的な制約違反の例には、新規データ項目をすでに別名情報を持つ名前に追加しようとする、または別名情報をすでにその他のデータを持つ名前に追加しようとする、データ項目を間違った構文を持つ他の項目で置換しようとするなどがあります。制御プログラム外でエラーが発生する場合、トレースをオンにして失敗した操作を再実行します。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNC-00426: データ型が無効です。

原因: 呼び出し側でデータ項目を作成しようとしたますが、そのデータ項目の型が存在しないので作成できません。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用中エラーが発生する場合、現在のデータ型で、操作を再試行してください。または、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNC-00427: サーバーがこのバージョンのプロトコルをサポートしていません。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースがプロトコルのバージョンに互換性がないネーム・サーバーのメッセージを受信しました。このエラーは、さまざまなプロトコル・バージョンのクライアントとサーバで通信を試みている場合に発生します。

解決方法: クライアントおよびサーバーの古いソフトウェアを互換性のある新しいソフトウェアにアップグレードします。

NNC-00428: meta-data データ項目が無効です。

原因: 無効な meta-data データ項目がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用時エラーが発生する場合、有効な meta-data 引数で、失敗した操作を再試行してください。または、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00429: 8 進数文字列リテラル: *string* が無効です。

原因: 無効な 8 進数文字列がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用時にエラーが発生する場合、有効な 8 進数文字列引数で失敗した操作を再試行してください。または、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00430: データベースにアクセスできません。

原因: データベースが異なるネーム・サーバー間で一貫性のために使用されるとき、なんらかの変更操作はキャッシュだけでなくデータベースもまた変更します。その時、そのデータベースが使用不可能な場合、このエラーが発生します。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用時にエラーが発生する場合、データベースが使用可能なことを確認してから操作を再試行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNC-00431: NS のアドレスが現行のアドレスのいずれとも一致しません。

原因: ドメインを代表として送るとき、ネーム・サーバーのアドレスはクライアントによって渡されます。ネーム・サーバーがすでに存在する場合、対応付けられたアドレスはすでにあります。そして、クライアントによって渡されたアドレスをすでにあるアドレスのひとつと合致させます。合致しない場合、エラーが発生します。

解決方法: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用している時にエラーが発生する場合、ネーム・サーバーの既存のアドレスの 1 つを渡すか新しいネーム・サーバーにドメインを代表として送るかのどちらかにします。

NNC-00500: 警告: name パラメータ値は無効です。name に設定します。

原因: 指定したパラメータ値が無効です。

解決方法: パラメータ値が正しい形式かを確認します。ブール・パラメータ値に対する有効な値は TRUE および FALSE、YESE、NOE、ONE、OFF です。

NNC-00501: 警告: *name* パラメータ値は *num* から *num* の間です。 *num* に設定してください。

原因: 指定したパラメータ値が無効または有効な範囲境界値を超えています。

解決方法: エラ ー ・ テキストで指定されているパラメータ値が有効な最小値から最大値の間の数値であることを確認してください。

Native Naming メッセージ

Native Naming 一般エラー・メッセージ : NNF-00001 ~ NNF-00999

NNF-00001: TNS アドレスではありません。

原因: アドレスの読み込み中に、ネーム・サービスがアドレスではないレコードを戻しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-00002: ファンクション・コールに渡された値が無効です。

原因: インタフェース関数に無効な値が渡されました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-00003: 指定アダプタ *str* は存在していません。

原因: 要求されたネーム・サービス・アダプタは、現行のアダプタ表にありません。

解決方法: 要求されたアダプタの綴りを確認してください。このプラットフォームでアダプタが実行されているかどうか、アダプタがコンパイルされたアダプタ表が実行可能ファイルにリンクされているかどうかを調べてください。

NNF-00004: *str* ではこの操作はサポートされていません。

原因: 要求された操作は、このアダプタではサポートされていません。

解決方法: 読み込み専用のネーム・サービスに対する書込みなど、実行する操作が制限されていないかどうかを確認してください。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-00005: 機能がインプリメントされていません。

原因: この操作は、このバージョンではサポートされていません。

解決方法: このエラーが本稼動リリースで発生している場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。そうでない場合には、リリース・ノートでこのリリースに制限がないかどうかを調べてください。

NNF-00540: 名前 *str* の挿入が失敗しました。

原因: ネイティブ・サービスに名前が挿入できませんでした。

解決方法: 名前がネイティブ名前領域にないかどうか、その名前領域に適切なアクセス権限が設定されているかどうかを調べてください。

DCE CDS アダプタ・エラー・メッセージ : NNF-01000 ~ NNF-01999

NNF-01001: ds_initialize: 作業領域の初期化に失敗しました。

原因: セットアップ時に DCE 作業領域を ds_initialize() で初期化しようとしたが、失敗しました。

解決方法: このプラットフォームに ds_initialize() コールを正常に行うために必要な条件があるかどうか (たとえば、メモリーが十分かどうか) を調べてください。このプログラムを別の作業領域のユーザーが使用していないかどうかを確認してください。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-01002: DCE が構成ファイルをオープンできません。

原因: DCE 構成ファイルにアクセスできません。

解決方法: このプラットフォームに DCE 構成ファイルがあるかどうか、アクセス可能かどうかを確認してください。Unix の場合、構成ファイルは dce_cf.db です。dce_cf_get_cell_name() に対するコールが正しく行われているかどうかを確認してください。

NNF-01003: DCE がセル名を見つけれられません。

原因: DCE 構成ファイル内にセル名がありません。

解決方法: このマシンに DCE セルが構成されているかどうかを確認してください。DCE 構成ファイルが壊れていないかどうかを確認してください。Unix の場合、構成ファイルは dce_cf.db です。dce_cf_get_cell_name() に対するコールが正しく行われているかどうかを確認してください。

NNF-01004: DCE が未定義のエラー *str* を戻しました。

原因: このインプリメントのリストに、この DCE コールの状態値でない値があることが報告されました。

解決方法: このプラットフォームの DCE リリースが、この Oracle アプリケーションでサポートされていないリリースかどうかを調べてください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-01005: 内部 XOM クラス違反です。

原因: DCE XOM が、DCE 文書のクラス定義と矛盾する状態を戻しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-01006: 属性 *str* は使用できません。

原因: DCE 属性に変換できない属性が挿入コールで使用されました。

解決方法: 別の属性を使用するか、変換を DCE に挿入してください。

NNF-01007: DCE LONG 文字列はサポートされていません。

原因: 問合せで XOM OM_S_LONG_STRING があるオブジェクトが戻されました。現行のインプリメントでは、このようなオブジェクトはサポートされません。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-01008: XDS 属性の構文 *str* は Oracle 名前構文 *str* に対して無効です。

原因: XDS オブジェクトに指定した構文が、Oracle 名前構文と異なります。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-01009: 未知の DCE クラスです。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01010: DCE 問題コード *num* が XDS クラス *str* と一致しません。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、どの XDS/XOM ルーチンが失敗したかの詳細とエラー・コードは何かを示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01011: DCE が OS エラーを報告しました。

原因: DCE XDS がオペレーティング・システム・エラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、どの XDS/XOM ルーチンが失敗したかの詳細とエラー・コードは何かを示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01012: DCE の全体セキュリティが失敗しました。

原因: DCE XDS ルーチンがセキュリティ・エラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、どの XDS/XOM ルーチンが失敗したかの詳細とエラー・コードは何かが表示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01100: DS_C_COMMUNICATIONS_ERROR

原因: CDE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが表示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01101: DS_C_LIBRARY_ERROR

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが表示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01102: DS_C_NAME_ERROR (一致 *str*)

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが表示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01103: DS_C_SECURITY_ERROR

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが表示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01104: DS_C_SERVICE_ERROR

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが表示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01105: DS_C_SYSTEM_ERROR

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが表示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01106: DS_C_UPDATE_ERROR

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01107: DS_C_ATTRIBUTE_PROBLEM

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01108: DS_C_ABANDON_FAILED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01109: DS_C_ATTRIBUTE_ERROR (オブジェクト名 *str*)

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01110: 未知のクラスです。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01501: ADMIN_LIMIT_EXCEEDED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01502: AFFECTS_MULTIPLE_DSAS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01503: ALIAS_DEREFERENCING_PROBLEM

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01504: ALIAS_PROBLEM

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01505: ATTRIBUTE_OR_VALUE_EXISTS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01506: BAD_ARGUMENT

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01507: BAD_CLASS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01508: BAD_CONTEXT

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01509: BAD_NAME

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01510: BAD_SESSION

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01511: BAD_WORKSPACE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01512: BUSY

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01513: CANNOT_ABANDON

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01514: CHAINING_REQUIRED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01515: COMMUNICATIONS_PROBLEM

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01516: CONSTRAINT_VIOLATION

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01517: DIT_ERROR

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01518: ENTRY_EXISTS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01519: INAPPROP_AUTHENTICATION

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01520: INAPPROP_MATCHING

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01521: INSUFFICIENT_ACCESS_RIGHTS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01522: INVALID_ATTRIBUTE_SYNTAX

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01523: INVALID_ATTRIBUTE_VALUE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01524: INVALID_CREDENTIALS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01525: INVALID_REF

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01526: INVALID_SIGNATURE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01527: LOOP_DETECTED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01528: MISCELLANEOUS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01529: MISSING_TYPE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01530: MIXED_SYNCHRONOUS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01531: NAMING_VIOLATION

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01532: NO_INFO

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01533: NO_SUCH_ATTRIBUTE_OR_VALUE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01534: NO_SUCH_OBJECT

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01535: NO_SUCH_OPERATION

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01536: NOT_ALLOWED_ON_NON_LEAF

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01537: NOT_ALLOWED_ON_RDN

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01538: NOT_SUPPORTED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01539: OBJECT_CLASS_MOD_PROHIB

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01540: OBJECT_CLASS_VIOLATION

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01541: OUT_OF_SCOPE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01542: PROTECTION_REQUIRED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01543: TIME_LIMIT_EXCEEDED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01544: TOO_LATE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01545: TOO_MANY_OPERATIONS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01546: TOO_MANY_SESSIONS

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01547: UNABLE_TO_PROCEED

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01548: UNAVAILABLE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01549: UNAVAILABLE_CRIT_EXT

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01550: UNDEFINED_ATTRIBUTE_TYPE

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01551: UNWILLING_TO_PERFORM

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01590: DS エラー・オブジェクトの操作中に XOM エラーが発生しました。

原因: DCE XDS ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01600: xom コールが正常に実行されました。**NNF-01601: ENCODING_INVALID**

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01602: FUNCTION_DECLINED

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報から DCE ドキュメンテーション内のエラーを探してください。

NNF-01603: FUNCTION_INTERRUPTED

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01604: MEMORY_INSUFFICIENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01605: NETWORK_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01606: NO_SUCH_CLASS

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01607: NO_SUCH_EXCLUSION

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01608: NO_SUCH_MODIFICATION

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01609: NO_SUCH_OBJECT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01610: NO_SUCH_RULES

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01611: NO_SUCH_SYNTAX

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01612: NO_SUCH_TYPE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01613: NO_SUCH_WORKSPACE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01614: NOT_AN_ENCODING

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01615: NOT_CONCRETE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01616: NOT_PRESENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01617: NOT_PRIVATE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01618: NOT_THE_SERVICES

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01619: PERMANENT_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01620: POINTER_INVALID

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01621: SYSTEM_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01622: TEMPORARY_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01623: TOO_MANY_VALUES

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01624: VALUES_NOT_ADJACENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01625: WRONG_VALUE_LENGTH

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01626: WRONG_VALUE_MAKEUP

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01627: WRONG_VALUE_NUMBER

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01628: WRONG_VALUE_POSITION

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01629: WRONG_VALUE_SYNTAX

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01630: WRONG_VALUE_TYPE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。
トレースをオンにすると、上記のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使って DCE ドキュメンテーションでエラーを探してください。

NNF-01901: 名前パラメータ *str* が見つかりません。名前の参照が解決できません。

原因: 指定された TNS 別名が CDS にありません。

解決方法: "dceload" を使用して名前を挿入して、操作を再度実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NIS アダプタ・エラー・メッセージ : NNF-02000 ~ NNF-02999

NNF-02001: NIS クライアント・エラー文字列 : *str*

原因: NIS (YP) ファンクションに対する呼出しが失敗しました。このメッセージには、戻された NIS エラー・コードのテキストが表示されます。

解決方法: これは、別のエラーの一部として戻される場合にだけ表示されます。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-02002: NIS 値がアダプタ・スキーマ :*str* に従っていません。

原因: NIS アダプタに使用されるマップの値は、内部フォーマット 規則の特定のセットに準拠していなければなりません。戻された値は、これらの規則に準拠していませんでした。

解決方法: これは、ユーザー独自のマップを作成しようとしなければ、表示されません。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-02003: 未知の NIS エラー・コード : *str*

原因: NIS (YP) から戻されたエラー・コードが、このプログラムが予期したリストにありません。

解決方法: このプラットフォームの YP ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートにエラーを連絡してください。

NNF-02004: NIS マップ *str* が存在しません。

原因: 要求された属性が存在しません。

解決方法: 属性が未使用の場合には処置は必要ありません。そうでなければ、属性を追加し、NIS(YP) マップを再ロードしてください。

NNF-02005: NIS キー *str* はマップ *str* 内に存在していません。

原因: 要求された名前が見つかりません。

解決方法: 名前が未使用の場合には処置は必要ありません。そうでなければ、名前を追加し、NIS(YP) マップを再ロードしてください。

BIND/DNS エラー・メッセージ : NNF-03000 ~ NNF-03999

NNF-03002: 未知の BIND エラー・コード : *str*

原因: BIND(DNS) 問合せ応答のリターン・コードが、RFC 1035 にリストされている値に準拠していません。

解決方法: このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートにエラーを連絡してください。

NNF-03003: サーバーの応答を解析中に形式エラーが発生しました。

原因: BIND(DNS)API から戻された問合せ応答パケットが、RFC 1035 にリストされている形式に準拠していません。

解決方法: このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートにエラーを連絡してください。

NNF-03004: DNS クラスが一致しません。(*str*)

原因: 問合せ応答パケットの戻したクラスが、インタフェースの予期したクラスと異なっています。

解決方法: このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートにエラーを連絡してください。

ネイティブ名前変換ツール・メッセージ : NNF-04000 ~ NNF-04999

NNF-04000: ファイルが正しく変換されました。

原因: 要求された変換が実行されました。

解決方法: 通常の条件です。処置は必要ありません。

NNF-04001: 入力ファイルの変換中にエラーが発生しました。

原因: 変換プログラムで変換できない行が入力ファイルにありました。

解決方法: 入力ファイルの構文が正しいかどうかを確認してください。

NNF-04002: 出力ファイルがすでに存在しています。

原因: 現行ディレクトリに古い出力ファイルが存在しています。

解決方法: 既存のファイルを削除して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04003: 入力ファイル内のエントリが長すぎます。

原因: makedbm プログラムでは、マップファイルのエントリは、1017 文字までです。したがって、変換ツールは、1017 文字より長い TNS アドレスを処理できません。

解決方法: 問題のあるエントリの長さを短くしてください。

NNF-04004: 入力ファイルに無効な文字列があります。

原因: 入力ファイルに無効な行があります。

解決方法: 入力ファイルの構文が正しいかどうかを確認してください。

NNF-04005: 入力ファイルがオープンできません。

原因: この入力ファイルは見つかりませんでした。

解決方法: 正しい入力ファイルを使用して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04006: 出力ファイルを作成できません。

原因: 現行の作業ディレクトリに出力ファイルが作成できません。

解決方法: 現行ディレクトリの権限を変更して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04007: 入力ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: 入力ファイルの読み込み中に問題が発生しました。入力ファイルに予期しないファイルの終わりが見つかりました。

解決方法: ファイルが壊れていないかどうか、入力ファイルの構文が正しいかどうかを確認してください。

NNF-04008: 出力ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 出力ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

解決方法: 使用可能なディスク領域を確認してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNF-04009: 使用方法: tns2nis filename

原因: 変換ツールが正しく起動されていません。filename は TNSNAMES.ORA または NATIVE.ORA のいずれかでなければなりません。

解決方法: 正しいパラメータを指定して、変換ツールを再起動してください。

Oracle Names 制御メッセージ

Oracle Names 制御ユーティリティ・エラー・メッセージ : NNL-00001 ~ NNL-01073

NNL-00001: 要求引数 *command* が無効です。

原因: ユーザーが無効な要求コマンド引数を入力しました。

解決方法: 有効な引数を指定してください。

NNL-00002: 要求引数 *command* はこの操作で使用できません。

原因: ユーザーが特定の要求コマンドでは有効でない要求コマンド引数を指定しました。

解決方法: 有効な引数を指定してください。

NNL-00003: メモリーが足りません。

原因: プログラムのメモリーが足りません。

解決方法: マシンの使用可能なメモリー量を確認し、この実行に十分なメモリーがあることを確実にしてください。必要であれば、実行するプログラム数を少なくして、メモリーを解放して、再試行してください。

NNL-00004: コマンド引数 *command* が無効です。

原因: ユーザーが無効なコマンド引数を入力しました。

解決方法: 有効な引数を指定してください。

NNL-00005: サーバーが設定されていません。まず、SET SERVER コマンドを使用してサーバーを設定してください。

原因: ユーザーが、デフォルト管理の Oracle Names Server を最初に設定する必要があるコマンドを発行しようとしてしました。

解決方法: SET SERVER コマンドを使用してデフォルト・サーバーを設定し、コマンドを再発行してください。あるいは、コマンドが許可すれば、特定のサーバー名で再発行してください。そうすれば制御プログラムがデフォルトを使用する必要はありません。

NNL-00006: タイムアウトが発生しました。サーバーが応答しません。

原因: 制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、適時に応答がありませんでした。制御プログラムとサーバー間のネットワーク接続が不正であるか、サーバーのロードが非常に重い、または制御プログラムとサーバー間に重大なネットワークの遅れがある可能性があります。後者は特に WAN リンクに当てはまります。

解決方法: コマンドを再発行してください。失敗し続ける場合、管理されているサーバーが正しく稼働しており、サーバーと制御プログラム間のネットワーク接続が正しく作動していることを調べてください。

NNL-00007: サーバーの応答でエラーが発生しました。

原因: 制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、サーバーがエラーで応答しました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNL-00008: サーバーが要求を認識しません。

原因: 制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、サーバーが要求を認識できませんでした。

解決方法: サーバーおよび制御プログラムが異なるバージョンの場合、通信できません。バージョンの互換性の制約についてドキュメンテーションを確認してください。サーバーが制御プログラムと互換性がある場合には、トレースをオンにして詳細を表示し、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNL-00009: サーバー・パスワードの暗号化に失敗しました。

原因: 制御プログラムが SET PASSWORD コマンドまたは namesctl.server_password 構成ファイルで指定されたサーバー・パスワードの暗号化を試行し失敗しました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNL-00010: サーバー server のアドレス取得中にエラーが発生しました。

原因: 制御プログラムがサーバー名を対応するアドレスに変換しようとしたが、失敗しました。このエラーの原因は多数考えられます。制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステムの特定の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能な必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ names.preferred_servers エントリを含む必要があります。ユーザーが SET SERVER コマンドで管理されたサーバーを変更した場合、新規サーバーが稼働している必要があります。アドレスを解決できるか、またはアドレスを解決できる別のサーバーに要求を転送する必要があります。あるいは、有効なネーム・サーバー名を持つ TNSNAMES.ORA ファイルがシステムに特定の正しい位置に存在する必要があります。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNL-00011: *server* という名前のサーバーはありません。

原因: 原因: ユーザーが SET SERVER 要求を発行しましたが、現行の管理されている Oracle Names Server はその名前をアドレスに変換できませんでした。あるいは、ユーザーが制御プログラム要求を特定のサーバーに発行しましたが、サーバーの名前はアドレスに変換できませんでした。両方の問題は通常サーバーのタイプミスによって引き起こされます。

解決方法: 有効なサーバー名を指定して、要求を再発行してください。

NNL-00012: *argument* は無効です (値: *value*)。

原因: 最初の引数はデータ型で、2 番目は値です。ユーザーは指定された型に対して無効なデータ値を受け渡しました。

解決方法: 正しいデータを使って、失敗した操作をやり直してください。

NNL-00013: 実行されませんでした。入力されたパスワードに対する許可はありません。

原因: ユーザーは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、受け取ったパスワードが正しくありませんでした。

解決方法: 制御プログラムによってサーバーに送られるパスワードがそのサーバーに対して正しいことを確認してください。SET PASSWORD 制御プログラムのコマンドで新しいパスワードを設定できます。

NNL-00014: データ型 *data type* が不明です。

原因: 不明なデータ型を含むネーム・サーバー要求が発行されました。

解決方法: サーバーには型情報がないにもかかわらず、失敗した要求に反応してそれを自動的にフェッチした可能性があります。失敗した要求を再発行してください。その間サーバーが適切なデータ型情報をフェッチした場合、エラーは消滅します。エラーが持続する場合、データ型が無効である可能性があります。

NNL-00015: 型 *datatype* に *name* 構文がありますが、テキスト表現がありません。

原因: すべてのデータ型構文がテキストとして表現されるわけではありません。このメッセージは、ユーザーが非テキスト表示で型にネーム・サーバー要求を発行したことを示しています。

解決方法: テキスト表現の構文を持つデータ型で操作を再発行してください。

NNL-00016: サーバーを起動できません。プログラムのディレクトリ名を取得中にエラーが発生しました。

原因: ユーザーが起動要求を発行しましたが、サーバー実行モジュールが常駐するディレクトリ名を検索できなかったため、制御プログラムはサーバーを起動できませんでした。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNL-00017: サーバーを起動できません。プログラム *program_name* がありません。

原因: ユーザーが起動要求を発行しましたが、サーバー実行モジュールを検索できなかったため、制御プログラムはサーバーを起動できませんでした。

解決方法: システムの Oracle 実行モジュールディレクトリにサーバー実行モジュールのコピーが存在することを確認してください。

NNL-00018: 警告: デフォルト・ネーム・サーバーにコンタクトできません。

原因: 起動中に、制御プログラムがそのデフォルト・ネーム・サーバーに通信できませんでした。このエラーの原因はいくつか考えられます。制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステムの特定の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ names.preferred_servers エントリを含む必要があります。preferred-server リストの最初のサーバーが稼動しており、制御プログラムとそのサーバー間にネットワーク接続性がある必要があります。

解決方法: 以上の条件を満たしていることを確認してください。それでも制御プログラムがそのデフォルト・サーバーに通信できない場合、トレースをオンにして制御プログラムを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNL-00019: 警告: サーバーが要求を変更したか、無視しました。

原因: ユーザーは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、要求がなんらかの形で変化しました。通常はユーザーがある無効な引数を指定し、サーバーが要求を無視したか、または無効な引数を適切なデフォルトと置換しました。

解決方法: 制御プログラムを使用して、変更する値の現行の状態を確認してください。サーバーのログ・ファイルが問題の確かな原因についての情報を含んでいる可能性もあります。操作を正しい引数で再発行してください。

NNL-00020: 警告: TNSNAMES.ORA ファイルが存在せず、SQLNET.ORA には優先ネーム・サーバーが指定されていません。

原因: 制御プログラムが TNSNAMES.ORA ファイルを検索できず、デフォルト・ネーム・サーバーを SQLNET.ORA で検索できませんでした。制御プログラムはこの状態でも操作しますが、デフォルト・サーバーを設定するまでは名前を解決できません。さらに、サーバーの設定には未加工の TNS アドレスを使用する必要があります。

解決方法: 制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステムの特定の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ names.preferred_servers エントリを含む必要があります。preferred-server リストの最初のサーバーが稼動しており、制御プログラムとそのサーバー間にネットワーク接続性がある必要があります。あるいは、有効なネーム・サーバー情報を持つ TNSNAMES.ORA ファイルがシステムに特定の正しい位置に存在する必要があります。

NNL-00022: *num* から *num* へトレース・レベルを変更中にエラーが発生し、レベル変更は無視されました。

原因: ユーザーが制御プログラムのローカル・トレース・レベルを変更しようとしたが、レベルの変更中に、プログラムがエラーを表示しました。通常問題は、(トレース・レベルを OFF から別のものに変更して)トレースが初めて可能になり、トレース・ファイルが制御プログラムで書込み不可能になることです。

解決方法: 解決方法:トレース・ファイルが書込み可能であることを調べてください。ドキュメンテーションを参照すれば、トレース・ファイル名がわかります。

NNL-00023: SET コマンドに引数がありません。

原因: ユーザーが引数なしで SET コマンドを発行しようとした。

解決方法: 有効な引数を SET コマンドに指定してください。

NNL-00024: 警告:SQLNET.ORA に優先ネーム・サーバーがありません。

原因: 制御プログラムが SQLNET.ORA で優先ネーム・サーバーを検索できず、そのためデフォルト・サーバーに接続できません。

解決方法: SQLNET.ORA ファイルに有効な names.preferred_servers エントリがあることを確認してください。<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 3.2//EN">

Oracle Names Server メッセージ

Oracle Names Server エラー・メッセージ : NNO-00050 ~ NNO-00712

NNO-00050: 構成データに重大なエラーがあります。サーバーが稼働しません。

原因: サーバーの構成のデータに問題があるため、サーバーが起動できません。

解決方法: ログ・ファイルの前のエラー・メッセージに、シャットダウンした正確な問題が記述されています。この問題は、ネットワーク上に複数の管理領域があり、委任ポイントが正確でない場合に頻繁に起こります。Oracle Names のマニュアルで領域委任に関するセクションを参照して、その指示に従ってください。

NNO-00051: ドメイン・カウント *num* が最大値 *num* を超えました。最初の *num* がロードされます。

原因: サーバーの構成に、そのサーバーでサポートできるドメイン数より多いドメインが含まれています。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00052: ドメイン記述リストが無効です。

原因: サーバーの構成に、無効なドメイン記述リストが含まれています。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00053: ドメイン *str* の記述が重複しています。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述リストの中に重複したドメインの記述がありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00054: ドメイン名 *str* が無効です。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な名前がありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00055: ドメインの最小 TTL str が無効です。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な最小 TTL がありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00056: 警告: ドメインの最小 TTL は num から num の間です。 num 秒に設定してください。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な最小 TTL がありました。このエラーは致命的ではありません。サーバーは、自動的に TTL をデフォルト値にセットします。この値は、通常の使用では標準的な値です。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00057: トポロジ・データのロードと検査を行っています。

原因: 正常なサーバーの起動中に、ログ・ファイルに情報メッセージが書き込まれました。

解決方法: なし。

NNO-00058: 構成データベースからトポロジ・データをロードできません。

原因: 構成データベースからサーバーのトポロジ・データをロードしようとして、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

解決方法: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00059: トポロジ・チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00060: チェックポイント・ファイル str からサーバー・トポロジをロードしています。

原因: names.no_region_database パラメータを TRUE に設定して、最新のトポロジ・チェックポイント・ファイルがサーバーをロードされると、この情報メッセージからログ・ファイルに書き込まれます。

解決方法: なし。

NNO-00061: ドメイン *str* にデータをロードしています。

原因: 正常なサーバーの起動中で、ログ・ファイルに情報メッセージが書き込まれました。

解決方法: なし。

NNO-00062: 構成データベースからドメイン・データをロードできません。

原因: 構成データベースからサーバーのドメイン・データをロードしているときに、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

解決方法: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使ってサーバーを強制的に起動したい場合には、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使えない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00063: ドメイン・チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せください。

NNO-00068: 警告: 管理領域の再ロード・チェックが失敗しました。次のチェックは *num* 秒後に行われます。

原因: この警告は、サーバーが構成データが変更されていないかどうかを調べるために構成データベースに接続しようとして失敗したときに、発行されます。サーバーは、再ロード・チェックを自動的に再発行し、連続 3 日間接続に失敗すると、再発行を停止します。

解決方法: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。

NNO-00069: 警告: 管理領域の再ロード・チェックの失敗が多すぎるため、チェックは使用不可になりました。

原因: この警告は、サーバーが連続して 3 日間構成データベースに接続できない場合に発行されます。サーバーは、再ロード・チェックを使用禁止にします。再ロード・チェックは、Oracle Network Manager または Oracle Names 制御プログラムで再び使用可能にすることができます。

解決方法: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動したい場合には、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使えない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00070: 管理領域が変更されています。ドメイン・データを再ロードしています。

原因: この情報メッセージは、サーバーの構成データが変更され、サーバーが新しい構成を構成データベースから再ロードしたときにログ・ファイルに書き込まれます。

解決方法: なし。

NNO-00080: ドメイン *str* は、親がすでに委任されているので、委任できません。

原因: 内部委任エラーが発生しました。委任は、Oracle Network Manager によって制御されます。Oracle Network Manager は、正しい委任ルールを施行します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00081: ドメイン *str* にネーム・サーバーがありません。

原因: 内部構成エラーが発生しました。Oracle Network Manager は、Oracle Names サーバーを正しく構成しなければなりません。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00082: ドメイン *str* に自分の名前 *str* がネーム・サーバーとしてありません。

原因: 内部構成エラーが発生しました。Oracle Network Manager は、Oracle Names サーバーを正しく構成しなければなりません。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00083: ドメイン *str* サーバー *str* にアドレスがありません。

原因: 内部構成エラーが発生しました。Oracle Network Manager は、Oracle Names サーバーを正しく構成しなければなりません。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00084: ドメイン *str* は認証ドメイン・リストにありません。

原因: 内部構成エラーが発生しました。Oracle Network Manager は、Oracle Names サーバーを正しく構成しなければなりません。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00104: 行 *str*: 構文エラーです。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに構文エラーがありました。このメッセージは、サーバーの内部チェックポイント・ファイルが壊れている場合にも表示されます。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00105: 行 *str*: 名前 *str* が無効です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なグローバル名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00106: 行 *str*: TTL *str* が無効です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効な TTL がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00107: 行 *str*: 古いチェックポイント・データは無視されます。

原因: この情報メッセージは、サーバー起動時にサーバーのキャッシュ・チェックポイント・ファイルに古くなったキャッシュ・データが見つかった場合に表示されます。このメッセージは、通常のサーバー起動処理の一部です。

解決方法: なし。

NNO-00108: 行 *num*: TTL の秒数 *num* がドメインの最小値 *num* より小さくなっています。最小値を使用します。

原因: サーバーのドメイン・データに無効な TTL 値がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00109: 行 *str*: データ型名 *str* が無効です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なデータ型名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00110: 行 *str*: データ型 *str* が不明です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに不明なデータ型名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法：内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00111: 行 *str*: データ型 *str* に構文 *str* がありますが、*str* でなければなりません。データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データに無効なデータ型構文がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法：内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00112: 行 *str*: データ型 *str* のデータが重複しています。無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データに重複したレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法：内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00113: 行 *str*: 別名データがすでに存在しています。他のデータはすべて無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データにグローバル名が同じ別名および別名以外のデータがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法：内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00114: 行 *str*: 別のデータが存在します。別名データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データにグローバル名が同じ別名および別名以外のデータがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法：内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00115: 行 *str*: シングル値のデータ型 *str* です。他のインスタンスは無視されます。

原因：名前および型が同じ複数のレコードが見つかりましたが、特定の名前を持つレコードは1つしか許可されません。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法：内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00116: 行 *str*: データ型 : *str* はここでは使用できません。データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データにデータ型が無効なレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00117: 行 *str*: データ型がありません。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データにデータ型がないレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00118: 行 *str*: データの長さ *str* が *str* の最大値を超えています。データは無視されます。

原因: 内部制限を超えた長さのレコードが見つかりました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00119: 行 *str*: サーバーが名前 *str* に対し認証がありません。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに認証のないグローバル名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00120: 行 *str*: ここでは、トポロジ名 *str* は使用できません。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00150: 警告: ヒント・リストが無効です。ヒントはロードされません。

原因: サーバーの構成に、無効なヒント記述リストが含まれています。サーバーは処理を継続しますが、ヒントはロードされません。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00151: 警告: ドメイン *str* に対するヒントを無視します。サーバーは認証があります。

原因: サーバーの構成に、サーバーの管理領域のドメインに対するヒントが含まれています。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00152: 警告: ヒント・カウント *num* が *num* の最大値を超えています。最初の *num* がロードされます。

原因: サーバーのヒント・リストにヒントが多すぎます。サーバーは、指定された最大数のヒントをロードし、残りのヒントは無視して処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00153: 警告: ヒント・ドメイン *num* に無効な名前 *str* があります。ヒント・ドメインは無視されます。

原因: サーバーの構成で、ヒント・ドメインに無効な名前がありました。ドメインは無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00154: 警告: ヒント *num* のサーバー名 *str* が無効です。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、ヒントに無効なサーバー名がありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00155: 警告: ヒント *num* のアドレスがありません。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、サーバーのアドレスがないヒントがありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00156: 警告: ヒント *num* アドレスの長さ *num* が最大値 *num* を超えています。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、アドレスの長さが内部制限を超えているヒントが見つかりました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00157: 警告: ヒント *num* に無効なアドレスがあります。ヒントは無視されました。

原因: サーバーの構成で、アドレスが無効なヒントが見つかりました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00158: 警告: ヒント・ドメイン・カウント *num* が最大値 *num* を超えました。最初の *num* がロードされます。

原因: サーバーのヒント・ドメイン・リストが長すぎます。サーバーは、指定された最大数のヒント・ドメインをロードし、残りのヒント・ドメインは無視して処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00159: 警告: ヒント・ドメイン *num* 名前 *str* は重複しているので無視されます。

原因: サーバーのヒント・ドメイン・リストに重複したドメインが見つかりました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00160: 警告: ヒント・サーバー *str* は重複しているので無視されます。

原因: サーバーのヒント・サーバー・リストに重複したサーバーが見つかりました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00250: 管理領域記述が無効です。

原因: サーバーの起動時に無効な管理領域記述が見つかりました。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域記述は、サーバーの `names.ora` 構成ファイルに格納されています。

解決方法: `names.ora` の `names.admin_region` パラメータが正しいかどうかを確認してください。`names.ora` ファイルは、Oracle Network Manager によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00251: 管理領域パラメータ *str* がありません。

原因: サーバーの管理領域記述に必要なパラメータがありません。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域記述は、サーバーの `names.ora` 構成ファイルに格納されています。

解決方法: `names.ora` の `names.admin_region` パラメータが正しいかどうかを確認してください。`names.ora` ファイルは、Oracle Network Manager によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00252: 管理領域パラメータ *str* の値 *str* が無効です。

原因: サーバーの管理領域記述に無効なパラメータがあります。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域記述は、サーバーの `names.ora` 構成ファイルに格納されています。

解決方法：names.ora の names.admin_region パラメータが正しいかどうかを確認してください。names.ora ファイルは、Oracle Network Manager によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00253: 管理領域パラメータ *str* の長さ *str* が最大値 *str* を超えました。

原因：サーバーの管理領域記述に長さが内部制限を超えているパラメータがあります。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域記述は、サーバーの names.ora 構成ファイルに格納されています。

解決方法：names.ora の names.admin_region パラメータが正しいかどうかを確認してください。names.ora ファイルは、Oracle Network Manager によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

**NNO-00254: 警告: パラメータ *str* の値は *num* から *num* までの間でなければなりません。
num 秒に設定されます。**

原因：サーバーの管理領域記述に無効な値を持つパラメータがあります。値は、多くのアプリケーションに適したデフォルト値に設定され、サーバーは処理を続けます。管理領域記述は、サーバーの names.ora 構成ファイルに格納されています。

解決方法：names.ora の names.admin_region パラメータが正しいかどうかを確認してください。names.ora ファイルは、Oracle Network Manager によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00255: ROS を初期化できません。

原因：サーバーの起動時に ROS が初期化できませんでした。このエラーにより、サーバーは停止しました。

解決方法：内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00256: 管理領域 *:str* を使用します。

原因：これは、サーバーの起動時に表示される情報メッセージです。後で管理者が診断に使用できるように、管理領域の名前を表示します。このメッセージは、通常のサーバー起動処理の一部です。

解決方法：なし。

NNO-00257: 警告 : 構成データベースからシリアル番号を取得できません。

原因 : 構成データベースのシリアル番号を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。多くの場合、このエラーはサーバーの構成が Netadmin プログラムからエクスポートされていないために発生します。また、このエラーは、サーバーが構成データベースにアクセスできない場合にも発生します。このエラーがサーバーの起動時に発生すると、サーバーはシャットダウンします。このエラーがサーバーの操作中 (再ロード可能かどうか調べるために定期的にシリアル番号をチェックしているとき) に発生すると、サーバーは一時的な障害が起きたと判断して、しばらくしてから操作を繰り返します。連続 3 日間失敗すると、サーバーは別のエラーを記録し、シリアル番号のロード操作を停止します。

解決方法 : 最初に、Netadmin プログラムがこの Name サーバーのサーバー 構成をエクスポートしているかどうかを確認してください。次に、データベースが稼動しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。また Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。サーバーの起動時にエラーが発生した場合、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定すると、チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動させることができます。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00258: 構成データベースから構成をロードできません。

原因 : 構成データベースからサーバーの構成をロードしているときに、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

解決方法 : データベースが稼動しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00259: 構成表がインストールされていないか、アクセスできません。

原因 : 構成データベースが正しくインストールされていません。

解決方法 : Oracle Network Manager とそのデータベースが正しくインストールされているかどうかを確認してください。

NNO-00260: チェックポイント・ファイル str から構成データをロードしています。

原因 : names.no_region_database パラメータを TRUE に設定して、最新の構成チェックポイント・ファイルがサーバーにロードされると、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

解決方法 : なし。

NNO-00261: 構成チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せてください。

NNO-00262: 警告: チェックポイント・ファイル *str* に書き込めません。

原因: 指定されたチェックポイント・ファイルに書き込むことができません。この問題は、ファイル・システムの保護設定が原因で発生します。このエラーは致命的ではありませんが、この場合、チェックポイント・データが作成されません。構成データベースが次のサーバー起動時に使用できない場合、チェックポイント・データがないと、names.no_region_database パラメータを使用して、サーバーを強制的に起動させることができません。

解決方法: エラー・メッセージに示されたファイルに対する書き込み許可がサーバーにあるかどうかを確認してください。

NNO-00263: 構成データベースでエラーが発生しました。

原因: 構成データベースへのアクセス中に、エラーが発生しました。データベースが使用できない場合、またはデータベースとの SQL*Net 接続が切断されている場合にも、このエラーは発生します。

解決方法: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00264: 構成データベース問合せがデータを戻しませんでした。

原因: 構成データベースからデータをフェッチしようとしたますが、データが見つかりませんでした。

解決方法: このエラーは、より具体的なエラーの次に示されます。問題の原因は、そのエラーを調べてください。

NNO-00265: 警告: チェックポイント・ファイルからデータをロードできません。

原因: チェックポイント・データを使用してサーバーを起動しようとしたますが、チェックポイント・データが読み込めませんでした。エラー・スタック上のこの後のエラーに、問題についての詳しい説明があります。

解決方法: エラー・メッセージに示されたファイルが存在するかどうか、そのファイルに対する読取り許可がサーバーにあるかどうかを確認してください。

NNO-00266: 構成データベースで文書 :str が見つかりません。

原因: 構成データベースからサーバーの構成 ID を取得しようとして、エラーが発生しました。このエラーは、サーバーが構成データベースにアクセスできない場合に発生します。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

解決方法: データベースが稼動しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動したい場合には、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00267: 警告: サーバー *str* に対するデータが構成データベースにありません。

原因: 構成データベースに正しく接続できましたが、このサーバー名に関連する構成情報が見つかりませんでした。名前は、サーバーの names.ora 構成ファイルに指定されています。多くの場合、このエラーはサーバーの構成が Netadmin プログラムからエクスポートされていないために発生します。

解決方法: Netadmin プログラムがこの Name サーバーのサーバー構成をエクスポートしているかどうかを確認してください。

NNO-00268: 警告: 構成データベースは使用されておらず、かわりにチェックポイント・データが使用されています。

原因: names.no_region_database パラメータを TRUE に設定して構成データベースにアクセスせずに、チェックポイント・データを使用してサーバーを起動すると、この情報メッセージが表示されます。

解決方法: なし。

NNO-00269: 構成データベースのバージョンは *str* ですが、サーバーにはバージョン *str* が必要です。

原因: データベースのバージョンが正しくないため、サーバーは、指定された構成データベースが使用できません。

解決方法: Network Manager 提供の文書変換を実行して、ネットワークを再度エクスポートしてください。変換ユーティリティは、古い文書を Name サーバーが認識できるバージョンにアップグレードします。

NNO-00270: ORACLE エラーです。%s *str*

原因: 構成データベースへのアクセス中に Oracle エラーが発生しました。データベースが使用できない場合、またはデータベースとの SQL*Net 接続が切断されている場合にも、このエラーは発生します。

解決方法: データベースが稼動しているかどうか、Oracle Network Manager で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動したい場合には、names.no_region_database パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00271: 警告 : names.ora 領域のバージョンは str ですが、ネットワーク定義のバージョンは str です。

原因: names.ora の領域記述がネットワーク定義と同期が取れていません。

解決方法: ネットワーク定義を使用してネーム・サーバーが実行できれば、処置は必要ありません。安全のため、ネットワーク定義と一貫性のあるもので names.ora を更新しておいてください。

NNO-00300: リスニング・アドレスが指定されていません。1 つ以上必要です。

原因: サーバーの構成でリスニング・アドレスが指定されていません。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00304: リスニング・アドレス str の長さ str が最大値 str を超えています。

原因: サーバーのリスニング・アドレスの中に、長さが内部制限を超えているものがあります。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00307: サーバー名 str が無効です。

原因: サーバーの名前が無効です。名前は、サーバーの names.ora 構成ファイルに指定されています。

解決方法: names.ora の names.server_name パラメータが正しいかどうか確認してください。names.ora ファイルは、Oracle Network Manager によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00311: リスニング・アドレスのリストが無効です。

原因: サーバーの構成に無効なリスニング・アドレスのリストがありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00312: リスニング・アドレス str が無効です。

原因: サーバーの構成に無効なリスニング・アドレスがありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00313: サーバーのパスワードの長さ *str* が最大値 *str* を超えています。

原因: サーバーのパスワードの長さが内部制限を超えています。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00314: *num* から *num* ヘトレース・レベルを変更中にエラーが発生し、レベル変更は無視されました。

原因: Oracle Names 制御プログラムの要求に応答して、トレース・レベルを変更しようとしたときに、エラーが発生しました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せしてください。

NNO-00320: サーバー名パラメータがありません。

原因: names.server_name パラメータが見つかりません。名前は、サーバーの names.ora 構成ファイルに指定されています。

解決方法: names.ora の names.server_name パラメータが正しいかどうか確認してください。names.ora ファイルは、Oracle Network Manager によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00600: 警告: フォワーダ・カウント *num* が最大値 *num* を超えています。最初の *num* がロードされます。

原因: サーバーの構成で、デフォルトのフォワーダが多すぎます。サーバーは、指定された最大値のフォワーダをロードしますが、残りのフォワーダは無視して処理を続けます。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00601: 警告: フォワーダはありません。DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードは無視されます。

原因: サーバーの構成で DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードが使用可能になっていましたが、デフォルトのフォワーダがありませんでした。サーバーは要求を無視し、処理を続けます。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00602: 警告: フォワーダ :num に無効なアドレスがあります。フォワーダは無視されます。

原因: デフォルト・フォワーダ・リストの中に、アドレスが無効な フォワーダがありました。フォワーダ定義は無視され、サーバーは処理を続けます。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00608: 受取ったメッセージが壊れています。

原因: サーバーが壊れたメッセージを受け取りました。要求は無視されます。

解決方法: 一時的なネットワーク問題により、要求が壊れています。壊れたメッセージを多く受取った場合には、トレースをオンにして、詳しい情報を入手してください。エラーが解決しない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00609: 警告: フォワーダ num のアドレスの長さ num が最大値 num を超えています。このアドレスは無視されます。

原因: サーバーの構成で、アドレスの長さが内部制限を超えているフォワーダが見つかりました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00610: 名前 str を含む別名でループが発生している可能性があります。

原因: サーバーは、指定された名前を含む別名ループを検出しました。ある別名 "X" が別の別名 "Y" を指していて、それがアドレスや他のネーム・サーバーのデータではなく、"X" を指していると、別名ループが発生します。このループには複数のホップが含まれている場合もありますが、基本的には同じです。管理者がネットワーク・データの入力を間違えたり、ある管理領域の別名が他の管理領域のデータを指している場合に、ループが発生します。

解決方法: Oracle Names 制御プログラムを使用して、指定された名前を問合せてください。制御プログラムは別名パスを記述するので、この情報を使用して、正しくない名前と間違ったデータのある管理領域を探してください。

NNO-00622: 警告: 名前 :str の自動リフレッシュの失敗が多すぎます。問合せは時間切れです。

原因: 自動リフレッシュ問合せが発行されて、連続して 3 日間エラーが戻されると、自動リフレッシュ・キューから問合せが削除され、警告がログに書き込まれます。この問合せは、Oracle Names 制御プログラムから再起動することができます。

解決方法: このメッセージの前に出された数値の警告が、失敗した問合せを示しています。Oracle Names 制御プログラムを使用して、失敗した問合せを調べてください。問合せを要求されたサーバーが稼動しているかどうか、問合せを発行したサーバーと要求されたサーバーの間でネットワーク接続が確立しているかどうかを確認してください。

NNO-00626: DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードを使用可能にできません。デフォルトのフォワーダがありません。

原因: Oracle Names 制御プログラムが、DEFAULT FORWARDERS-ONLY モードを使用可能にするために要求を発行しましたが、サーバーにデフォルトのフォワーダがないため、要求は無視されました。

解決方法: なし。

NNO-00629: 警告: フォワーダ・リストが無効です。デフォルト・フォワーダがロードされていません。

原因: サーバーの構成に無効なフォワーダ記述リストがありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00631: 警告: フォワーダ *num* に無効な名前 *str* がありました。フォワーダは無視されます。

原因: サーバーの構成で、サーバー名が無効なフォワーダ記述がありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00632: 警告: フォワーダ *:num* のアドレスがありません。フォワーダは無視されます。

原因: サーバーの構成で、アドレスのないフォワーダ記述がありました。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00633: サーバー *str* を含む致命的な委任ループが発生しています。

原因: 要求の先送り中に、致命的な委任ループが検出されました。サーバーのトポロジ・データで要求自身への先送りが指定されていると、ループが発生します。このエラーが発生すると、サーバーはすぐにシャットダウンします。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNO-00634: 認証名 *str* を受け取りましたが、すでに認証があります。

原因: サーバー "X" が別のサーバー "Y" から認証データを受取りましたが、サーバー "X" は、そのデータの認証をすでに持っていました。サーバー "X" が要求されたデータの認証を持っている場合には、要求を別のサーバーに先送りしないので、このような状況は発生しません。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せってください。

NNO-00635: 警告: 重複したフォワーダ *:str* を無視します。

原因: サーバーのデフォルト・フォワーダ・リストに重複したサーバーが見つかりました。重複は無視され、サーバーは処理を続けます。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NNO-00700: 警告: キャッシュ・チェックポイントができません。 *num* 秒後に再試行します。

原因: 通常の定期的なキャッシュ・チェックポイントができません。キャッシュ・チェックポイント・ファイルに書込めない可能性があります。サーバーの起動時に、キャッシュ・チェックポイント・ファイルの名前が情報メッセージとして示されます。

解決方法: キャッシュ・チェックポイント・ファイルに対する書込み許可がサーバーにあり、ファイルに書込むのに十分なディスク容量があるかどうかを確認してください。

NNO-00701: 警告: チェックポイント・ファイル名を作成できません。チェックポイントは使用不可です。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。

解決方法: 内部エラーは、通常ユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに問合せしてください。

NNO-00705: 警告: チェックポイント・ファイル *:str* をオープンできません。使用不可です。

原因: 指定されたチェックポイント・ファイルがオープンできないため、書込めません。この問題は、ファイル・システムの保護設定が原因で発生します。このエラーは致命的ではありませんが、この場合、キャッシュはチェックポイントされません。

解決方法: エラー・メッセージに示されたファイルに対する書込み許可がサーバーにあるかどうかを確認してください。

NNO-00709: キャッシュ・チェックポイント・ファイル *str* の削除が失敗しました。

原因: サーバーがキャッシュのフラッシュ (キャッシュ・チェックポイント・ファイルの削除) を試みましたが、ファイルの削除に失敗しましたが、キャッシュ・フラッシュの残りの処理が行われました。後続のエラーに、削除に失敗した理由が示されます。

解決方法: キャッシュ・フラッシュ操作の後にキャッシュ・チェックポイント操作 (この操作でファイルが再作成されます) を行わずに、再度キャッシュ・フラッシュを行うと、このエラーが発生します。最初にキャッシュ・ファイルが削除されるので、次の操作で削除しようとするとエラーが発生します。このような場合、致命的なエラーではないので、メッセージを無視してもかまいません。ただし、サーバーにファイルの削除許可がないためにエラーが発生している場合には、サーバーがファイルを削除できるようにファイル・システムの許可を変更してください。

NNO-00712: 警告: グループ *str* のキャッシュ・チェックポイントが失敗しました。

原因: 通常の定期的なキャッシュ・チェックポイントができません。キャッシュ・チェックポイント・ファイルに書込めない可能性があります。サーバーの起動時に、キャッシュ・チェックポイント・ファイルの名前が情報メッセージとして示されます。

解決方法: 解決方法: キャッシュ・チェックポイント・ファイルに対する書込み許可がサーバーにあり、ファイルに書込むのに十分なディスク容量があるかどうかを確認してください。

ネーム・サーバー・ネットワークのプレゼンテーション層 メッセージ

ネーム・サーバー・ネットワークのプレゼンテーション層： NPL-00400 ~ NPL-00420

NPL-00410: 入力された ASN.1 値が大きすぎて (str 8 進) ローカルに格納できません。

原因: 構造が大きすぎるため ASN.1 プロトコル・エンジンは ASN.1 構造を変換してホストに表示することができません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00411: 入力された ASN.1 NULL コード化でゼロでない長さ :str があります。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは不正な ASN.1 構造を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00412: 入力された ASN.1 BOOLEAN コード化で長さ :str が無効です。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは不正な ASN.1 構造を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00413: 入力された ASN.1 コード化の長さが str です。str が使用できる最大長です。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは処理するには大きすぎる不正な ASN.1 構造を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せてください。

NPL-00414: 入力された ASN.1 タイプ・タグが最大の 16383 を超えています。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは不正な ASN.1 構造を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00415: サポートされていない ASN.1 INDEFINITE-LENGTH コード化を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00416: 無効な ASN.1 コード化長 :str を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは不正な ASN.1 構造を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00417: 最長 :str より大きい ASN.1 長 (8 進) を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00418: 無効な形式の ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは不正な ASN.1 構造を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00419: 副識別子が大きすぎる ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

NPL-00420: 副識別子が 256 より大きい ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社技術サポートに問合せってください。

オブジェクト型トランスレータ・メッセージ

この章では、オブジェクト型トランスレータで出力されるメッセージを記載しています。メッセージを生成するイベントの考えられる原因と、推奨される対処措置についても説明します。

エラー・コードは、接頭辞、および重要度コード、順序番号から構成されます。接頭辞 O2 は、オブジェクト型トランスレータが発行したエラーであることを示します。その他の文字はエラーがインタフェースまたはファイル読み込み、解析解除によって発生したことを示しています。

接頭辞	意味
O2I	インタフェース・エラー
O2F	ファイルの読み込みエラー
O2U	解析解除エラー

重大度コードは 4 つあり、その意味は次の表のとおりです。

コード	意味
W	警告 - エラーですが、コンパイル可能な出力ファイルが作成されました。
S	重大なエラー。エラーを無視して出力ファイルを作成します。しかし、正しく作成されなかった可能性があります。
F	致命的なエラー - ユーザー・エラー、内部問題のため、あるいはメモリーなどのリソースが使用不能であったり、不足しているため、出力ファイルが作成されませんでした。

オブジェクト型トランスレータ初期化メッセージ

O2I-00101: USERID パラメータの値が無効です。

原因: USERID パラメータに入力された値は、無効な <ユーザー名>/<パスワード>[@<データベース名>] 文字列です。

解決方法: データベースの接続時に使用する USERID オプションは、<ユーザー名>/<パスワード>または<ユーザー名>/<パスワード>@<データベース名>の正しい組合せに設定してください。OPSS アカウントを持っている場合は USERID オプションを省略できます。その場合 OTT は、OPSS<ユーザー名>のユーザー ID を使用してデータベースに接続します。USERID オプションは、コマンド行または config ファイルでも指定できます。

O2I-00102: Oracle に接続できません。

原因: OTT が与えられたユーザー名、およびパスワード、場合によってはデータベース・リンクで Oracle に接続できませんでした。USERID オプション値が誤っています。または、USERID が入力されていない場合は、ユーザー ID の OPSS<ユーザー名>が受け入れられません。

解決方法: 現行のユーザー名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle に接続する別のプログラムを実行し、そのユーザー名とパスワードを使って接続できるかどうかを検証してください。

O2I-00103: INTYPE ファイルで、同じ HFILE ファイルを 2 つのファイル名で参照しています。

原因: 同じ HFILE ファイルを参照するのに 2 つの異なるファイル名が INTYPE ファイルで使用されているか、または同じ HFILE ファイルを参照するのにコマンド行と INTYPE ファイルで異なるファイル名が使用されています。

解決方法: HFILE ファイルは一貫して同じファイル名で参照してください。

O2I-00110: OTT のコンポーネント O2I で内部エラーが発生しました。

原因: 内部 OTT エラーが OTT のコンポーネント O2I で発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2I-00111: メモリーを割り当てられません。

原因: OTT はメモリーの割当てができませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2I-00112: HFILE ファイルに書き込みできません。

原因: HFILE ファイルに書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システムのファイル書き込み許可を持っていることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00113: HFILE ファイルが指定されていません。

原因: OTT によって生成される C 宣言の書き込み先の HFILE ファイルが指定されていません。

解決方法: コマンド行または CONFIG ファイルでグローバルな HFILE オプションを指定してください。型を記述する INTYPE ファイルのエントリで別の HFILE を指定することによって、特定の型に別の HFILE を選択している可能性があります。INTYPE ファイルの各エントリで HFILE を指定しており、HFILE のすべての型がそこに記述されている型の宣言しか必要としない場合、グローバルな HFILE オプションは省略できます。OTT の前の起動で生成された INTYPE ファイルはこれらの条件を満たしています。

O2I-00114: HFILE ファイル名が無効です。

原因: 指定された HFILE のファイル名は構文的に正しくありません。

解決方法: HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00115: HFILE ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 書き込み用の HFILE ファイルをオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込みアクセス権があることを確認してください。

O2I-00116: HFILE ファイルをクローズできません。

原因: HFILE ファイルをクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2I-00117: 内部エラーです。コンポーネント O2U のメッセージ・ファイルがありません。

原因: 内部 OTT コンポーネント O2U 用のメッセージ・ファイルが見つかりません。OTT が正しくインストールされていない可能性があります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2I-00118: ユーザー定義のこの型はデータベース内で見つかりません。

原因: INTYPE ファイルで指定されたユーザー定義型がデータベース内で見つかりません。

解決方法: 型の名前の綴りが正しいことを確認してください。この型が実際にデータベースで宣言されていることを確認してください。

O2I-00119: サブシステムで警告が報告されました。:Yn

原因: OTT によって起動されたサブシステムで警告が報告されました。その警告は「サブシステムで報告された警告」メッセージのすぐ後に続いて表示されます。

解決方法: サブシステムから報告された警告から、その原因を調べてください。

O2I-00120: サブシステムでエラーが報告されました。:

原因: OTT によって起動されたサブシステムでエラーが報告されました。そのエラーは「サブシステムで報告されたエラー」メッセージのすぐ後に表示されます。

解決方法: サブシステムから報告されたエラー・メッセージから、その原因を調べてください。

O2I-00121: CODE オプションに対する値が指定されていません。

原因: コマンド行または構成ファイルに、必要な CODE オプションが指定されていません。

解決方法: コマンド行または構成ファイルで CODE オプションを指定してください。現在、CODE オプションの値は CODE=ANSI_C、CODE=KR_C、CODE=C がサポートされています。

O2I-00122: INITFILE ファイル名が無効です。

原因: 指定された INITFILE ファイル名は構文的に正しくありません。

解決方法: INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00123: INITFILE ファイルをクローズできません。

原因: INITFILE ファイルをクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エディタで INITFILE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2I-00124: 書込み用の INITFILE ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

原因: 書込み用の INITFILE ファイルをオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。INITFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書込みアクセス権があることを確認してください。

O2I-00125: INITFILE ファイルへの書込み中にエラーが発生しました。

原因: INITFILE ファイルへの書込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システムのファイル書込み許可を持っていることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00126: SCHEMA_NAMES=FROM_INTYPE の場合は INTYPE ファイルを指定する必要があります。

原因: スキーマ名を INTYPE ファイルの指定どおりに OUTTYPE ファイルに書込むことが SCHEMA_NAMES=FROM_INTYPE オプションで要求されました。しかし、INTYPE ファイルが指定されていません。

解決方法: INTYPE ファイルの名前を指定するか、SCHEMA_NAMES オプション ALWAYS または IF_NEEDED を指定してください。

O2I-00127: 無効な INITFUNC 名

原因: INITFUNC 関数の名前が C または C++ の有効な識別子ではありません。

解決方法: INITFUNC 関数の名前を C または C++ の有効な識別子に変更してください。この名前は INTYPE ファイル内で与えられるか、コマンド・ライン上で与えられるか、あるいは INITFILE 名から導出されます。

O2I-00128: Java ファイルに書き込みできません。

原因: Java ソース・ファイルに書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システムのファイル書き込み許可を持っていることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00129: Java ファイルが指定されていません。

原因: OTT によって生成される Java 宣言を書き込むファイルが指定されていません。

解決方法: Java ファイルはそれを宣言したクラスの名前に基づいて命名されるので、このメッセージが表示されることはありません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2I-00130: Java ファイル名が無効です。

原因: 構文が正しくない Java ファイル名が指定されました。

解決方法: Java ファイル名のスペルが正しいことを確認してください。

O2I-00131: Java ファイルのオープン中にエラーが生じました。

原因: 書き込み用の Java ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: ファイル名のスペルが正しいことを確認してください。ファイルを作成または更新できるかを試し、ファイルへの書き込みアクセス権があることを確認してください。

O2I-00132: Java ファイルをクローズすることができません。

原因: Java ファイルをクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: Java ファイルを作成または更新できるかを試し、ファイルにアクセスできるかどうかを確認してください。

O2I-00133: メッセージが表示されないエラーが発生しました。

原因: このエラーの原因は報告されていません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

オブジェクト型トランスレータ解析解除メッセージ : 00200 ~ 00210

O2U-00200: OTT の機能 O2U で内部エラーが発生しました。

原因 : OTT の O2U 機能で内部 OTT エラーが発生しました。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2U-00201: 関数 o2upt() への引数が正しくありません。

原因 : 関数 o2upt() へ無効な引数が渡されました。これはエンド・ユーザーには通常発行されない内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2U-00202: 無効なデータが関数に渡されました。

原因 : 無効な値を持つ引数が関数 o2upt() に渡されました。これはエンド・ユーザーには通常発行されない内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2U-00203: 宣言される型はオブジェクト型か名前付きコレクション型でなければなりません。

原因 : INTYPE ファイルで指定された型はオブジェクト型でも名前付きコレクション型でもありません。OTT ではこれらの型の宣言しか生成できません。

解決方法 : OTT にビルトイン型を宣言するように要求しないでください。この型は事前定義済みであるため、宣言は必要ありません。この型の宣言の生成を OTT に要求しないでください。

O2U-00204: データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換できません。

原因 : 型または属性、メソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットから、コンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

解決方法 : 名前は最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットはプラットフォームに依存した方法で指定されます（UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 NLS_LANG を設定することによって指定されます）。INTYPE ファイルのキャラクタ・セットを含み、かつコンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。データベースのキャラクタ・セットはそのようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、INTYPE ファイルでシノニムを指定してください。

O2U-00205: 型名に正当な識別子の文字がありません。

原因: ユーザー定義型の名前として使用されている文字はすべて、英文字やアンダースコアなど C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。

解決方法: INTYPE ファイルの型名については明示的な変換を指定してください。

O2U-00206: 型名の文字で不正な識別子の文字があります。

原因: ユーザー定義型の名前で 1 つ以上の文字が、英文字、アンダースコア、数字など C または C++ の識別子で使用する文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

解決方法: 変換された型名にアンダースコアを追加して使用するか、INTYPE ファイルの型名に対して明示的な変換を指定してください。

O2U-00207: 属性名に正当な識別子の文字がありません。

原因: 型の属性名の文字は、英文字やアンダースコアなど C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。影響を受けた属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で明らかに不正なデータ・メンバー名がないか調べてください。

解決方法: INTYPE ファイルで属性名に対して明示的な変換を指定してください。

O2U-00208: 1 つ以上の属性名に不正な識別子の文字が含まれています。

原因: C または C++ の有効な識別子の文字に変換できない文字が属性名に 1 つ以上含まれている場合、変換できない文字はアンダースコアに置き換えられます。この型はこのような属性を 1 つ以上含みます。影響を受けた属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で、元の属性名にない余分なアンダースコアを含むデータ・メンバー名がないか調べてください。

解決方法: 必要であれば、余分なアンダースコアのあるデータ・メンバー名を使用することができます。また、INTYPE ファイルで影響のある属性名の明示的な変換を指定することもできます。

O2U-00209: 変換する属性名または関数名が見つかりません。

原因: 変換が要求されたこの名前は、現在の型の属性名または関数名ではありません。

解決方法: 名前の綴りが正しく、現在の型で定義された属性名または関数名であることを確認してください。

O2U-00210: メモリーを割り当てられません。

原因: OTT はメモリーの割り当てができませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

オブジェクト型トランスレータ型ファイル・メッセージ: 00301 ~ 00326

O2F-00301: INTYPE ファイルからの読み込み試行中にエラーが発生しました。

原因: INTYPE ファイルからの読み込み試行中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00302: メモリーを割り当てられません。

原因: OTT はメモリーの割当てができませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2F-00303: INTYPE ファイルが指定されていません。

原因: 必須オプションの INTYPE が指定されていません。

解決方法: OTT が変換する型の名前を含むファイルの名前に INTYPE オプションを設定してください。INTYPE オプションはコマンド行または CONFIG ファイルでも指定できます。

O2F-00304: INTYPE ファイル名が無効です。

原因: 指定された INTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

解決方法: INTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00305: 読み込み用の INTYPE ファイルのオープン中に、エラーが発生しました。

原因: INTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: INTYPE ファイルのファイル名の綴りが正しいことを確認してください。エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルへのアクセス権があることを確認してください。

O2F-00306: INTYPE ファイルをクローズできません。

原因: INTYPE ファイルをクローズしようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00307: INTYPE ファイルを読み込めません。

原因: INTYPE ファイルの最初のトークンが読み込めませんでした。INTYPE ファイルから読み込もうとしたときに、オペレーティング・システム・エラーが発生したか、または INTYPE ファイルの行がすべて空白行またはコメント行です。

解決方法: エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上の型指定が含まれていることを確認してください。

O2F-00308: INTYPE ファイルに型指定がありません。

原因: INTYPE ファイルに型指定がないか、または前に報告されたエラーが原因で、最初の型指定を読み込むことができません。

解決方法: 前に報告されたエラーをすべて修正してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上の型指定があることを確認してください。

O2F-00309: ユーザー定義型の名前が無効か、または指定されていません。

原因: ユーザー定義型の名前は、型指定の先頭にあるキーワード TYPE に続けて指定することになっています。有効な型名が見つかりません。

解決方法: 構文上、型指定が正しいかどうか、型名の綴りが正しいかどうかを確認してください。

O2F-00310: 識別子名が無効か、または指定されていません。

原因: AS の後ろに C または C++ の有効な識別子が必要ですが、それが見つかりません。

解決方法: 数字で始まらず、英文字、数字、アンダースコアからなる C または C++ の有効な識別子を使用してください。

O2F-00311: ファイル名が無効か、または指定されていません。

原因: 有効なファイル名が必要ですが、それが見つかりません。

解決方法: TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいファイル名を使用してください。

O2F-00312: 型バージョンの文字列が無効か、または指定されていません。

原因: 型バージョン名が必要ですが、それが見つかりません。

解決方法: TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいバージョン名を使用してください。

O2F-00313: 属性名が無効か、または指定されていません。

原因: INTYPE ファイル内に属性名が必要ですが、それが見つかりません。

解決方法: TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しい属性名を使用してください。

O2F-00314: INTYPE ファイルに AS がありません。

原因: INTYPE ファイルの構文は不正です。

解決方法: TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。

O2F-00315: 型の属性が型指定に 2 回記述されています。

原因: ユーザー定義型の属性が INTYPE ファイルの型指定に 2 回記述されています。2 番目の指定は無視されます。

解決方法: いずれかの属性を削除してください。

O2F-00316: 型指定の最後で予期せぬトークンが検出されました。

原因: INTYPE ファイルに構文エラーがあります。

解決方法: マニュアルを参照して、INTYPE ファイルの型指定が構文的に正しいことを確認してください。

O2F-00317: 書き込み用の ERRTYPE のオープン中に、エラーが発生しました。

原因: 書き込み用の ERRTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: ERRTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。ERRTYPE ファイルの作成または更新ができるか試し、ファイルへの書き込みアクセス権があることを確認してください。

O2F-00318: OUTTYPE ファイルへの書き込み中に、エラーが発生しました。

原因: OUTTYPE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システムのファイル書き込み許可を持っていることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2F-00319: OUTTYPE ファイルが指定されていません。

原因: 必須オプションの OUTTYPE が指定されていません。

解決方法: OTT によって生成された TYPE ファイルの書き込み先のファイル名を OUTTYPE オプションに設定してください。OUTTYPE オプションはコマンド行または CONFIG ファイルでも指定できます。

O2F-00320: OUTTYPE ファイル名が無効です。

原因: 指定された OUTTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

解決方法: OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00321: 書き込み用の OUTTYPE ファイルのオープン中に、エラーが発生しました。

原因: OUTTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。オペレーティング・システムのファイル・オープン許可を持っていることを確認してください。

O2F-00322: OUTTYPE ファイルをクローズできません。

原因: OUTTYPE ファイルをクローズしようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エディタで OUTTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00323: OTT の機能 O2F で内部エラーが発生しました。

原因: OTT のコンポーネント O2F で内部 OTT エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2F-00324: データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換できません。

原因: 型または属性、メソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットから、コンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

解決方法: 名前は最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットはプラットフォームに依存した方法で指定されます（UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 NLS_LANG を設定することによって指定されます）。コンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。コンパイラのキャラクタ・セット自体はそのようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、INTYPE ファイルでシノニムを指定してください。

O2F-00325: 名前の文字に正当な識別子の文字がありません。

原因: データベース・エンティティの名前として使用されている文字はすべて、英文字やアンダースコアなど C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。

解決方法: INTYPE ファイルの名前については明示的な変換を指定してください。

O2F-00326: この名前の文字に不正な識別子の文字があります。

原因: データベース・エンティティの名前で 1 つ以上の文字が、英文字、アンダースコア、数字など C または C++ の識別子で使われる文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

解決方法: 名前の綴りが正しく、名前の最後がブランク、行の終わり、または等号 ("=") で終わっているかどうかを確認してください。変換された名前にアンダースコアを追加して使用するか、INTYPE ファイルの名前に対して明示的な変換を指定します。

O2F-00327: CASE オプションの値が無効です。

原因: INTYPE ファイルで CASE オプションに指定された値は無効です。

解決方法: CASE オプションに指定した値を有効な値である SAME、LOWER、UPPER、OPPOSITE のいずれかに変更してください。

O2F-00328: INITFUNC 名が無効です。

原因: INTYPE ファイルで INITFUNC オプションに指定された関数名は C または C++ の有効な識別子ではありません。

解決方法: INITFUNC 関数の名前を C または C++ の有効な識別子に変更してください。

O2F-00329: 型またはオプションを指定してください。

原因: INTYPE ファイル内に型指定またはオプション指定が必要ですが、見つかりません。

解決方法: INTYPE ファイルに構文エラーがないか確認してください。型指定またはオプション指定を入力してください。型指定はワード TYPE で開始します。オプション指定はワード CASE または INITFILE、INITFUNC で開始します。

O2F-00330: 名前の長さが 265 バイトを超えています。

原因: INTYPE ファイルにある名前の長さが 265 バイトを超えています。

解決方法: より短い名前を選択してください。

O2F-00331: INTYPE ファイルに構文上正しくない名前があります。

原因: INTYPE ファイルで使用されている名前に引用符の数や位置の誤りなどの構文エラーがあります。

解決方法: 名前が完全に引用符で囲まれている、または左右どちらにも引用符がないことを確認してください。名前が引用符で囲まれている場合は、左の引用符と右の引用符の両方があることを確認してください。

O2F-00332: ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクは設定できません。

原因: ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクが設定されています。この機能はまだサポートされていません。

解決方法: OTT が接続するデータベースに、ユーザー定義の型を宣言してください。

O2F-00333: INTYPE ファイルに、キーワードが必要な場所に予期せぬトークンがあります。

原因: INTYPE ファイル内に TYPE などのキーワードが必要ですが、誤ったまたは綴りの正しくないキーワードが見つかりました。

解決方法: TYPE 指定がマニュアルに記述されている構文に準拠していることを検証してください。キーワードの綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00334: INTYPE ファイルにユーザー定義型が複数記述されています。

原因: 複数の型指定に同じ名前のユーザー定義型が記述されています。重複した型名指定は無視されます。

解決方法: 単一の型指定についての情報 (すべての型名および属性名) をすべて調べて、重複している型指定を削除してください。

O2F-00335: OTT の O2F コンポーネントで内部エラーが発生しました。

原因: データベース・スキーマの型をすべて解析解除する要求が出されました。データベースへのアクセス開始時に内部エラーが発生しました。

解決方法: INTYPE ファイルから解析解除してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

O2F-00336: サブシステムからエラーが報告されました。:¶n

原因: データベース・スキーマの型をすべて解析解除する要求が出されました。データベースへのアクセス時にサブシステムでエラーが発生しました。

解決方法: サブシステムから報告されたエラー・メッセージから、その原因を調べてください。INTYPE ファイルから解析解除してください。

O2F-00337: スキーマが解析できません。スキーマが空か、または Oracle への接続がありません。

原因: データベース・スキーマの型をすべて解析解除する要求が出されました。OTT は Oracle データベースに接続できないか、解析可能なユーザー型がデータベースにありません。

解決方法: OTT のログイン / パスワード文字列が指定され、Oracle データベースが OTT に接続可能かどうかを確認してください。データベースの USER_TYPES 表に少なくとも 1 行が含まれていることを確認してください。

サーバー・メッセージ : ORA-00000 ~ ORA-02350

Oracle Server: 00000 ~ 00100:

この節では、Oracle Server によって出力されるメッセージの一覧を記載します。

Trusted Oracle を使用している場合、その環境のエラー・メッセージ情報については Trusted Oracle ドキュメンテーションを参照してください。

ORA-00000: 正常に終了しました。

原因: 操作が正常に終了しました。例外事項はありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-00001: 一意制約 *table.column* が違反しています。

原因: 一意のものとして定義されている制約に重複する値を更新または挿入しようとした。

解決方法: 重複しないように値を変更するか、索引の一意性の制約を取り消してください。

ORA-00017: セッションがトレース・イベントを設定するよう要求しました。

原因: 別のセッションが現行セッションにトレース・イベントを設定することを要求しました。

解決方法: これは内部的に使用されます。処置は必要ありません。

ORA-00018: 最大セッション数を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。セッションの最大数は初期化パラメータ SESSIONS によって指定されます。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 数分してから操作を再試行してください。このエラーが頻発するときは、Oracle を停止し、パラメータ・ファイル内の SESSIONS パラメータの値を大きくしてから Oracle を再起動してください。

ORA-00019: 最大セッション・ライセンス数を超えました。

原因: ライセンスがすべて使用中です。

解決方法: セッション・ライセンス数を増やす前にオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00020: 最大プロセス数 *num* を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。プロセスの最大数は初期化パラメータ PROCESSES によって指定されます。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 数分してから操作を再試行してください。このエラーが頻発するときは Oracle を停止し、パラメータ・ファイル内の PROCESSES パラメータの値を大きくしてから Oracle を再起動してください。

ORA-00021: 他のプロセスに接続されているセッションは切り替えできません。

原因: ユーザー・セッションは現在他のユーザーによって使用されています。

解決方法: ユーザー・セッションで同時にコールを実行しないでください。

ORA-00022: セッション ID が無効なためアクセスできません。

原因: 指定されたセッションが存在しないか、またはコールを実行したユーザーがアクセス権限を持っていません。

解決方法: 有効なセッション ID を使用してください。アクセス権限を持っている（つまり、所有しているか、または CHANGE_USER 権限を持っている）有効なセッション ID を指定してください。

ORA-00023: プロセスのプライベート・メモリーを参照するセッションは切離しできません。

原因: プロセスのプライベート・メモリーを参照するセッションを切り離そうとしました。

解決方法: オープン・ネットワーク接続をしているセッション、非常に大きいコンテキスト領域を持っているセッション、オペレーティング・システム権限を持っているセッションはプロセス・メモリー (PGA) を参照することがあります。切離しを行うためには、セッションのデータベース・リンクまたはカーソルをクローズする必要があります。オペレーティング・システム権限を持っている場合での切離しは常に無効となります。

ORA-00024: シングル・プロセス・モードで複数ログインは使用できません。

原因: Oracle がシングル・プロセス・モードで起動してから、異なるプロセスから複数回ログインが行われました。

解決方法: Oracle がシングル・プロセス・モードで稼働している場合に、別のプロセスからログインするには、まず先のプロセスをログオフしてください。

ORA-00025: *num* を割当てることができません。

原因: メモリー不足のために割当てに失敗しました。

解決方法: SGA ヒープを大きくして Oracle を再起動してください。

ORA-00026: セッション ID が無効です。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッション ID 文字列が無効、または文字列が指定されていません。

解決方法: 有効なセッション ID を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00027: 現行セッションを強制終了できません。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドで現行セッションを強制終了 (キル) しようとした。

解決方法: 現行セッションは強制終了できません。別のユーザー・セッションでコマンドを使用してください。

ORA-00028: セッションは強制終了されました。

原因: 権限のあるユーザーによってセッションが強制終了 (キル) され、データベースにログインしていることができなくなりました。

解決方法: データベース管理者に連絡してください。管理者がユーザーをログアウトさせる必要のある操作を実行しようとしている可能性があります。データベースが使用可能になったことをデータベース管理者から通告されてから、再度ログインして作業を開してください。

ORA-00029: セッションはユーザーのセッションではありません。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッション ID は、ユーザー・セッションではありません。たとえば、セッションが再帰的に起動されている可能性があります。

解決方法: 有効なセッション ID を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00030: ユーザーのセッション ID が存在しません。

原因: ユーザー・セッション ID が存在しません。セッションがログアウトした可能性があります。

解決方法: 有効なセッション ID を使用してください。

ORA-00031: セッションは強制終了されます。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッションは、中断できない操作に関わっているため、ただちに強制終了できません。このような操作には、トランザクションのロールバックやネットワーク操作によるブロックなどがあります。セッションは、現行の操作の終了後、ただちに強制終了するようにマークされました。

解決方法: 処置は必要ありません。操作が完了すると、セッションは強制終了されます。さらに ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドを実行すると、セッションがより早く強制終了されます。

ORA-00032: セッション移行パスワードが無効です。

原因: セッション作成コールに指定したセッション移行パスワード無効です (長すぎます)。

解決方法: 有効な (30 文字より短い) パスワードを使用して再試行してください。

ORA-00033: 現セッションには移行パスワードが入力されていません。

原因: 現行セッションを切り離そうとしたか、または複製しようとしたが、移行パスワードが入力されていません。これは許可されていません。

解決方法: 移行パスワードを入力してセッションを作成してください。

ORA-00034: 現行 PL/SQL セッションから COMMIT および ROLLBACK できません。

原因: ALTER SESSION DISABLE COMMIT IN PROCEDURE 文で COMMIT または ROLLBACK が禁止されているセッションで、PL/SQL オブジェクト (プロシージャ、ファンクション、パッケージ) から COMMIT または ROLLBACK を発行しました。

解決方法: このセッションで PL/SQL からのコミットを許可するか、禁止されている現行セッションで COMMIT または ROLLBACK を使用しないようにしてください。

ORA-00035: LICENSE_MAX_USERS は現行ユーザー数未満にはできません。

原因: LICENSE_MAX_USERS の値に現行ユーザー数未満の数字を指定しました。

解決方法: ライセンス制限をチェックして、ユーザー数を減らすか、ライセンスを追加購入してください。

ORA-00036: 再帰 SQL レベルの最大数 *num* を超えました。

原因: 指定した数を超えて再帰 SQL を作成しようとした。

解決方法: 再帰 SQL を除去します。再帰的トリガーがある場合は、それも除去します。

ORA-00050: エンキューの取得中に O/S エラーが発生しました。O/S エラーを参照してください。

原因: Oracle エンキューに必要な OS リソースを取得できませんでした。OS 上のユーザーリソース割当てが低すぎたためです。

解決方法: オペレーティング・システム固有の Oracle ドキュメンテーションでオペレーティング・システムのエラーについて調べ、必要とされる処置を実行してください。

ORA-00051: 資源待機の間タイムアウトしました。

原因: このエラーは通常、異常終了したインスタンスに起因して発生します。

解決方法: 回復していないインスタンスを再起動してください。

ORA-00052: 最大エンキュー・リソース数 *num* が発生しました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。エンキュー資源の最大数は初期化パラメータ ENQUEUE_RESOURCES に指定します。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 数分してから操作を再試行してください。このエラーが頻発するときは、Oracle を停止し、パラメータ・ファイル内の ENQUEUE_RESOURCES の値を大きくしてから Oracle を再起動してください。

ORA-00053: 最大エンキュー数を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求し、その資源に対するエンキュー・リストが最大長に達しました。使用できない資源に対して要求が出されると、その要求はその資源を待つためにエンキューされます。資源に対して待機できる要求の数は、初期化パラメータ ENQUEUE_RESOURCES に指定します。この最大値に達するとそれ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 数分してから操作を再試行してください。このエラーが頻発するときは、Oracle を停止し、パラメータ・ファイル内の ENQUEUE_RESOURCES の値を大きくしてから Oracle を再起動してください。

ORA-00054: リソース・ビジー、NOWAIT が指定されていました。

原因: 使用できない資源に対して LOCK TABLE コマンドまたは SELECT FOR UPDATE コマンドが発行されました。NOWAIT 指定によって、コマンド・プロンプトの状態に戻されています。

解決方法: 数分してから操作を再度試みてください。または、NOWAIT の指定をなくしてコマンドを実行してください。

ORA-00055: 最大 DML ロック数を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。DML ロックの最大数はパラメータ・ファイル内の DML_LOCKS パラメータに指定します。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 数分してから操作を再試行してください。このエラーが頻発するときは、Oracle を停止し、パラメータ・ファイル内の DML_LOCKS パラメータの値を大きくしてから Oracle を再起動してください。

ORA-00056: str.name に対して DDL ロックがすでに非互換モードで設定されています。

原因: 示されたオブジェクトに対して別のユーザーがすでにロックを保持しているときに、DDL ロックを取得しようとしてしました。これは通常、解析ロックを持っている表を削除するときに発生します。

解決方法: 表を削除する前に、その表が解析ロックを持っていないことをチェックしてください。数分待ってから操作を再試行してください。

ORA-00057: 最大一時表ロック数を超えました。

原因: 一時表の数が一時表ロック数と同値または超えています。一時テーブルはしばしば大きい値のソートによって作成されます。

解決方法: TEMPORARY_TABLE_LOCKS パラメータを増やして Oracle を再起動してください。

ORA-00058: このデータベースをマウントするには、DB_BLOCK_SIZE は *num* でなければなりません (*num* ではない)。

原因: データベースを始動するときに使用した初期化パラメータ・ファイルの DB_BLOCK_SIZE の値が、そのデータベースを作成したときに使用された値と一致しません。この不一致が発生した理由としては、次のことが考えられます。

- マウントするデータベースを間違えた。
- 初期化パラメータ・ファイルを間違えた。
- DB_BLOCK_SIZE の値が変更された。

解決方法: 上記の原因に対して次のいずれかを実行してください。

- 正しいデータベースをマウントする。
- 正しい初期化パラメータ・ファイルを使用する。
- DB_BLOCK_SIZE パラメータ値を訂正する。

ORA-00059: DB_FILES の最大数を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。データ・ファイルの最大数は、パラメータ・ファイル内の DB_FILES パラメータによって設定されています。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 資源が解放されたら操作を再試行してください。このエラーが頻発する場合は、Oracle を停止させ、パラメータ・ファイル内の DB_FILES パラメータを増加させて、再起動してください。DB_FILES パラメータが、データベース作成時に設定した MAXDATAFILES パラメータ値にすでに設定されているために変更できない場合は、新しい制御ファイルを作成しなければなりません。

ORA-00060: リソース待機の間デッドロックが検出されました。

原因: ユーザー・セッションと別のセッションが、お互いにロックした資源を待機していました。このような状況をデッドロックと呼びます。デッドロックを解消するため、他のセッションが作業を継続できるように発行済みの 1 つ以上の文がロールバックされました。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

- ROLLBACK 文を発行してから、最後のコミット以降に実行したすべての操作を再実行する。
- ロックが解除されるまで少し(おそらく数分)待ってからロールバック文を再実行する。

ORA-00061: 別のインスタンスが異なった DML_LOCKS を設定をしています。

原因: 起動した共有インスタンスが DML ロックを使用し、実行中のインスタンスが使用していないか、またはこれの逆になっています。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

- DML_LOCKS を、すべてのインスタンスでゼロに設定して使用しない。
- DML_LOCKS を、すべてのインスタンスで正の整数に設定して使用する。

ORA-00062: DML_LOCKS が 0 なので、DML 全表ロックが取得できません。

原因: インスタンスは、初期化パラメータ DML_LOCKS を 0(ゼロ)にセットして起動しましたが、実行される文は全表ロック (S、または X、SRX) を必要とします。

解決方法: DML_LOCKS パラメータを 0(ゼロ)以外の値に設定してインスタンスを再起動し、文を再実行してください。

ORA-00063: 初期化パラメータ LOG_FILES の値が超えました。

原因: 初期化パラメータ LOG_FILES の値を超えました。

解決方法: LOG_FILES の値を増加して、Oracle をウォーム・スタートしてください。その値は存在するログの最大数と同値でなければなりません。データベース作成時の MAXLOGFILES を超えるために、パラメータの値を増加できないときには、新しい制御ファイルをまず作成しなければなりません。

ORA-00064: オブジェクトが大きすぎてこの O/S 上に割当てられません (num, num)。

原因: 初期化パラメータ DB_BLOCK_SIZE が、使用しているオペレーティング・システム上に割当てられる連続スペースよりも多い値に設定されています。

解決方法: DB_BLOCK_SIZE の値を小さくして、必要な連続スペースがオペレーティング・システムの容量を超えないようにしてください。

ORA-00065: FIXED_DATE を初期化できません。

原因: 適切な書式を使用しないで固定日付文字列を入力しようとした。

解決方法: 書式 YYYY-MM-DD:HH24:MI:SS を使用して日付文字列を入力してください。

ORA-00066: LOG_FILES は num ですが、num にする必要があります。

原因: このインスタンスでの REDO ログ・ファイルの最大数は他のインスタンスでの数値と同じではありません。オープンできるすべてのファイルですべてのインスタンスもオープンできなければなりません。

解決方法: LOG_FILES 初期化パラメータはすべてのインスタンスで同じになるようにしてください。

ORA-00067: 値: num (パラメータ: num) が無効です。num 以上に設定してください。

原因: 初期化パラメータの値が無効ではありませんでした。

解決方法: メッセージに指示されている値を選んでください。互換可能にするために LOG_FILES パラメータの値を変えてください。

ORA-00068: 値 num(パラメータ: num) が無効です。num 以上 num 以下に設定してください。

原因: 初期化パラメータの値が無効ではありませんでした。

解決方法: メッセージに指示されている値を選んでください。互換可能にするために LOG_FILES パラメータの値を変えてください。

ORA-00069: ロックを獲得できません -- *name* に対して表のロックが使用不能になっています。

原因: メッセージに示されている表をロックしようとして、コマンドを発行しました。表をロックできるコマンドの例としては、LOCK TABLE、ALTER TABLE ...ADD (...) などがあります。

解決方法: ALTER TABLE ... ENABLE TABLE LOCK コマンドを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-00070: コマンド *name* が無効です。

原因: 無効なデバッグ・コマンドが指定されました。

解決方法: HELP と入力して、使用可能なコマンドのリストを確認してください。

ORA-00071: プロセス番号は 1 から *num* の範囲でなければなりません。

原因: 無効なプロセス番号が指定されました。

解決方法: 有効なプロセス番号を指定してください。

ORA-00072: プロセス *name* がアクティブではありません。

原因: 無効なプロセスが指定されました。

解決方法: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00073: コマンド *name* は *num1* から *num2* の間の引数を取ります。

原因: 無効な引数番号が指定されました。

解決方法: 有効な引数番号を指定してください。HELP と入力してコマンドとその構文のリストを確認してください。

ORA-00074: プロセスが指定されていません。

原因: デバッグ・プロセスが指定されていません。

解決方法: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00075: プロセス *name* がこのインスタンス内に見つかりません。

原因: 指定されたプロセスが現行のインスタンスに記録されません。

解決方法: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00076: ダンプ *name* が見つかりませんでした。

原因: 存在しない変数を呼び出そうとしました。

解決方法: DUMPLIST と入力して使用可能なダンプのリストを確認してください。

ORA-00077: ダンプ *name* が無効です。

原因: 無効なダンプを呼び出そうとしました。

解決方法: 別のダンプを指定してください。

ORA-00078: 名前で変数をダンプできません。

原因: 名前で変数をダンプしようとしたが、この機能はシステムでサポートしていません。

解決方法: PEEK コマンドを実行してください。

ORA-00079: 変数 *var* が見つかりません。

原因: 存在しない変数をダンプしようとした。

解決方法: 有効な変数名を使用してください。

ORA-00080: 無効なグローバル領域がレベル *num* で指定されました。

原因: 無効なグローバル領域をダンプしようとした。

解決方法: PGA の場合はレベル 1、SGA はレベル 2、UGA はレベル 3 を使用してください。*extra + level* を使用して各ポインタの *extra* バイトとグローバル領域をダンプします。この場合、*extra* は 4 の倍数です。

ORA-00081: アドレス範囲 [*num1*, *num2*] が読取り不能です。

原因: 無効なメモリー・アドレス範囲を読み取ろうとしたか、書き込もうとした。

解決方法: 別のアドレスまたは長さを指定してください。

ORA-00082: *num* のメモリー・サイズが有効な [1],[2],[4]*num1num2num3num4num5* のセットではありません。

原因: POKE コマンドに無効な長さが指定されました。

解決方法: 有効な長さ (1、または 2、4、8 のいずれか) を使用してください。

ORA-00083: 警告: マップされた SGA が破壊された可能性があります。

原因: SGA が破壊された可能性があります、SGA はマップされました。

解決方法: DUMPSSGA コマンドを使用して SGA をダンプしてください。

ORA-00084: グローバル領域は PGA または、SGA、UGA でなければなりません。

原因: 無効なグローバル領域をダンプしようとした。

解決方法: PGA または、SGA、UGA を指定してください。

ORA-00085: 現行コールが存在しません。

原因: 現行のコール・ヒープをダンプしようとしたが、これは無効です。

解決方法: プロセスがコールを開始するまで待ってください。

ORA-00086: ユーザー・コールが存在しません。

原因: ユーザーのコール・ヒープをダンプしようとしたが、これは無効です。

解決方法: プロセスがコールを開始するまで待ってください。

ORA-00097: Oracle SQL 機能の使用が SQL92 *compliance* レベルではありません。

原因: SQL92 標準に準拠していない Oracle SQL 機能を使用しようとしました。

解決方法: この機能は使わないか、ALTER SESSION SET FLAGGER コマンドで適切な SQL92 準拠レベルを設定してください。

ORA-00099: リソース待機中にタイムアウトしました。PDML デッドロックの可能性あります。

原因: トランザクションで必要なリソースがビジーです。PDML トランザクションは、指定の時間内にリソースを獲得することができませんでした。この PDML トランザクションと現在システム内で稼働している他のトランザクションに関連して、デッドロックが発生している可能性があります。

解決方法: PARALLEL_TRANSACTION_RESOURCE_TIMEOUT パラメータの値を増加して、操作を再試行してください。

ORA-00100: データがありません。

原因: アプリケーションが、不明またはアクセス不能なデータを参照しました。

解決方法: このエラー条件をアプリケーション内で処理するか、アプリケーション・コードに適切な変更を加えます。注意: アプリケーションで ANSI モード SQL ではなく Oracle モードの SQL を使用している場合は、ORA-00100 のかわりに ORA-01403 が出力されます。

マルチスレッド・サーバー : 00101 ~ 00149

この節では、マルチスレッド・サーバーで生成されるメッセージを記載します。

ORA-00101: 初期化パラメータ MTS_DISPATCHERS の指定が無効です。

原因: MTS_DISPATCHERS パラメータの構文が正しくありません。

解決方法: 初期化パラメータ・ファイルに正しい構文で MTS_DISPATCHERS パラメータを指定し、インスタンスを停止してから再起動してください。

ORA-00102: ディスパッチャはネットワーク・プロトコル *str* を使用できません。

原因: MTS_DISPATCHERS 初期化パラメータに指定されたネットワークがディスパッチャに必要な機能を持っていません。

解決方法: ディスパッチャがサポートしているネットワーク・プロトコルは、Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを参照してください。

ORA-00103: ネットワーク・プロトコルが無効です (ディスパッチャが使用します)。

原因: Net8 の CONNECT 文字列に指定されたネットワークはディスパッチャが使用します。

解決方法: CONNECT 文字列に別のネットワーク・プロトコルを指定してください。

ORA-00104: デッドロックを検出したため全共有サーバーは資源待機します。

原因: クライアントがリソースをロックしているときにエラーが発生し、その後、そのロックされた資源を要求する別のクライアントによって共有サーバーの最大数が獲得されます。最初のクライアントは共有サーバーを獲得できないので、資源に対するロックを解除できません。

解決方法: システムは新しいサーバーを自動的に起動し、サーバーの数が MTS_MAX_SERVERS で指定された値に達するまでデッドロックをブレイクします。この問題が頻繁に発生する場合、初期化パラメータの MTS_SERVERS または MTS_MAX_SERVERS の値を大きくして、次のインスタンスの再起動時に、より多くの共有サーバーを使用できるようにしてください。

ORA-00105: ネットワーク・プロトコルをサポートするようにディスパッチ機構が構成されていません。

原因: 初期化パラメータ・ファイルに指定されていないネットワーク・プロトコルに対するディスパッチャを変更するために ALTER SYSTEM SET MTS_DISPATCHERS コマンドが使用されました。

解決方法: 次のいずれかの処置をしてください。

- MTS_DISPATCHERS 初期化パラメータにネットワーク・プロトコルを指定してシステムを再起動する。
- 初期化パラメータ・ファイルに指定されているネットワーク・プロトコルで ALTER SYSTEM SET MTS_DISPATCHERS コマンドを使用する。

ORA-00106: データベースはディスパッチャ接続時には起動または停止できません。

原因: ディスパッチャを介して共有サーバー・プロセスに接続している間に、インスタンスを起動または停止しようとした。

解決方法: 専用サーバーを使用してデータベースに接続し直してください。

ORA-00107: network リスナー・プロセスに接続することができません。

原因: 通常は、ネットワーク・リスナー・プロセスが起動されていないと発生します。

解決方法: 次の点をチェックしてください。

- ネットワーク構成ファイルは正しく設定されているか。
- クライアント側のアドレスは正しく指定されているか。
- リスナー初期化パラメータ・ファイルは正しく設定されているか。

ORA-00108: 非同期接続に対するディスパッチャのセットアップができません。

原因: 通常、非同期処理をサポートしていないディスパッチャがネットワーク・プロトコルを使用すると発生します。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00111: 警告: サーバーの最大数は *num* (追加サーバー数 :*num*)

原因: MTS_MAX_SERVERS パラメータによって許可されているよりも多くの共有サーバー・プロセスを起動しようとした。起動されている共有サーバーの数がエラー・メッセージで示されます。

解決方法: より多くの共有サーバー・プロセスが必要な場合は、初期化パラメータ MTS_MAX_SERVERS を増やしてからインスタンスを再起動してください。

ORA-00112: ディスパッチャの最大数は *num* です。

原因: MTS_MAX_DISPATCHERS 初期化パラメータによって許可されているよりも多くのディスパッチャ・プロセスを起動しようとした。

解決方法: さらにディスパッチャが必要な場合は、MTS_MAX_DISPATCHERS の値を大きくしてからインスタンスを再起動し、ALTER SYSTEM MTS_DISPATCHERS コマンドを使用してディスパッチャを追加してください。

ORA-00113: プロトコル名 *:string* が長すぎます。

原因: MTS_DISPATCHERS 初期化パラメータで指定されたプロトコル名が長すぎます。

解決方法: パラメータ・ファイル内の MTS_DISPATCHERS パラメータに指定しているプロトコル名を正しく訂正してください。

ORA-00114: 初期化パラメータ MTS_SERVICE への値が存在しません。

原因: 初期化パラメータ MTS_SERVICE だけでなく、DB_NAME パラメータの値も存在しません。

解決方法: 初期化パラメータ・ファイルに MTS_SERVICE または DB_NAME の定義を追加してください。明示的に MTS_SERVICE を指定しない場合、この値はデフォルトで DB_NAME の値に等しくなります。

ORA-00115: 接続が拒否されました ; ディスパッチャ接続表の容量が限界に達しています。

原因: ディスパッチャがこれ以上接続をサポートしないために、ディスパッチャによって接続要求が拒否されました。

解決方法: 別のディスパッチャに接続するか、または専用サーバーを使用してください。

ORA-00116: MTS_SERVICE 名が長すぎます。

原因: MTS_SERVICE 初期化パラメータに指定されたサービス名が長すぎます。

解決方法: さらに短いサービス名を MTS_SERVICE 値として使用してください。(最大文字数 225 字)

ORA-00117: システム・パラメータ MTS_SERVERS が有効範囲にありません。

原因: MTS_SERVERS パラメータの値が正しくありません。

解決方法: MTS_SERVERS パラメータは 0 から MTS_MAX_SERVERS の範囲内でなければなりません。

ORA-00118: システム・パラメータ MTS_DISPATCHERS が有効範囲にありません。

原因: MTS_DISPATCHERS パラメータの値が正しくありません。

解決方法: MTS_DISPATCHERS パラメータは 0 から MTS_MAX_DISPATCHERS の範囲内でなければなりません。

ORA-00119: システム・パラメータ MTS_LISTENER_ADDRESS の指定が無効です。

原因: MTS_LISTENER_ADDRESS の構文が正しくありません。

解決方法: 正しい構文に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00120: ディスパッチャ機能が使用可能になっていません。

原因: ディスパッチャ機能が使用可能になっていないか、またはディスパッチャ機能を使用して Oracle の実行イメージがインストールされていません。

解決方法: ディスパッチャ・プロセスを起動し、構成するための手順については、『Oracle8 Server 管理者ガイド』と Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを参照してください。

ORA-00121: MTS_SERVERS が MTS_DISPATCHERS なしで指定されています。

原因: MTS_SERVERS の定義は INIT.ORA ファイルで指定されていますが、MTS_DISPATCHERS の定義はありません。MTS_DISPATCHERS に値が指定されていない場合、共有サーバーは使用できません。

解決方法: INIT.ORA ファイルで MTS_DISPATCHERS の定義を追加してください。共有サーバーを使用しない場合は、MTS_SERVERS の定義を削除してください。

ORA-00122: ネットワーク構成を初期化できません。

原因: Oracle は Net8 バージョン 2 を初期化できませんでした。

解決方法: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

ORA-00123: アイドル状態の共有サーバーが終了しています。

原因: 共通の待ち行列で待機中の、アイドル状態のサーバーの数が多すぎます。

解決方法: これは内部的に使用されます。処置は必要ありません。

ORA-00124: MTS_DISPATCHERS が MTS_MAX_SERVERS なしで指定されています。

原因: MTS_DISPATCHERS の定義は INIT.ORA ファイルで指定されましたが、MTS_MAX_SERVERS に 0 (ゼロ) が指定されました。

解決方法: MTS_MAX_SERVERS に 0 (ゼロ) より大きい値を指定してください。

Oracle*XA メッセージ : 00150 ~ 00159

ORA-00150: トランザクション ID が重複しています。

原因: 既存のトランザクションで使用されている ID で、新規のトランザクションを起動しようとした。

解決方法: アプリケーションが有効なトランザクション ID を使用していることを確認してください。

ORA-00151: トランザクション ID が無効です。

原因: 指定されたトランザクション ID は、存在する有効なトランザクションに対応していません。

解決方法: アプリケーションが有効なトランザクション ID を使用していることを確認してください。

ORA-00152: 現セッションが要求されたセッションと一致しません。

原因: 現セッションは UPIXADO() コールに渡されたものと異なっています。

解決方法: アプリケーションが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-00153: XA ライブラリで内部エラーが発生しました。

原因: XA ライブラリはスレッド固有のポインタにアクセスできませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00154: トランザクション・モニターでプロトコル・エラーが発生しました。

原因: トランザクション・モニターは AX_REG コールに対し TMJOIN を返しましたが、トランザクションはローカルに中断されました。

解決方法: トランザクション・モニタ・ベンダーの技術サポートに連絡してください。

ORA-00155: グローバル・トランザクション以外では作業を実行できません。

原因: アプリケーションが、グローバル・トランザクション以外で Oracle 7.3 server の作業を実行しようとした。

解決方法: そのアプリケーションが Oracle 7.3 server に接続されているか確認してください。リソース・マネージャが Oracle 7.3 の場合、AX_REG コールに対してトランザクション・モニターから NULL XID を返してはいけません。

分散トランザクション・メッセージ : 00160 ~ 00199:

この節には、分散トランザクション中に生成されるメッセージを記載しています。195 ページ「分散トランザクション・メッセージ : 02040 ~ 02099」を参照。

ORA-00160: グローバル・トランザクションの長さ num が最大値 num を超えています。

原因: フィールド長が長すぎる外部グローバル・トランザクション ID が渡されました。

解決方法: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00161: トランザクション・ブランチ長 num が不正です (最大許容長 num)

原因: 長すぎる、または長さが 0 の外部トランザクション・ブランチ ID が渡されました。

解決方法: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00162: 外部 DBID 長 *num* が最大値 (*num*) を超えています。

原因: フィールド長が長すぎる外部データベース名が渡されました。

解決方法: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00163: 内部データベース名の長さ *num* が最大長 (*num*) を超えています。

原因: フィールド長が長すぎる内部データベース名が渡されました。

解決方法: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

制御ファイル・メッセージ : 00200 ~ 00249

ORA-00200: 制御ファイル *name* を作成できません。

原因: 制御ファイルを作成できませんでした。これは、通常、制御ファイル用に十分なディスク記憶域がない場合、またはファイル名が重複する場合に発生します。

解決方法: 十分なディスク領域があることとファイル名の重複がないことを確認して、再度、制御ファイルを作成してください。

ORA-00201: 制御ファイルのバージョン :*num* が Oracle のバージョン :*num* と一致しません。

原因: この制御ファイルは異なる Oracle のバージョンによって作成されました。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

- コントロール・ファイルを作成するために使った Oracle バージョンで再起動する。
- CREATE CONTROLFILE を使用して、このリリースと互換性を持つように新しい制御ファイルを作成する。

ORA-00202: 制御ファイル : *name*

原因: 他のエラー・メッセージに関連するファイル名です。

解決方法: 問題の記述については関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00203: 無効な制御ファイルを使用しています。

原因: 制御ファイル内のマウント ID が、このデータベースをマウントするために最初のインスタンスで使用された制御ファイル内のマウント ID と同一ではありません。これらの制御ファイルは同一データベース用ですが、同一ファイルではありません。一方のインスタンスが制御ファイルのバックアップを使用している可能性があります。バックアップされた制御ファイルを使用する場合は、USING BACKUP CONTROLFILE オプションを使用して回復できます。

解決方法: すべてのインスタンスが正しいバージョンの制御ファイルを使用していることをチェックしてください。

ORA-00204: 制御ファイル *name* ブロック *num*、# ブロック *num* の読取り中にエラーが発生しました。

原因: 指定された制御ファイルを読み込もうとして、ディスク読込みに失敗しました。失敗したブロック位置を報告します。

解決方法: ディスクがオンラインになっていることを確認してください。オンラインになっていなければオンラインにして、Oracle を停止してから再起動してください。ディスクがオンラインになっている場合は、オペレーティング・システムの状況を調査して Oracle がディスクまたは制御ファイルを読み込めない原因を見つけてください。破損した制御ファイルの回復に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-00205: 制御ファイル *name* の識別中にエラーが発生しました。

原因: システムは指定された名前およびサイズの制御ファイルを見つけることができません。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

- 正しい制御ファイル名が初期化パラメータ・ファイルの CONTROL_FILES 初期化パラメータで、正しく指定されていることを確認した上で操作を再実行する。
- 制御ファイルを多重化している（つまり、初期化パラメータ・ファイルで複数の制御ファイルを参照している）場合、エラー・メッセージに示された制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから取り除き、インスタンスを再起動する。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成する。

ORA-00206: 制御ファイル *name* ブロック *num*、# ブロック *num* の書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 指定された制御ファイルに書き込もうとして、ディスク書き込みに失敗しました。失敗したブロック位置を報告します。

解決方法: ディスクがオンラインになっていることを確認してください。オンラインになっていなければオンラインにして、Oracle を停止してから再起動してください。ディスクがオンラインになっている場合は、オペレーティング・システムの状況を調査して Oracle がディスクまたは制御ファイルに書き込めない原因を見つけてください。破損した制御ファイルの回復に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-00207: 同一データベースに対する制御ファイルではありません。

原因: 制御ファイル内のマウント ID が、このデータベースをマウントするために最初のインスタンスで使用されたマウント ID と同一ではありません。一方のマウントで間違った制御ファイルを使用しているか、または 2 つのデータベースが同一の名前を持っている可能性があります。

解決方法: 制御ファイルを正しいデータベースに対して使用しており、旧バージョンのものでないことをチェックしてください。制御ファイルを多重化している（つまり、初

期化パラメータ・ファイルに複数の制御ファイルを指定している) 場合、エラー・メッセージで指摘された制御ファイル名を初期化パラメータ・ファイルから削除して、インスタンスを再起動してください。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成してください。

ORA-00208: 制御ファイルの名前数が制限 *num* を超えています。

原因: 原因: Oracle サポートの制限を超える数の制御ファイルを使用しようとした。制限値がエラー・メッセージに含まれています。

解決方法: Oracle を停止し、初期化パラメータ・ファイル内の CONTROL_FILES パラメータの制御ファイル名を減らしてから Oracle を再起動してください。使用していないファイルを削除してください。

ORA-00209: ブロック・サイズ: *num* が制限値: *num* バイトを超えています。

原因: 最大ブロック・サイズを超えるブロック・サイズを指定しました。

解決方法: エラー・メッセージに指示されたサイズまでブロック・サイズを減らしてから操作を再試行してください。

ORA-00210: 制御ファイル *name* がオープンできません。

原因: 制御ファイルをオープンできません。

解決方法: 制御ファイルが存在し、記憶装置がオンラインになっており、また、ファイルが他のプログラムによってロックされていないことを確認した上で操作を再試行してください。また、プロセスあたりのオープン可能なファイル数に対するオペレーティング・システムの制限を超えていないことを確認してください。

制御ファイルを多重化している (つまり、初期化パラメータ・ファイルに複数の制御ファイルを指定している) 場合、メッセージに示された制御ファイル名を参照する初期化パラメータ・ファイルからパラメータを削除して、インスタンスを再起動してください。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成してください。

ORA-00211: 制御ファイル *name* が、前の制御ファイルと一致しません。

原因: 指定された制御ファイルは別のデータベースのものです。

解決方法: データベースに対する正しい制御ファイルを探し出して指定してください。制御ファイルを多重化している (つまり、初期化パラメータ・ファイルに複数の制御ファイルを指定している) 場合、エラー・メッセージで指摘された制御ファイル名を初期化パラメータ・ファイルから削除して、インスタンスを再起動してください。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成してください。

ORA-00212: ブロック・サイズ *num* が必要最小サイズ *num* バイト未満です。

原因: 指定したブロック・サイズが小さすぎます。システムのオーバーヘッドに対する追加領域が必要です。

解決方法: より大きいブロック・サイズを指定して操作を再試行してください。

ORA-00213: 制御ファイル *name* が再使用できません。古いファイル・サイズは *num* で、*num* が必要です。

原因: 制御ファイルを再使用するためには、前に使用したものと同じファイル・サイズでなければなりません。

解決方法: CREATE DATABASE 文の中で、REUSE を指定しないでください。

ORA-00214: 制御ファイル *name* の Ver.*num* はファイル *name* の Ver.*num* と適合しません。

原因: 使用した制御ファイルとデータ・ファイルおよびログ・ファイルのバージョンが一致しません。

解決方法: 正しい制御ファイル、データ・ファイルおよびログ・ファイルの組を使用してください。つまり、ファイルはすべて同じデータベースに対するもので、同時期のものでなければなりません。

ORA-00215: 少なくとも 1 つの制御ファイルが必要です。

原因: 制御ファイルが指定されていません、または、指定した制御ファイルが存在しません。

解決方法: 少なくとも 1 つ有効な制御ファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-00216: 8.0.2 の制御ファイルは、移行用にサイズ変更できません。

原因: リリース 8.0.2 で作成された制御ファイル内のレコードが欠けています。これ以降のリリースを実行しようとするとき、制御ファイルのサイズを変更することによって欠けているレコードが自動的に追加されますが、このサイズ変更に失敗しました。

解決方法: サイズ変更失敗のため、アラートログを調べてください。制御ファイルにスペースを追加して解決されるようであれば、追加してください。解決しなければ、トレース・ファイルにダンプされた CREATE CONTROLFILE を使用して新しい制御ファイルを作成してください。

ORA-00217: 制御ファイル *name* の物理ブロック・サイズ *num* が *num* に適合しません。

原因: システムの物理ブロック・サイズが制御ファイルのブロック・サイズと一致しません。

解決方法: 無効な制御ファイルではシステムは動作しません。有効な制御ファイルを復元するかデータベースを再作成する必要があります。制御ファイルを多重化している（つまり、初期化パラメータ・ファイルに複数の制御ファイルを指定している）場合、エラー・メッセージで指摘された制御ファイル名を初期化パラメータ・ファイルから削除して、インスタンスを再起動してください。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル

名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成する。

ORA-00218: 制御ファイル *name* がブロック・サイズ *num* で作成されましたが、現在は *num* です。

原因: 制御ファイルのヘッダー内に指定されている物理ブロック・サイズが、O/S によって戻された物理ブロック・サイズと異なっています。通常、これは制御ファイルが破壊されていることを示しています。

解決方法: 破壊されていない制御ファイルのコピーを復元してください。制御ファイルおよび回復の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「制御ファイル」、「制御ファイルのバックアップ」、「制御ファイル、回復と～」を参照してください。

ORA-00219: 制御ファイル・サイズ *num* が最大数 *num* を超えました。

原因: CREATE DATABASE 文に指定した初期化パラメータの組合せの結果として、制御ファイルのサイズが内部最大値を超えました。

解決方法: データベースを再作成しなければなりません。『Oracle8 Server 管理者ガイド』に説明されているように、CREATE DATABASE 文では、MAXDATAFILES や MAXLOGFILE などの句の最大許容値よりも小さい値を使用してください。

ORA-00220: 制御ファイル *name* は最初のインスタンスによってマウントされていません。

原因: 指定された制御ファイルは、他のマウントされている制御ファイルとは異なるマウント ID を持っています。これは、データベースをマウントした最初のインスタンスがこの制御ファイルを使用しないことを意味します。

解決方法: 正しい制御ファイルを見つけて使用してください。

ORA-00221: 制御ファイルに対する書込みエラーが発生しました。

原因: 1 つ以上の制御ファイルへの書込み中にエラーが発生しました。

解決方法: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

ORA-00222: ディスパッチャを使用して制御ファイルを問合せすることはできません。

原因: ディスパッチャに接続されたクライアント・プロセスを使用しようとして、メモリー所要量の限界のために制御ファイルを問い合わせることはできません。

解決方法: インスタンスに直接接続してから問い合わせを実行してください。

ORA-00223: 変換ファイルが無効またはバージョンが正しくありません。

原因: Oracle7 から Oracle8 への変換ファイルが、無効なデータを含んでいるか、または別のバージョンの移行ユーティリティによって作成されました。このエラーは、"ALTER DATABASE CONVERT" コマンドの発行時に、間違った ORACLE_HOME 環境変数を指定した場合にも発生します。

解決方法: 正しいバージョンの変換ファイルを使用するか、または移行ユーティリティで変換ファイルを再生成してください。移行ユーティリティが実行可能な Oracle8

RDBMS と同じバージョンであることと、ORACLE_HOME 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

ORA-00224: 指定されたファイルはコントロール・ファイルではありません。

原因: 初期化パラメータに指定されたファイルは制御ファイルではありません。

解決方法: 初期化パラメータ・ファイルを編集し正しい制御ファイル名を指定してください。

ORA-00225: 制御ファイル *name* に必要なサイズ *num* が実際のサイズ *num* と異なっています。

原因: 制御ファイルのヘッダーに指定されている制御ファイルに必要なサイズと実際のオペレーティング・システムの制御ファイルのサイズが異なっています。通常、これは制御ファイルが破壊されていることを示しています。

解決方法: 破壊されていない制御ファイルのコピーを復元してください。制御ファイルおよび回復の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「制御ファイル」, 「制御ファイルのバックアップ」, 「制御ファイル、回復と～」を参照してください。

ORA-00226: 代替制御ファイル・オープン中は操作できません。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。このプロセスでは固定表アクセス用に代替制御ファイルがオープンされています。

解決方法: cfileUseCurrent をコールした後、操作を再試行してください。

ORA-00227: 制御ファイルで壊れたブロックが見つかりました。(ブロック *num*, # ブロック *num*)

原因: 制御ファイルの読取り中に、ブロック見出しの破損またはチェックサム・エラーが検出されました。

解決方法: CREATE CONTROLFILE または RECOVER DATABASE USING BACKUP CONTROLFILE コマンドを使用してください。

ORA-00228: 代替制御ファイル名の長さが最大値: <数値> を超えています。

原因: cfileSetSnapshotName または cfileUseCopy のパラメータとしてファイル名が指定されましたが、このオペレーティング・システムのファイル名の最大長を超えています。

解決方法: ファイル名を短くして操作を再試行してください。

ORA-00229: 処理不可: すでにスナップショット制御ファイル・エンキュを保持しています。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。現在、このプロセスでスナップショット制御ファイル・エンキュを保持しています。

解決方法: cfileUseCurrent をコールしてスナップショット制御ファイル・エンキュを開放した後、操作を再試行してください。

ORA-00230: 操作が許可されません。スナップショット制御ファイルエンキューは実行できません。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。現在、他のプロセスでスナップショット制御ファイル・エンキューを保持しています。

解決方法: スナップショット制御ファイル・エンキューを保持している並行操作が終了してから操作を再試行してください。

ORA-00231: スナップショット制御ファイルの名前が指定されていません。

原因: cfileMakeAndUseSnapshot または cfileUseSnapshot 呼び出しの間に、スナップショット・制御ファイルのファイル名が指定されていないことがわかりました。

解決方法: 最初に cfileSetSnapshotName をコールし、スナップショット制御ファイル名を指定してください。

ORA-00232: スナップショット制御ファイルは存在していないか、壊れているか、あるいは読取り不能です。

原因: cfileUseSnapshot 呼び出しの間に、スナップショット制御ファイルが存在しないか、不正か、読込み不可であることがわかりました。

解決方法: cfileMakeAndUseSnapshot を再コールまたは初回コールしてください。

ORA-00233: コピー制御ファイルが不正か、読込み不可です。

原因: cfileUseCopy 呼び出しの間に、指定のコピー制御ファイルが不正か、読込み不可であることがわかりました。

解決方法: cfileUseCopy と同じファイル名を指定して ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドを実行してから、cfileUseCopy を再試行してください。

ORA-00234: スナップショットかコピー制御ファイルの識別エラー、またはオープン・エラー。

原因: cfileUseSnapshot または cfileMakeAndUseSnapshot、cfileUseCopy 呼び出しで、指定の名前のスナップショットまたはコピーの制御ファイルが、検出されないか、オープンできません。

解決方法: cfileMakeAndUseSnapshot または ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE を使用して、スナップショットまたはコピー制御ファイルをそれぞれ再作成します。

ORA-00235: 同時更新されたため制御ファイル固定テーブルが矛盾しています。

原因: 制御ファイルの更新アクティビティが同時に実行されたので、制御ファイル固定テーブルの問合せで、矛盾した情報が読み取られました。

解決方法: 操作を再試行してください。

ORA-00236: スナップショット処理不可: マウントされた制御ファイルはバックアップです。

原因: 制御ファイルとしてバック・アップ制御ファイルがマウントされているときに、`cfileSetSnapshotName` または `cfileMakeAndUseSnapshot`、`cfileUseSnapshot` を呼び出そうとしました。

解決方法: 現行の制御ファイルをマウントして操作を再試行してください。

ORA-00237: スナップショット操作が許可されません。制御ファイルは新しく作成されました。

原因: `CREATE CONTROLFILE` で新規に作成された制御ファイルをマウントしているときに、`cfileMakeAndUseSnapshot` を呼び出そうとしました。

解決方法: 現行の制御ファイルをマウントして操作を再試行してください。

ORA-00238: データベースの一部であるファイル名を再使用します。

原因: `ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE` コマンドまたは `cfileSetSnapshotName` のパラメータとして渡されたファイル名が、現行のデータベースの一部であるファイル名と一致します。

解決方法: 別のファイル名を使用して操作を再試行してください。

アーカイブおよび回復メッセージ : 00250 ~ 00299

この節では、データベースのアーカイブまたは回復の進行中に生成されるメッセージを記載します。

ORA-00250: アーカイバが起動していません。

原因: 自動アーカイブを停止しようとしたが、アーカイバ・プロセスは実行されていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-00251: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST は、LOG_ARCHIVE_DEST と別でなければなりません。

原因: `LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST` 初期化パラメータで示される宛先が `LOG_ARCHIVE_DEST` で示される宛先と同一です。

解決方法: `LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST` か `LOG_ARCHIVE_DEST` のどちらかに別の宛先を指定してください。

ORA-00252: ログ *name*(スレッド *num*) は空であるためアーカイブできません。

原因: 指定されたログはデータベースに認識されて以来使用されていません。また、ログ・スイッチにおいてインスタンスが消滅した可能性があり、ログは空のままです。

解決方法: 空のログをアーカイブする必要はありません。REDO ログ・ファイルをアーカイブしないでください。

ORA-00253: アーカイブ・ストリング *name* の長さ *num* が制限 *num* を超えています。

原因: 指定したアーカイブ・ストリングが長すぎます。制限値がエラー・メッセージに含まれています。

解決方法: ストリングを短くして制限値を超えないようにしてから再試行してください。

ORA-00254: アーカイブ制御文字列 *archive_log_location* でエラーが発生しました。

原因: 指定されたアーカイブ・ログ位置は、アーカイブ・コマンドにおいても LOG_ARCHIVE_DEST 初期化パラメータにおいても有効ではありません。

解決方法: 有効な位置名を指定してください。

ORA-00255: アーカイブ (ログ *name*, スレッド *num*, 順序番号 *num*) 中にエラーが発生しました。

原因: アーカイブ中にエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックを調べてさらに詳しい情報を得てください。オンライン・ログが壊れている場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログを消去してください。ログが作られた後のバック・アップは使用不可能になりますが、REDO は生成できます。

ORA-00256: アーカイブ・テキスト文字列 *str* の変換中にエラーが発生しました。

原因: アーカイブ制御ストリングの処理中にエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックを調べてさらに詳しい情報を得てください。

ORA-00257: アーカイブ先がスタックです。解放されるまで、CONNECT INTERNAL のみが可能です。

原因: ARCH プロセスが REDO ログ・ファイルをアーカイブしようとしてエラーを受け取りました。問題がすぐに解決されない場合、データベースはトランザクションの実行を停止します。アーカイブ先のデバイスで REDO ログ・ファイルを格納するスペースが不足している可能性があります。

解決方法: アーカイバ・トレース・ファイルをチェックして問題の詳細な説明を調べてください。また、ARCHIVE_LOG_DEST 初期化パラメータに指定されたデバイスがアーカイブに対して適切にセットアップされていることを検証してください。

ORA-00258: NOARCHIVELOG モードの手動アーカイブではログ指定が必要です。

原因: NOARCHIVELOG モードにおいて、順序番号、またはグループ番号、ファイル名を指定しないでログ・ファイルを手動でアーカイブしようとしてしました。

解決方法: データベースが NOARCHIVELOG モードである場合、ログ・ファイルを手動でアーカイブするには、ログ・ファイルの名前、またはグループ番号、スレッドと順序番号を指定しなければなりません。

ORA-00259: ログ *name* (スレッド *num*) は現行ログです。アーカイブできません。

原因: オープン・スレッドの現行ログをアーカイブしようとしてしました。ログ・ファイルは REDO エントリを生成するために使用されるので、この操作は実行できません。

解決方法: スレッドがオープンしているインスタンスのログ・スイッチを強制実行してください。インスタンスがオープンされていない場合、データベースをオープンしなければなりません。その後、インスタンス回復はスレッドを回復できます。

ORA-00260: オンライン・ログ順序番号 *num* がスレッド *num* に対して見つかりません。

原因: ARCHIVE 文で記述されたログ順序番号に一致するオンライン・ログが指定されたスレッドにありません。このことは、次の状況で起こる可能性があります。

- このログは他の順序番号で再使用された。
- このログは消去された。
- 順序番号が現時点のログ順序番号より大きい。
- いずれのログもスレッドに存在しない。

解決方法: ARCHIVE 文を調べて、有効なログ順序番号を指定してください。

ORA-00261: ログ *name* (スレッド *num*) を現在アーカイブ中または修正中なためアーカイブできません。

原因: 他のプロセスによってログは現在アーカイブされているか、または管理コマンドがログを実行・修正中です。消去、番号の付加、番号の削除、ログの削除によってログを修正します。

解決方法: 現在の操作が終了するのを待って、再試行してください。

ORA-00262: 現行ログ *name* (スレッド *num*) は切換えできません。

原因: ログはクローズされたスレッドの現行ログですから、消去したり手動でアーカイブしたりはできません。別のログを現行ログにするためにログを切り換えることはできません。このスレッドに対する他のすべてのログをアーカイブし消去する必要があり、再使用できません。

解決方法: 同じスレッドの中の別のログを最初にアーカイブするか、他のログをすべて消去してください。切換えができない原因を引き起こす付随するエラーを調べてください。

ORA-00263: スレッド *num* でアーカイブを必要とするログがありません。

原因: このスレッドにあるアーカイブされていないログを手動でアーカイブしようとしたが、アーカイブが必要なログがありません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-00264: 回復は必要ありません。

原因: どのような種類の回復も必要ないファイルに対して媒体回復を行おうとしました。

解決方法: 選択したファイルに対して媒体回復を行わないでください。ファイル名が適切に指定されていることを調べます。そうでない場合には適切なファイル名を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00265: インスタンス回復が必要ですが、ARCHIVELOG モードに設定できません。

原因: データベースがクラッシュしたか、または ABORT オプションによって停止されました。オンライン・ログがデータ・ファイルを回復するには不十分な可能性があるため、媒体回復を使用可能にすることはできません。

解決方法: データベースをオープンしてから、NORMAL または IMMEDIATE を指定して SHUTDOWN コマンドを入力してください。

ORA-00266: アーカイブ済みログ・ファイルの名前が必要です。

原因: 媒体回復中にアーカイブ済みログ・ファイルの名前を入力するように要求されましたが、入力しませんでした。

解決方法: 正しいログ・ファイルをマウントして、要求された時点でその名前を入力してください。

ORA-00267: アーカイブ済みログ・ファイルの名前は必要ありません。

原因: 媒体回復中にアーカイブ済みログ・ファイルの名前が入力されましたが、名前は要求されていませんでした。

解決方法: 新たなログ・ファイルの名前を入力しないで媒体回復を継続してください。

ORA-00268: 指定されたログ・ファイルは存在しません (name)。

原因: 指定された REDO ログ・ファイルは存在しません。

解決方法: ファイル名の綴りと大文字小文字の区別を確認してからコマンドを再試行してください。

ORA-00269: 指定されたログ・ファイルはスレッド num の一部です (num ではない)。

原因: 指定された REDO ログ・ファイルは指定されたスレッドの一部ではありません。

解決方法: 適切なスレッドから REDO ログ・ファイルを使用していない場合、REDO ログ・ファイルのスレッドがコマンド行上のスレッドと一致していることを確認してください。一致していない場合は、適切なスレッドから REDO ログ・ファイルを使用してください。エラーを正してからコマンドを再試行してください。

ORA-00270: アーカイブ・ログの作成でエラーが発生しました。

原因: アーカイブ先のファイルを作成、またはオープンしているときにエラーが発生しました。

解決方法: アーカイブ先が有効であり、アーカイブ先のデバイス上に十分なスペースがあることを確認してください。

ORA-00271: アーカイブの必要なログは存在しません。

原因: アーカイブされていないログ・ファイルを手動でアーカイブしようとしたが、アーカイブの必要なファイルは存在しません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-00272: アーカイブ・ログ書き込みエラーが発生しました。

原因: ログ・ファイルのアーカイブ中に I/O エラーが発生しました。

解決方法: 出力デバイスが使用可能な状態にあることを確認し、発生したデバイス・エラーを訂正してください。また、アーカイブのための十分なスペースが出力デバイス上で使用可能であることを確認してください。

ORA-00273: ダイレクト・ロード・データのメディア回復は記録されていません。

原因: 媒体回復セッションで、ダイレクト・ローダーによってロードされ、REDO 情報を記録していない表が見つかりました。この表の中のブロックのいくつか、またはすべては欠陥ありとしてマークされました。

解決方法: 表を削除するか切捨てて、欠陥のあるブロックを再使用できるようにしてください。ファイルの最新のバックアップが使用できる場合、このファイルを回復してエラーを解決してください。

ORA-00274: 回復オプション: str が無効です。

原因: 無効なオプションが回復コマンドに対して指定されました。

解決方法: 構文を訂正して、コマンドを再実行してください。

ORA-00275: 媒体回復がすでに開始されています。

原因: 同一のセッションで 2 回目の媒体回復を開始しようとした。

解決方法: 最初の媒体回復セッションを完了するか、または取り消します。または媒体回復を実行するために別のセッションを開始してください。

ORA-00276: CHANGE キーワードに変更数が指定されていません。

原因: コマンド行に CHANGE キーワードが指定されましたが、変更する数が指定されていません。

解決方法: CHANGE キーワードの後に有効な変更数を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00277: UNTIL 回復フラグ str に対するオプションが無効です。

原因: UNTIL キーワードとともに使用できるのは CANCEL および CHANGE、TIME だけです。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00278: この回復ではログ・ファイル name は必要なくなりました。

原因: 指定した REDO ログ・ファイルは、現行の回復処理のために必要ではなくなりました。

解決方法: 処置は必要ありません。アーカイブされた REDO ログ・ファイルを必要に応じて、現行位置から削除すると、ディスク領域を節約できます。ただし、将来、別の回復セッションにこの REDO ログ・ファイルが必要になることもあります。

ORA-00279: スレッド num には、name で生成された num 変更が必要です。

原因: 回復処理を進めるには要求されたログが必要です。

解決方法: コマンドに要求されたログを指定するか、または回復処理を取り消してください。

ORA-00280: 変更 *num* (スレッド *num*) は順序番号 *num* に存在します。

原因: このメッセージは、他のエラー・メッセージで要求される REDO ログ・ファイルを指定された変更番号で配置するのに役立ちます。

解決方法: このメッセージで示された情報を使用して、他のエラーのために必要なアーカイブ済みログ・ファイルを与えてください。

ORA-00281: ディスパッチャを使用して媒体回復を実行することはできません。

原因: ディスパッチャ・プロセスを使用して媒体回復を実行しようとした。メモリー要件によって、媒体回復を実行するときにディスパッチャ・プロセス接続は使用できません。

解決方法: 専用サーバー・プロセスを介してインスタンスを接続し、媒体回復を実行してください。

ORA-00282: *name* コールはサポートされません。ALTER DATABASE RECOVER を使用してください。

原因: 指定された UPI コールは現在サポートされていません。

解決方法: すべての回復処理には、ALTER DATABASE RECOVER コマンドを使用してください。

ORA-00283: エラーによって回復セッションは取り消されました。

原因: 回復中に現行の回復セッションを終了させる致命的と判断されるエラーが発生しました。

解決方法: このエラーとともに特定のエラーがさらに発生します。適切な処置については他のエラーを調べてください。

ORA-00284: 回復セッションは継続します。

原因: 回復中に現行の回復セッションを継続できる致命的ではないと判断されるエラーが発生しました。

解決方法: このエラーとともに特定のエラーがさらに発生します。適切な処置については他のエラーを調べてください。

ORA-00285: TIME は文字列制約として指定されていません。

原因: 時間の文字列制約として UNTIL TIME が指定されていません。

解決方法: シングル・クォート (') で囲んで時間を入力してください。

ORA-00286: 有効なデータを持ったメンバーが存在しません。

原因: 使用可能な REDO ログ・ファイル・グループのメンバーが存在しないか、または使用可能なメンバーに完全なデータが含まれていません。

解決方法: メンバーが一時的にオフラインになっている場合には使用できるようにしてください。特に REDO ログ・ファイルをリモート・アクセスしている場合には、正しいファイル名を使用していることを確認してください。

ORA-00287: 指定された変更番号 *num* はスレッド *num* にはありません。

原因: 指定された変更番号は指定されたスレッドに対するオンライン REDO ログに存在しません。

解決方法: 文を調べて有効な変更番号を指定してください。アーカイブ・ログに対しては NEXT オプションを使用してみてください。

ORA-00288: 回復を継続するには ALTER DATABASE RECOVER CONTINUE を入力してください。

原因: 媒体回復において、新しいログからの REDO 情報は必要ではありませんが、チェックポイントを行い、エラーをレポートするために継続コマンドが必要です。

解決方法: ALTER DATABASE RECOVER CONTINUE を入力して、回復を再開してください。

ORA-00289: 検討すべきログ・ファイル: *filename*

原因: 初期化パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST および LOG_ARCHIVE_FORMAT によって、必要とされる次の REDO ログ・ファイル名をこのメッセージは示しています。このメッセージでは、必要とされる REDO ログ・ファイルがアーカイブされた時点で LOG_ARCHIVE_DEST と LOG_ARCHIVE_FORMAT が同一であると想定しています。

解決方法: 回復に必要なとされる次のログ・ファイルには、このファイル名を使用するようにしてください。

ORA-00290: オペレーティング・システムにアーカイブ・エラーが発生しました。次のエラーを参照してください。

原因: REDO ログ・ファイルにアーカイブを試みている途中で、サーバーにおいて予期しないオペレーティング・システムのエラーが発生しました。

解決方法: メッセージに示されているオペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-00291: PARALLEL オプションには数値が必要です。

原因: 回復コマンドが誤って指定されました。PARALLEL オプションにパラレル度を指定する引数が続かなければなりません。

解決方法: 望ましいパラレル度を指定する引数を使用してコマンドを再入力してください。

ORA-00292: パラレル回復機能がインストールされていません。

原因: パラレル回復が要求されましたが、パラレル回復オプションがインストールされていません。

解決方法: RECOVER コマンドから PARALLEL 句を削除してください。また、初期化ファイルの RECOVERY_PARALLELISM パラメータも削除してください。

ORA-00293: 制御ファイルが REDO ログと同期していません。

原因: インスタンスの起動時に現行ではない制御ファイルが指定されたので、REDO ログ・ファイルと制御ファイルが同期しません。

解決方法: 現行の制御ファイル、または USING BACKUP CONTROL FILE 句を使用して RECOVER コマンドを再試行してください。

ORA-00294: アーカイブ・ログ・フォーマットの指定子 *name* が無効です。

原因: LOG_ARCHIVE_FORMAT 初期化パラメータに、無効なフォーマット指定子が検出されました。% 記号の後に指定できる文字は、s および S、t、T だけです。

解決方法: 初期化ファイルを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-00295: データ・ファイル番号 *num* が無効です。1 以上 *num* 以下に指定してください。

原因: 無効なファイル番号が指定されました。

解決方法: 正しいデータ・ファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

REDO ログ・ファイル・メッセージ : 00300 ~ 00369

この節では、REDO ログ・ファイルがアクセスされているときに出力されるメッセージを記載します。

ORA-00300: REDO ログ・ブロック・サイズ *num* の指定が無効です。 - 制限値 *num* を超えています。

原因: オペレーティング・システムの最大ブロック・サイズより大きいブロック・サイズの REDO ログを指定しました。

解決方法: REDO ログのブロック・サイズを小さくして操作を再試行してください。

ORA-00301: ログ・ファイル *name* を追加作成することができません。

原因: ログ・ファイルの作成に失敗しました。

解決方法: 装置上に十分な記憶領域が存在すること、ファイル名が有効であること、装置がオンラインになっていることを確認した上で、操作を再試行してください。また、コマンド行で REUSE が指定されている、または誤ったサイズのファイルが存在している可能性があります。REUSE を指定しないか、または正しいサイズのファイルを使用してください。

ORA-00302: ログの制限 *num* を超えています。

原因: REDO ログ・ファイルの最大数を超えました。ログ・ファイルの数に関しては、データベース作成時に設定した制限があります (一般的には 16)。

解決方法: MAXLOGFILES の値を大きくして CREATE CONTROLFILE コマンドを実行してください。

ORA-00304: 要求した INSTANCE_NUMBER は使用中です。

原因: すでに使用中の初期化パラメータ INSTANCE_NUMBER の値を使用してインスタンスを起動しようとした。

解決方法: パラメータ・ファイル内の INSTANCE_NUMBER に対して別の値を指定するか、またはそのインスタンス番号に対する回復が終了するのを待機します。その後、インスタンスを再起動してください。

ORA-00305: ログ: name (スレッド: num) が矛盾しています。別のデータベースに属しています。

原因: REDO ログ・ファイル中のデータベース ID が、制御ファイル内のデータベース ID と一致しません。この REDO ログ・ファイルは、現行データベースのものではありません。

解決方法: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して操作を再試行してください。

ORA-00306: インスタンス数が制限数 num を超えました。

原因: このインスタンスを起動すると、このデータベースに許可されたインスタンスの最大数を超えてしまいます。パラレル (共有) モードで別のインスタンスを起動しようとするとこのエラーが発生します。

解決方法: 制限数を超えたインスタンス数を起動することはできません。最大数は、オペレーティング・システム固有の最大値または CREATE DATABASE 文で指定された MAXINSTANCES オプションの小さい方になります。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-00307: 要求した INSTANCE_NUMBER は有効範囲を超えています (最大値 num)。

原因: 初期化パラメータ INSTANCE_NUMBER に有効範囲外の数値が指定されました。

解決方法: INSTANCE_NUMBER を有効範囲内に変更してからインスタンスを再起動してください。最小値は 1 です。最大値は、オペレーティング・システム固有の最大値または CREATE DATABASE 文に指定された MAXINSTANCES オプションの小さい方になります。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-00308: アーカイブ・ログ name をオープンできません。

原因: アーカイブ REDO ログ・ファイルにシステムがアクセスできません。

解決方法: オフライン・ログが存在すること、および、記憶装置がオンラインになっていることとアーカイブ・ファイルの位置をチェックしてください。続いて、回復を続行するか、回復セッションを再開してください。

ORA-00309: ログが無効なデータベースに属しています。

原因: ログが別のデータベースに属しているため、システムがアーカイブ REDO ログにアクセスできません。

解決方法: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して操作を再試行してください。

ORA-00310: アーカイブ・ログは順序番号 num を含んでいますが順序番号 num が必要です。

原因: アーカイブ・ログの順序が間違っています。おそらく、壊れたか、回復中に違うログ・ファイルが指定されました。

解決方法: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して操作を再試行してください。

ORA-00311: アーカイブ済みログのヘッダーを読み込むことができません。

原因: アーカイブ済み REDO ログ・ファイルのファイル・ヘッダーを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。

解決方法: このメッセージとともに別のメッセージが表示されます。適切な処置については関係するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00312: オンライン・ログ *name* スレッド *num*: *str*

原因: このメッセージはファイル名を知らせます。詳細は別のエラーを参照してください。

解決方法: このメッセージとともに別のメッセージが表示されます。適切な処置については関係するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00313: ログ・グループ *name*(スレッド *name*) のメンバーをオープンできません。

原因: オンライン・ログをオープンできません。ファイルが存在すべき位置にない可能性があります。

解決方法: 必要であれば、正しい REDO ログ・ファイルを指定するかまたはログを使用可能にします。また、続いてエラー・メッセージが表示される場合にはそちらを調べてください。

ORA-00314: ログ *name* (スレッド *num*) 順序番号 *num* が *num* と一致しません。

原因: オンライン・ログが壊れているか、古いバージョンであるため、順序が違います。

解決方法: 回復手順の詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00315: スレッド *num* のログ *name* で、ヘッダーのスレッド # *num* が正しくありません。

原因: オンライン REDO ログ・ファイルに欠陥があるか、またはファイルは古いバージョンです。

解決方法: 回復作業に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00316: ログ *name* (スレッド *num*) のヘッダー・タイプ *str* はログ・ファイルではありません。

原因: オンライン REDO ログ・ファイルに欠陥があるか、またはファイルは古いバージョンです。

解決方法: 回復作業に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00317: ヘッダーのファイル・タイプ *str* はログ・ファイルではありません。

原因: これはアーカイブ済み REDO ログ・ファイルではありません。

解決方法: 回復作業に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00318: ログ *name* (スレッド *num*) のファイル・サイズ *num* は *num* と一致しません。

原因: 制御ファイルに示されたファイル・サイズが、REDO ログ・ファイル内の制御ファイルのファイル・サイズと一致しません。

解決方法: 回復作業に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00319: ログ *name* (スレッド *num*) のログ・リセット状態が無効です。

原因: オンライン REDO ログ・ファイルが、制御ファイルにリストされたものとは異なるログ・リセット・データを持っています。REDO ログ・ファイルが間違っって復元されたバックアップである可能性があります。

解決方法: 回復作業に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00320: ログ *name* (スレッド *num*) からログ・ファイル・ヘッダーを読み込めません。

原因: ファイルが使用可能でないため、システムは REDO ログ・ファイル・ヘッダーが読み込めないか、ファイルが壊れています。

解決方法: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して操作を再試行してください。

ORA-00321: ログ・ファイル・ヘッダー (ログ *name*, スレッド *num*) を更新できません。

原因: システムはログ・ファイルに対して書き込めません。

解決方法: ログ・ファイルへのアクセスを復元してから操作を再試行してください。

ORA-00322: ログ *name* (スレッド *num*) は現行コピーではありません。

原因: REDO ログ・ファイル・ヘッダーの検査によると、オンライン REDO ログ・ファイルは間違っって復元されたバックアップと判断されます。

解決方法: 回復作業に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00323: 現行ログ (スレッド *num*) は使用不可で他はすべてアーカイブが必要です。

原因: 別のオンライン・ログに切り換える必要がありますが、他のオンライン REDO ログ・ファイルはすべてアーカイブしてからでなければ使用できません。このため、スレッドをオープンしようとして失敗しました。

解決方法: スレッドに対するオンライン REDO ログをアーカイブしてから操作を再度行ってください。

ORA-00324: ログ・ファイル *name* の変換名 *name* が長すぎます。文字数 *num* が制限数 *num* を超えています。

原因: REDO ログ・ファイルの変換名が長すぎます。

解決方法: さらに短く変換される REDO ログ・ファイル名を再指定してください。

ORA-00325: アーカイブ済ログ (スレッド *num*) でヘッダー内のスレッド番号 *num* が無効です。

原因: アーカイブ済み REDO ログ・ファイルに欠陥があるか、またはファイルは別のスレッドに属しています。この REDO ログ・ファイルは使用できません。

解決方法: 正しいアーカイブ済み REDO ログ・ファイルを見つけてこれを使用し、操作を再度行ってください。

ORA-00326: ログは変更 *num* で開始します。もっと以前の変更 *num* が必要です。

原因: 回復のために供給したアーカイブ済み REDO ログ・ファイルは、必要とされる REDO ログ・ファイルの後に生成されたものです。この時点で REDO 情報を適用するためにこのログを使用することはできません。

解決方法: 正しいアーカイブ済み REDO ログ・ファイルを見つけて、インストールし、操作を再度行ってください。

ORA-00327: ログ *name* (スレッド: *num*) の物理サイズ *num* は *num* でなければなりません。

原因: REDO ログ・ファイルのサイズが小さくなっています。これは通常コンピュータ処理の誤りか、オペレーティング・システム・エラーが原因です。

解決方法: バックアップから REDO ログ・ファイルを復元してください。データベースが問題なく停止されていれば、これ以外の処置は必要ありません。そうでない場合、手作業による復元が必要になる場合があります。

ORA-00328: アーカイブ済ログは変更 *num* で終了、もっと後の変更 *num* が必要です。

原因: 回復のために供給したアーカイブ済み REDO ログ・ファイルは、必要とされるログ・ファイルの前に生成されたものです。この時点で REDO 情報を適用するためにこのログを使用することはできません。

解決方法: 正しいアーカイブ済み REDO ログ・ファイルを見つけて、インストールし、操作を再度行ってください。

ORA-00329: アーカイブ済ログは変更 *num* で開始します。変更 *num* が必要です。

原因: 回復のために供給したアーカイブ済み REDO ログ・ファイルは、正しいログではありません。もっと以前のログ・ファイルが必要です。

解決方法: 正しいアーカイブ済み REDO ログ・ファイルを見つけて、インストールし、操作を再度行ってください。

ORA-00330: アーカイブ済ログは変更 *num* で終了、変更 *num* が必要です。

原因: 回復のために供給したアーカイブ済み REDO ログ・ファイルは、正しいログではありません。もっと後のログ・ファイルが必要です。

解決方法: 正しいアーカイブ済み REDO ログ・ファイルを見つけて、インストールし、操作を再度行ってください。

ORA-00331: ログのバージョン *num* は Oracle バージョン *num* との互換性がありません。

原因: このログは互換性のない旧バージョンの Oracle で作成されました。または、無効なログを使用しようとしてしました。

解決方法: 有効な REDO ログ・ファイルを指定するか、または旧バージョンのソフトウェアを使用して、データベースを回復してください。次に Oracle を停止して、新しいソフトウェアで再起動してください。

ORA-00332: ログが小さすぎて完全にアーカイブされていない可能性があります。

原因: ログが割り当てられたスペースより小さいです。アーカイバーが書き込み中に SHUTDOWN ABORT をした可能性があります。

解決方法: 完全バージョンのファイル、つまりオンライン・バージョンが正しくアーカイブされたファイル入手し、このファイルを使って回復を実行してください。

ORA-00333: REDO ログ読取りエラー (ブロック *num*, 件数 *num*) が発生しました。

原因: REDO ログ・ファイルの読取り中にエラーが発生しました。このメッセージとともにファイル名を伝える他のエラー・メッセージが表示されます。

解決方法: ファイルへのアクセスを復元するか、またはファイルの別のコピーを入手してください。

ORA-00334: アーカイブ・ログ: *name*

原因: このメッセージは他のエラーに関係のあるファイル名を伝えます。

解決方法: 問題の記述については関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00335: オンライン・ログ *name* は存在しません。

原因: このメッセージは他のメッセージに関係のあるファイル名を伝えます。

解決方法: 他のメッセージで示される根本的な誤りを正してください。

ORA-00336: ログ・ファイルのサイズ *num* が最小ブロック *num* より小さくなっています。

原因: CREATE DATABASE 文に指定した REDO ログ・ファイルのサイズが小さすぎます。

解決方法: REDO ログ・ファイルのサイズを大きくして文を再入力してください。

ORA-00337: ログ・ファイル *name* が存在しないかサイズが指定されていません。

原因: 既存のファイルがないか、作成するファイルのサイズ指定がないために、ログ・ファイルを登録できません。

解決方法: ログ・ファイルのサイズを指定してから操作を再試行してください。

ORA-00338: ログ *name* (スレッド *num*) は制御ファイルよりも最近のものです。

原因: REDO ログ・ファイル内の制御ファイル変更順序番号は制御ファイル内の番号よりも大きくなっています。これは間違った制御ファイルが使用されていることを示しています。データベースを再オープンすることによってこのエラーが繰返し発生すると、問題を訂正しなくてもエラーが発生しなくなる可能性があります。データベースをオープンしようとするたびに、制御ファイル変更順序番号は大きくなります。

解決方法: 正しい制御ファイルを使用するか、制御ファイルのバックアップを使って回復を実行してください。

ORA-00339: アーカイブ済みログに REDO 情報が含まれていません。

原因: 適用されているアーカイブ済みログが正しいログではありません。適用されているログは、ログのコピーであるか、または現行ログとして使用されるように準備されているオンライン・ログです。

解決方法: 正しい REDO ログ・ファイルを復元してください。

ORA-00340: オンライン・ログ: *name* (スレッド: *num*) 処理中に I/O エラーが発生しました。

原因: この名前のオンライン REDO ログに対して入出力エラーが発生しました。ファイルにアクセスできなかったか、ファイルが破損している可能性があります。

解決方法: ログ・ファイルをアクセス可能にしてください。必要であればバックアップから復元してください。

ORA-00341: スレッド *num* のログ *name* で、ヘッダーのログ # *num* が正しくありません。

原因: オンライン redo ログ・ファイル内の内部情報が制御ファイル情報と一致しません。

解決方法: 回復作業に関しては、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00342: アーカイブ済みログは最後の RESETLOGS より前に作成されました。

原因: 最後の ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンド以前に作成されたログをリカバリに使用しました。そのコマンドより後に作成された、正しい REDO を収録した別のログ・ファイルが必要です。

解決方法: 正しいアーカイブ済み REDO ログ・ファイルを見つけて、インストールし、操作を再度行ってください。

ORA-00343: エラーが多すぎます。ログ・メンバーはクローズされました。

原因: このログ・メンバーに対するエラーの最大数を超えました。このメッセージとともに別のメッセージが表示されます。

解決方法: 他のメッセージで示される根本的な誤りを正してください。

ORA-00344: オンライン・ログ: *name* を再作成することができません。

原因: ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドまたは ALTER DATABASE CLEAR ログ・ファイル・コマンドの実行中に、ログ I/O に障害が発生しました。

解決方法: 後に続くメッセージを確認し、ファイルがアクセス可能かどうかを確認してください。

ORA-00345: REDO ログ書き込みエラーが発生しました (ブロック: *num*, 件数: *num*)。

原因: ログに書き込み中に入出力エラーが発生しました。ファイルがアクセス可能でなかったか、または装置の故障の可能性があります。

解決方法: ファイルをアクセス可能にするか装置を修復して、システムを再起動してください。ログが失われている場合は、媒体回復または不完全回復を行ってください。

ORA-00346: ログ・メンバーは STALE としてマークされました。

原因: ログ・ファイル・メンバーが完全ではありません。このメッセージとともに別のメッセージが表示されます。

解決方法: 他のメッセージで示される根本的な誤りを正してください。

ORA-00347: ログ :name (スレッド :num) でブロック・サイズ:num と num が一致しません。

原因: オンラインの復元中に、制御ファイルに指定されているブロック・サイズと、ログ・ファイル中のブロック・サイズが一致しません。

解決方法: バックアップから正しいログ・ファイルを復元して操作を再試行してください。

ORA-00348: 単一プロセスの REDO で障害が発生しました。インスタンスを停止してください。

原因: 単一プロセス REDO ログ操作中に障害が発生しました。このエラーは、正常な複数プロセス操作では発生しません。

解決方法: データベースをいったん停止してから再起動してください。

ORA-00349: name のブロック・サイズを確保することができません。

原因: オペレーティング・システムは、このファイルのブロック・サイズを決定することができません。

解決方法: エラー・メッセージを調べて、装置を修復するか別のファイルを指定してください。

ORA-00350: ログ :name (スレッド :num) はアーカイブが必要です。

原因: 媒体回復が使用可能になっており指定されたログはアーカイブされませんでした。

解決方法: REDO ログ・ファイルをアーカイブするか、または媒体回復を不可能にしてください。コマンドが UNARCHIVED オプションをサポートするのであれば、それを使うことができます。しかし、このようにすると、バックアップが使用不可能になったり、オフライン・ファイルが削除される場合があります。

ORA-00351: 回復時間が無効です。

原因: RECOVER DATABASE... UNTIL 文に指定された時間が 1988 年 1 月 1 日より前のものでした。

解決方法: 1988 年 1 月 1 日以後の時間を指定してください。

ORA-00352: すべてのログ (スレッド :num) をアーカイブする必要があるので、使用可能にできません。

原因: スレッドのオンライン REDO ログ・ファイルをすべてアーカイブする必要があるときに、そのスレッドを使用可能にしようとし、さらに媒体回復が使用可能になっています。スレッドに対する新たな現行ログを作成できるオンライン REDO ログ・ファイルが存在しません。

解決方法: スレッドに REDO ログ・ファイルをアーカイブしてください。

ORA-00353: ログのブロック *num* 変更 *str* 時間 *str* の近くが壊れています。

原因: ログ・ファイルの欠陥が何種類か見つかりました。このエラーでは欠陥のある位置が指摘されています。このエラーとともに表示される別のエラー・メッセージでは、欠陥の種類が示されます。

解決方法: 正しいバージョンの REDO ログ・ファイルで回復を実行するか、または指摘された変更または時間までの不完全回復を実行してください。回復および不完全回復の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「回復、不完全」および「REDO ログ・ファイル」を参照してください。

ORA-00354: REDO ログ・ブロック・ヘッダーに欠陥があります。

原因: REDO ログ・ファイル内のブロックのブロック・ヘッダーが無効です。ともに表示されるエラー・メッセージにブロック番号とタイムスタンプが示されます。

解決方法: 正しいバージョンの REDO ログ・ファイルで回復を実行するか、または欠陥のある REDO ログ・ファイルの前まで取消しベースの回復を実行してください。

ORA-00355: 変更番号に欠陥があります。

原因: REDO ログ・ファイルで先の変更番号よりも小さな変更番号が見つかりました。REDO ログ・ファイルに欠陥が存在します。先の変更番号か、またはこの変更番号において欠陥が存在します。ともに表示されるエラー・メッセージにブロック番号とタイムスタンプが示されます。

解決方法: 正しいバージョンの REDO ログ・ファイルで回復を実行するか、または指摘された時間までの時間ベースの回復を実行してください。

ORA-00356: 変更の記述に矛盾した長さが含まれています。

原因: REDO ログ・ファイル内の変更レコードに加算すると矛盾した値になる長さが含まれています。REDO ログ・ファイルに欠陥が存在します。

解決方法: 正しいバージョンの REDO ログ・ファイルで回復を実行するか、または指摘された時間までの時間ベースの回復を実行してください。

ORA-00357: ログ・ファイルに指定したメンバーが多すぎます。(最大値:*num*)

原因: メンバーの多すぎるオンライン REDO ログ・ファイル・セットを生じるようなログ・ファイルまたはログ・ファイル・メンバーの追加が行われました。メンバーの最大数は、データベース作成時に設定されます。

解決方法: REDO ログ・グループ・メンバーを減らして使用するか、または CREATE CONTROLFILE コマンドを使用して、MAXLOGMEMBERS パラメータを大きな値に設定してください。

ORA-00358: ファイル・メンバーが多すぎます(最大値:*num*)

原因: CREATE 文または ALTER 文でファイル・リストに指定されたメンバーが多すぎます。

解決方法: 設定されているファイル数制限の範囲内でファイルの数を指定するか、または CREATE CONTROLFILE コマンドを使用して、MAXLOGMEMBERS パラメータを大きな値に設定してください。

ORA-00359: ログ・ファイル・グループ :num は存在しません。

原因: 存在しないログ・ファイル・グループ番号を指定してログ・ファイル・メンバーの追加またはログ・ファイルの削除をしようとした。

解決方法: ログ・ファイルの構成を調べてから、有効なグループ番号を使用してコマンドを再試行してください。

ORA-00360: name はログ・ファイル・メンバーではありません。

原因: 削除するログ・ファイル・メンバーに無効なファイル名が指定されました。指定したファイルはデータベースの一部でないか、またはデータ・ファイルです。

解決方法: 有効なメンバー名を指定してから、コマンドを再試行してください。

ORA-00361: 最後のログ・メンバー name (グループ :num) を削除できません。

原因: REDO ログ・グループの最後のメンバーを削除しようとした。

解決方法: 必要に応じて、DROP log file コマンドを使用してログ全体を削除してください。

ORA-00362: メンバーは有効なログ・ファイル (グループ :name) を形成するために必要です。

原因: 完全なオンライン REDO ログ・ファイル・セットを形成するために必要なデータが削除されるため、ログ・ファイル・メンバーを削除する要求は拒否されました。

解決方法: 必要に応じて、DROP log file コマンドを使用して、アーカイブ後にログ全体を削除してください。

ORA-00363: ログがアーカイブ済みバージョンではありません。

原因: 回復に使用されたログは、現在のログのオンライン・バックアップに対応するバージョンではありません。このログはスレッド最終のマークがされていない可能性があります。また、CREATE CONTROLFILE コマンド中の使用可能スレッドの現在ログの出力に失敗した可能性があります。

解決方法: アーカイブ・バージョンのログを見つけてそのログの名前を指定してください。CREATE CONTROLFILE 実行直後のメディア回復の場合、現スレッドの現在ログが含まれていることを確認してください。

ORA-00364: ヘッダーを新規ログ・メンバーへ書き込めません。

原因: 既存のグループへ追加する REDO ログ・グループ・メンバーにヘッダーを書き込もうとした時点で入出力エラーが発生しました。

解決方法: 同時に出力されるメッセージを参照してください。問題を修正するか、別のファイルを使用してください。

ORA-00365: 指定したログは、正しい次のログではありません。

原因: 指定されたログは、データベースのコールド・バックアップ・イメージに対して生成されたログと一致しないことが確認されました。

解決方法: データベースのこのコピーが生成したログを探し、回復のためにファイル名を入力してください。

ORA-00366: ログ :name (スレッド :name) : ファイル・ヘッダーでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: REDO ログのファイル・ヘッダーに、ディスクから読み取ったファイル・ヘッダーから計算した値と一致しないチェックサムが含まれています。これは、ファイル・ヘッダーが破損していることを意味します。

解決方法: 正しいバージョンのログを見つけてインストールするか、ログをリセットしてください。

ORA-00367: ログ・ファイル・ヘッダーでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: REDO ログのファイル・ヘッダーに、ディスクから読み取ったファイル・ヘッダーから計算した値と一致しないチェックサムが含まれています。これは、ファイル・ヘッダーが破損していることを意味します。

解決方法: 正しいファイルを見つけて、再試行してください。

ORA-00368: REDO ログ・ファイルでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: 付随するエラーで示された REDO ブロックは無効です。REDO ブロックにブロックの内容と一致しないチェックサムがあります。

解決方法: 正しいバージョンのログで回復を実行するか、または指摘された時間までの時間ベースの回復を実行してください。アーカイブ中にこれが起きた場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログをクリアすることによって、問題ログのアーカイブをスキップすることができます。その後に、データベースの回復可能性を保証するために、それぞれのデータファイルのバックアップを取る必要があります。

ORA-00369: 現行ログ (スレッド num) は使用不可で、他のログが消去されています。

原因: REDO 生成を他のオンライン・ログに切り換える必要があるが、スレッドをオープンするのに失敗しました。しかし、他のすべてのログは消去されたので、それらを使用する前にアーカイブしなければなりません。

解決方法: ALTER DATABASE CLEAR ログ・ファイル・コマンドが依然としてアクティブな場合は、コマンドが完了するのを待ってください。アクティブでなければ、CLEAR コマンドを再入力してください。他に消去されていないスレッドのオンライン・ログがあれば、そのログをアーカイブしてください。

KCB メッセージ : 00370 ~ 00389

ORA-00371: 使用可能な空きバッファ・ハンドルがありません。

原因: 初期化パラメータ DB_HANDLES の値が小さすぎます。

解決方法: インスタンスを停止し、初期化パラメータ・ファイル内の DB_HANDLES の値を大きくしてからインスタンスを再起動してください。通常環境では、パラメータ・ファイルに DB_HANDLES の値を指定しないで、デフォルト値を採用してください。

ORA-00372: ファイル :name を修正することはできません。

原因: オフラインにしている最中のファイルをアクセスしようとしたか、またはデータベースがクローズ処理中である可能性があります。

解決方法: 完全にオフライン状態になってからファイルを再度アクセスしてください。アクセスを続けていると、データベース・ファイルがオンラインに戻ってアクセスが成功するか、または状況を改善できるようにオフライン状態のファイルを指摘するエラー・メッセージが返されます。成功するまで繰り返してください。

ORA-00373: オンライン・ログのバージョン :num は Oracle バージョン :num との互換性がありません。

原因: オンライン・ログが Oracle バージョンの <名前> と一致しないバージョンで書かれています。ログ・ファイルが旧バージョンか新バージョンの Oracle で作成された可能性があります。

解決方法: 互換性のあるバージョンを使用してデータベースを回復してから完全に停止します。その後現行ソフトウェアを使用してデータベースを再起動してください。

ORA-00374: パラメータ DB_BLOCK_SIZE = num は無効です (有効範囲 num..num)。

原因: 初期化パラメータ DB_BLOCK_SIZE に指定されている値が無効です。

解決方法: パラメータを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-00375: デフォルトの DB_BLOCK_SIZE が取得できません。

原因: システムでデフォルトの DB_BLOCK_SIZE を決定できません。

解決方法: 該当するオペレーティング・システム特有のエラーを調べてください。パラメータ・ファイルにパラメータ DB_BLOCK_SIZE とブロック・サイズを指定してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-00376: ファイル :name を読み込むことはできません。

原因: 読み込み不可能なファイルから読み込もうとしました。多くの場合そのファイルはオフラインになっています。

解決方法: ファイルの状態を調べてください。必要であればファイルをオンラインにしてください。

ORA-00377: ファイル :name のバックアップ間隔が短いと、書き込み操作の停止の原因になります。

原因: このファイルに対するバックアップの間隔が短かすぎます。新たにファイルのバックアップを開始する度に、以前に発行した (しかし、未完了の) 書き込みをすべて再発行しなければなりません。バックアップの間隔が非常に短いと、書き込みの一部が繰返して発行され、完了しない可能性があります。

解決方法: このファイルに対する hot-backup コマンドの発行間隔を長くしてください。

ORA-00378: バッファ・プール *name* が指定どおりに作成できません。

原因: バッファ数か LRU ラッチ数が少なすぎるため、指定されたバッファ・プールの構成を満たすことができません。

解決方法: バッファ数か LRU ラッチ数のどちらか、または両方を増やします。または、バッファ・プールの構成を小さくしてください。

ORA-00379: バッファ・プール *name* の中で、使用可能バッファがありません。

原因: 指定されたバッファ・プール内のすべてのバッファが使われ、使用可能なバッファはありません。

解決方法: 指定したプール内のバッファの数を増やしてください。

REDO ログ・ファイル・メッセージ: 00390 ~ 00399

この節では REDO ログ・ファイルに関するメッセージを記載します。

ORA-00390: ログ *:name* (スレッド *:num*) は消去中なので、現行ログにはなりません。

原因: 使用不可能なログが見つかったので REDO スレッドに対して新しいオンライン・ログに切り換えようとしたましたが失敗しました。このログは現在消去中であり、消去が完了したときに使用可能になります。このコマンドは消去を完了しないで終了することもあります。

解決方法: クリア・コマンドが実行中の場合は、完了するのを待ちます。打ち切られた場合は、クリア・コマンドを入力し直すか、ログを削除してください。

ORA-00391: すべてのスレッドは一度に新しいログ・フォーマットに切り替えなければなりません。

原因: 互換条件が新しいログ・フォーマット・ナンバーを強制するためにシングル・スレッドの現行のログを切り換えようとしたが許されませんでした。ログ・フォーマットを変えるときには、すべてのスレッドは同時に新しいフォーマットに切り換えなければなりません。

解決方法: データベースを開いて、調整されたログ・スイッチを作動させてください。それができない場合は、以前にデータベースを開くために使用したソフトウェア・バージョンおよび互換性設定へ戻ってください。

ORA-00392: ログ *:name* (スレッド *:num*) は消去中なので、現行ログにはなりません。

原因: このオンラインログの操作は現在消去中です。このコマンドは消去を完了しないで終了することもあります。

解決方法: クリア・コマンドが実行中の場合は、完了するのを待ちます。打ち切られた場合は、クリア・コマンドを入力し直すか、ログを削除してください。

ORA-00393: ログ *:name* (スレッド *:num*) はオフライン・データファイルの回復に必要です。

原因: オフライン・データ・ファイルを回復させるためにログは消去できません。ログがアーカイブされていないので他に使用可能なコピーはありません。このログが消去されるなら、ファイルを含むテーブル・スペースは除去されなければなりません。

解決方法: ログをアーカイブしてから再度消去コマンドを入力してください。アーカイブが不可能であり、表領域を削除するのが望ましいのであれば、消去コマンドの最後に UNRECOVERABLE DATAFILE と入力してください。

ORA-00394: アーカイブ中にオンライン・ログが再使用されました。

原因: アーカイブ中のオンライン・ログ・ファイルを再使用しようとした。

解決方法: オンライン・ログ・ファイルは上書きされています。アーカイブできません。

ORA-00395: クローン・データベースのオンライン・ログは名前を付けかえる必要があります。

原因: 主ログ・ファイルが上書きされるのを避けるため、クローン・データベース・オープンが強制的にログ・ファイルの名前を付けかえました。

解決方法: 手動か、LOG_FILE_NAME_CONVERT 初期化パラメータを使ってログ・ファイルの名前を付け換えてください。

Oracle の互換性 : 00400 ~ 00420

この節では、異なるバージョンの Oracle の通信時に出力されるメッセージを記載します。

ORA-00400: パラメータ *name* に無効なリリース値 *num* です。

原因: 初期化パラメータに与えられたリリース・レベルが無効です。

解決方法: 初期化パラメータ・ファイルのパラメータ値を修正して、再実行してください。

ORA-00401: パラメータ *:name* の値はこのリリースではサポートされません。

原因: 指定されたパラメータ値はこのリリースではサポートされません。

解決方法: 正しい値を指定するか、または該当パラメータを削除してデフォルト値が使用されるようにしてください。

ORA-00402: リリース *:num* の DB 変更はリリース *:num* では使用できません。

原因: ソフトウェアの新規リリースを必要とするデータベースに対して変更が行われました。または、オープン互換の初期化パラメータに違反するデータベースに対する変更が行われました。

解決方法: 変更を認識するソフトウェア・バージョンを使用してください。または、初期化パラメータ・ファイルの互換性要件を調整できるバージョンを使用してください。

ORA-00403: str *str* が他のインスタンスの *str* と一致しません。

原因: 回復互換または回復非互換初期化パラメータが、他のインスタンスに変更されました。

解決方法: 現インスタンスのパラメータを変更して、すでに実行している他のインスタンスに合致するようにしてください。

ORA-00404: 変換ファイルが見つかりません。: name

原因: V7 から V8 に変換するためのファイルが見つかりません。

解決方法: 正しいデータベースに対して移行プロセスが開始したことで、データベース・ファイル名がアクセス可能であることを確認してください。

ORA-00405: 互換性型 name

原因: 報告されたタイプは他のエラーに関連しています。

解決方法: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

ORA-00406: COMPATIBLE パラメータは num 以上でなければなりません。

原因: 初期化パラメータ COMPATIBLE の設定が低すぎたために、操作が実行できませんでした。

解決方法: 停止し、高い COMPATIBLE 値を指定して再起動してください。

ORA-00407: リリース num.num から num.num へのローリング・アップグレードは許可されていません。

原因: 他のインスタンスによってデータベースがマウントされており、そのインスタンスは現在ご使用のものとは異なるリリースにあります。

解決方法: すべてのインスタンスを停止し新しいリリースの Oracle で起動してください。

ORA-00408: パラメータ :name が TRUE に設定されています。

原因: 互換性エラーのパラメータを報告します。

解決方法: シャットダウンし、互換性の高い設定値で起動してください。

ライセンス・メッセージ : 00436 ~ 00437

この節では、インストールされた Oracle 製品によってライセンス・コード中に矛盾が検出された場合に生成されるメッセージを記載します。

ORA-00436: Oracle がライセンスされていません。オラクル社に連絡してください。

原因: 現在インストールされている Oracle のソフトウェアは、この CPU 上で稼働するようにライセンス許可が与えられていません。これは、Oracle を正しくインストールしていない場合にも起こります (たとえば、間違ったライセンス・コードを使用した場合)。

解決方法: Oracle が正しくインストールされていることを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00437: Oracle 機能がライセンスされていません。オラクル社に連絡してください。

原因: 現在インストールされている Oracle の機能は、この CPU 上で稼働するようにライセンス許可が与えられていません。これは、Oracle を正しくインストールしていない場合にも起こります (たとえば、間違ったライセンス・コードを使用した場合)。

解決方法: Oracle が正しくインストールされていることを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00438: *name* オプションがインストールされていません。

原因: 指定されてオプションはインストールされていません。

解決方法: オプションのコールをやめるか、オプションを購入してインストールしてください。

ORA-00439: *name* 機能が使用できません。

原因: 指定された機能が使用できません。

解決方法: この機能を使用しないでください。

分離プロセスの起動メッセージ : 00440 ~ 00460

この節では、Oracle Server のバックグラウンド・プロセスを起動および停止するときに、出力されるメッセージを記載します。

ORA-00443: バックグラウンド・プロセス *name* が起動しませんでした。

原因: 指定されたプロセスは起動しませんでした。

解決方法: 実行可能イメージが正しい保護状態で正しい位置にあること、また十分な記憶領域があることを確認してください。

ORA-00444: バックグラウンド・プロセス *:name* の起動中に障害が発生しました。

原因: 通常、このエラーはバックグラウンド・プロセス・イメージが誤っているか存在しない場合に発生します。

解決方法: ともに表示されるエラー・メッセージがあればそのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。または、正しいバックグラウンド・プロセス・イメージに基づいて、操作を再試行してください。

ORA-00445: バックグラウンド・プロセス *name* が *num* 秒間経過後起動しませんでした。

原因: 指定されたプロセスは起動しませんでした。

解決方法: 次の点をチェックし、必要であれば 1 つまたはそれ以上の点を訂正してください。

- SGA のサイズ
- オペレーティング・システム固有の初期化

- ともに出力されるメッセージ
- バックグラウンド・トレースファイル
- 実行可能なイメージが正しい保護状態で正しい位置にあるか。

さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-00446: 予期しない時にバックグラウンド・プロセスが起動されました。

原因: Oracle ですでに実行されているバックグラウンド・プロセスが起動されました。

解決方法: ともに表示されるエラー・メッセージがあればそのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、このプロセスを起動したユーザーがサイトにいない場合は、このメッセージをオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00447: バックグラウンド・プロセスに致命的なエラーが発生しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの 1 つが異常終了しました。

解決方法: システムを再起動してください。BACKGROUND_DUMP_DEST のバックグラウンド・トレース・ファイルが示している問題を確認して、必要に応じて修正してください。

ORA-00448: バックグラウンド・プロセスが正常終了しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの 1 つが特定ユーザーの要求によって正常終了しました。

解決方法: 問題を解決中の場合は、他のメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルをチェックしてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、Oracle をいったん停止してから再起動してください。

ORA-00449: バックグラウンド・プロセス :name がエラー :num で予想外の終了をしました。

原因: バックグラウンド・プロセスの機能を必要とするフォアグラウンド・プロセスによって、バックグラウンド・プロセスが停止していることが検知されました。

解決方法: そのプロセスに対するメッセージおよびトレース・ファイル中に記録されたエラー・コードを参照してください。

分離プロセスの終了メッセージ : 00470 ~ 00485

ORA-00470: LGWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: ログ・ライター・プロセスが異常終了しました。

解決方法: ともに表示されるエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。

メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスをいったん停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセ

ス・エラーが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00471: DBWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: データベースライタープロセスが異常終了しました。

解決方法: とともに表示されるエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスをいったん停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00472: PMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: プロセス・モニター・プロセスが異常終了しました。

解決方法: とともに表示されるエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスをいったん停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00473: ARCH プロセスはエラーで終了しました。

原因: アーカイブ・プロセスが異常終了しました。

解決方法: とともに表示されるエラー・メッセージがあればそのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、インスタンスをいったん停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00474: SMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: システム・モニター・プロセスが異常終了しました。

解決方法: とともに表示されるエラー・メッセージがあればそのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、インスタンスをいったん停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00475: TRWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: システム・トレーシング・プロセスが異常終了しました。

解決方法: インスタンスを再起動してください。

ORA-00476: RECO プロセスはエラーで終了しました。

原因: 分散トランザクション (2 フェーズ・コミット) の回復プロセスが停止しました。

解決方法: インスタンスを再起動してください。

ORA-00477: SNP* プロセスがエラー終了しました。

原因: スナップショット・リフレッシュプロセスが異常終了しました。

解決方法: インスタンスを再起動してください。

ORA-00480: LCK* プロセスがエラー終了しました。

原因: ロック・プロセスが異常終了しました。

解決方法: ともに表示されるエラー・メッセージがあればそのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、インスタンスをいったん停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00481: LMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: ロック・マネージャ・モニター・プロセスが終了しました。

解決方法: インスタンスをウォーム・スタートしてください。

ORA-00482: LMD* プロセスがエラー終了しました。

原因: ロック・マネージャ・デーモン・プロセスが終了しました。

解決方法: インスタンスをウォーム・スタートしてください。

ORA-00483: 停止中にプロセスが異常終了しました。

原因: インスタンス停止時にバックグラウンド・プロセスの 1 つが正常に終了しませんでした。

解決方法: SHUTDOWN ABORT コマンドを使用してください。ともに表示されるエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、その後、インスタンスを再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

インタラプト・ハンドラ・メッセージ : 00486 ~ 00569

ORA-00568: インタラプト・ハンドラの最大数を超えました。

原因: ブレーク・キーが入力されたときのために登録されているインタラプト処理ルーチンの数が、許容最大数を超えています。

解決方法: 登録されているインタラプト・ハンドラの数減らしてください。

SQL*Connect ファイルのオープンおよび読み込みメッセージ : 00570 ~ 00599

このトピックに関するメッセージは、Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3 のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

Oracle 例外メッセージ : 00600 ~ 00639

この節では、Oracle に内部例外が発生するときに出力されるメッセージを記載します。

ORA-00600: 内部エラー・コード、引数: [num], [?], [?], [?], [?], [?]

原因: Oracle のプログラム例外に対する一括内部エラー・メッセージです。プロセスに予期しない条件が発生したことを示しています。次にこのメッセージの原因をいくつか示します。

- タイム・アウト
- ファイルの破壊
- メモリー内のデータチェックのメモリー誤り
- ハードウェア、記憶、I/O の誤り
- 誤ったファイルの保存

最初の引数は内部メッセージ番号です。他の引数は各種の数値、名前、文字列です。詳細は、1-3 ページの、『オラクル社カスタマー・サポートへの連絡』を参照してください。Oracle Server バージョンによって番号の意味は異なります。

解決方法: 以下の情報を収集した後、このエラーをオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

- エラーに至るまでの経過
- エラーに至った操作
- エラー時のオペレーティング・システムおよびデータ・ベースの状況
- ORA-00600 メッセージが出力される以前に発生したなんらかの異常な状況
- エラー発生によって生成されたトレース・ファイルの内容
- アラートファイルの関連部分

注意: このメッセージの原因は異なる場合に異なるエラーとして出力されるようです。この内部エラーより前のエラーに注目してください。

ORA-00601: クリーン・アップ・ロックの競合が発生しました。

原因: プロセス・モニター・プロセスによるプロセスの回復中に、ロックの競合が発生しました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00602: 内部プログラミング例外が発生しました。

原因: 内部プログラミング例外が発生しました。

解決方法: このエラーはオラクル社カスタマー・サポートにプログラムのバグとして報告してください。

ORA-00603: 致命的なエラーが発生したため、Oracle サーバー・セッションが終了しました。

原因: Oracle サーバー・セッションは回復不能の状態にあります。

解決方法: Oracle に再ログインしてください。新規のサーバー・セッションが自動的に作成されず。詳細は、セッション・トレース・ファイルを調べてください。

ORA-00604: 再帰 SQL レベル :num でエラーが発生しました。

原因: 再帰 SQL 文の処理中にエラーが発生しました。再帰 SQL 文は、内部ディクショナリ表に適用します。

解決方法: スタックに次に表示されるメッセージに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00606: 内部エラー・コード

原因: 遅延 UPI 関数へのコールが遅延モード以外で行われました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

SQL*Connect メッセージ : 00640 ~ 00699

このトピックに関するメッセージは、Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3 のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

ディクショナリ・キャッシュ・メッセージ : 00700 ~ 00709

この節では、Oracle ディクショナリ・キャッシュがアクセスされているときに出力されるメッセージを記載します。行キャッシュはディクショナリ・キャッシュのシノニムです。

ORA-00701: データベースの起動に必要なオブジェクトを変更できません。

原因: データベースのウォーム・スタートに必要な、制御ファイルのブートストラップ・セグメント中に定義されている表、クラスタ、索引を変更しようとしたか削除しようとした。

解決方法: オブジェクト名の綴りを訂正するか、その名前を ALTER 文または DROP 文から取り除いてください。

ORA-00702: ブートストラップのバージョン *version* がバージョン *version* と矛盾します。

原因: ファイル内のブートストラップ・データのバージョンがソフトウェアの現行バージョンと互換性がありません。

解決方法: データ・ファイルと互換性のあるソフトウェアのバージョンを復元してください。

ORA-00703: ディクショナリ・キャッシュ・インスタンス・ロックの最大数を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。ディクショナリ・キャッシュ・インスタンス・ロックの最大数は、INIT.ORA の ROW_CACHE_INSTANCE_LOCKS パラメータに指定してあります。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 数分してから操作を再試行してください。このエラーが頻繁に発生する場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00704: ブートストラップ・プロセスに障害が発生しました。

原因: ブートストラップ・データの処理中にエラーが発生しました。問題の原因に関する詳細な情報は、ともに表示されるエラー・メッセージを調べてください。

解決方法: 他のメッセージで示される誤りを修正してください。問題が残る場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00704: 起動中の状態が不安定です。インスタンスを停止して再起動してください。

原因: 直前のインスタンスの起動が終了しました。

解決方法: インスタンスを完全に停止してから、再起動してください。

メッセージ変換メッセージ : 00816 ~ 00816

ORA-00816: エラー・メッセージ変換が失敗しました。

原因: ルーチンでメッセージ・コードを変換できないような内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

SQL の解析メッセージ : 00900 ~ 00999

この節では、SQL 文が Oracle Server により解析されるときに出力されるメッセージを記載します。この節で取り上げるメッセージはたいいていの場合、誤った SQL 文が入力されるときに出力されます。SQL 構文については、Oracle8 Server SQL 言語リファレンスを参照してください。

Trusted Oracle を使用している場合、その環境のエラー・メッセージ情報については Trusted Oracle ドキュメンテーションを参照してください。

ORA-00900: SQL 文が無効です。

原因: ユーザーが入力した文は有効な SQL 文として認められません。このエラーは Procedural Option がインストールされていない場合で、かつ CREATE PROCEDURE 文などのこのオプションを必要とする SQL 文が発行された場合に起こります。SQL*Plus を起動して Procedural Option がインストールされているかを決定できます。PL/SQL バナーが表示されていない場合には、このオプションはインストールされません。

解決方法: 構文を訂正するか、あるいは Procedural Option をインストールしてください。

ORA-00901: CREATE コマンドは有効な CREATE オプションにそっていません。

原因: 構文を訂正してください。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00902: データ型が無効です。

原因: CREATE 文または ALTER TABLE 文に指定したデータ型は無効です。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00903: 表名が無効です。

原因: 無効または存在しない表名またはクラスタ名を入力しました。また、このメッセージは ALTER CLUSTER 文や DROP CLUSTER 文中に無効なクラスタ名を指定したか、またはクラスタ名を指定しなかった場合にも出力されます。

解決方法: 綴りをチェックしてください。表名またはクラスタ名の先頭は英字でなければなりません。また、英数字および特殊文字 \$、_、# しか使用できません。名前は 30 文字以下の予約語以外の単語でなければなりません。

ORA-00904: 列名が無効です。

原因: 列名を入力していないか、または無効です。

解決方法: 有効な列名を入力してください。列名の手前は英字でなければなりません。長さは 30 文字以内で、英数字と特殊文字 \$、_、# で構成されていなければなりません。それ以外の文字を含んでいる場合は、二重引用符で囲まなければなりません。また、予約語であってはなりません。

ORA-00905: キーワードが欠落しています。

原因: 必須のキーワードがありません。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00906: 左カッコがありません。

原因: 左カッコを指定していません。ある種のコマンド (CREATE TABLE、CREATE CLUSTER、INSERT など) では、一連の項目をカッコで囲むことが要求されます。WHERE 句や UPDATE 表の SET 列 =(SELECT...) 文の副問合せもカッコで囲む必要があります。

解決方法: 構文の必要な箇所に左カッコを挿入して訂正してから、文を再実行してください。

ORA-00907: 右カッコがありません。

原因: 左カッコはあるが右カッコが抜けている、または、カッコの間に不要の情報がありません。カッコは対で指定しなければなりません。

解決方法: 構文を訂正して、文を再実行してください。

ORA-00908: NULL キーワードがありません。

原因: 次のいずれかの原因が考えられます。CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文の中で、その列中に NULL 値を認めないことを指定する NOT はあるが、NULL キーワードがない。IS [NOT] NULL 論理オペレータの中で、NULL キーワードがない。たとえば、次の文に続いてこのメッセージが出力されます。

```
SELECT * FROM EMP WHERE DEPTNO IS NOT;  
NULL キーワードが IS NOT キーワードの後に続かなければなりません。
```

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00909: 引数の個数が無効です。

原因: 参照した Oracle 関数の引数の数が間違っています。SYSDATE を除く Oracle の関数には、少なくとも引数が 1 つ必要です。

解決方法: 必要な数の引数を入力して、関数の構文を訂正してください。

ORA-00910: 指定した長さがデータ型に対して長すぎます。

原因: キャラクタ・フィールドにサイズを指定しなかったか、指定したサイズが正しくありませんでした。それぞれのキャラクタ列には最大長を指定する必要があります。この長さの最大値は、CHAR または VARCHAR2 など、データ型によって異なります。

解決方法: フィールドに最大長を入力してください。

ORA-00911: 文字が無効です。

原因: 特殊文字は特定の場所でしか使えません。名前に \$、_、# 以外の特殊文字を使用しており、その名前を二重引用符 (") で囲んでいない場合にこのメッセージが出力されます。この規則が適用されない 1 つの例外は、データベースの名前です。この場合には、二重引用符は除去され、無視されます。

解決方法: 無効な文字を文から削除するか、オブジェクト名を二重引用符で囲んでください。

ORA-00913: 値の個数が多すぎます。

原因: SQL 文には同数の 2 組の値が必要ですが、2 組目の項目数が 1 組目に比べて多くなっています。たとえば、WHERE 句または HAVING 句の中の副問合せから返される列が多すぎる、VALUES 句または SELECT 句から INSERT にリストされているより多くの列が返されるなどです。

解決方法: 各組の項目数を調べて、2 組とも同数になるように SQL 文を変更してください。

ORA-00914: ADD キーワードがありません。

原因: 次の中にキーワード ADD がないものがあります。

- ALTER DATABASE 文のキーワード LOGFILE
- ALTER TABLE 文の列要素または表制約
- ALTER TABLESPACE 文のキーワード DATAFILE

解決方法: ALTER 文にキーワード ADD を指定してください。

ORA-00915: ディクショナリ表のネットワーク・アクセスは現在使用できません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00917: カンマがありません。

原因: INSERT 文中の列または値の並び、または ((C,D),(E,F), ...) 形式の並びに必要なカンマが抜けています。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00918: 列の定義が未確定です。

原因: 結合に使用されている単一の列名が複数の表に存在しており参照があいまいです。結合において列名を参照する場合、それが複数の表に存在しているものであれば、その列名に表名の接頭辞を付ける必要があります。列の参照は TABLE.COLUMN または TABLE_ALIAS.COLUMN を使用します。たとえば、表 EMP と DEPT を結合しており、両者に列 DEPTNO が含まれている場合、DEPTNO に対する参照は、表名に EMP.DEPTNO または E.DEPTNO のように接頭辞を付けます。

解決方法: 複数の表に存在する列名には、上記の例のように表名または表の別名とピリオド (.) の接頭辞をつけてください。

ORA-00919: 関数が無効です。

原因: ある入力関数呼出しのような形式になっていますが、Oracle 関数として認識できません。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00920: 関係演算子が無効です。

原因: 関係演算子が欠けているか、無効の状態で探索条件が入力されました。

解決方法: 条件の中に、=、!=、^=、<>、>、<、>=、<=、ALL、ANY、[NOT]BETWEEN、EXISTS、[NOT]IN、IS[NOT]NULL、[NOT]LIKE などの有効な関係演算子を指定してください。

ORA-00921: SQL コマンドが不完全です。

原因: SQL コマンドが不完全です。有効なコマンドの一部が入力されましたが、少なくとも 1 つの主要なコンポーネントが省略されています。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00922: オプション指定されていないか、または無効です。

原因: 列または storage 句の定義で無効なオプションが指定されました。列指定には、いかなる NULL 値も含むことを許さないことを指定する NOT NULL オプションが有効です。また、データ型の後には制約条件しか指定することが許されません。なお、DATE または LONG データ型に対して最大長を指定した場合もこのエラーが発生します。

解決方法: 構文を訂正してください。列または記憶領域の指定から誤ったオプションまたは長さの指定を除去してください。

ORA-00923: FROM キーワードが指定の位置にありません。

原因: SELECT 文または REVOKE 文の中で、キーワード FROM が抜けているか、位置が間違っているか、綴りが間違っています。キーワード FROM は、SELECT 文では最後に選択した項目の後に、REVOKE 文では権限の後に指定してください。

解決方法: 構文を訂正してください。適切な位置にキーワード FROM を挿入してください。選択リストそのものが誤っている可能性もあります。別名で引用符を使用している場合は、その別名を二重引用符で囲んでいることを確認してください。また、別名に予約語を使用していないことを確認してください。

ORA-00924: BY キーワードがありません。

原因: GROUP BY、ORDER BY、CONNECT BY 句のキーワード BY がありません。GRANT 文ではキーワード IDENTIFIED の後にも BY が必要です。

解決方法: 構文を訂正してください。必要な場所にキーワード BY を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00925: INTO キーワードがありません。

原因: INSERT 文にキーワード INTO が指定されていません。

解決方法: 構文を訂正してください。必要な場所にキーワード INTO を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00926: VALUES キーワードが欠落しています。

原因: INSERT 文にキーワード VALUES または SELECT が指定されていません。

INSERT INTO 句の後には、VALUES 句または SELECT 副問合せなどを指定する必要があります。

解決方法: 構文を訂正してください。INSERT INTO 句の後に VALUES 句または副問合せを入れてください。

ORA-00927: 等号がありません。

原因: 次の箇所の 1 つに等号がありません。

- UPDATE 文の SET 句
- 検索条件中の「i」(等しくないことを意味する)の後

解決方法: 構文を訂正してください。必要な場所に等号を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00928: SELECT キーワードがありません。

原因: CREATE VIEW 文には SELECT 副問合せを指定する必要があります。

解決方法: 構文を訂正してください。CREATE VIEW 句の後に必須の SELECT 句を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00929: ビリオドがありません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00930: アスタリスクがありません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00931: 識別子がありません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00932: データ型が一致しません。

原因: 次のいずれかです。

- データ型の互換性がない操作を試行しました。たとえば、キャラクタ・フィールドを日付フィールドに追加する（日付は、数値フィールドにしか追加できない）、またはキャラクタ・フィールドを長いフィールドに連結する操作などが、この操作に該当します。
- 通常は使用しないことになっているデータベース・オブジェクト（表またはビュー）に対し操作を試行しました。たとえば、システム表をユーザーが変更することはできません。まれに、誤った綴りのオブジェクト名が制限付きオブジェクト名に対応付けられていることが原因で、このエラーが発生することもあります。
- 記述されていないビューの使用を試行しました。

解決方法: 原因に応じて次の処置を行ってください。

- データ型が異なっていることが原因である場合は、データ型が一致するようにしてください。たとえば、キャラクタ・フィールドを数値フィールドに変換し、TO_NUMBER 関数を指定してから、日付フィールドに追加してください。長いフィールドでファンクションを使用することはできません。
- 通常は使用しないことになっているオブジェクトにアクセスしたことが原因である場合は、制限付きオブジェクトにアクセスしないようにしてください。

ORA-00933: SQL コマンドが正しく終了されていません。

原因: SQL 文が不適切な句で終わっています。たとえば、CREATE VIEW 文または INSERT 文の中に ORDER BY 句が入っているなどです。ORDER BY を順序付ビューの作成またはある種の順序の挿入には使用できません。また、引数を 1 つだけ伴う IN 句 (たとえば、IN(X)) を使用すると、SQL は正しく終了しません。IN 句には 2 つ以上の引数を指定する必要があります。

解決方法: 不適切な句を取り除いて構文を訂正してください。取り除いた句は別の SQL 文で重複して使用できます。たとえば、ビューの行を順序付けする場合、ビューの作成時ではなく、問合せるときに実行できます。このエラーはまた、SQL*Forms のアプリケーション中で継続行が字下げされている場合にも発生します。字下げされている行を調べ、その空白部を削除してください。

ORA-00934: ここではグループ関数は使用できません。

原因: WHERE 句または GROUP BY 句の中で、AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などのグループ関数のいずれか 1 つが使われました。

解決方法: WHERE 句または GROUP BY 句からグループ関数を取り除いてください。副問合せまたは HAVING 句の中に関数を含めることによって、当初の効果が達成できます。

ORA-00935: グループ関数のネスト・レベルが深すぎます。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00936: 式がありません

原因: 句または式のある必須部分が抜けています。たとえば、列または式のリストがない SELECT 文、または、(SAL+) のような不完全な式の SELECT 文を入力しています。また、このメッセージは、SELECT TABLE 文などに誤って予約語を使用した場合にも出力されます。

解決方法: 構文を調べて、抜けている部分を指定してください。

ORA-00937: シングル・グループのグループ関数ではありません。

原因: 個別の列式を GROUP BY 句に含めない限り、SELECT リスト・グループ関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE など) と個別の列式の両方を含められません。

解決方法: SELECT リストからグループ関数または個別の列式のどちらかを削除するか、またはリストされている個別の列式をすべて含む GROUP BY 句を追加してください。

ORA-00938: 関数の引数が不足しています。

原因: 関数の参照での引数が少なすぎます。

解決方法: 関数の構文を調べて、必要な数の引数を指定してください。

ORA-00939: 関数の引数が多すぎます。

原因：関数の参照での引数が多すぎます。

解決方法：関数の構文を調べて、必要な数の引数だけを指定するようにしてください。

ORA-00940: ALTER コマンドが無効です。

原因：無効な ALTER オプションを指定しています。

解決方法：構文を訂正してください。

ORA-00941: クラスタ名がありません。

原因：クラスタ名が欠けているか無効です。

解決方法：有効なクラスタ名を指定してください。有効なクラスタ名は、英字で始まり、30 文字以内で、英数字または特殊文字 \$、_、# しか使用できません。また、予約語であってはなりません。名前はキーワード CREATE CLUSTER の直後に指定する必要があります。

ORA-00942: 表またはビューが存在しません。

原因：指定した表またはビューが存在しません。または、ここでは許可されていないシノニムが使われています。または、表が要求されているところでビューが参照されています。既存のユーザーの表およびビューは、データ・ディクショナリを問合せることによって一覧できます。表にアクセスするのに、特定の権限が必要な場合があります。アプリケーションがこのメッセージを戻した場合は、アプリケーションがアクセスしようとした表がデータベースに存在しないか、またはアプリケーションがその表へのアクセス権を持っていません。

解決方法：次の点をチェックしてください。

- 表またはビューの名前の綴りが正しいか。
- 表が必要な位置にビューが指定されているか。
- 存在する表またはビュー名があるか。

表が作成される必要、またはユーザーやアプリケーション権限が表にアクセスする必要がある場合には、データベース管理者に連絡してください。

また、表またはビューを他のスキーマでアクセスする場合は、正しいスキーマが参照されていること、そしてそのアクセスが認められていることを確認してください。

ORA-00943: クラスタが存在しません。

原因：現行ユーザーは、指定した名前のクラスタを所有していません。

解決方法：キーワード CLUSTER の後に有効なクラスタ名を指定して、文を再試行してください。

ORA-00944: クラスタ列の個数が不足しています。

原因：CREATE CLUSTER 文の指定より少ない数のクラスタ列で表を作成しようとした。CREATE TABLE 文の CLUSTER 句では、クラスタを作成したときに定義されたすべてのクラスタ列を指定する必要があります。

解決方法: CREATE TABLE 文のクラスタ列をすべて指定してから、文を再試行してください。

ORA-00945: 指定したクラスタ列は存在しません。

原因: CREATE TABLE 文のクラスタ句に指定した列はこの表中の列ではありません。

解決方法: 表に対して定義した列の名前を使用して、文を再試行してください。

ORA-00946: TO キーワードがありません。

原因: キーワード TO を付けずに GRANT 文を指定したか、GRANT コマンドが無効な形式で入力されました。

解決方法: GRANT コマンドの構文を調べて、必要な箇所にキーワード TO を補ってから文を再試行してください。

ORA-00947: 値の個数が不足しています。

原因: SQL 文には同数の 2 組の値が必要ですが、2 組目の項目数が 1 組目に比べて少ない場合にこのエラーが発生します。この原因は、次に示すように WHERE 句または HAVING 句でネストされた SELECT 文が戻す列が不足している点にあります。

WHERE (A,B) IN (SELECT C FROM ...)

このエラーのもう一つの共通した原因は INSERT 文で、次の例のように、VALUES 句または SELECT 句に INSERT に必要な個数の値が含まれていない場合です。

INSERT INTO EMP(EMPNO,ENAME) VALUES('JONES')

解決方法: 各組の項目数を調べて、2 組とも同数になるように SQL 文を変更してください。

ORA-00948: ALTER CLUSTER 文はサポートされていません。

原因: ALTER CLUSTER 文は使用できなくなりました。

解決方法: 既存の表からクラスタにデータを追加するためには、次の SQL 文を使用してください。

```
CREATE TABLE newtable SELECT * FROM oldtable CLUSTER clustername;  
DROP Old table;  
RENAME TABLE newtable oldtable;
```

ORA-00949: リモート・データベースへの参照は無効です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-00950: DROP オプションが無効です。

原因: DROP コマンドの後に、CLUSTER、DATABASE LINK、INDEX、ROLLBACK SEGMENT、SEQUENCE、SYNONYM、TABLE、TABLESPACE、VIEW などの、有効な DROP オプションが指定されていません。

解決方法: コマンドの構文を調べ、有効な DROP オプションを指定して文を再試行してください。

ORA-00951: クラスタが空ではありません。

原因: DROP CLUSTER 文に空ではないクラスタを指定しました。オプションの INCLUDING TABLES 句を指定しない限り、表を含んでいるクラスタを DROP することはできません。DROP TABLE コマンドを使用すれば、クラスタから表を削除できます。

解決方法: DROP CLUSTER 文の INCLUDING TABLES 句を指定するか、DROP TABLE コマンドでクラスタからすべての表を削除してから、DROP CLUSTER コマンドを発行してください。

ORA-00952: GROUP キーワードがありません。

原因: 現在グループは実現されていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-00953: 索引名が無効です。

原因: CREATE INDEX、DROP INDEX、または VALIDATE INDEX 文で、索引名が欠けているか、無効です。

解決方法: キーワード INDEX の後に有効な索引名を指定してください。既存の索引を削除したり検証したりする場合は、データ・ディクショナリを検索して名前を調べてください。新しい索引を作成する場合は、再試行の前に構文に誤りがないことを調べてください。

ORA-00954: IDENTIFIED キーワードがありません。

原因: GRANT CONNECT 文にキーワード IDENTIFIED を指定していません。

解決方法: 構文を調べて、最後のユーザー名の後にキーワード IDENTIFIED を指定してください。フォーマットは次の通りです。

```
GRANT CONNECT TO user-list IDENTIFIED BY password-list;
```

ORA-00955: すでに使用されているオブジェクト名です。

原因: すでに存在するデータベース・オブジェクト（表、ビュー、クラスタ、索引、シノニムなど）を作成しようとしてしました。他のデータベース・オブジェクトと区別できる名前を付けなければなりません。

解決方法: データベース・オブジェクトに一意の名前を入力するか、既存のオブジェクトを変更または削除して再使用できるようにしてください。

ORA-00956: 監査オプションが無効です。

原因: AUDIT または NOAUDIT コマンドの後に、有効なオプションまたはキーワード ALL が指定されていません。たとえば、表を監査する場合、ALTER、AUDIT、COMMENT、DELETE、GRANT、INDEX、INSERT、LOCK、RENAME、SELECT、UPDATE などのオプションを指定する必要があります。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00957: 列名が重複しています。

原因: CREATE 文または INSERT 文の中で、1 つの列名が 2 度指定されました。単一の表、ビュー、クラスト中の列名は一意でなければなりません。

解決方法: CREATE 文の中で、どちらかの列名を新しい一意の列名に変更してください。INSERT 文の場合は、重複する名前の片方を取り除いてください。

ORA-00958: CHECK キーワードがありません。

原因: CREATE VIEW 文の WITH OPTION 句では、キーワード WITH の後にキーワード CHECK を続けて指定しなければなりません。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所にキーワード CHECK を挿入してから、文を再実行してください。

ORA-00959: 表領域 "name" が存在しません。

原因: 文で存在しない表領域名を指定しました。

解決方法: 存在する表領域の名前を入力してください。表領域名のリストについてはデータ・ディクショナリを問合せてください。表領域を削除し、同じ名前で再作成する場合は、新しい表領域は削除された表領域とは異なるため (同じ名前の場合でも) ALTER USER を使用してデフォルト表領域名または一時表領域名を再設定してください。

ORA-00960: 選択リストに未確定の列名があります。

原因: 順序リストにある列名が一つ以上の選択リスト列に適合しています。

解決方法: 重複する列名を選択リストから除いてください。

ORA-00962: group-by または order-by 式が多すぎます。

原因: グループまたは順序列リストに 255 より多い式があります。

解決方法: グループまたは順序列リストに 255 より多い式を使わないでください。

ORA-00964: FROM リストに表名がありません。

原因: 問合せの SELECT リストに指定した表が、FROM 句リストには指定されていません。

解決方法: 表名の綴りを調べ、SELECT リストの各表名が FROM リストの表名と一致することを確認してから、文を再実行してください。

ORA-00965: *(アスタリスク) に対して列の別名は使用できません。

原因: SELECT リストのすべての列を返す機能 (*) に対して別名を使用しました。次に例を示します。

```
SELECT * COL_ALIAS FROM EMP;
```

解決方法: 個別に列を指定するか、または、"*" に別名を指定しないでください。

ORA-00966: TABLE キーワードがありません。

原因: LOCK 文を指定しましたが、キーワード TABLE がないか、綴りが間違っているか、位置が違っています。LOCK 文の先頭は、LOCK TABLE *tablename* でなければなりません。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00967: WHERE キーワードがありません。

原因: SELECT 文の中のキーワード WHERE が欠けているか、スペルが違うか、位置が違っています。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00968: INDEX キーワードがありません。

原因: CREATE UNIQUE INDEX または VALIDATE INDEX 文の中のキーワード INDEX が欠けているか、綴りが違うか、位置が違っています。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-00969: ON キーワードがありません。

原因: GRANT、REVOKE または CREATE INDEX 文の中のキーワード ON が欠けているか、綴りが違うか、位置が違っています。

解決方法: 構文と綴りを調べ、必要であればキーワード ON を使用してください。

ORA-00970: WITH キーワードがありません。

原因: キーワード WITH を付けずにキーワード START が指定されました。ツリー構造の問合せで START WITH 句を使用する場合は、キーワードは両方とも必要になります。

解決方法: キーワード START をキーワード START WITH に変更して、文を再実行してください。

ORA-00971: SET キーワードがありません。

原因: UPDATE 文中のキーワード SET が欠けているか、綴りが違うか、位置が違っています。

解決方法: 構文と綴りを調べて修正します。また、表名の後にキーワード SET を指定して文を再実行してください。

ORA-00972: 識別子が長すぎます。

原因: スキーマ・オブジェクトの名前が 30 文字を超えています。スキーマ・オブジェクトとは、表、クラスタ、ビュー、索引、シノニム、表領域、ユーザ名などです。

解決方法: 名前を 30 文字以下にしてください。

ORA-00974: PCTFREE 値パーセンテージが無効です。

原因：CREATE INDEX 文に指定された使用可能領域のパーセンテージの値が 0 から 100 の間ではありません。PCTFREE 値が 0 の場合、ブロック全体が使用できます。値が 100 であれば、データをこれ以上挿入できないので無用です。省略時解釈値は 10 です。

解決方法：PCTFREE の値を 0 から 100 の間で指定して、文を再実行してください。

ORA-00975: date + date は許可されていません。

原因：2 つのデータ・フィールドを同時に加算しようとしました。日付は数値フィールドにだけ加算できます。他の日付フィールドには加算できません。

解決方法：Oracle 関数 TO_NUMBER を使用して片方のデータ・フィールドを数値フィールドに変換してから、もう片方のデータ・フィールドにそれを加算します。

ORA-00976: LEVEL,PRIOR,ROWNUM はここでは使用できません。

原因：このコンテキストにおいて、PRIOR 句、擬似列レベル L、ROWNUM を使用することは不適切です。

解決方法：SQL 文の構文を調べてください。キーワード PRIOR、LEVEL、ROWNUM の位置を変えるか取り除いてください。

ORA-00977: 監査オプションが重複しています。

原因：AUDIT 文または NOAUDIT 文に同じオプションが 2 度以上指定されました。

解決方法：他の監視オプションを指定せずに ALL だけ指定するか、重複する監査指定を取り除いてください。

ORA-00978: GROUP BY 句が指定されずにグループ関数がネストしています。

原因：グループ関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE など) が別のグループ関数の中で (たとえば、MAX (COUNT(*)) などの形で) 対応する GROUP BY 句を指定しないで使用されています。

解決方法：GROUP BY 句を指定するか、不要なレベルのネストを取り除いてください。

ORA-00979: GROUP BY の式がありません。

原因：GROUP BY 句には SELECT 句中の式がすべて含まれていません。グループ関数 AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などに含まれない SELECT 式は GROUP BY 句の中にリストされていなければなりません。

解決方法：GROUP BY 句に、グループ関数でない SELECT 式をすべて含めてください。

ORA-00980: シノニムの変換ができません。

原因：ユーザーが使用したシノニムは、存在しない表、ビュー、シノニムに基づいています。

解決方法：シノニムをそれが参照するオブジェクトの名前で置き換えるか、シノニムを再作成して、有効な表、ビュー、シノニムを参照するようにしてください。

ORA-00981: 表およびシステム監査オプションは混在できません。

原因 : 1 つの AUDIT 文中に、表範囲のオプションとシステム範囲のオプションが両方指定されています。

解決方法 : AUDIT コマンドの構文を調べて、1 つまたは複数の AUDIT 文を再実行してください。

ORA-00982: 正符号がありません。

原因 : 結合条件の中に左カッコが出てきますが、その後に正符号 (+) がありません。通常、結合条件中の左カッコは外部結合を指定するため、後に正符号が続きます。結合処理で、ある列に対して外部結合を指定するためには、結合条件の列参照の後に、カッコで囲んで正符号 (+) を指定しなければなりません。

解決方法 : SQL 構文を訂正して、文を再実行してください。

ORA-00984: ここでは列は使用できません。

原因 : たとえば INSERT 文の VALUES 句のように、式の認められていない位置に列名が使われました。

解決方法 : 文の構文を調べて、適切な位置に列名を使用するようにしてください。

ORA-00985: プログラム名が無効です。

原因 : 構文エラーの可能性があります。

解決方法 : 構文を訂正してください。

ORA-00986: グループ名が無効です。

原因 : 構文エラーの可能性があります。

解決方法 : 構文を訂正してください。

ORA-00987: ユーザー名が指定されていないか、または無効です。

原因 : GRANT 文の中にユーザー名が指定されていません。または、指定されたユーザー名のいずれかが無効です。GRANT 文では、有効なユーザー名をキーワード TO の後に続けて指定し、ユーザーを定義しなければなりません。ユーザー名は、英字で始まり、英数字、特殊文字 \$、_、# から成り、30 文字以下でなければなりません。それ以外の文字を含んでいる場合は、二重引用符で囲まなければなりません。また、予約語であってはなりません。

解決方法 : GRANT 文の中に、有効なユーザー名またはユーザー名のリストをキーワード TO の後に続けて指定してください。

ORA-00988: パスワードが指定されていないか、または無効です。

原因 : GRANT 文にパスワードの数より多いユーザー名が指定されました。GRANT 文にリストされた各ユーザー名に対して、有効なパスワードを 1 つ指定する必要があります。

解決方法 : 各ユーザー名に対して有効な列名を 1 つ入力してください。

ORA-00989: ユーザー名に対するパスワードが多すぎます。

原因：GRANT 文にユーザー名の数より多いパスワードが指定されました。GRANT 文にリストされた各ユーザー名に対して、パスワードは 1 つだけ入力できます。

解決方法：ユーザー名とパスワードの数を同一にして入力してください。

ORA-00990: 権限が指定されていないか、または無効です。

原因：GRANT 権限文に権限が指定されていないか、指定された権限の 1 つが無効です。

解決方法：SELECT、INSERT、DELETE、UPDATE、ALTER、INDEX、REFERENCES、ALL などの有効な権限を 1 つ以上入力してください。複数の権限を付与する場合は、カンマ (,) で区切って入力します。または、ALL キーワードを指定すると、すべての権限を付与できます。

ORA-00992: REVOKE コマンドの書式が無効です。

原因：入力された REVOKE コマンドの形式が無効です。REVOKE コマンドには 2 つの形式があります。第 1 の形式は、ユーザーのデータベース・アクセス権限を取り消すのに使用されます。第 2 の形式は、ユーザーのオブジェクト権限を取り消すのに使用されます。

解決方法：コマンド構文を調べ、文を再実行してください。

ORA-00993: GRANT キーワードがありません。

原因：GRANT 文の終わりに、キーワード GRANT を指定せずにキーワード WITH を指定しました。ユーザーに権限を認め、他のユーザーに自分の権限を付与するためには、GRANT 文の終わりにキーワード WITH GRANT OPTION を指定しなければなりません。

解決方法：キーワード WITH をキーワード WITH GRANT OPTION に変更して、文を再実行してください。

ORA-00994: OPTION キーワードがありません。

原因：GRANT 文の終わりに、キーワード OPTION を伴わないキーワード WITH GRANT が指定されました。

解決方法：キーワード WITH GRANT をキーワード WITH GRANT OPTION に変更して、文を再実行してください。

ORA-00995: シノニムの識別子が無効です。

原因：CREATE SYNONYM 文または DROP SYNONYM 文中のシノニム名が欠けているか、無効です。

解決方法：構文と綴りを調べてください。どちらの文にも、キーワード SYNONYM の直後に有効なシノニム名を指定する必要があります。有効なシノニム名は、英字で始まり、英数字と特殊文字 \$、_、# から成り、30 文字 以内でなければなりません。また、予約語であってはなりません。

ORA-00996: 連結演算子は || です。| ではありません。

原因: 単一の縦線 (|) で連結を指定しようとしたましたが、連結演算子は 2 本の縦棒 (||) です。

解決方法: 連結する場合は 2 本の縦線 (||) を入力してください。連結でなければ、単一の縦線 (|) は取り除いてください。

ORA-00997: LONG データ型は使用できません。

原因: 関数の中または DISTINCT、WHERE、CONNECT BY、GROUP BY、ORDER BY の各句の中でデータ型 LONG の値が使用されました。LONG 値は SELECT 句の中でしか使用できません。

解決方法: 関数または句から LONG 値を削除してください。

ORA-00998: 式に列の別名を指定しなければなりません。

原因: CREATE VIEW 文の中で式または関数を使用していますが、対応する列名が指定されていません。式または関数をビューの中で使用する場合は、そのビューに対応するすべての列名を CREATE VIEW 文に明示的に指定する必要があります。

解決方法: ビュー内の各列について、ビュー名の後にカッコで囲んだ列名を入力してください。

ORA-00999: ビュー名が無効です。

原因: CREATE VIEW 文のビュー名が欠けているか、無効です。

解決方法: 有効なビュー名を CREATE VIEW の後に指定してください。有効なビュー名は、英字で始まり、英数字と特殊文字 \$、_、# から成り、30 文字以内で、かつ 予約語であってははいけません。これ以外の文字を使用する場合は、二重引用符で囲む必要があります。

ユーザー・プログラム・インタフェース・メッセージ: 01000 ~ 01099

この節では、Oracle Server に対して UPI を使用するときに出力されるメッセージを記載します。Oracle プリコンパイラおよび SQL フォームは UPI を使用する製品の一部です。

Trusted Oracle を使用している場合、その環境のエラー・メッセージ情報については Trusted Oracle ドキュメンテーションを参照してください。

ORA-01000: 最大オープン・カーソル数を超えました。

原因: ホスト言語プログラムがオープンしようとしているカーソルの数が多すぎます。ユーザーひとりあたりのカーソルの最大数は、初期化パラメータ OPEN_CURSORS によって決定されています。

解決方法: プログラムを変更してカーソルの数を減らしてください。このエラーが頻発するようであれば、Oracle をいったん停止して、OPEN_CURSORS の値を大きくしてから、Oracle を再起動してください。

ORA-01001: カーソルが無効です。

原因: ホスト言語のプログラム・コールが無効なカーソルを指定したか、プリコンパイラ・コマンドの AREASIZE オプションおよび MAXOPENCURSORS オプションの値が小さすぎます。SQL、DESCRIBE、NAME、DEFINE、BIND、EXEC、FETCH、CLOSE の各句を任意に参照する場合、その前に OOPEN コールを使用してすべてのカーソルをオープンしておかなければなりません。ログオン・データ領域 (LDA) は OLON または OLOGON を使用して定義しておかなければなりません。LDA が定義されていない場合、OPEN、COM、CON、ROL、LOGOFF の各コールに対してこのメッセージが出力されます。

解決方法: エラーとなったコール文を確認してください。必要に応じて、正しい LDA 領域を指定するか、カーソルをオープンしてください。カーソルに問題がなければ、場合によっては、プリコンパイルの前に AREASIZE オプションおよび MAXOPENCURSORS オプションの値を大きくする必要があります。

ORA-01002: フェッチ順序が無効です。

原因: ホスト言語プログラム中の FETCH コードの発行順序が違います。取出しの前には parse-and-execute コールが正常に発行されていなければなりません。全レコードの取出し後にアクティブ・セットから FETCH を実行しよう とすると、このエラーが発生する場合があります。または、コミット後の SELECT FOR UPDATE カーソルからの取出しによってエラーが発生する場合があります。また、PL/SQL カーソル・ループが暗黙に取出しを行うとエラーの原因となる場合があります。

解決方法: データを取り出す前に、SQL 文を解析して実行してください。

ORA-01003: 文が解析されていません。

原因: ホスト言語プログラム・コールがカーソルを参照しましたが、対応する解析済みの SQL 文がありません。単一の SQL コール (たとえば OSQL3) を使用して SQL 文を Oracle に渡し、文とオープン・カーソルを対応させる必要があります。カーソルは、次のコールのいずれかの中で参照される場合、対応する SQL 文がなければなりません。DESCRIBE、NAME、DESCRIBE、NAME、DEFINE、BIND、EXECUTE、FETCH。

解決方法: SQL 文、たとえば OSQL を実行して必要な SQL 文をパスしてから、カーソルを参照してください。

ORA-01004: デフォルトのユーザー名は使用できません。ログオンは拒否されました。

原因: 自動ログオンをサポートしていないシステムでこの機能を使用しよう としました。

解決方法: 完全なユーザー名とパスワードを指定して Oracle にログオンしてください。

ORA-01005: NULL パスワードが指定されました。ログオンが拒否されました。

原因: ログオンで指定したパスワードは無効です。

解決方法: 有効なパスワードを指定してください。

ORA-01006: バインド変数がありません。

原因: 対応する SQL 文中にリストされていない変数に対して、プログラムから BIND コールが発行されました。BIND コール (OBIND や OBINDN) では、SQL 文のコロン

(:) またはアンパサンド (&) の接頭辞が付いている変数だけが参照できます。このエラーは、プリコンパイラ・プログラムと関連するライブラリ (SQLLIB) 間の不一致が原因で発生することもあります。

解決方法: BIND コールを変更して、対応付けられた SQL 文に指定された 代替変数の 1 つを参照するようにしてください。

ORA-01007: 変数が選択リストにありません。

原因: SELECT 句にリストされていない変数を参照しました。OCI の場合、次のコールのいずれかで渡された位置パラメータ番号が 1 より小さいか、または DESCRIBE、NAME、DEFINE 内の SELECT 句内の変数の数より大きい場合に、このエラーが発生することがあります。また、SQL*Forms または SQL*Report では、SELECT 句に指定した数より多くの変数を INTO 句に指定すると、このエラーが発生します。

解決方法: OCI で、位置番号に 1 と SELECT 句の番号の数の間の数を指定します。SQL*Forms または SQL*Report では、SELECT と INTO 句には同数の変数を指定するようにしてください。

ORA-01008: バインドされていない変数があります。

原因: 置換変数を含む SQL 文を実行したときに、バインドされない変数が残りました。SQL 文を実行するときに、置換変数には置換される値が必要です。

解決方法: OCI で、OBIND または OBINDN コールを使って必要な値を置換してください。

ORA-01009: 必須パラメータがありません。

原因: ホスト言語プログラム・コールによって必須パラメータがすべて渡されていません。各コールの構文およびパラメータの記述については、『Oracle プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』に記載されています。

解決方法: コールの構文を調べて、必須パラメータをすべて入力してください。

ORA-01010: OCI 操作が無効です。

原因: 次のどれかです。

- 無効な OCI 操作を試行しました。
- ユーザーは現在バージョン 7.1(またはそれ以上) のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用しており、環境 ORA_ENCRYPT_LOGIN が TRUE に設定されている状況で、バージョン 7.0 またはそれ以下の Oracle Server に接続しようとしてしました。
- ユーザーは現在バージョン 7.1(またはそれ以上) の Oracle Server に接続しており、初期化パラメータ DBLINK_ENCRYPT_LOGIN が TRUE に設定されている状況で、バージョン 7.0 またはそれ以下の Oracle Server を指示しているデータベース・リンクを使用しようとしてしました。

解決方法: 上記の原因に応じて次の処置を行ってください。

- 無効な OCI 操作を使用しないでください。
- 分散データベースにある暗号化された接続パスワードを使わない場合には、ORA_ENCRYPT_LOGIN を FALSE に設定してください。暗号化された接続パスワードを使う場合には、すべての Oracle Servers をバージョン 7.1(またはそれ以上) にアップグレードしてください。
- 分散データベースにある暗号化されたデータベース・リンクを使わない場合には、DBLINK_ENCRYPT_LOGIN を FALSE に設定してください。暗号化されたデータベース・リンクを使う場合には、すべての Oracle Servers をバージョン 7.1(またはそれ以上) にアップグレードしてください。

ORA-01011: バージョン 6 と通信する時には V7 互換モードは使用できません。

原因: Oracle バージョン 6 を接続しているときに、Oracle7 の互換モードを使おうとしました。

解決方法: バージョン 6 の SQL 言語タイプを使用してください。必要に応じてバージョン 6 の SET COMPATIBILITY コマンドを使用してください。

ORA-01012: ログオンしていません。

原因: Oracle にログオンせずに、ホスト言語プログラムが OLON または OLOGON 以外の Oracle コールを発行しました。このエラーは、ユーザー・プロセスが接続されているインスタンスがプロセスを強制的に切断して終了した後に、このユーザー・プロセスがデータベースにアクセスしようとする、発生する場合があります。

解決方法: OLON または OLOGON をコールして Oracle にログオンした後に、Oracle コールを発行してください。インスタンスが再起動されたら、再試行してください。

ORA-01013: ユーザーによって現行操作の取消しが要求されました。

原因: ユーザーが CTRL-C (コントロール - C) または他の取消し操作によって Oracle の操作を中断しました。このため現行操作は強制的に終了されます。これは情報メッセージです。

解決方法: 次の操作を続行してください。

ORA-01014: Oracle の停止処理中です。

原因: 停止 (シャットダウン) 処理の進行中に Oracle にログオンしようとしたユーザーがいます。停止処理中に Oracle にログオンすることはできません。

解決方法: Oracle が再度立ち上がるのを待って、ログオンしてください。

ORA-01015: ログオンが再帰的に呼び出されました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01016: フェッチ後しかこのファンクションはコールできません。

原因: カーソルが無効な状態にあります。

解決方法: フェッチ後、無効なファンクションをコールする前に適切な OCI/UPI ファンクションをコールしてください。

ORA-01017: 無効なユーザー名 / パスワードです。ログオンは拒否されました。

原因: Oracle にログオンするときに、無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。ユーザー名およびパスワードは、GRANT CONNECT 文に指定したものでなければなりません。ユーザー名とパスワードを共に入力する場合の形式は、ユーザー名 / パスワードです。

解決方法: 有効なユーザー名とパスワードの組み合わせを、正しい形式で入力してください。

ORA-01018: LONG データ型の列ではありません。

原因: LONG 取出しオプションを使用してデータを取り出そうとしましたが、指定した列は LONG ではありません。

解決方法: LONG 取出しオプションを指定しないで取出しを再実行するか、LONG 列で表を作成してください。

ORA-01019: ユーザー・サイドのメモリーを割当てることができません。

原因: ユーザー・サイドのメモリー・アロケータがエラーを戻しました。

解決方法: プロセス・ヒープ・サイズを大きくするか、または古いコール・セットに切り換えてください。

ORA-01020: コンテキストの状態が不明です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01021: 指定したコンテキスト・サイズが無効です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01022: この構成では、データベース操作はサポートされていません。

原因: 通信している二つの Oracle server に対して、データベース・操作がユーザー・プログラミング・インタフェース (UPI) に合致しませんでした。

7.0.13 サーバーを使用しており、7.0.12 サーバー上で PL/SQL コールまたはリモート・プロシージャ・コールの使用を試行すると、この問題が発生します。

解決方法: 一つまたはそれ以上の Oracle server をアップグレードするか、またはユーザーサイドのアプリケーションを新しいライブラリに再リンクするかしてください。

ORA-01023: カーソル・コンテキストが見つかりません (カーソル番号が無効です)。

原因: カーソル番号が有効なオープン・カーソルではありません。

解決方法: カーソルがオープンしていることを確認してください。

ORA-01024: OCI コールのデータ型が無効です。

原因: OCI プログラム・コールに無効なデータ型が指定されました。OCI コールでは、Oracle データ型には 1 から 7 までの数を指定します。データ型については、『Oracle プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』に記述されています。

解決方法: データ型の記述を参照して、正しい数を入力してください。

ORA-01025: UPI パラメータの値が有効範囲外です。

原因: UPI 関数に対する整数パラメータが範囲外になっています。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01026: バインド・リストにサイズが 2000 を超える複数バッファが存在しています。

原因: バインド・リストに複数の大きなバッファが存在しています。

解決方法: 通常の列へのバインド変数境界に対して、バッファ・サイズを変更して 255 より小さくしてください。

ORA-01027: データ定義操作ではバインド変数は使用できません。

原因: SQL データ定義文中でバインド変数を使用しようとした。たとえば、CREATE TABLE AS SELECT 文中で SELECT の WHERE 句が変数を参照している場合です。

解決方法: バインド変数を削除してください。SQL 文を再試行してください。

ORA-01030: SELECT ... INTO 変数が存在しません。

原因: バインド・コールの SELECT...INTO が SQL 文中の変数と対応していません。

解決方法: 文を訂正できない場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01031: 権限が不足しています。

原因: 適切な権限のないユーザーが現行のユーザー名またはパスワードを変更しようとした。ある表に対する SELECT 権限だけを有するユーザーが、その表を UPDATE しようとした場合や、オペレーティング・システム権限なしに「内部的変換」を試みると、このエラーが発生します。

解決方法: データベース管理者に依頼して、操作を行ってもらうか、または必要な権限を付与してもらってください。

ORA-01032: ユーザー ID が存在しません。

原因: エクスポート / インポートに関連する内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01033: Oracle の初期化または停止中です。

原因: Oracle の起動中または停止中にログオンしようとした。

解決方法: 数分間待ってから、操作を再試行してください。

ORA-01034: Oracle は使用不能です。

原因: Oracle は起動されていません。次の原因が考えられます。

SGA に、割当てられていたよりも多くの領域が必要になっている。

インスタンスを指すオペレーティング・システム変数が正しく定義されていない。

解決方法: 続いて出力されるメッセージを参考にして、原因を確認し、その他のメッセージで説明されている問題を訂正してください。Oracle を初期化した後、再試行してください。

Oracle が初期化されている場合には、いくつかのオペレーティング・システム上で、Oracle が正しくリンクされていることを確認してください。プラットフォーム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-01035: Oracle は RESTRICTED SESSION 権限を持つユーザーのみ使用可能です。

原因: インスタンスが制限モードで起動されているため、ログインは禁止されています。RESTRICTED SESSION システム権限を有するユーザーだけがログオンできます。

解決方法: 制限オプションを付けずに Oracle を再起動するよう要求するか、または RESTRICTED SESSION システム権限を取得してください。

ORA-01036: 変数の name/num が無効です。

原因: ユーザー・サイドにバインド・コンテキストを見つけられません。

解決方法: バインドされている変数が SQL 文に存在することを確認してください。

ORA-01037: カーソル・メモリーの最大値を超えました。

原因: カーソルの使用可能なメモリーをすべて消費する複合 SQL 文を処理しようとしてしました。

解決方法: 複合 SQL 文を単純にしてください。

ORA-01038: DB ファイルのバージョン :num には Oracle バージョン :num では書込めません。

原因: 古い形式でデータ・ファイルのヘッダーに書き込もうとしました。新しい形式は、現在のソフトウェア・バージョンに互換性があることをデータベースが検査した後で使用可能です。

解決方法: データベースをオープンして新しいファイル形式にしてから、操作を繰り返します。データベースをオープンする前にその操作が必要な場合は、前のリリースのソフトウェアを使用してその操作を行ってください。

ORA-01039: ビューの基礎オブジェクトに対する権限が不十分です。

原因: 他のユーザー・ビューの基礎オブジェクトに対して必要な権限を持っていないにもかかわらず、そのビューを使用しようとしてしました。

解決方法: 必要な権限を取得するか、違反操作を実行しないようにしてください。

ORA-01040: パスワードが無効です; ログオンが拒否されました。

原因: パスワードにマルチバイト文字が入っているか、US7ASCII 範囲にない文字があります。

解決方法: 有効な文字を使用して、パスワードを再入力してください。

ORA-01041: 内部エラーが発生しました。hostdef エクステンションが存在しません。

原因: hostdef 内の hostdef エクステンションのポインタが null です。

解決方法: バグとしてオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01042: オープン・カーソルを持つセッションを切り離すことはできません。

原因: カーソルをオープンしているセッションを切り離そうとしました。

解決方法: セッションを切り離す前にカーソルをすべてクローズしてください。

ORA-01043: ユーザー・メモリーが壊れています。[num],[num], [num], [num]

原因: アプリケーション・コードがユーザー・メモリーを壊しました。

解決方法: アプリケーション・コードがメモリーに上書きしていないことを確認して、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01044: バッファのサイズ :num(変数 :name 用) が最大値 :num を超えています。

原因: 全サイズが許可されている最大サイズを超えたバッファをバインドしようとした。全配列サイズは次のように計算します。(要素のサイズ)*(要素の数)

解決方法: バッファ・サイズを小さくしてください。

ORA-01045: ユーザー :name には CREATE SESSION 権限がありません。ログオンが拒否されました。

原因: セッション作成権限を持たないユーザー ID に接続しようとした。

解決方法: 該当ユーザーに CREATE SESSION 権限を付与してください。

ORA-01046: コンテキスト領域を拡張するための領域を獲得できません。

原因: Oracle はオペレーティング・システムが必要な領域を割当てないため、現在の領域をこれ以上拡張できません。このメッセージに続いてシステムに固有のエラー・メッセージが出力されます。

解決方法: カーソルをいくつかクローズして再度、試みてください。または、仮想記憶域をこれ以上使用できないことを確認するため、オペレーティング・システムの割当て量を調べてください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01047: 上のエラーは、スキーマ =name, パッケージ =name, プロシージャ =name で発生しました。

原因: 固有の情報がさらに提供された後にこのメッセージが出力されます。

解決方法: 以前に出力されたメッセージから原因と処置を調べてください。

ORA-01048: 与えられたコンテキストには指定されたプロシージャはみつかりません。

原因: プロシージャのユーザーが存在しない遅延 RPC を指定しました。

解決方法: プロシージャが正しく指定されたこと、および複写プロセスがプロシージャを位置指定できることを確認してください。

ORA-01049: 名前によるバインドはストリームされた RPC にはサポートされません。

原因: 新しいサーバー・バージョンが古いサーバー・バージョンからサポートされていない操作を要求するときにこのエラーが起こります。

解決方法: 一つまたはそれ以上の Oracle Server をアップグレードするか、またはユーザー・アプリケーションを新しいライブラリに再リンクしてください。

ORA-01050: コンテキスト領域をオープンするための領域を獲得できません。

原因: オペレーティング・システムが必要な領域を割当てないため、Oracle は新しいコンテキスト領域をオープンできません。このメッセージに続いてシステムに固有のエラー・メッセージが出力されます。

解決方法: カーソルをいくつかクローズして再度、試みてください。または、仮想記憶域をこれ以上使用できないことを確認するため、オペレーティング・システムの割当て量を調べてください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01051: 遅延 RPC バッファのフォーマットが無効です。

原因: SYS.DEF\$_CALL にある遅延 RPC が破壊されました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01052: 必須のアーカイブ先 2 つのうち 1 つが指定されていません。

原因: LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST が 2 に設定されていますが、LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が指定されていません。

解決方法: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST を指定してください。または、LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST を 1 に減らしてください。

ORA-01053: ユーザー記憶領域のアドレスが読み込めません。

原因: バインド変数または他のユーザー領域を Oracle で読めません。

解決方法: 有効なユーザー・バッファ上でバインドしていることを調べて、操作を再試行してください。

ORA-01054: ユーザー記憶領域のアドレスに書き込めません。

原因: 定義 (FETCH...INTO または SELECT...INTO)、変数または他のユーザー領域に書き込めません。

解決方法: INTO 変数および標識が正しく指定されていることを調べて、操作を再試行してください。操作を再試行してください。

ORA-01057: ユーザー・イグジットで参照しているブロック・フィールドが未確定または無効です。

原因: ユーザー・イグジット中の「ブロック・フィールド」識別子に対する参照が正しくないか、あいまいです。綴りが誤っているか、不完全のためと思われます。

解決方法: 構文および識別子の綴りを調べて、参照を訂正してください。

ORA-01058: 新 Upi インタフェースの内部エラーです。

原因: 存在しない HSTDEF 拡張要素を削除しようとした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01059: バインドまたは実行の前に解析する必要があります。

原因: クライアント・アプリケーションが、文の解析前に変数をバインドしようとしたか、または PL/SQL ブロックでオープンされたカーソルを実行しようとした。

解決方法: バインドまたは実行前に、文が必ず解析されるようにしてください。

ORA-01060: 配列のバインドまたは実行はできません。

原因: クライアント・アプリケーションがカーソルの配列をバインドしようとしたか、またはタイプ・カーソルのバインド変数を使用して PL/SQL ブロックに対して繰り返し実行しようとした。

解決方法: 単一カーソルをバインドするか、PL/SQL ブロック 1 を実行してください。

ORA-01061: V7 のクライアント・アプリケーションを使って V8 のサーバーは起動できません。

原因: ユーザーは、バージョン 7 (またはそれ以下) のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用していますが、バージョン 8 (またはそれ以上) のサーバーを起動しようとした。

解決方法: バージョン 8 (またはそれ以上) のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用してください。

ORA-01070: サーバーで Oracle の旧バージョンを使用しています。

原因: 古い Oracle Server を使用しようとした。

解決方法: サーバーをアップグレードしてください。

ORA-01071: Oracle を起動しないで操作を実行することはできません。

原因: Oracle を起動する前に操作を実行しようとした。

解決方法: Oracle を起動してから、操作を再試行してください。

ORA-01072: Oracle は稼働していないので停止できません。

原因: Oracle を停止しようとしたが、Oracle は稼働していません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01073: 致命的な接続エラーが発生しました。コール・タイプが認識できません。

原因: 無効な内部操作が試みられました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01074: Oracle を停止できません。ログオフしてください。

原因: ログオン・セッション内で Oracle を停止しようとしてしました。

解決方法: Oracle を停止する前にログオフしてください。

ORA-01075: すでにログオンしています。

原因: すでにログオンしているのにログオンしようとしてしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01076: 1 つのプロセスに対する複数ログオンはサポートされていません。

原因: Oracle は 1 つのプロセスに対する複数ログオンをサポートしていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01077: バックグラウンド・プロセス初期化が失敗しました。

原因: Oracle バックグラウンド・プロセスの初期化中に障害が発生しました。

解決方法: 付属のエラー・メッセージ・スタックまたはトレース・ファイル中の診断情報を参照してください。

ORA-01078: 初期化パラメータの処理中に障害が発生しました。

原因: システム起動時に INIT.ORA パラメータの処理が失敗しました。

解決方法: 付属のエラー・メッセージ・スタックの中の診断情報を参照し、適切な処置を行ってください。

ORA-01079: Oracle が正しく作成されていないので操作は中止になりました。

原因: データベースが制御ファイル作成時のエラーです。

解決方法: データベースが最初に作成されたとき、または制御ファイルが再作成されたときに表示されたメッセージを確認してください。そして、適切な処置を行い、データベースを再度作成するか、制御ファイルを再作成してください。

ORA-01080: Oracle の停止中にエラーが発生しました。

原因: システムの停止時に障害が発生しました。

解決方法: 付属のエラー・メッセージ・スタックの中の診断情報を参照し、適切な処置を行ってください。

ORA-01081: すでに稼働中の Oracle を起動しようとしてしました。まず Oracle を停止してください。

原因: すでに稼働中の Oracle を起動しようとしてしました。

解決方法: Oracle を再起動したいのであれば、いったん停止してください。

ORA-01082: row_locking = always はトランザクション処理オプションです。

原因: INIT.ORA ファイルに ROW_LOCKING = ALWAYS が指定されています。この機能は、トランザクション・プロセッシング・オプションのない Oracle ではサポートしていません。

解決方法: INIT.ORA ファイルから ROW_LOCKING = ALWAYS を削除するか、または DEFAULT または INTENT に設定してください。

ORA-01083: パラメータ値 :name が他のサーバーのパラメータ値と一致していません。

原因: 指定された初期化パラメータ値は、パラレル構成のすべてのサーバーと同じである必要があります。

解決方法: 他の制御ファイルの値と一致するように初期化パラメータ・ファイルの値を変更してください。

ORA-01084: OCI コールの引数が無効です。

原因: エラーの原因となった OCI コールには、無効な値を持つ引数が含まれています。

解決方法: 有効な引数値を使用してください。詳細は、『Oracle Call インタフェース・プログラマーズ・ガイド:Vol.2』の「OCI」を参照するか、適切なプログラミング言語補足マニュアルを参照してください。

ORA-01085: 遅延 RPC のエラーを name.name.name に送ります。

原因: 指定したプロシージャが遅延リモート・プロシージャ・コールとして実行されたときに、エラーが検出されました。

解決方法: 前に発生したエラーの原因を訂正してください。

ORA-01086: セーブポイント :name は設定されていません。

原因: 一度も設定していないセーブポイントに対してロールバックしようとした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01087: Oracle にログオンしているので、起動はできません。

原因: 現在 Oracle にログオンしているユーザーが Oracle を起動しようとした。

解決方法: いったんログオフしてから、STARTUP コマンドを発行してください。

ORA-01088: アクティブ・プロセスがあるので Oracle は停止できません。

原因: ログオンしているユーザーがまだ存在します。

解決方法: すべてのユーザーがログオフするまで待つか、SHUTDOWN IMMEDIATE コマンドを実行して、ユーザーをシステムから強制的に切り離してください。または、SHUTDOWN ABORT コマンドを使用して、ユーザーが切り離されるのを待たずに、データベースを停止してください。

ORA-01089: 停止処理中 (shutdown immediate) なので操作は許可されません。

原因: 稼働中の Oracle インスタンスを停止するために、データベース管理者が SHUTDOWN IMMEDIATE コマンドを実行しました、そのためユーザーの操作は終了しました。

解決方法: インスタンスの再起動を待つか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-01090: 停止処理中なので接続はできません。

原因: 稼働中の Oracle インスタンスを停止するために、データベース管理者が SHUTDOWN コマンドを実行しました。そのため Oracle への接続はできません。

解決方法: インスタンスの再起動を待つか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-01091: 強制起動時にエラーが発生しました。

原因: 旧 SGA は破壊できません。

解決方法: 手作業で旧 SGA を除去してください。手順については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。その後、STARTUP コマンドを再試行してください。

ORA-01092: Oracle インスタンスが終了しました。強制的に接続が切り離されます。

原因: 接続していたインスタンスが異常終了しました。SHUTDOWN ABORT による可能性があります。現行のプロセスは強制的にインスタンスから切り離されました。

解決方法: データベース管理者に連絡して、インスタンスをいつ再起動するかを判断してください。インスタンスが再実行された後に接続し直してみてください。

ORA-01093: ALTER DATABASE CLOSE は接続中のセッションがない場合にしか実行できません。

原因: インスタンスにログインしているセッションが、現行セッション以外に少なくとももう 1 つ存在しています。他のセッションが活動状態にあるときに ALTER DATABASE CLOSE は実行できません。

解決方法: 他のセッションを見つけて切り離してから、ALTER DATABASE CLOSE コマンドを再試行してください。また、SHUTDOWN IMMEDIATE コマンドを発行して、ユーザーをシステムから強制的に切り離すか、または SHUTDOWN ABORT コマンドを使用して、ユーザーが切り離されるのを待たずに、データベースを停止してください。

ORA-01094: ALTER DATABASE CLOSE を処理中なので 接続できません。

原因: ALTER DATABASE CLOSE コマンドでクローズされている最中のデータベースに接続しようとしてしました。

解決方法: データベースがオープンしているときに接続し直してください。データベース管理者に連絡してデータベースがオープンされる時間を確認してください。

ORA-01095: DML 文は 0 行処理しました。

原因: OTEX() コールによる DML カーソルが実行時に 0 行処理しました。

解決方法: コール側でロールバックするか、またはメッセージを無視してカーソル配列中の残りのカーソルを実行できます。

ORA-01096: プログラムの Ver.num がインスタンス :num と適合しません。

原因: このプログラムは、接続しようとしているインスタンスとは異なるバージョンのサーバーにリンクされています。

解決方法: プログラムをインスタンスと同じバージョンの Oracle と再リンクするか、そのプログラムのバージョンのサーバーを使用してデータベースを再起動（強制起動）します。

ORA-01097: トランザクションの処理中にデータベースを停止できません。コミットまたはロールバックを実行してください。

原因: 原因 トランザクションの処理中にデータベースを停止しようとしてしました。

解決方法: 現行のトランザクションをコミットまたはロールバックしてから、データベースを停止してください。

ORA-01098: LONG 挿入の際にプログラム・インタフェース・エラーが発生しました。

原因: TTCGETV コールが失敗するときの内部エラーのために、アプリケーション・プログラム・インタフェースは LONG 列を挿入したり更新したり できません。たとえば、ネットワークの読み込みエラーやコールにパスしたパラメータは有効ではありません。

解決方法: 挿入または更新を再試行してください。

ORA-01099: 単一プロセス・モードで起動した DB は SHARED モードではマウントできません。

原因: 初期化パラメータ SINGLE_PROCESS を TRUE に設定して、パラレル・モードでデータベースをマウントしようとしてしました。

解決方法: パラレル（共有）モードでインスタンスを起動する前に、EXCLUSIVE モードでデータベースをマウントするか、初期化パラメータ SINGLE_PROCESS を FALSE に設定してください。

Oracle ファイル・メッセージ : 01100 ~ 01250

この節では、Oracle Server がファイルにアクセスするときに生成されるメッセージを記載します。

ORA-01100: データベースはすでにマウントされています。

原因: ユーザーがマウントしようとしているデータベースと同じ名前のデータベースを現在別のインスタンスがマウントしています。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01101: 作成中のデータベースは別のインスタンスによってマウントされています。

原因: ユーザーが作成しようとしているデータベースと同じ名前のデータベースをある別のインスタンスが現在マウントしています。

解決方法: データベース名を変更するか、他方のインスタンスを停止してください。

ORA-01102: データベースを排他モードでマウントすることができません。

原因: インスタンスがデータベースを EXCLUSIVE モードでマウントしようとしたしますが、他のインスタンスがそのデータベースを EXCLUSIVE モードまたは PARALLEL モードですでにマウントしています。

解決方法: データベースを PARALLEL(SHARED) モードでマウントするか、または他のすべてのインスタンスを停止した後でデータベースを EXCLUSIVE モードでマウントしてください。

ORA-01103: 制御ファイルのデータベース名 :name が name ではありません。

原因: 制御ファイル中のデータベース名がユーザーのデータベース名と一致しません。

解決方法: 正しい制御ファイル名およびデータベース名が使用されていることを確認してください。

ORA-01104: 制御ファイルの数 :num が num と一致しません。

原因: このインスタンスに使用される制御ファイルの数が、既存のインスタンスの制御ファイルの数と一致しません。

解決方法: 制御ファイルがすべて初期化パラメータ・ファイル CONTROL_FILES に記述されるようにして、操作を再試行してください。

ORA-01105: マウントは別のインスタンスによるマウントと矛盾します。

原因: データベースをマウントしようとしたが、別のインスタンスが同一の名前でデータベースをマウントしており、マウントは両立しません。このメッセージとともにエラー・メッセージが表示され、マウントが両立しない理由を示します。

解決方法: 適切な処置については付随するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-01106: ディスマウントする前にデータベースをクローズしなければなりません。

原因: クローズする前にデータベースをディスマウントしようとした。

解決方法: データベースをクローズしてから操作を再試行してください。

ORA-01107: メディア回復を行うにはまずデータベースをマウントしなければなりません。

原因: メディアを回復しようとするときにデータベースがマウントされていません。

解決方法: データベースをマウントしてから操作を再試行してください。

ORA-01108: ファイル :name は媒体回復中です。

原因: 指定されたファイルに媒体回復が現在適用されています。ファイルを通常のデータベース・アクセスやクラッシュの回復には使用できません。

解決方法: 媒体回復の完了を待つか、または媒体回復セッションを取り消してください。

ORA-01109: データベースがオープンしていません。

原因: オープンされていないデータベースに対して操作を実行しようとした。

解決方法: データベースをオープンしてから操作を再試行してください。

ORA-01110: データ・ファイル *name*: *str*

原因: このメッセージは他のメッセージに関係のあるファイル名を伝えます。

解決方法: 問題の記述については関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-01111: データ・ファイル名 *:name* が不明なため正しいファイルへの改名が必要です。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されたデータ・ファイルが不明です。または、そのデータ・ファイルが作成される以前に保存された制御ファイルを使用して、バックアップ制御ファイルの回復が行われました。

解決方法: 不明なファイルの名前を実際のファイルの名前に改名してください。

ORA-01112: メディア回復処理が開始されていません。

原因: メディア回復処理を継続しようとしたが、メディア回復処理は開始されていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01113: ファイル *:name* は媒体回復が必要です。

原因: 媒体回復が必要なデータ・ファイルをオープンしようとした。

解決方法: メッセージに示されたデータ・ファイルの媒体を回復してから、操作を再試行してください。

ORA-01114: ファイル *name* (ブロック番号 *:num*) への書込み I/O エラーが発生しました。

原因: ファイルが置かれている装置がオフラインになっている可能性があります。

解決方法: 装置へのアクセスを復元してから操作を再試行してください。

ORA-01115: ファイル *name* (ブロック番号 *:num*) からの読み込み I/O エラーが発生しました。

原因: ファイルが置かれている装置がオフラインになっている可能性があります。

解決方法: 装置へのアクセスを復元してから操作を再試行してください。

ORA-01116: データ・ファイル *:name* のオープン・エラーが発生しました。

原因: 通常、ファイルにはアクセスできません。

解決方法: データベース・ファイルが所定の位置にあり、アクセス可能であることを確かめて、操作を再試行してください。

ORA-01117: ファイル *name* はブロック・サイズ *:num* では登録できません (制限値 *:num*)。

原因: 許可されている最大のブロック・サイズを超える大きさのデータベース・ファイルを登録しようとした。

解決方法: ブロック・サイズを小さくして操作を再試行してください。

ORA-01118: データベース・ファイルをこれ以上登録できません。制限数 *:num* を超えました。

原因: データベース・ファイルを登録しようとして失敗しました。ファイル数制限を超えています。

解決方法: データベース領域がさらに必要な場合は、データベースをエクスポートしてから、データ・ファイル数の制限およびファイル・サイズの制限を大きくして、データベースを再作成してください。

ORA-01119: データベース・ファイル *:name* の作成でエラーが発生しました。

原因: 通常、このエラーは装置上の領域が不足するために発生します。

解決方法: 要求するファイルのサイズを小さくするか、使用可能な領域を確保できる別の装置上にファイルを割り振ってください。ファイル・サイズが文に指定されなかった場合は、装置上の使用可能な領域よりも小さいファイル・サイズを指定してください。

ORA-01120: オンライン・データ・ファイル *name* が削除できません。データベースがオープンしているか、パラレルにマウントされています。

原因: オンライン・データベース・ファイルがクローズされていないか、共有データベース・モードでオープンされているため、削除に失敗しました。このメッセージは、表領域を削除しようすると出力されることがあります。表領域のデータ、索引、ロールバック、一時セグメントなどにユーザーがアクセスしているとき、または、データベースがパラレル・モードでマウントされている場合は、表領域を削除できません。

解決方法: Oracle をいったん停止してからデータベースを排他モードでマウントして表領域を削除してください。ユーザーが表領域をオープンしないようにするには、表領域をオフラインにするか、インスタンスを制限付きアクセス・モードにしてください。

ORA-01121: データ・ファイル *name* が改名できません。ファイルが使用中か、または回復中です。

原因: オンライン・データ・ファイルを改名しようとしたが失敗しました。ファイルがクローズされていないか、回復中のためです。ファイルがオンラインで複数のインスタンスに対してオープンされているか、または、別のプロセスで現在そのファイルの媒体回復が行われています。

解決方法: ファイルをクローズするか、Oracle をいったん停止して、データベースを排他モードでマウントしてください。すべての回復セッションを終了してください。ユーザーがファイルをオープンしないようにするには、その表領域をオフラインにするか、インスタンスを制限付きモードにしてください。

ORA-01122: データ・ファイル *name* の整合性チェックに失敗しました。

原因: データベース・ファイルの情報が、制御ファイルの情報と一致しません。次のいずれかの原因の可能性があります。

- 制御ファイルがデータ・ファイルより以前のものである。
- データ・ファイルのサイズが制御ファイルで指定されたサイズと一致しない。

- データ・ファイルが破壊されている。

解決方法: データベース・ファイルおよび制御ファイルがこのデータベースに対して適切なファイルであることを確かめて、操作を再実行してください。

ORA-01123: メディア回復が使用不能なのでオンライン・バックアップを開始できません。

原因: オンラインの表領域のバックアップを開始しようとして失敗しました。媒体の回復が使用可能になっていないためです。

解決方法: 媒体の回復を使用可能にして操作を再試行してください。

ORA-01124: データ・ファイル *:name* は回復できません。ファイルは使用中または回復中です。

原因: 媒体回復しようとした際に、ファイルが回復不可能であることが分かりました。オンラインか他のインスタンスでデータベースがオープンであるか、または他のプロセスがファイルの媒体回復を行っています。

解決方法: 媒体回復を行わないでください。

ORA-01125: *name* はオンライン・バックアップ設定なので媒体回復を無効にできません。

原因: 媒体の回復を使用停止にしようとしたが、オンラインの回復は進行中です。

解決方法: 回復が終了するまで待つ、操作を再試行してください。

ORA-01126: データベースを排他モードでマウントする必要があります。この操作用にはオープンされていません。

原因: データベースが排他モードでマウントされていないため、操作が失敗しました。

解決方法: Oracle をいったん停止してからデータベースを排他モードでマウントしてください。

ORA-01127: データベース名 *name* のサイズが制限の *num* 文字を超えています。

原因: 指定したデータベース名が長すぎます。

解決方法: 8 文字 (バイト) 以内のデータベース名を指定し直して、操作を再試行してください。

ORA-01128: オンライン・バックアップが開始できません。ファイル *name* がオフラインです。

原因: オンライン・バックアップでバックアップを行うファイルがオフラインです。

解決方法: 次のいずれかの処置をしてください。

- ファイルをオンラインにしてからオンライン・バックアップをする。
- オフライン・バックアップをする。

ORA-01129: ユーザーのデフォルト表領域がありません。

原因: ユーザーのデフォルトまたは一時表領域が削除されています。

解決方法: 削除されている表領域を再作成するか、ユーザーのデフォルトまたは一時表領域を変更してください。

ORA-01130: データ・ファイルのバージョン *num* が Oracle のバージョン *num* と互換性がありません。

原因: このデータベース・ファイルは互換性のないバージョンの Oracle で作成されたものです。または、ファイルが無効であるか存在しません。

解決方法: Oracle をいったん停止して、適切なバージョンを起動するか、またはデータベース・ファイルに対する参照を確認してデータベース・ファイルが存在することを確認してください。

ORA-01131: DB_FILES システム・パラメータ値 *:num* が制限値 *:num* を超えています。

原因: 初期化パラメータ DB_FILES に指定した値が大きすぎます。

解決方法: DB_FILES パラメータの値を小さくして、操作を再試行してください。

ORA-01132: データベース・ファイル名 *:name* の長さが文字制限数 *:num* を超えています。

原因: 指定したデータベース・ファイル名が長すぎます。

解決方法: 短いファイル名を指定し直して、操作を再試行してください。

ORA-01133: ログ・ファイル名 *:name* の長さが文字制限数 *:num* を超えています。

原因: 指定したログ・ファイル名が長すぎます。

解決方法: 短いファイル名を指定し直して、操作を再試行してください。

ORA-01134: データベースは別のインスタンスにより排他モードでマウントされています。

原因: データベースをアクセスしようとして失敗しました。別のインスタンスによって排他モードでマウントされているためです。

解決方法: 別インスタンスを停止するか、そのインスタンスがデータベースをクローズするか、共有モードでマウントするのを待って、操作を再試行してください。

ORA-01135: DML/ 問合せでアクセスしているファイル *:name* はオフラインです。

原因: オフラインの表領域に属するデータベース・ファイルを参照したため問合せが失敗しました。オフラインの表領域中のデータは、オンラインに設定されるまでアクセスすることはできません。

解決方法: 表領域がオンラインになるのを待って、問合せを実行してください。

ORA-01136: ファイル *:num* に指定したサイズ (*num* ブロック) は元のサイズの *num* ブロック未満です。

原因: ALTER DATABASE CREATE datafile コマンドの AS 句に、必要なサイズよりも小さいサイズを指定しようとした。

解決方法: ファイルに対して正しいサイズを指定して文を再発行してください。

ORA-01137: データ・ファイル :name はオフラインにされています。

原因: オンラインにしようとしているオフラインのファイルに対してロックを獲得できませんでした。ファイルをオフラインにしているインスタンスがロックを保持している可能性があります。

解決方法: その他のインスタンスがファイルのロックをリリースするのを待ちます。

ORA-01138: このインスタンスでデータベースをオープンしなければなりません。

原因: データベースはこのインスタンスによってマウントされ、オープンされていますが、別のインスタンスがデータベースをオープンしているときに、要求された操作は実行できません。

解決方法: オープン・インスタンスで操作を実行するか、現行インスタンスでデータベースをオープンするか、または他のインスタンスでデータベースをクローズしてください。

ORA-01139: RESET LOGS オプションはデータベース手動回復後のみ有効です。

原因: ALTER DATABASE OPEN 文に RESET LOGS オプションを指定しましたが、手作業による回復処理が行われていません。

解決方法: RESET LOGS を指定しないで文を再実行してください。

ORA-01140: 全ファイルがオフラインなのでオンライン・バックアップを終了できません。

原因: オンライン・バックアップを終了しようとした時、すべてのファイルがオフライン状態でした。

解決方法: なし。オンライン・バックアップは、表領域に対して終了する必要はありません。

ORA-01141: name の改名エラー発生、新ファイル : name が見つかりません。

原因: 新しい名前のファイルが見つからず、制御ファイル中のデータ・ファイル名を変更をしようとして失敗しました。

解決方法: データ・ファイルがオペレーティング・システムによって正しく改名されていることを確かめ、操作を再試行してください。

ORA-01142: バックアップ中のファイルがないのでオンライン・バックアップを終了できません。

原因: オンライン・バックアップを終了しようとした時、ファイルが見つかりませんでした。

解決方法: なし。オンライン・バックアップは、表領域に対して終了する必要はありません。

ORA-01143: メディア回復を使用不可にできません。ファイル :name はメディア回復が必要です。

原因: メディア回復を使用停止にしようとしたますが、メディア回復が必要なファイルが検出されました。このため、メディア回復を使用停止にできません。

解決方法: 問題のあるファイルを回復するか、そのファイルが属する表領域を削除して、操作を再試行してください。

ORA-01144: ファイル・サイズ (*num* ブロック) が最大値 *:num* ブロックを超えています。

原因: 許可される最大サイズよりも大きなファイル・サイズを指定しました。

解決方法: 小さなサイズを指定してください。

ORA-01145: メディア回復が使用可能でないと即時にオフラインにできません。

原因: ALTER TABLESPACE ... OFFLINE IMMEDIATE 文または ALTER DATABASE DATAFILE OFFLINE は、データベースが ARCHIVE LOG モードの時にだけ使用可能です。

解決方法: 表領域を通常どおりオフラインにするか、必要なオペレーションの前に停止処理をしてください。データベースのバックアップ計画を見直す必要があります。

ARCHIVE LOG モードが使用可能な場合は、操作が実行されます。

ORA-01146: *name* はバックアップ中なためオンライン・バックアップを開始できません。

原因: オンライン・バックアップを開始しようとしたが、オンライン・バックアップがデータ・ファイルの 1 つに対してすでに開始されていました。

解決方法: 最初のバックアップが終了してから別のバックアップを開始してください。

ORA-01147: SYSTEM 表領域ファイル *:name* がオフラインです。

原因: SYSTEM 表領域に属するファイルに、DBA によってオフラインになっているものがあります。SYSTEM 表領域に属するファイルすべてが、オンラインとなりオープン可能になるまで、データベースは起動できません。

解決方法: ファイルをオンラインにしてください。

ORA-01148: この操作では DB は排他モードでマウントされなくてはなりません。

原因: ロック・マネージャが存在しないにもかかわらず、データベース PARALLEL をマウントしようとした。

解決方法: データベースを EXCLUSIVE モードでマウントして、操作を再試行してください。

ORA-01149: シャットダウンできません。ファイル *name* は、オンライン・バックアップに設定されています。

原因: オンライン・バックアップが進行中にデータベースを停止しようとした。

解決方法: オンライン・バックアップを終了させてから、データベースを停止してください。

ORA-01150: *name* がオンライン・バックアップ設定なので書き込みを防止できません。

原因: オンライン・バックアップが進行中に、表領域はオフライン、または読取り専用で設定できません。この操作が許可されてしまうと、バックアップ終了時のファイル・ヘッダーの書き込みが実行されません。

解決方法: オンライン・バックアップを終了させてから、オフラインにしてください。または、読取り専用に設定してください。

ORA-01151: メディア回復を使用してブロックの回復とバックアップの復元を行ってください。

原因: クラッシュ回復またはインスタンス回復はブロックに変更を適用できませんでした。次の変更ではなかったためです。これはブロックが破壊され、回復中に修正された場合に発生します。このエラーは通常 ORA-01172 とともに発生します。

解決方法: ORA-01172 には追加情報があります。ブロックを含むファイルに対して、データ・ファイルを対象とした RECOVER を実行してください。これによって問題が解決されない場合は、バックアップからファイルを回復し、再度回復を行ってください。

ORA-01152: ファイル :name は十分に古いバックアップから復元されていません。

原因: 不完全回復セッションを開始しましたが、データベースを一貫したものにするために適用する REDO ログ・ファイルの数が足りません。このファイルは、最後に適用された REDO ログに依然として存在しています。不完全回復を実行する前に、バックアップからファイルを回復することを忘れたためにエラーが発生した可能性があります。

解決方法: データベースが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはより古いバックアップからデータ・ファイルを回復して回復処理を繰返してください。

ORA-01153: 互換性のないメディア回復がアクティブです。

原因: 両立しない媒体回復を開始しようとしたか、または媒体回復中にリセット・ログ・ファイルをオープンしようとした。同一のデータ・ファイルを回復しようとする場合、媒体回復セッションは両立しません。不完全媒体回復または OPEN RESETLOGS はどの媒体回復とも互換性がありません。

解決方法: 他の媒体回復を完了させるか取り消してください。

ORA-01154: データベースがビジーです。オープン、クローズ、マウント、ディスマウントは現在実行できません。

原因: データベースがオープンまたはマウント状態のままであることを必要とする操作が進行中です。

解決方法: その操作の終了を待って、再試行してください。必要な場合はデータベースを停止させ、再起動してください。

ORA-01155: データベースは現在オープン、クローズ、マウント、ディスマウントのいずれかを実行中です。

原因: 実行しようとした操作は、インスタンスがこのメッセージであげているいずれかの状態である場合、成功しません。

解決方法: オープン、クローズ、マウント、またはディスマウントが終了するのを待って、再試行してください。必要な場合はデータベースを停止させ、再起動してください。

ORA-01156: 現在処理中の回復作業で、ファイルへのアクセスを必要としています。

原因: メディアまたはインスタンスの回復が進行中です。回復では、その操作でしようとしたファイルにアクセスしなければならない場合があります。

解決方法: 回復作業が終了するのを待って、再試行してください。

ORA-01157: データ・ファイル *:name* を識別することができません。ファイルが見つかりません。

原因: バックグラウンド・プロセスはデータ・ファイルの 1 つを見つけれませんでした。データベースはこのファイルへのアクセスを禁止しますが、他のファイルに影響はおよびません。ただし、データベースをオープンする最初のインスタンスはすべてのオンライン・データ・ファイルをアクセスする必要があります。オペレーティング・システムによって、ファイルが見つからない理由を記述したエラー・メッセージがあわせて表示されます。

解決方法: データベースがファイルを使用できるようにします。そして、データベースをオープンするか、またはデータ・ファイルの ALTER SYSTEM CHECK を実行してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01158: データベース *:name* はすでにマウントされています。

原因: 別のインスタンスがこの名前ですでにマウントしています。

解決方法: CREATE CONTROLFILE 文を発行する前に、このデータベースをマウントしているインスタンスを見つけて停止してください。

ORA-01159: DBID が無効なためファイル *name* は先のファイルと同一データベースに存在しません。

原因: CREATE CONTROLFILE 文に指定したファイルで同一データベースに存在しないファイルがあります。

解決方法: CREATE CONTROLFILE 文に指定したファイルのリストを調べて、同一データベース上に存在しないファイルの指定を削除してください。

ORA-01160: ファイル *name* が *str* ではありません。これは、型 *str* です。

原因: CREATE CONTROLFILE 文のデータ・ファイル・セクションまたはログ・ファイル・セクションのファイルが、コマンド行にリストされている種類と異なります。

解決方法: ファイルを調べて種類を確認してください。正しいファイルの種類を指定して、コマンドを再実行してください。

ORA-01161: ファイル・ヘッダー内のデータベース名 *:name* は指定した *name* と一致しません。

原因: コマンド行に指定したデータベース名と、ファイル・ヘッダーに記録されたデータベース名が一致しません。コマンド行に指定したデータベース名が間違っています。

解決方法: 正しいデータベース名を再度入力してください。

ORA-01162: ファイル・ヘッダー内のブロック・サイズ *:num* は DB_BLOCK_SIZE: *num* と一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE によって、このファイルのブロック・サイズは、キャッシュ・バッファを割当てするのに使用された初期化パラメータ DB_BLOCK_SIZE と互換性がないことが判明しました。これが最初のファイルでない場合は、ブロック・サイズが混在しているか、またはファイルが破壊されています。

解決方法: このファイルがコマンドの最初のファイルであれば、DB_BLOCK_SIZE をファイルに合致させてインスタンスを再起動してください。最初のファイルではない場合は、ファイルの正しいバージョンを見つけてください。

ORA-01163: SIZE 句で示す *num* (ブロック) はヘッダー *num* と一致している必要があります。

原因: CREATE CONTROLFILE 文の SIZE 句にバイト単位で指定されたサイズが、ヘッダーに記録されているブロック数と等しくありません。

解決方法: 正しいファイル名とサイズをバイト単位で指定してください。

ORA-01164: MAXLOGFILES は *num* を超えることはできません。

原因: コマンド行に指定した MAXLOGFILES の値が < 数値 > の値を超えています。

解決方法: MAXLOGFILES に < 数値 > 以下の値を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-01165: MAXDATAFILES は *num* を超えることはできません。

原因: コマンド行に指定した MAXDATAFILES の値が < 数値 > を超えています。

解決方法: MAXDATAFILES に < 数値 > 以下の値を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-01166: ファイル番号 *num* が *num(num)* より大きくなっています。

原因: CREATE CONTROLFILE 文において、指摘されたファイルに、MAXDATAFILES または MAXLOGFILES に指定したファイル数を超えるファイル番号があります。またはファイル番号が初期化パラメータ DB_FILES に指定した最大数を超えています。

解決方法: MAXDATAFILES または MAXLOGFILES、またはパラメータ DB_FILES の値を大きくしてください。

ORA-01167: 2 つのファイルは同一ファイル番号 / グループ番号または同一ファイルです。

原因: コマンド行で指定したファイルのファイル番号が重複しているか、同一ファイルが 2 度指定されています。完全に同じファイルでない場合は、どちらかのファイルは一方のファイルのバックアップである可能性があります。同じログの 2 つのメンバーである場合は、グループ・ファイル指定と一緒に指定しなければなりません。このメッセージは、同じコントロール・ファイルが INIT.ORA ファイル内の CONTROL_FILES に 2 回以上表れた時にも表示されます。これが起きた時には、その他のエラー・メッセージもチェックしてください。

解決方法: 指定したファイルが、すでにコマンドの中で指定したファイルではないことを確認します。別のファイルである場合は、以前のバックアップを削除してください。同じログのメンバーである場合は、同じグループのファイル指定であることを確認して

ください。コントロール・ファイルが2重であるためこのメッセージが表示された場合、INIT.ORA 内の CONTROL_FILES パラメータをチェックし、ファイルが2回以上指定されているかどうかを確認してください。すべてのファイル名が一意であれば、実際のコントロール・ファイル自体が一意であることを確認してください。たとえば UNIX では、リスト内の別のコントロール・ファイルにシンボリック・リンクあるいはハード・リンクしていることを確認してください。

ORA-01168: 物理ブロック・サイズ :num は他メンバーのサイズ :num と一致しません。

原因: ファイルが、グループ内の他のメンバーとは異なる物理ブロック・サイズの装置上にあります。

解決方法: 一致するブロック・サイズの物理装置を使用してください。

ORA-01169: DATAFILE 番号 1 がありません。これは、必須です。

原因: データ・ファイル番号 1 が、CREATE CONTROLFILE 文に指定されていません。

解決方法: コマンド行にデータ・ファイル 1 を指定して、CREATE CONTROLFILE 文を再試行してください。

ORA-01170: ファイル name が見つかりません。

原因: CREATE CONTROLFILE 文に指定されたファイルがありません。
NORESETLOGS が使用されている場合、CREATE CONTROLFILE 文を発行するプロセスは、すべてのデータ・ファイルおよびログ・ファイルにアクセスできなければなりません。

解決方法: 文を調べてファイル名の綴りの間違いを調べ、すべてのファイルが存在することを確認してください。ファイル名を訂正してから文を再発行してください。

ORA-01171: チェックポイントが進まないためデータファイル str はオフラインになりました。

原因: ファイル・ヘッダー内のチェックポイントを進められません。理由については他のエラーを確認してください。データ・ブロックの書き込みエラーの場合と同様に、データ・ファイルはオフラインになります。

解決方法: 詳細は付随するメッセージをご覧ください。ファイルへのアクセスを復旧し、メディア回復を行い、オンラインに戻してください。

ORA-01172: スレッド num の回復が停止しました。(ファイル name、ブロック num)

原因: クラッシュ回復またはインスタンス回復はブロックに変更を適用できませんでした。次の変更ではなかったためです。これはブロックが破壊され、回復中に修正された場合に発生します。

解決方法: ブロックを含むファイルに対して、データ・ファイルを対象とした RECOVER を実行してください。これで問題が解決されない場合は、バックアップからファイルを復元し、再度回復してください。

ORA-01173: データ・ディクショナリが、システム表領域からデータ・ファイルが削除されたことを示しています。

原因: 次のいずれかです。

- データベースが制御ファイルの将来の時点に回復されている。
- CREATE CONTROLFILE 文にシステム表領域のデータ・ファイルが指定されていない。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

- 最新の制御ファイルによってデータベースを回復する。
- システム表領域内のデータ・ファイルがすべてコマンド・ラインに指定されていることを確認して、制御ファイルを再作成する。

ORA-01174: DB_FILES は num ですが、num にする必要があります。

原因: このインスタンスでサポートされるデータベース・ファイルの最大数が、他のインスタンスでサポートされる数と異なります。オープンできるすべてのファイルですべてのインスタンスもオープンできなければなりません。

解決方法: 互換可能にするために DB_FILES 初期化パラメータの値を変えてください。

ORA-01175: インスタンスがサポートできる数 :num を超えるファイルがデータ・ディクショナリにあります。

原因: データ・ディクショナリに、インスタンスがサポートできる数を超えるファイルが含まれています。

解決方法: 初期化パラメータ DB_FILES の値を大きくし、インスタンスをいったん停止してから再起動します。

ORA-01176: 制御ファイルがサポートできる数 :num を超えるファイルがデータ・ディクショナリにあります。

原因: CREATE CONTROLFILE 文の実行後、データ・ディクショナリに、制御ファイルがサポートできる数を超えるデータ・ファイルが含まれています。

解決方法: MAXDATAFILES の値を大きくし、制御ファイルを再作成してください。

ORA-01177: データ・ファイルはデータ・ディクショナリと一致しません。ファイルが古い可能性があります。

原因: CREATE CONTROLFILE または OPEN RESETLOGS の実行後に制御ファイルをデータ・ディクショナリと比較したときに、このデータ・ファイルがディクショナリと矛盾していることが判明しました。そのファイルはデータベースから削除されたファイルのバックアップであり、同じファイル番号が新しいファイルに再使用された可能性があります。また、このファイル番号が別のデータ・ファイルに使用されたときに、不完全回復が停止した可能性もあります。

解決方法: 正しいファイルを指定するか、ファイルをまったく指定せずに CREATE CONTROLFILE を実行します。

ORA-01178: 最後の CREATE CONTROLFILE 文より前に作成されたファイル name は再作成できません。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドを最後に使用したときに存在していたデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE datafile コマンドを使用して再作成しようとした。このファイルを再作成するために必要な情報は、このファイルをデータベースに追加したときに存在した制御ファイルによって失われました。

解決方法: ファイルのバックアップを見つけて回復してください。そのファイルが最初に作成されたときよりも前の時点まで不完全回復を実行してください。

ORA-01179: ファイル name が存在しません。

原因: データベース・ファイルの回復中、データベースに含まれていないファイルがリストされました。

解決方法: ファイル名を再度調べてください。SQL*DBA のコマンド行では、一重引用符を使用することに注意してください。SQL*DBA の動作環境ではファイル名も変換されます。

ORA-01180: データ・ファイル 1 が作成できません。

原因: ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを使用して、データ・ファイル 1 を作成することはできません。

解決方法: バックアップからファイルを回復するか、またはデータベースを再作成してください。

ORA-01181: 最後の RESETLOGS より前に作成されたファイル name は再作成できません。

原因: RESETLOGS オプションを使用してデータベースの最後のオープン以前に存在していたデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE datafile コマンドを使用して再作成しようとした。

解決方法: ファイルのバックアップを見つけてバックアップ・ファイルを回復してください。そのファイルが最初に作成されたときよりも前の時点まで不完全回復を実行してください。

ORA-01182: 使用中または回復中なため name は作成できません。

原因: オープン・インスタンスで現在オンラインか、または回復中のデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE datafile コマンドを使用して再作成しようとした。

解決方法: すべてのインスタンスに対してデータベースをクローズするか、すべての回復セッションを終了します。次にファイルをオフラインにして操作を再試行してください。

ORA-01183: データベースを SHARED モードでマウントすることはできません。

原因: このデータベースは EXCLUSIVE モードで、他のインスタンスによってマウントされています。他のインスタンスによって EXCLUSIVE モードでマウントされているデータベースを、SHARED モードでマウントすることはできません。

解決方法: 他のインスタンスを停止してから、再試行してください。

ORA-01184: ログ・グループ :num はすでに存在します。

原因: ALTER DATABASE ADD log file コマンドで指定した新しい REDO ログのログ番号は、すでに使用されています。

解決方法: 別のログ・ファイル番号を指定するか、またはデータベースに未使用の番号を選択させてください。

ORA-01185: ログ・グループ番号 :num が無効です。

原因: ALTER DATABASE ADD log file コマンドで指定した新しい REDO ログの REDO ログ番号が大きすぎます。

解決方法: 有効な REDO ログ・ファイル番号を指定してください。

ORA-01186: ファイル :name は検査を通過しませんでした。

原因: データ・ファイルがデータベースの一部であることを保証するための検査を通過しませんでした。検査を通過しなかった理由については、ともに表示されるエラー・メッセージを調べてください。

解決方法: データベースが正しいファイルを使用できるようにします。その後、データベースをオープンするか、または ALTER DATABASE CHECK コマンドを実行してください。

ORA-01187: ファイル :name は検査を通過しなかったため、このファイルから読み込むことができません。

原因: データ・ファイルがデータベースの一部であることを保証するための検査を通過しませんでした。検査を通過するまでそのファイルの読取りは認められません。

解決方法: データベースが正しいファイルを使用できるようにします。その後、データベースをオープンするか、または ALTER DATABASE CHECK コマンドを実行してください。

ORA-01188: ヘッダー内のブロック・サイズ :num は物理ブロック・サイズと一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定された REDO ログ・ファイル・メンバーが、REDO ログを作成するために最初に使用された装置とはブロック・サイズが異なる物理装置上に存在しています。

解決方法: 正しいブロック・サイズの装置にファイルを移動するか、または RESETLOGS オプションを使用して CREATE CONTROLFILE を実行してください。

ORA-01189: 以前のファイルと異なる RESETLOGS からのファイルです。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドで、このファイルまたはそれ以前のすべてのファイルは最後の RESETLOGS より前のバックアップからによるものです。これはそのファイルが最新の RESETLOGS からずっとオフラインであったときにも発生します。

解決方法: ファイルが、最後の RESETLOGS の前にオフラインになり、依然としてオフラインのままである場合は、CREATE CONTROLFILE コマンドからこのファイルを取り除きます。データベースをオープンした後でこのファイルを改名し、オンラインにしてください。それ以外の場合は、残りのデータ・ファイルと一貫性のある該当ファイルのバージョンを確認し、コマンドを再実行してください。

ORA-01190: 制御ファイルまたはデータ・ファイル name は最後の RESETLOGS より前のものです。

原因: データ・ファイル内のログ・リセット情報が制御ファイルと一致しないときに、媒体回復を実行しようとした。ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドを実行する前に、データ・ファイルまたは制御ファイルをバックアップしなければなりません。

解決方法: さらに新しいバックアップからファイルを復元してください。

ORA-01191: ファイル :name はすでにオフラインなためオフライン (NORMAL) にできません。

原因: 表領域をオフライン (NORMAL) にしようとしたが、指定したファイルはすでにオフラインになっています。

解決方法: データ・ファイルをオンラインにするか、または IMMEDIATE オプションを使用して表領域をオフラインにしてください。

ORA-01192: 少なくとも 1 つの使用可能なスレッドが必要です。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンド行に、少なくとも 1 つのスレッドから、少なくとも 2 つのログ・ファイルを指定しなければなりません。

解決方法: 足りないログ・ファイルを見つけてください。見つけたログ・ファイルを新たにコマンド行に指定してコマンドを再実行してください。

ORA-01193: ファイル :name は回復の開始に存在したファイルと異なります。

原因: ファイルの媒体回復を実行しようとしたが、最後の媒体 回復後、異なるファイルのコピーが存在しています。無効なファイルのバックアップを回復した可能性があります。

解決方法: 正しいバージョンのファイルを見つけて、媒体回復を再試行してください。

ORA-01194: ファイル :name は一貫した状態にするためにさらに回復が必要です。

原因: 不完全回復セッションを開始しましたが、ファイルを一貫したものにするために適用するログ・ファイルの数が足りません。指定したファイルは、データベースによって以前オープンされてから、完全にクローズされていません。不完全回復を実行する前に、バックアップからファイルを回復することを忘れたためにエラーが発生した可能性があります。

解決方法: ファイルは更新中ではない状態に回復しなければなりません。ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはより古いバックアップからファイルを回復して回復処理を繰返してください。

回復の詳細は、『Oracle8 サーバー管理者ガイド』の、索引項目「回復」を参照してください。

ORA-01195: オンライン・バックアップ・ファイル name は一貫した状態にするためにさらに回復が必要です。

原因: 不完全回復セッションを開始しましたが、ファイルを一貫したものにするために適用するログ・ファイルの数が足りません。指摘されたファイルはバックアップが終了した時点まで回復しなければならないオンライン・バックアップ・ファイルです。

解決方法: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはより古いバックアップからファイルを回復して回復処理を繰返してください。

オンライン・バックアップの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「オンライン・バックアップ」を参照してください。

ORA-01196: メディア回復セッションでエラーが発生したためファイル name は矛盾した状態にあります。

原因: ファイルの回復中に、回復処理が異常終了しました。このため、ファイルは一貫性のない状態のままです。このファイルの回復処理は、これ以上正常に実行できませんでした。

解決方法: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはバックアップからファイルを回復して回復処理を繰返してください。

メディア回復の詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「メディア回復」を参照してください。

ORA-01197: スレッド :num はログを 1 つしか含んでいません。

原因: CREATE CONTROLFILE 文の実行中、ログに指定されたすべてのスレッドは少なくとも 2 つのログ (2 番目のログと最後のログ) によって指定 されなければなりません。指定したスレッドには、2 つのログが含まれていません。

解決方法: 指定されたスレッドからさらに REDO ログを見つけるか、またはそのスレッドからの REDO ログに対する参照をすべて削除して、コマンドを再試行してください。

ORA-01198: RESETLOGS ではログ・ファイル name にサイズを指定する必要があります。

原因: OPEN RESETLOGS オプションつきで CREATE CONTROLFILE を実行している場合、すべての REDO ログ・ファイルにはファイル・サイズを指定しなければなりません。

解決方法: 適切なログ・ファイル・サイズを指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-01199: ファイル name がオンライン・バックアップ・モードではありません。

原因: オンライン・バックアップ中でないファイルに対してオンライン・バックアップを終了しようとした。

解決方法: コマンドは必要ないので、入力しないでください。

ORA-01200: 実ファイル・サイズ :num が正しいサイズ :num ブロックより小さくなっています。

原因: オペレーティング・システムが返すファイル・サイズが、ファイル・ヘッダーと制御ファイルに示されているファイル・サイズより小さくなっています。ファイルは切り捨てられた可能性があります。

解決方法: データ・ファイルをバックアップから復元して、必要であれば回復を行ってください。

ORA-01201: ファイル :name のヘッダーで書き込みに失敗しました。

原因: ファイル・ヘッダーの I/O エラーがレポートされました。エラーが検出されたため、再試行が行われます。

解決方法: おそらくファイルの回復が必要です。別のエラー・メッセージで必要な処置が示されます。

ORA-01202: このファイルの作成日時が一致しません。

原因: ファイル・ヘッダー内の作成日付と制御ファイル内の作成日付が一致しません。削除されたファイルのコピーである可能性があります。

解決方法: 現行のデータ・ファイルのコピーを復元して、必要であれば回復を行ってください。

ORA-01203: このファイルの作成システム変更番号 (SCN) が一致しません。

原因: ファイル・ヘッダー内の作成変更番号と制御ファイル内の作成変更番号が一致しません。削除されたファイルのコピーである可能性があります。

解決方法: 現行のデータ・ファイルのコピーを復元して、必要であれば回復を行ってください。

ORA-01204: ファイル番号は num です (num ではない)。ファイルが無効です。

原因: ファイル・ヘッダー内のファイル番号が正しくありません。同じデータベース内の不当なファイルのバックアップを復元した可能性があります。

解決方法: 正しいデータ・ファイルのコピーを復元して、必要であれば回復を行ってください。

ORA-01205: データファイルではありません。ヘッダー内のファイル型は num です。

原因: ヘッダー内のファイル型がデータ・ファイルとして正しくありません。このファイルはおそらくログ・ファイルまたは制御ファイルです。

解決方法: 正しいデータ・ファイルのコピーを復元して、必要であれば回復を行ってください。

ORA-01206: ファイルがこのデータベースの一部ではありません。DB ID が無効です。

原因: ファイル・ヘッダー内のデータベース ID が制御ファイル内のデータベース ID と一致しません。データベースが異なるか、またはデータベース・ファイルではない可能性があります。データベースを再構築した場合、再構築前のファイルである可能性もあります。

解決方法: 正しいデータ・ファイルのコピーを復元して、必要であれば回復を行ってください。

ORA-01207: ファイルが制御ファイルより新しくなっています (制御ファイルが古い)

原因: データ・ファイル内の制御ファイル変更順序番号が、制御ファイル内の番号より大きくなっています。これは間違った制御ファイルが使用されていることを示しています。

注意: このメッセージが繰り返し発生する場合、データベースを何度もオープンすると、問題が解決していないにもかかわらずメッセージが発生しなくなることがあります。データベースをオープンしようとするたびに、制御ファイル変更順序番号は十分な大きさになるまで更新されます。

解決方法: 現行の制御ファイルを使用するか、取消しベースの回復を行って現行の制御ファイルにしてください。なお、取消しベースの回復の実行に対する制限には従ってください。

ORA-01208: ファイルが制御ファイルより新しくなっています (制御ファイルが古い)

原因: ファイル・ヘッダー内のチェックポイントが、制御ファイル内のチェックポイントよりも前のものです。他のインスタンスによってすでにオープンされているデータベースをオープンしている場合、または他のインスタンスによってこのファイルがオンラインにされた場合に、データベースがファイルの異なるバージョンを参照している可能性があります。それ以外の場合は、ファイルがまだ使用されている最中にそのファイルのバックアップが復元された可能性があります。

解決方法: データベースが正しいファイルを使用できるようにします。その後、データベースをオープンするか、または ALTER DATABASE CHECK 文を実行してください。

ORA-01209: データ・ファイルは最後の RESETLOGS より前のものです。

原因: ファイル・ヘッダー内のリセット REDO ログ・データと制御ファイルが一致しません。データベースがクローズされているか、ファイルがオフラインの場合には、そのファイルは、ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドを最後に実行した時点よりも前に取られた古いバックアップです。別のインスタンスによってすでにオープンされているデータベースをオープンしている場合、または別のインスタンスがこのファイルをオンラインにした場合には、別のバージョンのファイルを参照している可能性があります。それ以外の場合は、ファイルがまだ使用されている最中にそのファイルのバックアップが復元された可能性があります。

解決方法: データベースが正しいファイルを使用できるようにします。その後、データベースをオープンするか、または ALTER DATABASE CHECK 文を実行してください。

ORA-01210: データ・ファイル・ヘッダーにメディア欠陥があります。

原因: ファイル・ヘッダー・ブロックが内部的に矛盾しています。ブロックの先頭にはチェックサム付きのヘッダー、およびブロックの一貫性を保証する他のデータが存在します。最後のディスクの書込みが正常に行われなかった可能性があります。問題として最も可能性が高いのは、このファイルがデータベース用ではないということです。

解決方法: データベースが正しいファイルを使用できるようにします。詳しい情報については、このエラーの発生後に生成されたトレース・ファイルを参照してください。チェックサムが不当であることをトレース・ファイルが示している場合、バックアップからファイルを復元して媒体回復を行ってください。

ORA-01211: Oracle7 データ・ファイルは Oracle8 に移行していません。

原因: ファイルが、Oracle7 の下で最後に使用されたファイルのコピーではありません。このデータ・ファイルは、移行前に採られたバックアップ、または移行ユーティリティ実行後に Oracle7 によってオープンされたデータベース・ファイルのいずれかです。データベースを Oracle7 から Oracle8 に変換するときは、移行プログラムが Oracle7 の下でそのデータベースにアクセスする最後のユーティリティでなければなりません。移行が完了したときに Oracle8 がアクセスできるのは現行のデータファイルだけです。

解決方法: オペレーティング・システムに、データベースが正しいデータ・ファイルを利用できるようにさせるか、または Oracle7 から Oracle8 への移行を繰り返します。移行ユーティリティ実行後にデータベースがオープンしていないことを確認してください。

ORA-01212: MAXLOGMEMBERS は num を超えることはできません。

原因: MAXLOGMEMBERS に指定した値が大きすぎます。

解決方法: MAXLOGMEMBERS の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01213: MAXINSTANCES は num を超えることはできません。

原因: MAXINSTANCES に指定した値が大きすぎます。

解決方法: MAXINSTANCES の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01214: MAXLOGHISTORY は num を超えることはできません。

原因: MAXLOGHISTORY に指定した値が大きすぎます。

解決方法: MAXLOGHISTORY の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01215: CREATE CONTROLFILE に使用可能なスレッド :num がありません。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドは、データベースに対して使用可能なスレッドをすべてリストしませんでした。

解決方法: CREATE CONTROLFILE コマンドを再実行して、使用可能なスレッドをすべて含めてください。

ORA-01216: CREATE CONTROLFILE 文のスレッド :num を使用禁止にすべきです。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定したスレッドは使用可能となりましたが、データ・ファイルはスレッドを使用禁止にすべきことを示しています。これは CREATE CONTROLFILE コマンドに指定したログ・ファイルが、スレッドを使用禁止にする以前のものである可能性があります。

解決方法: このスレッドはデータベースの操作には必要ありません。スレッドを指定しないでコマンドを再試行してください。必要であれば、データベースをオープンしてからスレッドを再作成できます。

ORA-01217: ログ・ファイル・メンバーが異なるログ・ファイル・グループに属しています。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定したログ・ファイル・グループのメンバーが、先のメンバーと同じグループの一部ではありません。

解決方法: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定したログ・ファイル・グループのメンバーを、正しいメンバーに訂正します。

ORA-01218: ログ・ファイル・メンバーが同じ時点のものではありません。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定したログ・ファイル・グループのメンバーは、先のメンバーと異なる時点のものです。指定したメンバーの1つが、古いバージョンの REDO ログ（おそらくバックアップ・コピー）である可能性があります。

解決方法: 正しいバージョンのファイルを見つけて、媒体回復を再試行してください。

ORA-01219: データベースがオープンしていません。固定の表 / ビューに対する問合せだけが可能です。

原因: データベースがオープンされる前に固定の表 / ビューとして認識されていないオブジェクトに対し、問合せが発行されました。

解決方法: 固定のオブジェクトだけに対する問合せを再発行するか、データベースをオープンしてください。

ORA-01220: データベースのオープン前のファイル・ベースのソートは無効です。

原因: データベースがオープンされる前に、ソート用の一時セグメントが必要な表またはビューに対し問合せが発行されました。データベースがオープンされる前は、メモリー内のソートだけが可能です。

解決方法: 問合せを書き換え、大きいソートをしないようにしてください。また、初期化パラメータ・ファイルの SORT_AREA_SIZE パラメータを増やしてメモリー内でソートできるようにしてください。

ORA-01221: データ・ファイル name がバックグラウンド・プロセスに対して同一ファイルではありません。

原因: データベース・ライターがデータ・ファイルをオープンする時、フォアグラウンドで回復を行う物理ファイルと異なるファイルにアクセスしました。フォアグラウンドでセットされるタイムスタンプは、バックグラウンドでは見つかりません。バックグラウンド・プロセスがそのファイルをまったく読んでいない可能性があります。

解決方法: DBWR トレース・ファイルの中を見て、ファイル・ヘッダーの読み込みの際に受け取ったエラーを調べてください。バックグラウンド・プロセスによって同一のファイルが正常にそのファイル名でオープンするために、必要であればオペレーティング・システムの再構成を行ってください。

ORA-01222: num の MAXINSTANCES は少なくとも num の MAXLOGFILES が必要です (num ではない)。

原因: 再実行の 1 スレッドあたり少なくとも 2 つの REDO ログ用の領域のないデータベースまたは制御ファイルを作成しようとしてしました。再実行のスレッドを使用可能にするには、このスレッドが 2 つのオンライン REDO ログを持っていなければなりません。そのログでサポートできる数以上の再実行のスレッドを許可することは、意味がありません。

解決方法: MAXINSTANCES 引数を減らすか MAXLOGFILES を増やします。

ORA-01223: 新規データベース名を設定するには RESETLOGS を指定しなければなりません。

原因: CREATE CONTROLFILE で SET database name オプションが指定されましたが、RESETLOGS は指定されませんでした。データベース名は、RESETLOGS を使用してデータベースをオープンするときだけ変更できます。

解決方法: CREATE CONTROLFILE に対し、RESETLOGS オプションを追加するか、SET オプションを削除してください。

ORA-01224: ヘッダー name 内のグループ番号は、GROUP:name と一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE で指定されたグループ番号がヘッダー中のグループ番号と一致していません。指定が誤っている可能性があります。

解決方法: GROUP オプションを指定しないか、正しい GRUOP オプションを指定してください。

ORA-01225: スレッド番号 :num が MAXINSTANCES:num より大きいです。

原因: スレッド番号に MAXINSTANCES より大きい値を指定しました。

解決方法: MAXINSTANCES に、より大きい値を指定してから再試行してください。

ORA-01226: ログ・メンバーのファイル・ヘッダーは他メンバーと矛盾しています。

原因: 同時に出力されるエラー・メッセージのログ・ファイル・メンバーは以前のメンバーと同じグループですが、ヘッダー中の他のフィールドとは異なっています。ファイル・ヘッダーが壊れているか、いくつかのファイルが削除されたログのメンバーとなっている可能性があります。

解決方法: REDO ログ・メンバーを訂正するか、このメンバーをコマンドから外します。

REDO ログの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の、索引項目「REDO ログ」と「REDO ログ・ファイル」を参照してください。.

ORA-01227: ログ name が他メンバーと矛盾しています。

原因: メッセージと同時に出力される REDO ログ・ファイルは、CREATE CONTROLFILE コマンド内で与えられた別の REDO ログの内容と一貫性がありません。ヘッダー・ファイルが壊れているか、またはいくつかのファイルが現在のバージョンより古いコピーである可能性があります。一貫性の不一致なので問題の原因は表示さ

れたログではないかもしれません。コマンド中にリストされるすべてのログ・ファイルは現在のバージョンのオンライン・ログでなければいけません。

解決方法: 正しいオンライン REDO ログを見つけるか、RESETLOGS オプションを使用してください。

REDO ログの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「REDO ログ」と「REDO ログ・ファイル」を参照してください。.

ORA-01228: SET DATABASE オプションは初期 DB をインストールする必要があります。

原因: 初期データベースのインストール時に、CREATE CONTROLFILE コマンド中に SET DATABASE オプションが含まれていませんでした。データベースは複数のサイトにインストールされるため、データベース ID を持っていません。各サイトではそれぞれ自分のデータベース ID が必要となります。SET DATABASE と RESETLOGS オプションを、このデータベースの制御ファイル作成のために指定する必要があります。

解決方法: SET DATABASE と RESETLOGS オプションを指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-01229: データ・ファイル :name がログと矛盾しています。

原因: 同時に出力されるエラー・メッセージに示されたデータ・ファイルは、CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されている REDO ログの内容と一貫性がありません。コマンドに 1 つまたは複数のオンライン REDO ログを指定していない可能性があります。また、指定されていてもそのバージョンが現行のバージョンよりも古いことが考えられます。コマンド中にリストされるすべてのログ・ファイルは現在のバージョンのオンライン・ログでなければいけません。

解決方法: 正しいオンライン REDO ログを見つけるか、RESETLOGS オプションを使用してください。

データファイルの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「データ・ファイル」を参照してください。

ORA-01230: 読み込み専用にできません - ファイル :name がオフラインです。

原因: 表領域を読み取り専用に設定しようとしたが、オフライン・ファイルでした。

解決方法: ファイルをオンラインにして操作を再試行してください。

ORA-01231: ファイル :name がオフラインです。

原因: 表領域を読み取り書込みに設定しようとしたが、オフライン・ファイルでした。

解決方法: ファイルをオンラインにして操作を再試行してください。

ORA-01232: オンライン・バックアップを開始できません - ファイル :name は読み込み専用です。read only

原因: オンライン・バックアップを起動しようとしたが、読み取り専用ファイルでした。

解決方法: 読取り専用ファイルはオンライン・バックアップ・モードに設定する必要はありません。BEGIN BACKUP コマンドを使わないでバックアップを起動してください。

ORA-01233: ファイル :name は読込み専用です。- バックアップの制御ファイルを使用して回復できません。

原因: バックアップ制御ファイルを使用して媒体回復を行おうとしましたが、読込み専用ファイルでした。通常、読込み専用ファイルは回復の必要がありません。ただし、バックアップ制御ファイルを使用して回復する場合には、すべてのオンライン・ファイルを回復しなければなりません。

解決方法: データベースをオープンした後に、読込み専用ファイルをオフラインにし、表領域をオンラインにしてください。現在、読取り専用ファイルが読取り書込みになっている場合に、バックアップ制御ファイルを使用していることを確認してください。そのような制御ファイルが使用不可能であれば、CREATE CONTROLFILE コマンドを使用して再作成してください。

ORA-01234: ファイル :name はバックアップが終了できません。- ファイルが使用中または回復処理中です。

原因: ファイルがビジーなときに、ファイルのオンライン・バックアップを終了させようとした。回復や改名といった操作がアクティブになっているか、またはデータベースをオープンし、このファイルとオンラインになっているインスタンスが存在する可能性があります。

解決方法: データベースをオープンさせたインスタンスがある場合、ALTER TABLESPACE コマンドを使ってバックアップを終了させることができます。それ以外の場合は、その他の操作の完了を待ちます。

ORA-01235: END BACKUP は name ファイルで失敗しましたが、% name では正常に終了しました。

原因: END BACKUP コマンドの 1 つまたは複数のファイルが失敗しました。同じコマンド中のその他のいくつかのファイルは成功しました。

解決方法: バックアップが終了しなかった理由については、付随するエラー・メッセージを参照してください。エラー・メッセージにリストされていないファイルは成功しています。

ORA-01236: ファイル・ヘッダー・アクセスの開始時にエラー :name が発生しました。

原因: 示されたエラーが、ファイル・ヘッダーの初期化処理中に発生しました。

解決方法: 示されたエラーを訂正してください。さらに遅いアクセス・アルゴリズムを使ってこのエラーからの回復を試みます。

ORA-01237: データファイル :name は拡張できません。

原因: サイズ変更の間にオペレーティング・システムのエラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システム・エラーの原因に対処してから、コマンドを再試行してください。

ORA-01238: データファイル :name は縮小できません。

原因: サイズ変更の間にオペレーティング・システムのエラーが発生しました。

解決方法: このエラーは無視され、操作は正常に続行 します。

ORA-01239: 外部キャッシュの使用には、データベースは ARCHIVELOG モードでなければなりません。

原因: オンライン・ファイルで外部キャッシュを使用しましたが、データベースが NOARCHIVELOG モードでした。外部キャッシュには媒体回復が必要な場合もあるので、これは許可されません。

解決方法: データベースを ARCHIVELOG モードに変更するか、外部キャッシュを使用しないでください。ARCHIVELOG の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ARCHIVELOG」を参照してください。

ORA-01240: 1 つのコマンドで追加するデータ・ファイルが多すぎます。

原因: コマンドに指定されたデータ・ファイルの数が、1 つのコマンドで追加できる数を超えました。全ファイル名を 1 つのログ・エントリに組み込む必要がありますが、その場合はエントリが大きくなりすぎます。

解決方法: CREATE TABLESPACE コマンドの場合、ファイルの数を減らして作成し、後で他のファイルを追加してください。ADD DATAFILE コマンドの場合は、複数のコマンドに分割します。CREATE TABLESPACE と ADD DATAFILE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE TABLESPACE」と、索引項目「ALTER TABLESPACE コマンドの ADD DATAFILE 句」を参照してください。

ORA-01241: 外部キャッシュが消滅しています。

原因: 外部キャッシュが再起動された可能性があります。

解決方法: エラー・スタック内の該当ファイルをオフラインにして、メディア回復を行い、そのファイルをオンラインに戻してから操作を再試行してください。また、インスタンスすべてを再起動して、一貫した外部キャッシュを介してインスタンスが全データ・ファイルに確実にアクセスすることも確認できます。

外部キャッシュとデータファイルのメディア回復の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の、索引項目「キャッシュ」と索引項目「データファイル、バックアップ、メディア回復」を参照してください。

ORA-01242: データ・ファイルのメディア障害発生: データベースは NOARCHIVELOG モードです。

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードで、メディア障害のためデータベース・ファイルがアクセス不能であることが判明しました。

解決方法: エラー・スタック内の該当ファイルのアクセスを回復し、インスタンスを再起動してください。

メディア故障の詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「メディア故障」を参照してください。NOARCHIVELOG の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「NOARCHIVELOG」を参照してください。

ORA-01243: システム表領域ファイルにメディア障害が起こりました。

原因: システム表領域ファイルが、メディア障害によってアクセス不能であることが判明しました。

解決方法: エラー・スタック内の該当ファイルのアクセスを回復し、インスタンスを再起動してください。

メディア故障の詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「メディア故障」を参照してください。表領域の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「表領域」を参照してください。

ORA-01244: メディア・リカバリによって名前なしデータファイルが制御ファイルに追加されました。

原因: 再作成されたバックアップ制御ファイルまたは制御ファイルを使用したメディア回復（リカバリ）で、制御ファイルにないデータ・ファイルが作成されました。新しいデータ・ファイル用の制御ファイルにはエントリが 1 つ追加されますが、このファイル名は UNNAMEDnum であり、num はファイル番号です。ファイルの作成に使用された元のファイル名は、後に続くエラー・メッセージで分かります。

解決方法: ファイルを改名をしてファイル名を有効にし、回復を再開してください。必要に応じて、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを使用し、回復に適したファイルを作成して改名します。ファイルを回復しない場合は、DROP オプションを指定してそのファイルをオフラインにしてください。

データファイルおよびメディア回復の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「回復、メディア、データ・ファイル」を参照してください。

ORA-01245: RESETLOGS が行われるとオフライン・ファイル *name* が失われます。

原因: オフラインであるため失われる可能性があるファイルを使用して、OPEN RESETLOGS を実行しようとした。このファイルは DROP オプションを指定してオフラインにされていません。

解決方法: ファイルをオンラインにして回復するか、DROP オプションを指定してファイルをオフラインにしてください。

ファイルをオンラインにする方法およびファイルの回復方法の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「REDO ログ・ファイル、オンラインの回復方法」を参照してください。

ORA-01246: 表領域: *name* の TSPITR を使用してファイルを回復します。

原因: 続いて表示されるエラーで示されているファイルは、この表領域に対して Point-in-Time 表領域回復が行われる前に作成されたバックアップです。これらのファイルは、Point-in-Time 回復後の状態に回復することはできません。

解決方法: さらに新しいバックアップを復元して、それらを回復してください。

ORA-01247: 表領域: *name* の TSPITR を使用してデータベースを回復します。

原因: データベース全体を回復しようとしたが、Point-in-Time 表領域回復が行われたことを REDO が示しています。表領域内のファイルの新規バージョンが回復に組み込まれている必要がありますが、組み込まれていませんでした。

解決方法: 表領域を回復しない場合は、表領域内のファイルをオフラインにして削除してください。回復する必要がある場合は、表領域内のファイルをオフラインにして削除してください。回復する必要がある場合は、その後、必要に応じてリストアまたは名前変更を行い、回復を再始動してください。

ORA-01248: 作成されたファイル名で回復を行うと不完全になります。

原因: switchToCopy で作成された、制御ファイルのファイル・エントリで REESETLOGS オープンを行おうとしたが、元々ファイルが不完全な回復の UNTIL 時間後に作成されていました。ファイル番号は、RESETLOGS が使用されていれば失われているはずの別のファイルに使用されている可能性があります。

解決方法: さらに回復を行う必要があれば、ファイルの作成時間になるまで REDO を適用してください。ファイルを必要とせず、回復の停止時に同じファイル番号が使用されていないときは、DROP オプションでファイルをオフラインにすることができます。それ以外の場合は、RESETLOGS を使用するためには別の制御ファイルが必要です。他のバックアップの復元や回復をしたり、CREATE CONTROLFILE を使用して制御ファイルを作成することもできます。

ORA-01249: クローン・データベースでアーカイブは実現できません。

原因: オンライン REDO ログをアーカイブしようとしたか、またはクローン・データベースのアーカイブを使用可能にしようとした。

解決方法: クローンからアーカイブしないでください。アーカイブ・ログの宛先は簡単にプライマリ・データベースの宛先と同じにして、アーカイブしたログを破棄することができます。アーカイブが必要であれば、データベースをクローンとしてではなく再作成してください。

ORA-01250: ファイル・ヘッダー・アクセスの終了時にエラー *:name* が発生しました。

原因: 示されたエラーが、ファイル・ヘッダーの初期化処理中に発生しました。エラーは、WRITE エラーではありませんでした。

解決方法: 示されたエラーを訂正してください。

ORA-01251: ファイル番号 *num* に不明なファイル・ヘッダー・バージョンが読み込まれました。

原因: ファイル・ヘッダーの読み込みがレコードを返しましたが、そのバージョンが不明です。ヘッダーが破壊されているか、ファイルが有効なデータベース・ファイルではありません。

解決方法: オペレーティング・システムが正しいファイルをデータベースで使えるようにするか、ファイルを回復してください。

SQL の実行メッセージ : 01400 ~ 01489

この節では、SQL の実行中に出力されるメッセージを記載します。

ORA-01400: ("USER"."TABLE"."COLUMN") に NULL は挿入できません。

原因: 次の列に NULL を挿入しようとした。"USER"."TABLE"."COLUMN".

たとえば、次を入力した場合、

```
connect scott/tiger
create table a (a1 number not null);
insert into a values (null);
Oracle は、次を返します。
```

```
ORA-01400 cannot insert NULL into ("SCOTT"."A"."A1") : which means you cannot
insert NULL into "SCOTT"."A"."A1".
```

解決方法: NULL 以外の値で、操作を再試行してください。

ORA-01401: 列に挿入した値が大きすぎます。

原因: 入力した値は、列に定義した最大の幅より大きくなります。

解決方法: 列幅に小さい値を指定し直すか、ALTER TABLE 文に MODIFY オプションを使用して、列の幅を大きくしてください。

ORA-01402: ビューの WITH CHECK OPTION WHERE 句でエラーが発生しました。

原因: CHECK OPTION で作成したビューに対して INSERT 文または UPDATE 文が試みられました。この結果、ビューの WHERE 句を満足しない行が作成されます。

解決方法: ディクショナリ表のビューの WHERE 句を調べてください。現行ビューに CHECK OPTION がない場合、FROM は CHECK OPTION を使用して定義した第 2 のビューを参照していなければなりません。第 2 のビューの WHERE 句は、どのような INSERT または UPDATE でも満足する必要があります。行を挿入するには、ビューを介して挿入するのではなく、基礎となっている表に直接挿入しなければならない場合があります。

ORA-01403: データがありません。

原因: ホスト言語プログラム中に、すべてのレコードがフェッチされています。この処理のリターン・コードは +4 です。SQL の問合せからレコードがすべて返されたことを示しています。

解決方法: SELECT 文の処理を終了してください。

ORA-01404: ALTER COLUMN による連結索引が長すぎます。

原因: ある列の長さを増やすと、以前の CREATE INDEX 文に指定した列結合の長さが索引の最大長 (255) を超えてしまいます。索引の全長は、索引付き列の幅の総和に索引付き列の数を加算したものとなります。データ・フィールドは長さ 7、文字フィールドは定義された幅、数値フィールドは長さ 22 になります。

解決方法: 列を変更するには、影響を受ける索引を削除するしかありません。索引は、索引の最大幅を超える結果になるように作成し直すことはできません。

ORA-01405: 取り出した列の値が NULL です。

原因: FETCH 操作の INTO 句に NULL 値が含まれていて、インジケータが使用されませんでした。プログラム内の列バッファがそのまま、カーソル回復コードが +2 です。オラクルを DBMS=6、エミュレーティング・バージョン 6 で実行しているのでなければ、エラーです。実行しているのならば、警告です。

解決方法: 次のいずれかを実行します。

- NVL 機能を使用して、検索された NULL を 0 やブランクのような他の値に変換してください。これが最も簡潔な処置です。
- 標識を使って NULL の存在をレコードしてください。NULL が発生しているときに固有の処置をしたい場合にこの項目を使用できます。
- カーソル定義を再発行し、どの NULL 値を含む列も検索されないようにしてください。

ORA-01406: 取り出された列の値は切り捨てられました。

原因: ホスト言語プログラム中の FETCH 処理によって、ある文字列が強制的に切り捨てられました。この列のプログラム・バッファ領域が文字列全体を格納する程大きくなかったためです。取り出しのカーソル・リターン・コードは +3 でした。

解決方法: 最大列値を保持できるよう列のバッファ領域を増やすか、または他の適切な処理を実行してください。

ORA-01407: ("USER"."TABLE"."COLUMN") は NULL に更新できません。

"TABLE"."COLUMN") を NULL にします。

原因: 次の表の列を NULL 値で更新しようとしてしました。"USER"."TABLE"."COLUMN"。たとえば、次を入力した場合、

```
connect scott/tiger
update table a (a1 number not null);
insert into a values (null);
Oracle は、次を返します。
```

ORA-01407 "SCOTT"."A"."A1") は NULL に更新できません。列 "SCOTT"."A"."A1" は NULL に更新できません。"A1" を NULL にします。

解決方法: NULL 以外の値で、操作を再試行してください。

ORA-01408: 列リストにはすでに索引が作成されています。

原因: CREATE INDEX 文によってすでに索引が付いている列が指定されました。単一の列には 1 度だけ索引を付けることができます。連結索引の一部として使用する場合、つまり、索引が複数の列から構成されている場合は、その列にさらに索引を作成できません。

解決方法: 必要なければ、列に索引を付け直さないでください。連結キーを作成するためには、CREATE INDEX 文に列を追加して指定してください。

ORA-01409: 行が昇順になっていないので、NOSORT オプションは使用できません。

原因: データ行が昇順ではないのに、NOSORT オプションで索引を作成しました。NOSORT オプションはすでに昇順であるデータ行でだけ使用できます。

一意ではない索引では、ROWID がインデックス・キーの一部とみなされました。つまり昇順に記憶されていると思われた二つのデータ列がそうではなかったことになりました。NOSORT 索引を作成する場合、表の中の 2 つの行が同じ索引値を持ち、2 つのエクステントに渡って分割されているときは、2 番目のエクステントの最初のブロックのデータ・ブロックアドレスは 1 番目のエクステントの最後のブロックのデータ・ブロック・アドレスより小さくできます。これらのアドレスが昇順ではない場合、ROWID も昇順ではありません。これらの ROWID はインデックス・キーとみなされているので、インデックス・キーは昇順ではなく、したがって NOSORT 索引も作成できません。

解決方法: NOSORT オプションを使用せずに索引を作成するか、または表が 1 つのエクステントの中に格納されるようにしてください。

ORA-01410: ROWID が無効です。

原因: ROWID が不適切です。ROWID は、数字および A から F までの文字を使用する 16 進数として入力しなければなりません。通常の ROWID の形式は、'000001F8.0001.0006' です。

解決方法: 形式を確認し、正しい形式を使用して ROWID を入力してください。ROWID の形式は、ブロック ID、ブロック内の行、ファイル ID です。

ORA-01411: 列の長さを標識に格納することができません。

原因: Oracle は 64K バイトを超える列を取り出そうとし、指定された 2 バイトの標識サイズで列の長さを格納できませんでした。

解決方法: 長い列を取り出すために新しいバインド・タイプを使用してください。

ORA-01412: このデータ型で長さ 0 は使用できません。

原因: データ型 97 の長さは 0 です。

解決方法: データ型に対して正しい長さを指定してください。

ORA-01413: バック 10 進数のバッファの値が無効です。

原因: ユーザーによってバック 10 進数としてバインドされているユーザー・バッファに、不正な値が含まれていました。

解決方法: 正しい値を使用してください。

ORA-01414: 配列をバインドするには、配列長が無効です。

原因: 現在の配列の長さポインタまたは最大配列長ゼロのどちらも指定せずに配列のバインドを試行しました。

解決方法: 有効な長さを指定してください。

ORA-01416: 2 つの表を相互に外部結合することはできません。

原因: 結合操作中に 2 つの表が互いに外部結合を指定しました。結合条件では、一方の表上に外部結合を指定した場合、これを他方の表上で指定することはできません。

解決方法: 表の 1 つから外部結合の仕様部 (+) を削除してから、操作を再試行してください。

ORA-01417: 表が少なくとも 1 つの他の表に外部結合されている可能性があります。

原因: 結合操作中の表によって、外部結合が 2 つ以上の他の表に指定されています。表で指定できる他の表への外部結合は、1 つだけです。

解決方法: この表に外部結合 (+) を 1 つだけ指定して、操作を再試行してください。

ORA-01418: 指定した索引は存在しません。

原因: ALTER INDEX 文、または DROP INDEX 文、VALIDATE INDEX 文に、存在しない索引名が指定されました。実在する索引しか変更、削除、検証できません。データ・ディクショナリを問合せることによって、既存の索引をリストできます。

解決方法: ALTER INDEX 文、DROP INDEX 文、VALIDATE INDEX 文に既存の索引名を指定してください。

ORA-01419: datdts: 書式コードが無効です。

原因: 不正な形式を使用しようとしてしました。

解決方法: 形式を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01420: datstd: 書式コードが無効です。

原因: 無効な形式を使用しようとしてしました。

解決方法: 形式を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01421: datrnd/dattrn: 精度指定子が無効です。

原因: 無効な精度指定子を使用しようとしてしました。

解決方法: 精度指定子を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01422: 要求よりも多くの行が取り出されました。

原因: 指定されたよりも多くの行が実際に取り出されました。

解決方法: 返される行が少なくなるように問合せを修正するか、または取出しにおいてもっと多くの行を指定してください。

ORA-01423: 行の取出しの検査中にエラーが発生しました。

原因: 取出しの実行中にエラーが発生しました。このエラーに続いてより詳細なエラー・メッセージが表示されます。

解決方法: 続いて表示される詳細なメッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01424: エスケープ文字に続く文字がないか、または無効です。

原因: LIKE パターンにおいてエスケープ文字に続く文字が指定されていないか、またはエスケープ文字 '%' または '_' のどちらかではありません。

解決方法: エスケープ文字を取り除くか、または正しく指定してください。

ORA-01425: エスケープ文字は長さ 1 の文字列でなければなりません。

原因: LIKE に指定されたエスケープ文字が長さ 1 の文字列ではありません。

解決方法: 長さ 1 の文字列に変更してください。

ORA-01426: オーバーフローが発生しました。

原因: 値式の評価でオーバーフローまたはアンダーフローが発生しました。

解決方法: オペランド数が少なくなるように一連の式を書き直してください。

ORA-01427: 単一行副問合せにより 2 つ以上の行が返されます。

原因: ユーザーの副問合せから複数の行が返されたので、外部問合せには比較する値を指定するためのキーワード ANY、ALL、IN、NOT IN のいずれか 1 つを使用する必要があります。

解決方法: 比較する値を指定するために、ANY、ALL、IN、NOT IN のいずれか 1 つを使用するか、または 1 行だけ検索されるように問合せを修正してください。

ORA-01428: 引数 *num* が有効範囲を超えています。

原因: 以下のような文で、算術関数に無効な引数または有効範囲外の引数を使用しました。たとえば次のような場合です。

```
SELECT SQRT(-1) "Square Root" FROM DUAL;
```

解決方法: 『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照し、算術関数の有効な入力とその範囲を確認してください。

ORA-01429: 索引付き編成表: オーバーフロー列を格納するデータ・セグメントがありません。

原因: オーバーフローを格納するデータ・セグメントが定義されていません。

解決方法: オーバーフロー・セグメントを追加して、操作を再試行してください。

ORA-01430: 追加する列がすでに表に存在しています。

原因: ALTER TABLE ADD 文に、すでに表上にある列の名前を指定しました。単一の表中の列名はすべて一意でなければなりません。

解決方法: 新規列に一意の名前を指定してから、文を再実行してください。

ORA-01431: GRANT コマンドで内部エラーが発生しました。

原因: GRANT 文の実行中に内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01432: 削除するパブリック・シノニムが存在しません。

原因: DROP PUBLIC SYNONYM に指定したパブリック・シノニムは無効です。プライベート・シノニムかもしれません。

解決方法: シノニムの名前を訂正するか、シノニムがパブリックでなければ DROP SYNONYM を使用してください。

ORA-01433: 作成するシノニムがすでに定義されています。

原因: CREATE SYNONYM 文に、既存のシノニム、表、ビュー、クラスタと同じ名前のシノニム名を指定しました。シノニムには、それを作成したユーザーが使用可能な他のシノニム、表、ビュー、クラスタと同じ名前を付けることはできません。

解決方法: シノニムに一意の名前を指定してから、文を再実行してください。

ORA-01434: 削除するプライベート・シノニムが存在しません。

原因: DROP SYNONYM 文に存在しないシノニムを指定しました。既存のシノニム名についてはデータ・ディクショナリを問合せることによってリストできます。

解決方法: DROP SYNONYM 文に存在しているシノニムの名前を指定してください。

ORA-01435: ユーザーが存在しません。

原因: 存在しないユーザーを参照すると、このエラーが発生します。たとえば、SELECT、または GRANT、REVOKE 文に存在しないユーザー名を指定するとエラーとなります。GRANT CONNECT 文にだけ新しいユーザー名を指定できます。他の GRANT および REVOKE 文には、既存のユーザー名を指定しなければなりません。また、SELECT 文には既存のユーザー名を指定しなければなりません。

解決方法: SELECT、GRANT、または REVOKE 文に存在するユーザー名だけを指定するか、データベース管理者に新規ユーザー名を定義してもらってください。

ORA-01436: ユーザー・データで CONNECT BY のループが発生しました。

原因: CONNECT BY 句に指定した条件によって、問合せにループが発生しました。選択すべき次のレコードが自分の後続者となっています。このため、問合せは無限に続きます。

解決方法: CONNECT BY 句を確認して、循環参照を削除してください。

ORA-01437: 結合は CONNECT BY と一緒に指定できません。

原因: CONNECT BY 句と同時に結合処理を指定しました。ツリー構造の問合せに対する SELECT 文に CONNECT BY 句を使用する場合、問合せでは表は 1 つしか参照できません。

解決方法: CONNECT BY 句または結合処理を SQL 文から削除してください。

ORA-01438: 指定した精度を超える値が列に指定されています。

原因: レコードの挿入または更新時に、その列に対して定義されている精度を超える数値が入力されました。

解決方法: 数値列の精度に従った値を入力するか、ALTER TABLE コマンドの MODIFY オプションを使用して、精度を上げてください。

ORA-01439: データ型を変更する列は空でなければなりません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文でデータを含む列のデータ型を変更しようとした。列のデータ型を変更する場合、列の値は NULL でなければなりません。

解決方法: データ型を変更するには、最初に列の値をすべて NULL に設定してください。

ORA-01440: 精度または位取りを下げる列は空でなければなりません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、データを含む数値列の位 取りまたは精度を下げようとした。いずれの値を下げるにしても、列の 値は NULL でなければなりません。精度は上げずに位取りだけを上げようとしても、このエラーが発生します。

解決方法: 列のすべての値を NULL に設定してから数字の精度または位取りを下げてください。位取りを上げる場合は、位取りに合せて精度も上げるか、あらかじめ列の値をすべて NULL に設定してください。

ORA-01441: 長さを短くする列は空でなければなりません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、データを含む文字フィールドのサイズを小さくしようとした。文字列型の列の最大サイズを小さくする場合、列の値は NULL でなければなりません。

解決方法: 列のすべての値を NULL に設定してから最大サイズを小さくしてください。

ORA-01442: NOT NULL に変更しようとした列はすでに NOT NULL です。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、列指定を NOT NULL から NOT NULL へ変更しようとした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01443: 内部エラー : 参照結果のビュー列のデータ型が無効です。

原因: ビューの参照中に内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01444: 内部エラー : 内部データ型が無効な外部データ型にマップされました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01445: キー保存された表以外の結合ビューから ROWID を選択できません。

原因: SELECT 文を使用して、結合処理によって作成されたビューから ROWID を選択しようとした。ビュー中の選択された行は基礎となる物理レコードと対応していないため、ROWID を返すことができません。

解決方法: ビュー選択句の ROWID を削除してから、文を再実行してください。

ORA-01446: DISTINCT, GROUP BY などを含むビューから ROWID を選択できません。

原因: SELECT 文を使用して、関数または式から導出された列を含んでいるビューから ROWID を選択しようとした。ビュー中の選択された行は基礎となる物理レコードと対応していないため、ROWID を返すことができません。

解決方法: ビュー選択句の ROWID を削除してから、文を再実行してください。

ORA-01447: クラスタ列に ALTER TABLE 文は使用できません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文に、表のクラスタ化で使用される列を指定しました。クラスタ列は変更できません。

解決方法: 列を変更するには、最初に、クラスタ化されてないフォームで表を再作成してください。また、同時に列のサイズを大きくできます。

ORA-01448: 型を変更する前に索引を削除しなければなりません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、索引の付いた文字列を LONG の列に変更しようとした。データ型 LONG の列に索引を付けることはできません。したがって、変更する前に索引を削除する必要があります。

解決方法: 列を参照する索引をすべて削除してから、データ型を LONG に変更してください。

ORA-01449: 列は NULL 値を含んでいるので、NOT NULL に変更できません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、NULL 値を含む列の定義を NOT NULL に変更しようとした。NOT NULL に変更する列には、NULL 値が含まれてはいけません。

解決方法: 列の NULL 値を NULL 以外の値に設定してから、列を NOT NULL に変更してください。

ORA-01450: キーが最大長を超えました。

原因: CREATE INDEX 文に指定されたすべての列を結合した長さが、最大索引長を超えました。最大索引長は、オペレーティング・システムに依存します。索引の全長は、索引付き列の幅の総和に索引付き列の数を加算したものととなります。日付フィールドの長さは 7、文字フィールドは定義された幅、数値フィールドの長さは 22 として計算されます。長さ = (精度 / 2) + 1 負の値の場合は、+1 を加えてください。

解決方法: 索引長が、オペレーティング・システムの最大索引長を超えないように、索引を付ける列を選択します。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01451: NULL に変更しようとした列は変更できません。

原因: その列がすでに NULL 値を受け入れるようになっているか、NOT NULL 制約が主キーまたはチェック制約の一部であるか、または、ALTER TABLE MODIFY 文が列指定を NULL から NULL に不必要に変更しようとした。

解決方法: 主キーまたはチェック制約によって NOT NULL 制約が施行されている場合は、NOT NULL 制約を削除してください。

ORA-01452: 重複キーがあるので CREATE UNIQUE INDEX は実行できません。

原因: CREATE UNIQUE INDEX 文に、重複する値を含む列をいくつか指定しました。UNIQUE INDEX を作成するためには、索引を付ける列の値は行ごとに一意でなければなりません。

解決方法: エントリが一意でなくてもよい場合は、CREATE INDEX 文からキーワード UNIQUE を取り除いてから、文を再実行してください。主キーのようにエントリが一意でなければならない場合は、UNIQUE の索引を作成する前に、重複する値を取り除いてください。

ORA-01453: SET TRANSACTION はトランザクションの最初の文でなければなりません。

原因: SET TRANSACTION 文が最初になかったため、トランザクションは正しく処理されませんでした。

解決方法: SET TRANSACTION 文を使用する前に、現在のトランザクションをコミットまたはロールバックしてください。

ORA-01454: 列を数値データ型に変換できません。

原因: 非数値を数値に変換できません。

解決方法: 値に、数字、単一の符号、単一の小数点、文字 E または e 以外の値が含まれていないことを確かめて、操作を再試行してください。

ORA-01455: 列の変換により整数データ型がオーバーフローしました。

原因: 指定した式の変換形が、指定したデータ型に対して大きすぎます。

解決方法: より大きいデータ型を定義するか、データを訂正してください。

ORA-01456: READ ONLY トランザクションでは挿入 / 削除 / 更新ができません。

原因: 非 DDL INSERT/DELETE/UPDATE または SELECT FOR UPDATE 操作を試みました。

解決方法: 現在のトランザクションをコミットまたはロールバックして、操作を再試行してください。

ORA-01457: 列の変換により 10 進数データ型がオーバーフローしました。

原因: 指定した式の変換形が、指定した型に対して大きすぎます。COBOL プログラムの PICTURE 句で COMP-3 を使用する場合にも、このエラーが発生します。この句は Pro*COBOL プリコンパイラおよび COBOL プリコンパイラで受け入れられますが、このエラーとなります。

解決方法: より大きいデータ型を定義するか、データを訂正してください。

ORA-01458: 可変長文字列の長さが無効です。

原因: 可変長文字列をバインドしていますが、バッファ長が必要最小限 (2 バイト) の長さより小さくなっています。

解決方法: バッファ・サイズを大きくするか、他のデータ型を使用してください。

ORA-01459: 可変長文字列の長さが無効です。

原因: バッファ長が、必要な最小値 (2 バイト) より短い、バインド実行時のバッファ長から 2 バイトを減じた長さより長い値でした。

解決方法: なし。バッファ長は、フェッチ時に Oracle によって正しく設定されます。

ORA-01460: 要求された変換ができません。

原因: 要求された形式変換はサポートされていません。

解決方法: 要求された変換を SQL 文から取り除いてください。TO_CHAR、TO_DATE、TO_NUMBER の各関数の構文を調べて、サポートされている変換を確認してください。

ORA-01461: LONG 値は LONG 列にのみバインドできます。

原因: LONG データ型の値を他のデータ型に挿入しようとした。これは許可されていません。

解決方法: LONG データ型を他の型の列に挿入しないでください。

ORA-01462: 2000 文字を超えて文字を挿入できません。

原因: Oracle がサポートしている最長の長さは 2000 文字 (バイト) です。

解決方法: 定数の文字数を 2000 文字以内に抑えるか、2000 文字を超える場合には VARCHAR2 または LONG データ型を使用してください。

ORA-01463: 現行の制約では、列のデータ型を変更できません。

原因: CHAR から VARCHAR、または VARCHAR から CHAR へのデータ型変更だけを許可する参照制約またはチェック制約を持つ列のデータ型を変更しようとした。

解決方法: 制約を削除するか、または制約に違反するような操作は行わないでください。

ORA-01464: 表またはビューの循環的な付与が検出されました (上位のユーザーに権限を与えようとした)。

原因: GRANT 文の TO 句に指定したユーザーは、この表上の権限がすでに GRANT されています。

解決方法: 表上のある権限を許可したユーザーに対して、その表上の権限をそのユーザーに許可してはいけません。エラーを含む文は不要と見なされます。

ORA-01465: 16 進数値が無効です。

原因: SELECT FOR UPDATE に続く UPDATE 文の ROWID の一部に無効な文字が含まれています。ROWID は、予定される正しいフォーマットで、引用符で囲んで指定しなければなりません。

解決方法: SELECT FOR UPDATE の中で返されたとおりに ROWID を入力してください。

ORA-01465: 16 進数値が無効です。

原因: SELECT FOR UPDATE に続く UPDATE 文の ROWID の一部に無効な文字が含まれています。ROWID は、予定される正しいフォーマットで、引用符で囲んで指定しなければなりません。

解決方法: SELECT FOR UPDATE の中で返されたとおりに ROWID を入力してください。

ORA-01466: 表定義が変更されているのでデータを読み込みません。

原因: これは、表や索引などのデータベース・オブジェクトに対する時間ベースの読み込み整合性エラーです。次のいずれかが発生した可能性があります。

- 表 (または索引) が変更された後で問合せが解析されましたが、古いスナップショットを使って実行されました。
- オブジェクトの作成タイム・スタンプが、現行のシステム時刻よりも大きくなっています。たとえば、システム時刻がオブジェクトの作成時刻よりも前に設定されているような場合に発生します。

解決方法: 次のように処置します。

- 古いスナップショットが原因の場合は、トランザクションをコミットまたはロールバックして、作業を再開してください。
- 作成タイム・スタンプの値が大きいことが原因の場合は、システム時刻を正しく設定してください。

オブジェクトの作成タイム・スタンプが依然としてシステム時刻よりも大きい場合は、オブジェクトが新しい作成タイム・スタンプを持つように、オブジェクトのデータをエクスポートしてこのオブジェクトを削除し、オブジェクトを再作成してから、オブジェクトのデータをインポートし、作業を再開します。

ORA-01467: ソート・キーが長すぎます。

原因: DISTINCT、GROUP BY、ORDER BY、SET の各処理では、Oracle がサポートしている長さを超える長さのソート・キーが要求されます。SELECT 文に指定した列またはグループ関数の数が多すぎます。

解決方法: 操作に関連する列またはグループ関数の数を減らしてください。

ORA-01468: 外部結合表は 1 つだけ参照できます。

原因: WHERE 句のある述語には (+) によって異なる表から 2 つの列が含まれています。

解決方法: WHERE 句を変更して、各述語には外部結合表が 1 つだけ含まれるようにしてください。

ORA-01469: PRIOR の後に指定できるのは列名です。

原因: PRIOR キーワードの後に、無効な列名が指定されました。

解決方法: 構文と綴りを確認し、有効な列名を使用して再実行してください。

ORA-01470: In リストの反復では、混合演算子はサポートされていません。

原因: In リストに異なる型の定数が指定されました。

解決方法: In リストに同じ型の定数を使用してください。

ORA-01471: オブジェクトと同じ名前のシノニムは作成できません。

原因: 参照するオブジェクトと同じ名前のシノニムを作成しようとしてしました。このエラーは通常、参照するいずれかのオブジェクトと同じ名前を持つプライベート・シノニムをユーザーが作成しようとするとき発生します。

解決方法: 異なるシノニム名を選択するか、異なるユーザー名でシノニムを作成してください。

ORA-01472: CONNECT BY は DISTINCT, GROUP BY などを含むビューには使用できません。

原因: 出力行と基本表の行の間に関連がないビュー上で、CONNECT BY 句は使用できません。

解決方法: ビューから DISTINCT または GROUP BY を取り除くか、CONNECT BY 句をビュー内に移してください。

ORA-01473: CONNECT BY 句には副問合せを指定できません。

原因: CONNECT BY 句に副問合せは使用できません。

解決方法: 副問合せを取り除くか、または WHERE 句に移してください。

ORA-01474: CONNECT BY なしで START WITH や PRIOR は指定できません。

原因: START WITH および PRIOR は、CONNECT BY を伴わなくては意味を持ちません。

解決方法: SQL 文の構文を調べて、必要に応じて CONNECT BY 句を指定してください。

ORA-01475: バインド変数のデータ型を変更するには、カーソルを再解析しなければなりません。

原因: 文を実行した後で、バインド変数を元のバインドとは異なるデータ型で再バインドしようとしてしました。

解決方法: 異なるデータ型による再バインドの前に、カーソルを再解析してください。

ORA-01476: 除数がゼロです。

原因: ある式でゼロで除算しようとしてしました。

解決方法: 式を訂正して、操作を再試行してください。

ORA-01477: ユーザー・データ領域記述子が大きすぎます。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01478: LONG 列はバインド配列に使用できません。

原因: 最大サイズが 2000 バイトを超える列で配列バインドを使用しようとした。これは許可されません。

解決方法: LONG 列には、配列バインドを使用しないでください。かわりに通常のバインドを使用してください。

ORA-01479: バッファ内の最後の文字が NULL ではありません。

原因: タイプ 97 のバインド変数が NULL を最後に含んでいません。

解決方法: 最後の文字を NULL にしてください。

ORA-01480: STR バインド値に終了の NULL がありません。

原因: タイプ SQLT_STR として指定されたバインド変数の最後が NULL(0) 文字ではありません。

解決方法: スtring・バインド変数の最大長および内容を調べてください。

ORA-01481: NUMBER 形式の文字が無効です。

原因: TO_CHAR または TO_NUMBER 関数に無効な形式パラメータが使用されました。

解決方法: 構文を訂正して、操作を再実行してください。

ORA-01482: 指定されたキャラクタ・セットはサポートされていません。

原因: CONVERT 関数の第 2 または第 3 パラメータはサポートされていないキャラクタ・セットです。

解決方法: サポートされているキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-01483: DATE または NUMBER バインド変数の長さが無効です。

原因: タイプ DATE または NUMBER のバインド変数が長すぎます。

解決方法: 最大長については、Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを確認してください。

ORA-01484: 配列は PL/SQL 文に対してのみバインドすることができます。

原因: PL/SQL 文以外に配列をバインドしようとした。

解決方法: PL/SQL 文だけに配列をバインドするように注意して、違反しているコードを書き直してください。

ORA-01485: コンパイル・バインド長が実行バインド長と異なります。

原因: DTYVCS タイプ (前部に 2 バイトの長さを持つ VARCHAR) のバッファをバインドしました。実行時に最初の 2 バイトの長さが、バインド・コールで指定された最大

のバッファ長を超えています。配列内の要素の数、および配列内の現在の要素数が配列の最大数を超えることはできません。

解決方法: 配列 +2 バイトのバッファ長を収納できるように、バッファ・サイズを十分大きくしてください。

ORA-01486: 配列要素のサイズが大きすぎます。

原因: そのデータ型には大きすぎるデータ値（たとえば、NUMBER）、または 2000 バイトよりも大きいデータ値（たとえば、VARCHAR または LONG）をバインドしようとした。

解決方法: 許容される長さになるようにデータ値を変換または切り捨てる方法を見つけてください。

ORA-01487: 指定のバッファに対してバック 10 進数が大きすぎます。

原因: バッファが足りなくて変換結果を収録できないため、変換要求が実行されませんでした。

解決方法: バッファのサイズを増やしてください。

ORA-01488: 入力データ中のニブルまたはバイトが無効です。

原因: 数値が不適切であり、変換要求が実行されませんでした。

解決方法: 数値を修正して、再試行してください。

ORA-01489: 文字列を連結した結果、長さが最大長を超えました。

原因: 文字列を連結した結果、文字列の最大長（2000 文字）を超えました。

解決方法: 連結する文字列の一方または両方のサイズを小さくします。連結した文字列の長さの合計が 2000 文字以内になるようにします。

その他、ANALYZE、SQL の解析、実行 : 01490 ~ 01499

この節には、ANALYZE コマンド、SQL 解析機能などの現行プロセスによってコールされる 2 次プロセス、および Oracle コマンドの実行中にコールされる 2 次プロセスによって生成される様々なメッセージを記載しています。

ORA-01490: ANALYZE コマンドが無効です。

原因: ANALYZE コマンドの構文が間違っています。

解決方法: 構文を調べて、正しい構文を使用してコマンドを入力してください。

ORA-01491: CASCADE オプションが無効です。

原因: CASCADE オプションは、表またはクラスタに対してだけ使用します。

解決方法: このように CASCADE オプションを使用してはなりません。構文を調べて再入力してください。

ORA-01492: LIST オプションが無効です。

原因: LIST オプションは、表またはクラスタに対してだけ使用します。

解決方法: このように LIST オプションを使用してはなりません。構文を調べて再入力してください。

ORA-01493: 指定された SAMPLE サイズが無効です。

原因: 指定した SAMPLE サイズが範囲外です。

解決方法: 適切な範囲内の値を指定してください。

ORA-01494: 指定された SIZE は無効です。

原因: 指定したヒストグラムの SIZE 値が範囲外でした。

解決方法: 適切な範囲内の値を指定してください。

ヒストグラムの詳細は、『Oracle8 Server チューニング』を参照してください。

ORA-01495: 指定した連鎖行の表がありません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはユーザーにこの表にアクセスするための適切な権限がありません。

解決方法: 既存の表を指定するか、またはアクセスするための権限を獲得します。

ORA-01496: 指定した連鎖行の表形式が無効です。

原因: 指定した表に適切なフィールド定義がありません。

解決方法: 表名の綴りを調べて、使用する正しい表を指定してください。

ORA-01497: ANALYZE CLUSTER のオプションが無効です。

原因: FOR COLUMNS < 列のリスト > 句は、ANALYZE CLUSTER では使用できません。

解決方法: 有効な構文を使用して、再実行してください。

ANALYZE CLUSTER の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ANALYZE CLUSTER」を参照してください。

ORA-01498: ブロック検査エラーです。トレース・ファイルを調べてください。

原因: ANALYZE コマンドによるブロックの検査中に、エラーが発生しました。

解決方法: 問題についての詳細メッセージがないか、トレース・ファイルを確認してください。これらのエラーを修正してください。トレース・ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります（たとえば ORAxxxx.TRC など）。トレース・ファイルは、初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定したディレクトリに格納されています。USER_DUMP_DEST を設定していない場合、トレース・ファイルは作成されません。オブジェクトを再作成する必要がある場合もあります。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01499: 表または索引の相互参照エラーです。トレース・ファイルを調べてください。

原因: ANALYZE コマンドによる索引または表の検査中に、エラーが発生しました。適切な相互参照を指していない、1 つ以上のエントリがあります。

解決方法: 問題についての詳細メッセージがないか、トレース・ファイルを確認してください。これらのエラーを修正してください。トレース・ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります（たとえば ORAxxxx.TRC など）。トレース・ファイルは、初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定したディレクトリに格納されています。USER_DUMP_DEST を設定していない場合、トレース・ファイルは作成されません。オブジェクトを再作成する必要がある場合もあります。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

Oracle コマンド・メッセージ : 01500 ~ 01699

この節には、Oracle コマンドの入力時に生成されるメッセージを記載しています。

Trusted Oracle を使用している場合、その環境のエラー・メッセージ情報については Trusted Oracle ドキュメンテーションを参照してください。

ORA-01500: 日付 / 時間の取得に失敗しました。

原因: CREATE DATABASE 文または ALTER TABLESPACE 文の実行において、日付および時間の取得に障害がありました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01501: CREATE DATABASE に失敗しました。

原因: CREATE DATABASE 文の実行中にエラーが発生しました。

解決方法: 付属のエラー・メッセージ・スタック中の診断情報を参照してください。

ORA-01502: 索引 *str.name* はダイレクト・ロードの状態です。

原因: 指定した索引はダイレクト・ロードによって無効の印が付けられています。

解決方法: 指定した索引を削除してください。

ORA-01503: CREATE CONTROLFILE に失敗しました。

原因: CREATE CONTROLFILE を実行中にエラーが発生しました。

解決方法: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

ORA-01504: データベース名 *:name* がパラメータ DB_NAME:*str* と一致しません。

原因: CREATE DATABASE コマンドまたは START UP コマンドに指定した名前がパラメータ DB_NAME に指定されている名前と一致しません。

解決方法: どちらの名前が正しいか判断し、名前を訂正してからこのコマンドを再実行してください。

ORA-01505: ログ・ファイル登録時にエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文または ALTER DATABASE 文を実行して、新しい REDO ログ・ファイルを登録しているときにエラーが発生しました。このコマンドを発行する

ユーザーは、CONNECT INTERNAL を実行しなければなりません。データベースをマウントする必要がありますが、REDO ログ・ファイルを追加するためにはクローズしなければなりません。

解決方法: 同時に出力される詳細情報についてのメッセージ・スタックを確認してから、マウントしているデータベースをクローズして、セッションを INTERNAL として接続するようにしてください。

ORA-01506: データベース名が無効です。

原因: ALTER DATABASE 文にデータベース名が指定されていません。INIT.ORA パラメータ DB_NAME も指定されていません。

解決方法: ALTER DATABASE 文または INIT.ORA パラメータ DB_NAME に、データベース名を指定する必要があります。START UP の一部として指定されているデータベース名があれば、それを使用して、SQL*DBA コマンド START UP が ALTER DATABASE 文を発行することに注意してください。

ORA-01507: データベースがマウントされていません。

原因: ALTER DATABASE 文に変更するデータベースの名前を指定しましたが、現在マウントされているデータベースはありません。

解決方法: SQL*DBA の START UP コマンドを介して ALTER DATABASE コマンドを実行している場合は、MOUNT オプションを指定してください。ALTER DATABASE DISMOUNT コマンドを直接実行している場合は何もしないでください。それ以外の場合は、MOUNT オプションを指定して ALTER DATABASE コマンドを再発行してください。

ORA-01508: ファイル :name, 行 :num でエラーが発生しました。データベースが作成できません。

原因: この行番号でエラーが発生したため、CREATE DATABASE 文はこのファイルを処理できません。

解決方法: 指定されたファイル中のエラーの行を調べてエラーを訂正してから、CREATE DATABASE 文を再実行してください。Oracle 提供のファイルにエラーがある場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01509: 指定した名前 :name が実際の名前 :name と一致しません。

原因: ALTER DATABASE 文に指定したデータベース名は、現在マウントされているデータベース名と一致しません。

解決方法: データベース名の綴りを訂正するか、マウントしているデータベースを取り外してください。

ORA-01510: ログ・ファイルの削除中にエラーが発生しました。

原因: ALTER DATABASE 文の実行で、REDO ログ・ファイルの削除中にエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックを調べて詳細情報を確認してください

ORA-01511: ログ / データ・ファイルの改名中にエラーが発生しました。

原因: ALTER DATABASE 文の実行で、ログ・ファイルまたはデータ・ファイルの再命名中にエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックを調べて詳細情報を確認してください

ORA-01512: ログ・ファイル *name* の改名中にエラーが発生しました。新しいファイル *name* が見つかりません。

原因: 制御ファイル内のログ・ファイルの名前を変更しようとしてエラーが発生しました。新しい名前のファイルが見つかりません。

解決方法: ログ・ファイルの改名がオペレーティング・システムによって正しく行われたかどうかを確認し、再試行してください。

ORA-01513: オペレーティング・システムが返した現行時間が無効です。

原因: オペレーティング・システムが 1988 年から 2121 年までの間にない時間を返しました。

解決方法: オペレーティング・システムが管理している時間を訂正してください。

ORA-01514: 指定したログが存在しないためエラーが発生しました。

原因: ログ・ファイル名またはメンバー名リストが存在しないログ・ファイルを指定しています。

解決方法: 既存の REDO ログ・ファイルの名前を指定し、名前の綴りを確認してから、文を再実行してください。

ORA-01515: ログが存在しないためログ・グループ *:num* の削除エラーが発生しました。

原因: 存在しない REDO ログ・ファイルを削除しようとしてしました。

解決方法: 存在しているログ・ファイルの名前を指定し、文を再実行してください。

ORA-01516: ログ / データ・ファイル *name* が存在しません。

原因: ALTER DATABASE 文によって、データベース制御ファイルに認識されていないログ・ファイルを再命名しようとしてしました。

解決方法: 存在しているログ・ファイルの名前を指定し、文を再実行してください。

ORA-01517: ログ・メンバー : *str*

原因: このメッセージは他のエラー・メッセージに関係のあるファイル名を伝えます。

解決方法: 続いて表示される詳細なメッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01518: CREATE DATABASE 文では 2 つ以上のログ・ファイルを指定しなければなりません。

原因: CREATE DATABASE 文にログ・ファイルが 1 つしか指定されていません。

解決方法: 少なくともログ・ファイルを 2 つ指定して、文を再実行してください。

ORA-01519: ファイル :name, 行 :num のあたりでエラーが発生しました。

原因: このファイルの処理中に、CREATE DATABASE 文に問題が発生しました。システム導入時の問題の可能性があります。

解決方法: システム導入手順を再試行するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01520: 追加したデータ・ファイルの数 num が制限 num を超えています。

原因: CREATE TABLESPACE 文に、このデータベースに許可されている数を超える数のファイル指定しています。

解決方法: ファイルの数を減らしてください。この制限を超える数のファイル指定するためには、MAXDATAFILES の値を大きくして、データベースを作成し直す必要があります。

ORA-01521: データ・ファイルの追加中にエラーが発生しました。

原因: CREATE または ALTER TABLESPACE 文で、データ・ファイルの登録中にエラーが検出されました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックを調べて詳細情報を確認してください

ORA-01522: 改名すべきファイル :name がありません。

原因: ALTER TABLESPACE RENAME 文で、改名すべきファイルがデータベース制御ファイル中に見つかりません。

解決方法: 正しいファイル名を指定して、文を再実行してください。

ORA-01523: データ・ファイル :name はすでに存在するため改名できません。

原因: ALTER DATABASE RENAME または ALTER TABLESPACE RENAME 文で、ファイルの新しい名前がすでに制御ファイル中に存在します。

解決方法: データベースの一部として使用されていないファイル名を再命名してください。

ORA-01524: データ・ファイル :name はすでに存在するため作成できません。

原因: ALTER DATABASE CREATE DATAFILE 文で、ファイルの新しい名前がすでに制御ファイル中に存在します。

解決方法: データベースでまだ使用されていない名前を指定してください。

ORA-01525: データ・ファイルの改名中にエラーが発生しました。

原因: ALTER TABLESPACE の一部のファイルの改名中にエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックを調べて詳細情報を確認してください (エラー・メッセージ・スタックに挙げられているものを除くファイルはすべて改名されています)。

ORA-01526: ファイル :name のオープン中にエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文によって、エラー・メッセージ中のファイルをオープンできません。システム導入時の問題の可能性があります。

解決方法: システム導入手順を再試行するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01527: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文が、指定したファイルを読み込みできませんでした。システム導入時の問題の可能性があります。

解決方法: システム導入手順を再試行するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01528: SQL 文の処理中に EOF エラーが発生しました。

原因: 指定したファイルを読み込み中に、CREATE DATABASE 文が予期せずファイルの終わりとなりました。システム導入時の問題の可能性があります。

解決方法: システム導入手順を再試行するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01529: ファイル *name* のクローズにエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文によって、エラー・メッセージ中のファイルをクローズできません。

解決方法: システム導入手順を再試行するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。さらにオペレーティング・システム固有のマニュアルも参照してください。

ORA-01530: このインスタンスはすでにデータベースをマウントしています。

原因: ALTER DATABASE MOUNT で、すでにマウントされているデータベースのあるインスタンスがデータベースをマウントしようとしてしました。

解決方法: このデータベースをマウントする場合は、インスタンスをいったん停止して、次にインスタンスを起動してから操作を再試行してください。

ORA-01531: このインスタンスはすでにデータベースをオープンしています。

原因: ALTER DATABASE 文で、すでにオープンされているデータベースのあるインスタンスがデータベースをオープンしようとしてしました。

解決方法: 新しいデータベースをオープンしたいのであれば、インスタンスをいったん停止して、次にインスタンスを起動してから操作を再試行してください。

ORA-01532: インスタンスがすでに他で起動されているのでデータベースは作成できません。

原因: CREATE DATABASE 文で、別のユーザーがこのインスタンスを同時に起動しているように思われます。

解決方法: 操作を再試行してください。それでもエラーが再発するようであれば、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01533: ファイル *:name* は表領域に属していないので改名できません。

原因: ALTER TABLESPACE RENAME 文で、再命名の対象となるファイルがこの表領域に見つかりません。

解決方法: 構文および綴りを調べて、正しいファイル名と表領域名を指定してください。

ORA-01534: ロールバック・セグメント *:name* が存在しません。

原因: ALTER または DROP ROLLBACK SEGMENT 中に、指定したロールバック・セグメント名が見つかりません。

解決方法: 構文および綴りを訂正し、ロールバック・セグメント名を正しく指定するか、別のロールバック・セグメントを指定してください。

ORA-01535: ロールバック・セグメント *name* はすでに存在します。

原因: CREATE ROLLBACK SEGMENT の実行中に指定したロールバック・セグメントは、すでに存在します。

解決方法: 構文および綴りを訂正し、ロールバック・セグメント名を正しく指定するか、別のロールバック・セグメントを指定してください。

ORA-01536: 表領域 *:name* に対して割当てられた領域を使い果たしました。

原因: ユーザーは、表領域中に新たにエクステンツの作成を伴う操作を実行しようとしたが、表領域内の領域割当て量をすでに使い果たしています。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

- 表領域内の不必要なオブジェクトを削除して、領域を再生してください。
- データベース管理者に表領域の割当て制限を大きくするように依頼してください。

ORA-01537: データ・ファイル *name* が追加できません。このファイルはすでにデータベースの一部になっています。

原因: CREATE または ALTER TABLESPACE の中で登録しようとしているファイルはすでにデータベースの一部となっています。

解決方法: データ・ファイル名の綴りを訂正するか、別のファイルを使用してください。

ORA-01538: ロールバック・セグメントの獲得に失敗しました。

原因: インスタンスは SYSTEM ロールバック・セグメントを獲得するのに失敗しました。または、PARALLEL(SHARED) で起動中に SYSTEM ロールバック・セグメントへの追加のロールバック・セグメントを 1 つ獲得するのに失敗しました。

解決方法: SYSTEM ロールバック・セグメントが使用可能であることを確認してください。SHARED モードでインスタンスを起動する前に、パブリック・ロールバック・セグ

メントをさらに 1 つ作成するか、または初期化パラメータ ROLLBACK_SEGMENTS に使用可能なプライベート・ロールバック・セグメントを指定してください。

ORA-01539: 表領域 :name はオンラインではありません。

原因: 表領域を常時オフラインにしようとしたが、この表領域はオンラインではありません。

解決方法: 表領域の状態を調べてください。IMMEDIATE オプションまたは TEMPORARY オプションを使用して、すべてのファイルを強制的にオフラインにしてください。また、データベースは ARCHIVELOG モードになっていなければなりません。

ORA-01540: 表領域 :name はオフラインではありません。

原因: 表領域はオフラインの状態ではないので、オンラインにすることはできません。または、読取り専用にすることはできません。

解決方法: 表領域の状態を調べて、操作を再試行してください。オプション IMMEDIATE または TEMPORARY を使用してすべてのファイルを強制的にオフラインにすることもできます。ファイルを読取り専用にする場合は、最初に表領域をオンラインにしてください。

ORA-01541: SYSTEM 表領域はオフラインにできません。必要ならば停止してください。

原因: SYSTEM 表領域をオフラインにしようとした。

解決方法: SYSTEM 表領域は常にオンラインに設定しておく必要があるため、オフラインにはできません。復元が必要であれば停止してください。

ORA-01542: 表領域 :name はオフラインなので領域は割当てられません。

原因: オフラインの表領域に領域を割当てようとした。

解決方法: 表領域をオンラインにするか、別の表領域中にオブジェクトを作成してください。

ORA-01543: 表領域 :name はすでに存在しています。

原因: すでに存在している表領域を作成しようとした。

解決方法: 新しい表領域には別の名前を使用してください。

ORA-01544: SYSTEM ロールバック・セグメントは削除できません。

原因: SYSTEM ロールバック・セグメントを削除しようとした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01545: 指定したロールバック・セグメント : name は使用できません。

原因: 次のいずれかです。

ケース 1: 起動中に使用不可能なロールバック・セグメントをオンラインにしようとした。たとえば、ロールバック・セグメントがオフラインの表領域にあるような場合です。

ケース 2:すでにオンラインのロールバック・セグメントをオンラインにしようとした。これは、初期化パラメータ・ファイルの ROLLBACK_SEGMENTS パラメータ中で、そのロールバック・セグメントが二度指定されたか、または他のインスタンスによってすでにオンラインになっているためです。

ケース 3: 現在オンラインになっているロールバック・セグメントを削除しようとした。

ケース 4: 現在オンラインになっているロールバック・セグメントを制限なくエクステントを使用するために削除しようとした。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

ケース 1: そのロールバック・セグメントを使用可能にしてください。たとえば、オフラインの表領域をオンラインにしてください。

ケース 2: 名前が重複しているとき、または他のインスタンスがそのロールバック・セグメントをすでに獲得しているときは、その名前をパラメータ ROLLBACK_SEGMENTS から削除してください。

ケース 3: ロールバック・セグメントをオフラインにしてください。これを行うには、現在のトランザクションが終了するまで待たなければならないことがあります。ロールバック・セグメントを回復する必要があるときは、どのエラーが原因でトランザクションのロールバックが停止しているかを調べて、適切な処置を行ってください。

ケース 4: 3 の場合を参照してください。

ALTER ROLLBACK SEGMENT の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER ROLLBACK SEGMENT」を参照してください。

ORA-01546: 表領域に活動中のロールバック・セグメント *name* があります。

原因: アクティブになっているロールバック・セグメントを持つ表領域をオフラインにしようとしたか、または読み出し専用にしようとした。

解決方法: 表領域のアクティブなロールバック・セグメントを使用するインスタンスを停止します。次にそれをオフラインにするか、読み出し専用にしてください。

ORA-01547: 警告: RECOVER は成功しましたが OPEN RESETLOGS が次のエラーを受け取りました。

原因: 不完全回復オプションのうちの 1 つによるメディア回復が、エラーなしで終了しました。しかし、今の時点で ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドを実行しようすると指定のエラーで失敗します。不完全回復を実行する前に、十分に古いバックアップから 1 つ以上のデータファイルを回復することを忘れたために、エラーが発生した可能性があります。

解決方法: 別のデータ・ファイルのバックアップ、別の制御ファイル、または別の停止基準を使用して、不完全メディア回復を再実行してください。

ORA-01548: 活動中のロールバック・セグメント *name* があるため表領域の削除を終了しました。

原因: アクティブなロールバック・セグメントを含む表領域を削除しようとした。

解決方法: 表領域のアクティブなロールバック・セグメントを使用するインスタンスをいったん停止してから、表領域を削除してください。

ORA-01549: 表領域が空ではないので INCLUDING CONTENTS オプションを使用してください。

原因: 空でない表領域を削除しようとした。

解決方法: 表領域中のすべてのオブジェクトを削除するためには、DROP TABLESPACE 文に INCLUDING CONTENTS オプションを使用してください。

ORA-01550: SYSTEM 表領域は削除できません。

原因: 表領域 SYSTEM を削除しようとした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01551: ロールバック・セグメント拡張中にピン・ブロックが解放されました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01552: SYSTEM 表領域でない表領域: name にシステム・ロールバック・セグメントは使用できません。

原因: 非 SYSTEM 表領域に関係する操作にシステム・ロールバック・セグメントを使用しようとした。

解決方法: 1 つまたは複数のロールバック・セグメントを作成してから、ALTER ROLLBACK SEGMENT '名前' online を使用してください。新しいプライベート・ロールバック・セグメントを取得するためには、INIT.ORA パラメータ ROLLBACK_SEGMENTS を修正する必要があるかもしれません。SYSTEM 表領域外にロールバック・セグメントを作成する前に、SYSTEM 表領域にシステム以外のロールバック・セグメントを作成してアクティブにする必要があります。

ORA-01553: MAXEXTENTS は、現在割り振られているエクステント数 num より小さくはいけません。

原因: 割当てられている範囲が、指定された MAXEXTENTS より大きくなっています。

解決方法: MAXEXTENTS の値を増加させてください。

ORA-01554: トランザクションテーブルにトランザクション・スロットがありません。

原因: 同時実行のトランザクション件数が多すぎます。

解決方法: Oracle をシャット・ダウンし、TRANSACTIONS および ROLLBACK_SEGMENTS の初期化パラメータを修正してから、Oracle を再起動してください。TRANSACTIONS パラメータの値は、どのロールバックでも処理できるほど大きくなければなりません。

ORA-01555: スナップショットが古すぎます。(ロールバック・セグメントが小さすぎます。)

原因: 次のどれかです。

ロールバック・セグメントが不十分: ロールバック・データが使用できないため、長時間実行の間合せでは、読み取っているブロックのスナップショットが再構築できないかもしれません。これは、データベースのデータを変更し、それからコミットまたはロールバックするトランザクションが多くある場合発生することがあります。ロールバック・セグメントが変更点の数およびサイズに対して小さすぎる場合、ロールバック・データが上書きされることがあります。

プリコンパイラ - ロールバック・セグメントが不十分: ロールバック・データが使用できないため、長時間実行される間合せは、読み取っているブロックのスナップショットを再構築できない場合があります。これは、ご使用のプログラムが FETCH または UPDATE 文を繰り返した後カーソルを CLOSE しない場合に発生することがあります。または、COMMIT の後に FETCH が実行されると、現行カーソルの最後の CLOSE 以来作成された多数のロールバック・レコードが使用可能なロールバック・セグメントを埋めて、古いレコードの上書きを開始します。

解決方法: 上記の原因に応じて次の処置を行ってください。

ロールバック・セグメントが不十分: より大きなロールバック・セグメントをより多く作成してください。これによって完了したトランザクションのロールバック・データをより長く保持できます。

プリコンパイラ - 不十分なロールバック・セグメント: *fetch across commit* 機能を使用しない場合、カーソルを適切に閉じていることを確認してください。使用している場合は、ロールバック・セグメントの数とサイズを増やさなければなりません。V\$ROLLSTAT ビューを使用して、プログラムが作成するロールバック・データのサイズを推定できます。このビューには各ロールバック・セグメント用に書込まれたバイト数が含まれています。単一ユーザー・モードで現在のトランザクションをロールバック・セグメントに設定し、トランザクションの前後で V\$ROLLSTAT を問合せてください。V\$ROLLSTAT の相違が、そのトランザクション用に書かれたロールバック・データのバイトの数を示します。ループ内で実行されるトランザクションの合計数を推定し、他の同時実行のトランザクションを考慮したあと、それに応じてロールバック・セグメントを作成してください。

注意: *Fetch across commit* は、ANSI 標準によってサポートされていません。ANSI 標準によれば、コミットが実行された場合カーソルは無効になり、クローズしてから再オープンすることになります。Oracle では *fetch across commit* を実行できますが、このようなエラーが発生する場合があるので注意してください。

ORA-01556: ロールバック・セグメントの MINEXTENTS は 1 より大きい値でなければなりません。

原因: ロールバック・セグメントの MINEXTENTS に 1 以下を指定しました。

解決方法: MINEXTENTS にもっと大きい値を指定してください。

ORA-01557: ロールバック・セグメントのエクステントは最低 *num* ブロックが必要です。

原因: ロールバック・セグメントに対して <数値> ブロック未満のエクステントが指定されました。

解決方法: <数値> ブロック以上のエクステントを指定して、操作を再試行してください。

ロールバック・セグメントと ROLLBACK_SEGMENTS パラメータの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ロールバック・セグメント」と「ROLLBACK_SEGMENTS パラメータ」を参照してください。

ORA-01558: ロールバック・セグメント *num* のトランザクション ID が範囲外になります。

原因: 使用可能なトランザクション ID はすべて使用されています。

解決方法: インスタンスをいったん停止して、別のロールバック・セグメントを使用して再起動します。次に、これ以上トランザクション ID を持たないロールバック・セグメントを削除してください。

ORA-01559: ロールバック・セグメントの MAXEXTENTS は 1 より大きい値でなければなりません。

原因: ロールバック・セグメントに対して 2 未満の MAXEXTENTS 値を指定しました。

解決方法: 少なくとも MAXEXTENTS の値に 2 を指定して、操作を再試行してください。

ORA-01560: グローバル・ハッシュ表のサイズが GC_name (*num* != *num*) に一致しません。

原因: このメッセージはパラレル・サーバーで稼働しているシステムだけに関連し、インスタンスの起動時に発生します。GC_ <名前> 初期化パラメータの値が、すでにマウントされているインスタンスの値と一致しません。

解決方法: 正しい初期化パラメータ・ファイルが使用されていることを確認してください。必要に応じて、違反している初期化ファイルの GC_name パラメータを変更して、それらのインスタンスを停止し、訂正した初期化パラメータ・ファイルを使用して再起動してください。

ORA-01561: 指定された表領域内のオブジェクトすべてを削除できませんでした。

原因: 表領域を削除しようとしたところ、オブジェクトを全部削除できませんでした。

解決方法: オブジェクトがすべて削除されるまで、DROP TABLESPACE を繰り返してください。

ORA-01562: ロールバック・セグメント番号 :*num* を拡張できません。

原因: ロールバック・セグメントを拡大しようとして障害が発生しました。通常、問題はロールバック・セグメントを拡張するためのデータベース内の領域が不足していることにあります。

解決方法: このメッセージの後には、失敗の原因を示すもう 1 つのメッセージが、通常続いて出されます。いったん停止して、エラーの原因に対して適切な処置を行ってください。

さい。このメッセージの後に他のメッセージが出力されない場合には、データベース内の領域不足が原因である可能性があります。

ORA-01563: ロールバック・セグメントが PUBLIC です。キーワード PUBLIC を使用してください。

原因: 共有ロールバック・セグメントを識別するためのキーワード PUBLIC が使用されていません。

解決方法: 共有ロールバック・セグメントを識別する場合は、キーワード PUBLIC を使用してください。

ORA-01564: ロールバック・セグメントは PUBLIC ではありません。

原因: 指定されたロールバック・セグメントは共有ではありません。

解決方法: 専用ロールバック・セグメントを識別する場合は、キーワード PUBLIC を使用しないでください。

ORA-01565: ファイル :name の識別中にエラーが発生しました。

原因: ファイルを識別しようとしてエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックを調べて詳細情報を確認してください

ORA-01566: DROP LOGFILE にファイルが 2 回以上指定されています。

原因: ALTER DATABASE で、DROP LOGFILE オプションでのファイルのリストには、少なくとも重複が 1 つあります。

解決方法: 重複するファイルの指定を取り消して、文を再実行してください。

ORA-01567: name を削除するとスレッド : num 内の残りログ・ファイルの数が 2 より小さくなります。

原因: 指定したファイルをすべて削除してしまうと、残りのログ・ファイル数が必要最小限の 2 以下となってしまいます。ログを削除するよりもむしろクリアできるかもしれません。

解決方法: 削除するログを減らすか、ログを消去する前にスレッドを使用禁止にします。

ORA-01568: PUBLIC には領域割当て量を設定できません。

原因: 表領域に PUBLIC に領域割当て量を設定しようとしてしました。

解決方法: 全ユーザーに対してシステム全体または表領域全体のスペース権限を付与するには、次の文を使用してください。

```
GRANT UNLIMITED TABLESPACE [ON tablespace] TO PUBLIC;
```

ORA-01569: システム・ディクショナリ表に対してデータ・ファイルが小さすぎます。

原因: データベースの作成中、指定したデータ・ファイルが小さすぎるため、システム・ディクショナリ表を格納できません。

解決方法: より大きな、または、より多くのファイルを指定して、データベースを再生成してください。

ORA-01570: MINEXTENTS は現在割当てられているエクステント :num より大きくてはなりません。

原因:すでに割当てられているエクステントの数はコマンドで指定された MINEXTENTS よりも少なくなっています。

解決方法: MINEXTENTS の値としてエラー・メッセージに示されているエクステント数を指定して、コマンドを再実行してください。

ORA-01571: REDO のバージョン num が Oracle のバージョン num と互換性がありません。

原因: このバージョンでは REDO ログを読み込めません。回復が必要か、媒体回復の必要なオフライン・データベース・ファイルがあります。もし、ファイル名がリストされていれば、媒体回復が必要です。

解決方法: いったん停止して、互換性のあるソフトウェアを使用して起動してください。必要な媒体回復を行い、データベースをオープンしてください。再度停止して、現行バージョンの Oracle を使用して再起動してください。ファイルを削除する場合は、DROP オプションを指定してそのファイルをオフラインにし、このチェックをスキップしてください。

ORA-01572: ロールバック・セグメントのグローバル・ハッシュ表のサイズ num がロールバック・セグメント ID num には小さすぎます。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。Parallel Server システムでは、システム範囲の ロールバック・セグメントの最大数は GC_ROLLBACK_SEGMENTS パラメータに指定されています。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: ロールバック・セグメントの数を減らすか、パラレル・サーバーの各初期化パラメータのロールバック・セグメント ID 番号よりも大きい数値まで、初期化パラメータ GC_ROLLBACK_SEGMENTS を増やしてください。この変更は、Oracle を停止して再起動して初めて有効となります。

ORA-01573: インスタンス停止中です。変更できません。

原因: データベースが停止されている間に、プロセスが変更を加えようとした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01574: 最大同時実行トランザクション数を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。同時実行トランザクションの最大数は、TRANSACTIONS パラメータに指定されています。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 後で再試行するか、初期化パラメータ・ファイルの TRANSACTION パラメータを増加してください。この変更は、Oracle を停止して再起動して初めて有効となります。

ORA-01575: 領域管理リソースの待機中にタイムアウトが発生しました。

原因: 領域管理に必要な資源を獲得する前に、システムがタイムアウトしました。

解決方法: 数分間待ってから、操作を再試行してください。

ORA-01576: インスタンス・ロック・プロトコルのバージョン *num* が Oracle のバージョン *num* と互換性がありません。

原因: 稼働している Oracle のバージョンは、所定のロック・プロトコル・バージョンと互換性がありません。

解決方法: インスタンスを起動するために使用した Oracle をバージョン・アップして、インスタンスの互換性のあるロック・プロトコルを使用してください。

ORA-01577: ログ・ファイル *:name* はすでに存在するため登録できません。

原因: CREATE DATABASE 文または ALTER DATABASE 文の実行中に、登録対象のファイルがすでにデータベース上にあることが分かりました。

解決方法: 構文と入力の綴りを調べ、有効なファイル名を指定して、操作を再実行してください。

ORA-01578: ファイル番号 *:num*、ブロック番号 *:num* で Oracle データ・ブロックに障害が発生しました。

原因: このデータ・ブロックには障害があります。プログラム・エラーの結果の可能性もあります。

解決方法: そのデータ・ブロックを含むセグメントの復元を試みてください。このためにはセグメントを削除し、再作成する必要があります。トレース・ファイルがあれば、そこに記録されているエラーをオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

ORA-01579: 回復中に書込みエラーが発生しました。

原因: 媒体回復中に書込みエラーが起きました。

解決方法: トレース・ファイルでエラーの種類を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01580: バックアップ制御ファイル *:name* を作成中にエラーが発生しました。

原因: バックアップ用に参照制御ファイルを作成しようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックで詳細を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01581: *name* が新しい *name* を使用しようとしたがすでに割当てられています。

原因: ロールバック・セグメントを拡張するようなアンドゥが生成され、現在のアンドゥブロック領域が不足したため、完全に割当てられていない新しいエクステントに書き込みをしようとした。

解決方法: ロールバック・セグメントそのものの拡張は、システムによってロールバックされます。それ以上の拡張は、他のトランザクションがロールバックまたはコミットされ、次のエクステントが空くまで不能です。

ORA-01582: バックアップ用の制御ファイルがオープンできません。

原因: バックアップ用に制御ファイルをオープンしようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックで詳細を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01583: バックアップ制御ファイルのブロック・サイズを得ることができません。

原因: バックアップ用に制御ファイルのブロック・サイズを得ようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックで詳細を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01584: バックアップ制御ファイルのファイル・サイズを得ることができません。

原因: バックアップ用に制御ファイルのファイル・サイズを得ようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックで詳細を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01585: バックアップ・ファイル :name の識別中にエラーが発生しました。

原因: バックアップ用に参照制御ファイルを識別しようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックで詳細を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01586: バックアップ先ファイル :name がオープンできません。

原因: バックアップ用に制御ファイルをオープンしようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックで詳細を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01587: 制御ファイルのバックアップ・ファイルのコピー中にエラーが発生しました。

原因: バックアップ用に制御ファイルをコピーしようとした時に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: エラー・メッセージ・スタックで詳細を調べ、適切な処置を行ってください。

ORA-01588: DB をオープンするには RESETLOGS オプションを使用しなければなりません。

原因: この処理より前に RESETLOGS オプションを使用してデータベースをオープンしようとしたが、完結しませんでした。または、制御ファイル・バックアップによって回復が行われました。

解決方法: RESETLOGS オプションを確かに指定して、再試行してください。

ORA-01589: DB をオープンするには RESETLOGS/NORESETLOGS を使用しなければなりません。

原因: 取消しベースの回復または時間ベースの回復が実行されました。回復作業の終了後、データベースのオープンには、RESETLOGS または NORESETLOGS オプションの指定が必要です。

解決方法: 適切なオプションを指定してください。

ORA-01590: セグメント空きリストの数 :num が最大値 :num を超えました。

原因: 記憶領域パラメータ FREELIST GROUPS の値がブロック・サイズとして認められる最大値よりも大きくなっています。

解決方法: 表または索引の作成時に、FREELIST GROUPS に対して最大値以下の数を指定してください。データベース作成後に、初期化パラメータ DB_BLOCK_SIZE に指定されているブロック・サイズは変更できません。

ORA-01591: インダウト分散トランザクション :num がロックを保持しています。

原因: 準備状態で機能していない 2 フェーズ・コミット・トランザクションによってロックされているリソースをアクセスしようとした。

解決方法: エラー・メッセージのトランザクション番号を DBA_2PC_PENDING 表の GLOBAL_TRANS_ID 列と突き合わせて、データベース・リンクとトランザクションの状態を判断してください。必要であれば、コーディネータとコミット・ポイントに対するネットワーク接続を修復してください。適切な時期に修復ができない場合、コミット・ポイントのデータベース管理者がわかれば連絡し、保留中のトランザクションを解決してください。

ORA-01592: バージョン 6 から ORACLE7 へのロールバック・セグメント : num の形式変換中にエラー。

原因: バージョン 6 のロールバック・セグメントをバージョン 7 で使用される形式に変換している間にエラーが発生しました。

解決方法: 後に続く内部エラー・メッセージの原因を確認してください。バージョン 6 のデータベースが正しく停止されなかった可能性があります。バージョン 6 のデータベースをバックアップから再ロードし、もう一度停止し、正しく停止されたことを確認する必要があるかもしれません。

ORA-01593: ロールバック・セグメント最適化サイズ :num ブロックが計算された初期化サイズ :num ブロックより小さいです。

原因: ロールバック・セグメントの作成中、初期エクステントの累積サイズ (単位はブロック) が指定した OPTIMAL サイズを超えました。

解決方法: OPTIMAL サイズを大きくしてください。

ORA-01594: ロールバック・セグメント *name* のエクステント *num* を使用しようとしたがすでに解放されています。

原因: ロールバック・セグメントのエクステントを解放するために生成された UNDO が、同じエクステントに書き込もうとしました。これは、エクステントが小さいか、開放する数が多すぎるためです。

解決方法: ロールバック・セグメントの最適サイズを大きくしてください。縮小するロールバック・セグメントはシステムによってロールバックされます。

ORA-01595: ロールバック・セグメント *name* のエクステント *num* の解放中にエラーが発生しました。

原因: 非アクティブのロールバック・セグメントのエクステントを解放しようとしてエラーが発生しました。

解決方法: トレース・ファイルを調べ、前のメッセージを確認してください。

ORA-01596: *name* パラメータにはシステムを指定できません。

原因: エラー・メッセージに示されている INIT.ORA パラメータに、システム・ロールバック・セグメントが指定されました。

解決方法: INIT.ORA パラメータを変更してください。

ORA-01597: ロールバック・セグメントをオンライン / オフラインに変更できません。

原因: システムのロールバック・セグメントをオンラインまたはオフラインしようとした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-01598: ロールバック・セグメント *:name* はオンラインではありません。

原因: ロールバック・セグメントは、手動または SMON によってオフラインにされました。

解決方法: DBA_ROLLBACK_SEGS でロールバック・セグメントの状態を調べてください。

ORA-01599: キャッシュ領域がいっぱいなのでロールバック セグメント *name* を獲得できません (現エントリ数 *:num*)

原因: 割当てられたスペースの容量が十分ではありません。

解決方法: ロールバック・セグメントをオフラインにしてください。

ORA-01600: GC_FILES_TO_LOCKS の句 *:str* の中では、1 つの *str* にしてください。

原因: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS が正しく指定されていません。

解決方法: GC_FILES_TO_LOCKS パラメータの適切な指定方法を調べて、パラメータ・ファイルに正しく指定してください。他のインスタンスがデータベースをアクセスしている場合、そこで使用されている値を指定してください。

ORA-01601: GC_FILES_TO_LOCKS の句 :str でバケット・サイズが無効です。

原因: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS の句に指定したロックの数が、正の整数ではありません。

解決方法: GC_FILES_TO_LOCKS パラメータの適切な指定方法を調べて、パラメータ・ファイルに正しく指定してください。他のインスタンスがデータベースをアクセスしている場合、そこで使用されている値を指定してください。

ORA-01602: GC_FILES_TO_LOCKS のロックの数が GC_DB_LOCKS で予約されている数を超えています。

原因: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS 内のデータベース・ファイルに指定されている PCM ロックの総数が、GC_DB_LOCKS に指定されている数を超えています。

解決方法: インスタンスを起動する前に、GC_FILES_TO_LOCKS パラメータまたは GC_DB_LOCKS パラメータの値を訂正してください。他のインスタンスがデータベースをアクセスしている場合、そこで使用されている値を指定してください。

ORA-01603: GC_FILES_TO_LOCKS の句 :str に無効なグループ化があります。

原因: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS が間違っていて指定されています。ファイル番号の範囲が複数指定されている場合、各範囲はカンマで区切らなければなりません。

解決方法: インスタンスを起動する前に、GC_FILES_TO_LOCKS パラメータの値を訂正してください。他のインスタンスがデータベースをアクセスしている場合、そこで使用されている値を指定してください。次の構文を使用してください。

```
GC_FILES_TO_LOCKS = "{filenum[-filenum]
[,filenum[-filenum]]...= num_of_locks[EACH]}[:]..."
```

この *filenum* は V\$DBFILE にリストされているファイル番号、*num_of_locks* は、PCM ロックの番号です。

ORA-01604: GC_FILES_TO_LOCKS の句 :str でファイル番号の範囲が無効です。

原因: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS の句に指定したファイル番号の範囲が無効です。最初のファイル番号は、2 番目のファイル番号より小さくなければなりません。また、番号はハイフン (-) で区切ります。範囲内の数はすべて有効なファイル番号でなければなりません。

解決方法: インスタンスを起動する前に、GC_FILES_TO_LOCKS パラメータの値を訂正してください。他のインスタンスがデータベースをアクセスしている場合、そこで使用されている値を指定してください。

ORA-01605: GC_FILES_TO_LOCKS の句 :str にファイル番号がありません。

原因: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS が正しく指定されていません。それぞれの句には、V\$DBFILE にリストされているように、1 つまたは複数のファイル番号、またはコンマで区切った一連のファイル番号がなければなりません。次の構文を使用してください。

```
GC_FILES_TO_LOCKS = "{filenum[-filenum]
    [,filenum[-filenum]]...= num_of_locks[EACH]}[:]..."
二重引用符内では、スペースは使用できません。
```

解決方法: インスタンスを起動する前に、GC_FILES_TO_LOCKS パラメータの値を訂正してください。他のインスタンスがデータベースをアクセスしている場合、そこで使用されている値を指定してください。

ORA-01606: GC_FILES_TO_LOCKS がマウントされている別のインスタンスのものと同一ではありません。

原因: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS が、PARALLEL(SHARED) モードでマウントされている別のインスタンスと同じではありません。このパラメータはすべての共有インスタンスに対して同じでなければなりません。

解決方法: 他のインスタンスと適合するようにパラメータを変更してください。その後、インスタンスを停止して再起動してください。

ORA-01607: GC_LCK_PROCS:num が別のインスタンス:num と同一ではありません。

原因: 初期化パラメータ GC_LCK_PROCS が、データベースをオープンしている他のインスタンスと同じではありません。

解決方法: 他のインスタンスと適合するようにパラメータを変更してください。その後、インスタンスを停止して再起動してください。

ORA-01608: ロールバック・セグメント:name はオンラインにできません (状態:status)。

原因: データベース管理者によって、ロールバック・セグメントがオンラインにされています。または、プロセスがクラッシュしてからオンラインのままになっている可能性があります。このような状態は、INVALID、IN USE、AVAILABLE、OFFLINE、NEEDS RECOVERY のいずれかである可能性があります。

解決方法: DBA_ROLLBACK_SEGS ビューでのロールバック・セグメントの状態を調べてください。必要であれば、セグメントをオフラインにしてください。

ORA-01609: ログ:name は現行ログ (スレッド:num) なので削除できません。

原因: 指定したスレッドに対する現行の REDO ログのメンバーは削除できません。

解決方法: スレッドがオープンされている場合、そのスレッドを使用しているインスタンスによってログの切り換えが要求されます。スレッドがオープンされていない場合は、スレッドを使用禁止にし、ログをアーカイブするかまたはクリアしてください。

ORA-01610: BACKUP CONTROLFILE オプションを指定して回復を実行してください。

原因: 前のデータベース回復セッションが BACKUP CONTROLFILE を指定したか、または RESETLOGS オプションを指定して制御ファイルが再作成されました。BACKUP

CONTROLFILE 回復だけが許可され、データベースを次回オープンするときに、オンライン REDO ログ・ファイルをリセットしなければなりません。

解決方法: BACKUP CONTROLFILE オプションを指定して回復を実行してください。

ORA-01611: スレッド番号 :num は無効です。1 から num の範囲で指定してください。

原因: コマンドに指定したスレッド番号は、制御ファイルによってサポートされるスレッドの数を超えています。

解決方法: 有効なスレッド番号を使用するか、制御ファイルのスレッド・レコード・セクションまたはチェックポイントプログラズレコードセクション、あるいはその両方をサイズ変更してください。

ORA-01612: スレッド num はすでに使用可能です。

原因: すでに使用可能にされているスレッドを使用可能にしようとした。

解決方法: 何もする必要はありません。必要であれば、別のスレッドを使用可能にしてください。

ORA-01613: スレッド :num にはログが num つしかありません。ログは少なくとも 2 つ必要です。

原因: 対応付けられたオンライン REDO ファイルが 2 つより少ないため、スレッドを使用可能にできません。

解決方法: スレッドにログを追加するか、または別のスレッドを使用可能にしてください。

ORA-01614: スレッド :num は使用中なため使用可能にできません。

原因: スレッドを使用可能にしているときに、そのスレッドに対してマウント・エンキューは獲得できません。このスレッドを使用可能にする別のプロセスが起動されている可能性があります。

解決方法: しばらく待ってから再試行するか、使用可能な別のスレッドを検索してください。

ORA-01615: スレッド :num はマウントされているため使用不可にできません。

原因: いくつかのインスタンスが (このインスタンスも) スレッドを割り当てています。使用中のスレッドを使用禁止にはできません。

解決方法: このスレッドを使用禁止にするには、それを使用しているインスタンスを完全に停止してください。

ORA-01616: スレッド :num はオープンされているため使用不可にできません。

原因: スレッドがクローズされていません。スレッドを使用した最後のインスタンスがクラッシュしたため、スレッドはオープンされたままです。クローズしない限り、スレッドを使用禁止にはできません。クラッシュ回復またはインスタンス回復にはスレッドが必要です。

解決方法: データベースがオープンしている場合は、インスタンス回復はスレッドをすぐにクローズします。インスタンス回復がスレッドを解放するまでしばらく待ってください。または、データベースをオープンします。クラッシュ回復によってスレッドはクローズされます。

ORA-01617: *num* は有効なスレッド番号ではないためマウントできません。

原因: 初期化パラメータ THREAD が、1 から制御ファイルで許可されているスレッド数の間にありません。

解決方法: インスタンスを停止するか、または INIT.ORA パラメータを変更して起動してください。または、制御ファイルのスレッド・レコード・セクションまたはチェックポイント進捗セクション、あるいはその両方をサイズ変更してください。

ORA-01618: スレッド *:num* が使用可能ではないためマウントできません。

原因: 初期化パラメータ THREAD は使用可能になっていないスレッドを要求しています。マウントする前にスレッドを使用可能にしなければなりません。

解決方法: インスタンスを停止し、初期化パラメータを使用可能にされているスレッド番号に変更してからインスタンスを再起動してください。データベースが別のインスタンスでオープンされている場合、スレッドは使用可能にできます。

ORA-01619: スレッド *:num* は別のインスタンスによってマウントされています。

原因: 初期化パラメータ THREAD は、別のインスタンスによってマウントされているスレッドを要求しています。各スレッドを使用するインスタンスは1つだけです。

解決方法: インスタンスを停止し、初期化パラメータを未使用のスレッドに変更してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01620: マウントに使用できるパブリック・スレッドが存在しません。

原因: 初期化パラメータ THREAD は、デフォルト値である 0 (ゼロ) になっています。パブリックで使用可能にされているスレッドはありません。

解決方法: インスタンスを停止し、自分用に使用可能にしているマウントしていないスレッドに初期化パラメータを変更してから、インスタンスを再起動してください。データベースが別のインスタンスでオープンされている場合、スレッドをパブリックで使用可能にできます。

ORA-01621: データベースがオープンされている場合は現行ログ・メンバーは改名できません。

原因: オープン・スレッドの現ログのメンバーを改名しようとしています。もし、データベースがオープンされていると、ログは使用中なので改名はできません。

解決方法: ログが現行のログでなくなるまで待つか、データベースを排他的にマウントしてください。

ORA-01622: スレッド番号を指定してください。デフォルト指定はありません。

原因: ログの追加時にスレッドが指定されなかったので、現在マウントされているスレッドがデフォルトで選択されました。現行のスレッドが明示的に指定されていないため、ユーザーはログが追加されるスレッドを特定できません。

解決方法: 初期化パラメータ THREAD または ADD LOGFILE コマンドのどちらかで、スレッド番号を明示的に指定してください。

ORA-01623: ログ :num は現行ログ (スレッド :num) なので削除できません。

原因: スレッドがクローズされていたとしても、そのスレッドの現行ログは削除できません。通常、使用禁止となっているスレッドは現行ログを持っていません。不完全に使用禁止にされているスレッドは再度使用禁止にする必要があります。

解決方法: データベースがオープンされていない場合、スレッドを使用禁止にしてください。データベースがオープンされており、インスタンスによってスレッドがオープンされている場合、スレッドがオープンされているインスタンスでログを切り換えます。

ORA-01624: スレッド num のクラッシュ回復にはログ name が必要です。削除できません。

原因: スレッドのチェックポイントがログの外に進まない限り、ログは削除できません。

解決方法: データベースがオープンしていなければ、オープンしてください。クラッシュ回復はチェックポイントを進めます。データベースがオープンしている場合は、グローバル・チェックポイントを強制実行してください。ログが破壊されたためにデータベースをオープンできない場合は、このログが取り消されるまで、不完全回復を行わなければならない場合があります。

ORA-01625: ロールバック・セグメント :name はこのインスタンスに属しません。

原因: このインスタンスに属していないロールバック・セグメントをオフラインにしようとした。

解決方法: 現行インスタンスに属するロールバック・セグメントだけオフラインにしてください。オフラインにするロールバック・セグメントを含むインスタンスに接続してください。

ORA-01626: ロールバック・セグメント番号 :num はこれ以上トランザクションを処理できません。

原因: セグメント内のトランザクションが多すぎます。

解決方法: 別のロールバック・セグメントを選択するか、または同時実行のトランザクション数を削減してください。

ORA-01627: ロールバック・セグメント番号 :num はオンラインになっていません。

原因: このロールバック・セグメントは、データベース管理者によってオフラインにされているか、または、SMON によってクリーン・アップされています。

解決方法: DBA_ROLLBACK_SEGMENTS でロールバック・セグメントの状態を調べ、ロールバック・セグメントが実際にオンラインであることを確認してください。

ORA-01628: 最大エクステント :num に達しました (ロールバック・セグメント :num)

原因:すでに最大サイズに達しているロールバック・セグメントを拡張しようとしてしました。または、オブジェクトの定義を含むデータ・ディクショナリに領域を割り当てられませんでした。

解決方法:可能な場合は、MAXEXTENTS または PCTINCREASE 初期化パラメータの値を大きくしてください。または、『Oracle8 Server 管理者ガイド』で説明されているように、領域が不足しているデータ・ディクショナリ表を見つけて、記憶パラメータを変更してください。

ORA-01629: UNDO を保存して最大エクステント :num に達しました (表領域 :name)

原因:オフライン表領域に対して UNDO エントリを保存するための最大スペース容量に達しました。

解決方法:SYSTEM 表領域に対する記憶領域パラメータを調べてください。UNDO 情報を適用できるように、示された表領域をオンラインにする必要があります。

ORA-01630: 一時セグメントで最大エクステント :num に達しました (表領域 :name)。

原因:示された表領域内の一時セグメントにおいて、UNDO エントリを保存するための最大スペース容量に達しました。または、オブジェクトの定義を含むデータ・ディクショナリに領域を割り当てられませんでした。

解決方法:可能な場合は、MAXEXTENTS または PCTINCREASE 初期化パラメータの値を大きくしてください。または、『Oracle8 Server 管理者ガイド』で説明されているように、領域が不足しているデータ・ディクショナリ表を見つけて、記憶パラメータを変更してください。

ORA-01631: 表 name のエクステントが最大値 num に達しました。

原因:示された表に対して UNDO エントリを保存するための最大スペース容量に達しました。

解決方法:可能であれば、MAXEXTENTS 記憶領域パラメータを大きくするか、または表に対する PCTINCREASE パラメータを大きくしてください。

ORA-01632: 索引 name のエクステントが最大値 num に達しました。

原因:示された索引に対して UNDO エントリを保存するための最大スペース容量に達しました。

解決方法:可能であれば、MAXEXTENTS 記憶領域パラメータを大きくするか、または表に対する PCTINCREASE パラメータを大きくしてください。

ORA-01633: この操作ではパラレル・サーバー・オプションが必要です。

原因:システムがパラレル・サーバー・オプションを使用するように構成されていません。使用しようとした機能は使用できません。

解決方法:オラクル社に連絡して、パラレル・サーバー・オプションを取得してください。

ORA-01634: ロールバック・セグメント番号 :str がオフラインです。

原因: 指定したロールバック・セグメントは、DBA によってオフライン指定されています。

解決方法: 続行する前にロールバック・セグメントをオンラインにする か、または別のロールバック・セグメントを選択してください。SET TRANSACTION を使用する場合は、ROLLBACK SEGMENT 名を使用してください。

ORA-01635: 指定されたロールバック・セグメント #num は使用可能ではありません。

原因: 次のいずれかです。

- 起動中にオフライン・ロールバック・セグメントを獲得しようとした。
- アクティブなトランザクションを含むロールバック・セグメントを削除しようとした。

解決方法: 次のどちらかを実行してください。

- そのロールバック・セグメントを含む表領域をオンラインにするか、またはそのロールバック・セグメントを初期化パラメータ・ファイルに指定しないください。
- そのロールバック・セグメントが使用中の場合、ロールバック・セグメントを使用しているインスタンスを停止してください。または、ロールバック・セグメントを回復する必要がある場合、トランザクションのロールバックを抑止しているエラーを見つけ出して適切な処置を行ってください。

ORA-01636: ロールバック・セグメント :name はすでにオンラインです。

原因: ロールバック・セグメントは 1 つのインスタンスによってだけ使用できますが、すでに使用中のロールバック・セグメントをインスタンスがオンラインしようとした。

解決方法: 初期化パラメータ・ファイルの ROLLBACK_SEGMENTS、ROLLBACK_SEGMENT_INITIAL、ROLLBACK_SEGMENT_COUNT パラメータに正しい値 が設定されていることを確認してください。また、現在のインスタンスが正しい初期化パラメータ・ファイルを参照していることを確認してください。プライベート・ロールバック・セグメントとパブリック・ロールバック・セグメントを混同していないことを確認してください。パラレル・モードでロールバック・セグメントを使う詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-01637: ロールバック・セグメント : name はインスタンス :name が使用中です。

原因: ロールバック・セグメントは 1 つのインスタンスによってだけ使用できますが、すでに使用中のロールバック・セグメントにインスタンスがオンラインでアクセスしようとしています。

解決方法: 初期化パラメータ・ファイルの ROLLBACK_SEGMENTS、ROLLBACK_SEGMENT_INITIAL、ROLLBACK_SEGMENT_COUNT パラメータに正しい値 が設定されていることを確認してください。また、現在のインスタンスが正しい初期化パラメータ・ファイルを参照していることを確認してください。プライベート・

ロールバック・セグメントとパブリック・ロールバック・セグメントを混同していないことを確認してください。パラレル・モードでロールバック・セグメントを使う詳細は、『Oracle8 Parallel Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-01638: パラメータ *:name* により Oracle バージョン *:num* がパラレル・マウントを実行できません。

原因: 回復互換の初期化パラメータの設定が低すぎるので、このソフトウェアのバージョンをパラレル・マウントできません。

解決方法: ソフトウェアの前のリリースを使用するか、または、RECOVERY_COMPATIBLE パラメータを大きくしてください。
RECOVERY_COMPATIBLE パラメータが指定されていないときにこのエラーが発生する場合は、このパラメータをソフトウェアの現行リリースに設定してください。

ORA-01639: ロック・プロセスがないと、データベースをパラレルにマウントできません。

原因: GC_LCK_PROCS の値は 0 で、データベースがパラレル・モードでマウントされています。

解決方法: GC_LCK_PROCS を 1 から 10 の値に変更するか、または未定義のままにしてデフォルトを使用してください。

ORA-01640: アクティブなトランザクションがあるため表領域を読出し専用にできません。

原因: 表領域を読出し専用にしようとしたが、データベースに アクティブなトランザクションがありました。一貫性を確保するためすべてのトランザクションをコミットするか、またはロールバックしなければなりません。これには、インダウト・トランザクションすべてが含まれます。

解決方法: データベースを制限モードにして新しいトランザクションが開始しないようにし、すべてのアクティブ・トランザクションをコミットまたはロールバックして、すべてのインダウト・トランザクションを解決してください。

ORA-01641: 表領域 *:name* はオンラインではありません。データ・ファイルを追加できません。

原因: 読込み専用またはオフラインに設定されている表領域に、データ・ファイルを追加しようとした。

解決方法: 表領域をオンラインまたは読み / 書き両用にしてからデータ・ファイルを追加してください。

ALTER TABLESPACE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TABLESPACE」を参照してください。

ORA-01642: 読込み専用の表領域 *:name* には BEGIN BACKUP は必要ありません。

原因: 読出し専用になっている表領域に BEGIN BACKUP または END BACKUP 文を使用しようとした。

解決方法: BEGIN BACKUP または END BACKUP 文を使用しないでバックアップを開始してください。読出し専用ファイルは変更できないので、一貫性があります。

ORA-01643: システム表領域は読み専用できません。

原因: システム表領域を読み専用にしようとした。システム表領域はデータベース操作に対して読み / 書きになっていなければなりません。

解決方法: この操作は行わないでください。

ORA-01644: 表領域 *name* はすでに読み専用です。

原因: すでに読み専用の表領域を読み専用にしようとした。

解決方法: この操作は必要ありません。

ORA-01645: 前の読み / 書きにしようとする試みは半分だけ成功しています。

原因: 表領域を読み / 書きにしている最中に障害が発生し、表領域は読み専用のままですが、チェックポイントは前進しました。表領域のファイルがオフラインの場合は、RESETLOGS 後に表領域は使用不可能になります。

解決方法: 表領域を読み / 書きにする操作を再度行ってください。

ORA-01646: 表領域 *:name* は読み専用ではありません。読み / 書きにできません。

原因: すでに読み / 書きの表領域を読み / 書きにしようとした。

解決方法: この操作は必要ありません。

ORA-01647: 表領域 *:name* は読み専用です。領域を割当てられません。

原因: 読み専用の表領域に領域を割当てようとしたが、これはできません。

解決方法: 読み / 書きの表領域にオブジェクトを作成してください。

ORA-01648: ログ *:name* は使用不能スレッド *name* の現行ログです。

原因: スレッドを使用可能にしようとしたが、半分だけ完了したあと失敗しました。このログは、スレッドが依然として使用できない状態ですが、現在のログとして残っていました。ログ・スイッチはスレッドが使用可能になるまで行われないため、そのログはクリアまたはアーカイブできません。

解決方法: 使用可能化コマンドを再度発行して、スレッドの使用可能化を完了してください。

ORA-01649: バックアップ制御ファイルを使った操作はできません。

原因: 制御ファイルが復元バックアップであるときに無意味なコマンドを実行しようとした。

解決方法: データベースがオープンされるまで待ってから再実行してください。

ORA-01650: ロールバック・セグメント *:name* を拡張できません (*: num*、表領域 *:name*)。

原因: 表領域のロールバック・セグメントにエクステントを割当てることに失敗しました。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01651: アンドゥ・セグメントの保存を拡張できません (:num 表領域 :name)。

原因: 指定されたオフライン表領域の UNDO エントリの保存にエクステントを割り当てることに失敗しました。

解決方法: system 表領域の記憶領域パラメータを確認してください。表領域は、UNDO が適用できるように、オンラインに戻さなければなりません。

ORA-01652: 一時セグメントを拡張できません (:num 表領域 :name)。

原因: 表領域の一時セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して 1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加するか、または別の表領域にオブジェクトを作成してください。

ORA-01653: 表領域 name で表 name.name のエクステントを num によって拡張できませんでした。

原因: 表領域の表セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01654: 表領域 name で索引 name.name のエクステントを num によって拡張できませんでした。

原因: 表領域の索引セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01655: 表領域 name でクラスタ name.name を num によって拡張できませんでした。

原因: 表領域のクラスタ・セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01656: クラスタ name.name のエクステント数 num が最大値 num に達しました。

原因: クラスタが MAXEXTENTS に指定された値を超えて拡張しようとしていました。

解決方法: MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合、より大きい値を指定してください。さもなければ、より大きな INITIAL、または NEXT、PCTINCREASE パラメータで再作成しなければなりません。

ORA-01657: SHRINK オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は整数でなければなりません。

解決方法: 適当な整数値を選択してください。

ORA-01658: 表領域 :name にセグメント用の INITIAL エクステントを作成できません。

原因: 作成中のセグメントに INITIAL エクステントを割り当てられる十分な連続領域を見つけれませんでした。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE を使用して表領域にさらに領域を追加するか、または INITIAL の値を小さくして再実行してください。

ORA-01659: 表領域 *name* に *size* を超える MINEXTENTS を割当てられません。

原因: 作成中のセグメントに MINEXTENTS を割当てられる十分な連続領域を見つけれませんでした。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE を使用して表領域にさらに領域を追加するか、または MINEXTENTS、または NEXT、PCTINCREASE の値を小さくして再実行してください。

ORA-01660: 表領域 *name* はすでに permanent です。

原因: すでに永続の表領域を permanent にしようとしてしました。

解決方法: 表領域を permanent 領域のままにしておいてください。

ALTER TABLESPACE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TABLESPACE」を参照してください。

ORA-01661: 表領域 *name* はすでに temporary です。

原因: すでに一時の表領域を temporary にしようとしてしました。

解決方法: 表領域を permanent 領域のままにしておいてください。ALTER TABLESPACE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TABLESPACE」を参照してください。

ORA-01662: 表領域 *name* は空ではなく一時領域にできません。

原因: 空でない表領域を一時表領域に変換しようとしてしました。

解決方法: 表領域中のすべてのオブジェクトを削除してください。

ALTER TABLESPACE および DROP TABLESPACE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TABLESPACE」および「DROP TABLESPACE」を参照してください。

ORA-01663: 表領域 *name* の内容は常に変更されています。

原因: 表領域の内容が常に PERMANENT と TEMPORARY の間で変更されています。

解決方法: 表領域の内容をいずれかに決定し、固定してください。

ALTER TABLESPACE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TABLESPACE」を参照してください。

ORA-01664: ソート・セグメントを拡張したトランザクションが異常終了しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01665: 制御ファイルが予備制御ファイルではありません。

原因: スタンバイ制御ファイル (予備制御ファイル) を使用せずに、スタンバイ・データベースのマウント、回復、アクティブ化を実行しようとした。

解決方法: スタンバイ制御ファイルを作成してからデータベースをスタンバイ・データベースとして使用してください。

コントロール・ファイルとコントロール・ファイルの操作の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「コントロール・ファイル」と、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE DATABASE 内のコントロール・ファイル」を参照してください。

ORA-01666: 制御ファイルは予備データベース用です。

原因: スタンバイ・データベース (予備データベース) を指定する適切なコマンド・オプションを使用せずに、データベースのマウント、回復、オープンを実行しようとした。

解決方法: STANDBY オプションまたは適切なコマンドを使用するか、プライマリ制御ファイルを使用してマウントを実行します。

コントロール・ファイルとコントロール・ファイルの操作の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「コントロール・ファイル」と、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE DATABASE 内のコントロール・ファイル」を参照してください。

ORA-01667: redo ログは予備データベースと互換性がありません。

原因: スタンバイ・データベース (予備データベース) の回復中、スタンバイ・データベース・オプションをサポートしないプライマリ・データベースで REDO ログが検出されました。

解決方法: プライマリ・データベースと互換性のある初期化パラメータをバージョン 7.3.0 以上に変更して、プライマリ・データベースをオープンし、スタンバイ・データベースを再構築してください。

パラメータ・ファイルおよびデータベース startles の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「パラメータ・ファイル」を参照してください。

ORA-01668: 予備データベースにオフライン・データ・ファイル用の DROP オプションがありません。

原因: DROP オプションを指定せずに、スタンバイ・データベース (予備データベース) でデータ・ファイルをオフラインにしようとした。スタンバイ・データベースでオフラインになっているファイルは回復されず、スタンバイ・データベースをアクティブにしても使用できない可能性があります。DROP オプションを指定しても、後でファイルがオンラインにならないとは限りません。

解決方法: DROP オプションを指定するか、ファイルをオンラインのままにしてください。

DROP 句や他の DROP コマンドの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「DROP」を参照してください。

ORA-01669: スタンバイ・データベースの制御ファイルに一貫性がありません。

原因: データ・ファイルと同じ位置まで回復されなかった制御ファイルを使用して、スタンバイ・データベース（予備データベース）をアクティブにしようとした。制御ファイルはプライマリ・データベース内だけにコピーされ、回復に使用されなかった可能性があります。

解決方法: すべてのファイルの整合性がとれるまで、スタンバイ・データベースを回復してください。

データベース回復の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「回復、データベース、概要」を参照してください。

ORA-01670: 予備データベースのリカバリに新しいデータ・ファイル *name* が必要です。

原因: スタンバイ・データベース（予備データベース）の回復（リカバリ）によって、ファイルがプライマリ・データベースに追加されたことが通知されましたが、このファイルはスタンバイ・データベースでは使用できません。

解決方法: プライマリ・データベースでファイルをコピーするか、スタンバイ・データベースで ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを実行して、回復に使用するファイルを作成してください。ALTER DATABASE CREATE DATAFILE の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語 リファレンス』の索引項目「ALTER DATABASE」および「CREATE DATAFILE 句、ALTER DATABASE コマンドの」を参照してください。

ORA-01671: 制御ファイルはバックアップ用で、予備制御ファイルにはできません。

原因: 現在マウントされている制御ファイルがバックアップ制御ファイルであり、スタンバイ・データベース（予備データベース）用に制御ファイルを作成しようとした。

解決方法: 必要な回復（リカバリ）処理を完了してから、RESETLOGS オプションを指定してデータベースをオープンします。RESETLOGS オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「RESETLOGS オプション、ALTER DATABASE コマンドの」および「CREATE CONTROLFILE コマンド、RESETLOGS オプション」を参照してください。

ORA-01672: 制御ファイルでファイルが不足しているか、ファイルが余分な可能性があります。

原因: スタンバイ制御ファイルを作成しようとしたが、CREATE CONTROLFILE を使用して、最新の制御ファイルが作成されたか、または不完全回復が実行されました。このため、制御ファイル内とデータ・ディクショナリ内のデータ・ファイルは一致していない可能性があります。

解決方法: データベースをオープンしてから操作を再試行してください。CREATE CONTROLFILE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CONTROLFILE」を参照してください。

ORA-01673: データ・ファイル *name* を識別できません。

原因: 不完全回復または CREATE CONTROLFILE の後、データ・ファイルが制御ファイル内にありませんでした。スタンバイ・データベースの回復にはデータ・ファイルのヘッダーからの情報が必要なため、スタンバイ制御ファイルが作成できません。

解決方法: ファイルを検索して、それをオンラインにしてください。ファイルは必要に応じてオフラインに戻してください。このファイルを削除する場合、DROP オプションを指定してオフラインにすると、このエラーは発生しません。

CREATE CONTROLFILE と DROP の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE CONTROLFILE」と「DROP」を参照してください。

ORA-01674: データ・ファイル *name* が現行ファイルより古いタイプのもんです。

原因: このファイルがデータベースで削除されていることを示す REDO ログが回復処理で検出されましたが、削除されたファイルと同じファイル番号を使用して別のファイルが追加されました。これは、CREATE CONTROLFILE コマンドで、現行ファイルではなく削除された古いファイルが指定されているということです。

解決方法: CREATE CONTROLFILE を使用して制御ファイルを再構築し、正しいファイルを指定してください。

CREATE CONTROLFILE と DROP の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE CONTROLFILE」と「DROP」を参照してください。

ORA-01675: スタンバイ・データベースの 2 次マウントを試みましたが。

原因: スタンバイ・データベースを 2 次としてマウントしようとしてしました。

解決方法: スタンバイ・データベースはすでにマウントされています。最初にディスマウントしてからスタンバイ・データベースをマウントしてください。

ディスマウントとマウントの詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「データベース、ディスマウント」と「データベース、マウント」および『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「マウント、データベース」を参照してください。

ORA-01676: スタンバイファイル名 *num* が *num* の最大長を超えて変換されました。

原因: 指定されたファイル名をスタンバイ・データベースで使用される名前に変換したとき、変換後の名前がファイル名の許容最大長を超えました。

解決方法: 初期化パラメータ DB_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT または LOG_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT を変更して、有効な名前に変換してください。DB_FILES および LOG_FILES 初期化パラメータの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「DB_FILES」および「LOG_FILES」を参照してください。

ORA-01677: 予備ファイル名変換パラメータがほかのインスタンスと異なっています。

原因: DB_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT または LOG_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT 初期化パラメータが、すでにデータベースにマウントされている他のインスタンスと一致しません。

解決方法: 初期化パラメータ DB_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT および LOG_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT を他のインスタンスと一致するように変更してください。

DB_FILES と LOG_FILES 初期化パラメータの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「DB_FILES」と「LOG_FILES」を参照してください。

ORA-01678: パラメータ *name* は 2 つの文字列、パターン文字列と置換文字列でなければなりません。

原因: 特定された初期化パラメータの値に 2 つの文字列が指定されていません。この 2 つの文字列の内、1 つの文字列はファイル名で検索されるパターンです。もう 1 つの文字列は、ファイル名で検索されたときにパターンを置換するために使用します。

解決方法: パラメータに 2 つの文字列を指定するか、パラメータを省略してください。

ORA-01679: データベースをアクティブにするには EXCLUSIVE でマウントされていなければならない、またオープンされていてもいけません。

原因: データベースが EXCLUSIVE でマウントされていないとき、またはすでにオープンしているときにデータベースをアクティブにしようとした。

解決方法: データベースを EXCLUSIVE オプションを指定してマウントし、ACTIVATE コマンドを再試行してください。

EXCLUSIVE オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「EXCLUSIVE オプション」を参照してください。

ORA-01680: gc_files_to_locks が使用されている場合には、gc_db_locks はゼロにできません。

原因: GC_DB_LOCKS をゼロに設定すると、すべてのファイルのデータ・ブロックを解放できるので、GC_FILES_TO_LOCKS を指定する必要はありません。

解決方法: GC_DB_LOCKS または GC_FILES_TO_LOCKS のいずれかを削除してください。

GC_DB_LOCKS パラメータと GC_FILES_TO_LOCKS パラメータの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「GC_DB_LOCKS パラメータ」と「GC_FILES_TO_LOCKS パラメータ」を参照してください。

ORA-01681: 表領域 *name* の LOB セグメントで最大エクステント *num* に達しました。

原因: エクステントの最大数を超えて、LOB セグメントを拡張しようとした。

解決方法: 表領域の MAXEXTENTS の値がシステムの最大値よりも小さい場合は、パラメータの値を大きくしてください。それ以外の場合は、表領域の PCTINCREASE の値を大きくしてください。

ORA-01683: 表領域 *name* で索引 *name.name* パーティション *name* を *num* によって拡張できませんでした。

原因: 表領域の中に索引セグメントのエクステントが割り当てられませんでした。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを示された表領域に追加してください。

ORA-01684: 表 *name.name* パーティション *name* のエクステント数が最大数 *num* に達しました。

原因: エクステントの最大数を超えて拡張しようとした。

解決方法: MAXEXTENTS の値がシステムの最大値よりも小さい場合は、パラメータの値を大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL または NEXT、PCTINCREASE パラメータを使用して表を再作成してください。

ORA-01685: 索引 *name.name* パーティション *name* のエクステント数が最大数 *num* に達しました。

原因: エクステントの最大数を超えて、索引を拡張しようとした。

解決方法: MAXEXTENTS の値がシステムの最大値よりも小さい場合は、パラメータの値を大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL または NEXT、PCTINCREASE パラメータを使用して索引を再作成してください。

ORA-01686: 表領域 *name* でファイル数が最大値 *num* に達しました。

原因: 指定の表領域のファイル数が最大値に達しました。

解決方法: 表領域内の既存のファイルのサイズを変更してください。または、複数の表領域間のオブジェクトをパーティションしてください。または、いくつかのオブジェクトを別の表領域に移動してください。

ORA-01687: 表領域 *name* に指定されたロギング属性が、既存の属性と同じです。

原因: 表領域のデフォルトのロギング属性 (LOGGING または NOLOGGING) を既存のロギング属性と同じにしようとした。

解決方法: 指定したロギング属性を変更してください。

ORA-01688: 表領域 *name* の表 *name.name* パーティション *name* を *num* によって拡張できませんでした。

原因: 表領域の中に表セグメント用のエクステントを割り当てられませんでした。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01689: *name* の句 *name* に構文エラーがありました。

原因: 初期化パラメータの指定に構文エラーがありました。

解決方法: 構文エラーを修正してから、インスタンスを再起動してください。

ORA-01690: 別のマウントされたインスタンスと GC_ROLLBACK_LOCKS が異なります。

原因: 別のインスタンスの GC_ROLLBACK_LOCKS パラメータの値が異なります。

解決方法: 初期化パラメータ GC_ROLLBACK_LOCKS を修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01691: 表領域 *name* の LOB セグメント *name.name* を *num* に拡張できませんでした。

原因: 指定の表領域の中に LOB セグメント用のエクステントを割り当てられませんでした。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01692: 表領域 *name* の LOB セグメント *name.name* パーティション *name* を *num* によって拡張できませんでした。

原因: 指定の表領域の中に LOB セグメント用のエクステントを割り当てられませんでした。

解決方法: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01693: LOB セグメント *name.name* のエクステント数が最大数に達しました。

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS の値を超えて拡張しようとしてしました。

解決方法: MAXEXTENTS の値がシステムの最大値よりも小さい場合は、パラメータの値を大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL または NEXT、PCTINCREASE パラメータを使用して LOB セグメントを再作成してください。

ORA-01694: LOB セグメント *name.name* パーティション *name* で最大エクステントに達しました。

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS の値を超えて拡張しようとしてしました。

解決方法: MAXEXTENTS の値がシステムの最大値よりも小さい場合は、パラメータの値を大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL または NEXT、PCTINCREASE パラメータを使用して LOB セグメントを再作成してください。

ORA-01695: バージョン 8.0.2 へのロールバック・セグメント :*name* の変換中にエラーが発生しました。

原因: バージョン 8.0.1 のデータベースが完全にシャットダウンされていない可能性があります。

解決方法: 8.0.1 のデータベースを再ロードし、完全にシャットダウンしてください。

ORA-01696: 制御ファイルがクローン制御ファイルではありません。

原因: 他のインスタンスでクローンとしてではなくマウントされているデータベースを、クローンとしてマウントしようとしてしました。または、現行の制御ファイルをクローンとして使用しようとしてしました。

解決方法: クローン・オプションなしでマウントしてください。または、バックアップ制御ファイルを使用し、他のインスタンスをシャットダウンしてからクローンとしてマウントしてください。

ORA-01697: 制御ファイルはクローン・データベース用です。

原因: クローン・データベースを指定する適切なコマンド・オプションなしで、クローン・データベースをマウントしようとした。

解決方法: クローン・オプションまたは適切なコマンドを使用してください。または、プライマリ制御ファイルを使用してマウントしてください。

ORA-01698: クローン・データベースでは SYSTEM ロールバック・セグメントのみをオンラインとして持ちます。

原因: クローン・データベース内のロールバック・セグメントをオンラインにしようとした。

解決方法: このコマンドは使わないでください。

ORA-01699: 表領域 'name' は、Point in time リカバリでインポートされています。

原因: 表領域をオンラインにしようとした。または、Point-in - Time インポートの処理中に、別の Point-in-Time インポートを開始しようとした。

解決方法: インポートが完了するまで待機してください。

SQL の解析メッセージ : 01700 ~ 01799

この節には、Oracle Server が SQL 文を解析するときに生成されるメッセージが記載されています。この節で取り上げるメッセージはたいいていの場合、誤った SQL 文が入力されるときに出力されます。SQL の構文の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01700: リスト中のユーザー名が重複しています。

原因: GRANT 文または REVOKE 文で同じユーザー名が重複して記載されています。ユーザー名は一意でなければなりません。また、GRANT 文または REVOKE 文には一度だけ指定することができます。

解決方法: 重複するユーザー名を取り除いて、文を再試行してください。

ORA-01701: ここではクラスタは指定できません。

原因: クラスタが許されていない文でクラスタ名が指定されました。

解決方法: 有効な CLUSTER 文を入力するか、またはクラスタ名を表、ビュー、索引、シノニムなどその文に有効なオブジェクトの名前に変更してください。

ORA-01702: ここではビューは指定できません。

原因: ビューが許可されていない文にビュー名が指定されました。

解決方法: 表、クラスタ、シノニム、索引など、その文に有効なオブジェクトの名前を入力してください。

ORA-01703: SYNONYM キーワードがありません。

原因: ここではキーワード SYNONYM が必要です。

解決方法: 構文を調べて、キーワード SYNONYM を挿入してください。

ORA-01704: 文字列が長すぎます。

原因: 定数として指定された引用符付きストリングが長すぎます。

解決方法: 引用符付きストリングは 2000 文字以内でなければなりません。

ORA-01705: 相関列に外部結合は指定できません。

原因: 相関列 (つまり、外部問合せの FROM 句で参照される表の副問合せの列) の後に外部結合指示子 (+) が指定されました。これは許可されていません。

解決方法: 問合せを改訂します。副問合せの構文を参照してください。外部結合指示子は、同じ問合せブロック中の列で、その表が FROM 句に含まれているものの後にだけ指定できます。

ORA-01706: ユーザー定義の関数の結果が大きすぎます。

原因: ユーザー定義の SQL 関数から生成された値が、関数表で定義されている最大値より大きくなっています。

解決方法: 関数表の最大値を変更するか、ユーザー定義関数を訂正してください。

ORA-01707: LIST キーワードがありません。

原因: このコンテキストではキーワード LIST が必要です。たとえば、ARCHIVE LOG 文を使用して、一連の REDO ログ・ファイルを表示する場合などです。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所にキーワード LIST を挿入してから、文を再試行してください。

ORA-01708: ACCESS または SESSION がありません。

原因: AUDIT 文または NOAUDIT 文のキーワード BY の後に、ACCESS または SESSION 以外が指定されています。

解決方法: 構文を調べて、キーワード BY の後に ACCESS または SESSION を指定してください。

ORA-01709: プログラムがありません。

原因: この機能は現在実現されていません。

解決方法: 何もする必要はありません。

ORA-01710: OF キーワードがありません。

原因: SELECT FOR UPDATE 文にキーワード OF が指定されていません。

解決方法: 構文を調べて訂正してください。SELECT FOR UPDATE を指定するためには、SELECT 文の最後に次の句を追加してください。

FOR UPDATE OF *column-list*

ORA-01711: 権限が重複してリストされています。

原因: GRANT 文または REVOKE 文に同じ権限が重複して記載されています。権限は、これらの文に 1 度しか指定できません。

解決方法: 重複する権限をリストから取り除いて、文を再試行してください。

ORA-01712: 自分が所有していない権限は付与できません。

原因: GRANT 文で、自分が所有していない権限を他のユーザーに許可しようとしています。自分が所有しており、許可されている権限に限って他のユーザーに許可できます。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

- GRANT 文に許可されている権限だけを指定する。
- データベース管理者に依頼して、必要な権限を付与してもらう。
- データベース管理者に必要な権限を依頼してから他のユーザーにその権限を付与する。

ORA-01713: その権限に対する GRANT OPTION がありません。

原因: GRANT 文に、他のユーザーに許可することは認可されていない権限を指定しました。他のユーザーにその権限を付与するときに必要となる GRANT OPTION が指定されませんでした。

解決方法: GRANT 文を変更して許可されている権限だけを指定するか、権限を付与したユーザーに GRANT OPTION も付与するように要求してください。

ORA-01714: ユーザー定義の関数の実行中にエラーが発生しました。

原因: ユーザー定義の SQL 関数の実行中にエラーが発生しました。エラーは関数のタイプによって異なります。

解決方法: 関数の正しい使用方法を確認するか、関数を修正してください。

ORA-01715: クラスタ索引に UNIQUE は使用できません。

原因: クラスタ索引を UNIQUE 属性で作成しようとしてしました。これは許可されません。

解決方法: CREATE INDEX 文からキーワード UNIQUE を取り除いてから、文を再試行してください。

ORA-01716: クラスタ索引に NOSORT は使用できません。

原因: NOSORT オプションを使用してクラスタ索引を作成しようとしてしました。これは許可されません。

解決方法: 構文を調べ、CREATE INDEX 文からキーワード NOSORT を取り除いてから、文を再試行してください。

ORA-01717: seccta: 渡されたアクセス・モード・トークンが無効です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01718: NOAUDIT 文では BY ACCESS 句または BY SESSION 句は使用できません。

原因: NOAUDIT 文で BY ACCESS 句または BY SESSION 句が使用されました。これらの句は AUDIT 文では有効ですが、NOAUDIT 文では使用できません。

解決方法: NOAUDIT 文から BY ACCESS 句または BY SESSION 句を取り除いてください。

ORA-01719: OR 句または IN 句の中で外部結合は使用できません。

原因: OR 句の中で外部結合が指定されました。

解決方法: A と B を述語とすると、(A(+) OR B) と同じ結果を得るためには次の構文を使用してください。

```
(SELECT WHERE (A+ AND NOT B)) UNION ALL (SELECT WHERE (B));
```

ORA-01720: str に対する GRANT オプションは存在しません。

原因: ビューに対して GRANT が実行されましたが、このオブジェクトに対して権限がありません。

解決方法: 必要な GRANT 権限を付与してもらってください。

ORA-01721: USERENV(COMMITSCN) がトランザクションで複数回起動されました。

原因: USERENV 機能はトランザクションで一度しか使用できません。

解決方法: トランザクションを書き直して USERENV (COMMITSCN) を一度だけ使用してください。

ORA-01722: 数値が無効です。

原因: 数値列が無効であるため、文字列から数値への変換は失敗しました。算術演算または式では、数値データを含む文字フィールドまたは数値フィールドしか使用することができません。日付に対しては数値フィールドだけを加算または減算できます。

解決方法: 関数または式の中の文字列を確認してください。文字列が数字、単一の符号、単一の小数点、文字 E または e だけから構成されていることを確かめて、操作を再実行してください。

ORA-01723: 長さゼロの列は指定できません。

原因: CREATE TABLE の実行中に長さゼロの列が指定されました (たとえば、CHAR(0) など)。

解決方法: 長さが少なくとも 1 になるように列を訂正し、操作を再試行してください。

ORA-01724: 浮動小数点の精度が有効範囲 (1 から 126) を超えています。

原因: 浮動小数点の精度が、規定の範囲外です。

解決方法: 修正して再試行してください。

ORA-01725: USERENV (COMMITSCN) はここでは許されていません。

原因: USERENV (COMMITSCN) 機能は、INSERT 文の VALUES 句および UPDATE 文の割当てにおいて最上位の式として許されているだけです。

解決方法: この機能の使用方法を訂正してください。

ORA-01726: 表の指定は無効です。

原因: 表の指定が許されていない文に表名を使用しました。

解決方法: 有効な表文を入力するか、適切なオブジェクトに対して現在の文を使用してください。

ORA-01727: 数値の精度指定範囲 (1 から 38 桁) を超えています。

原因: CREATE/ALTER TABLE 文または CREATE CLUSTER 文の数値型の列に指定する精度の桁数は、38 桁以内でなければなりません。精度を指定しない場合は、デフォルトの 22 桁が用いられます。

解決方法: 1 から 38 までの数値精度を指定し、文を再試行してください。

ORA-01728: 数値の位取り指定範囲 (-84 から 127) を超えています。

原因: CREATE/ALTER TABLE 文または CREATE CLUSTER 文の数値フィールドに指定している位どりの範囲が無効です。-84 から 127 の間でなければなりません。

解決方法: -84 から 127 までの位どりを指定してください。位どりを指定しない場合は、列のデフォルトの位どりは小数点以下 0 桁になります。

ORA-01729: データベース・リンク名が必要です。

原因: リモート・データベース中の表の参照において、アットマーク (@) の後にデータベース・リンク名が指定されていません。

解決方法: 参照を訂正して、操作を再試行してください。リモート・データベース中の表を指定する正しい構文は次のとおりです。

`username.table_name@ database_name`

アットマーク (@) の前後のスペースは任意です。

ORA-01730: 指定した列名の個数が無効です。

原因: CREATE VIEW 文に指定された列名の数が、SELECT 句にリストされた列の数と一致しません。CREATE VIEW 文に列名を指定する場合、SELECT 句の各列または各式に対して正しい名前を 1 つだけ指定しなければなりません。

解決方法: SELECT 句の各列に対して 1 つのビュー列名を指定してください。

ORA-01731: 循環的なビュー定義が検出されました。

原因: 一連の CREATE VIEW 文および DROP VIEW 文において、あるビューが自身を基準にして定義されました。たとえば、VIEW1 が、VIEW1 内のある列に定義される VIEW2 中のある列を含んでいる、というようにです。ビュー定義はデータ・ディクショナリを問合せることによって参照できます。

解決方法: ビュー定義を確認し、循環参照を取り除いてから、文を再試行してください。

ORA-01732: このビューに対するデータ操作が無効です。

原因: 式または関数を含んでいるか、複数の表から導き出されたビューにおいて、UPDATE、INSERT、DELETE 文を使用しようとしてしました。複数のビューを結合して作

成しているか、ビューが関数または式から導き出された仮想列を含んでいる場合は、問合せだけ可能です。

解決方法: かわりに実表内の行に対して UPDATE または INSERT、DELETE を実行し、問い合わせるビュー上の操作を制限してください。

ORA-01733: ここでは仮想列は使用できません。

原因: ビュー内の式に対して INSERT 文、UPDATE 文、DELETE 文を使用しようとしてしました。

解決方法: ビューのかわりに、基本表においてデータの INSERT、UPDATE、DELETE を実行してください。

ORA-01734: パラメータが無効です。 - EXTENT MIN が EXTENT MAX より高すぎます。

原因: 下限パラメータ EXTENT MIN の値が上限パラメータ EXTENT MAX の値よりも大きくなっています。

解決方法: EXTENT MIN の値には EXTENT MAX よりも小さい値を選択してください。

ORA-01735: ALTER TABLE オプションが無効です。

原因: ALTER TABLE 文に無効なオプションが指定されました。

解決方法: 構文を調べて、有効なオプションを指定してから、文を再試行してください。

ORA-01736: [NOT] SUCCESSFUL が予想されました。

原因: AUDIT 文または NOAUDIT 文の WHENEVER の後に SUCCESSFUL または NOT SUCCESSFUL 以外のものが指定されています。

解決方法: WHENEVER 句を訂正して、文を再試行してください。

ORA-01737: 有効なモード : [ROW] SHARE, [[SHARE] ROW]EXCLUSIVE, SHARE UPDATE

原因: LOCK TABLE コマンドの後に有効な表ロック・モードが指定されていません。

解決方法: SHARE または ROW SHARE、EXCLUSIVE、ROW EXCLUSIVE、SHARE ROW EXCLUSIVE、SHARE UPDATE のいずれかを入力してください。

ORA-01738: IN キーワードがありません。

原因: LOCK TABLE 文にキーワード IN がありません。

解決方法: LOCK TABLE 文の表名の直後にキーワード IN を指定し、文を再試行してください。

ORA-01739: MODE キーワードがありません。

原因: LOCK TABLE 文にキーワード MODE がありません。指定したロック・モードの直後にはキーワード MODE を指定しなければならなりません。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所にキーワード **MODE** を挿入してから、文を再試行してください。

ORA-01740: 識別子に 2 重引用符がありません。

原因: 識別子を囲むために最初の 2 重引用符 (") が付いていますが、終わりの 2 重引用符がありません。識別子に \$、#、_ 以外の特殊文字または空白が含まれている場合は、2 重引用符で囲む必要があります。

解決方法: 閉じる 2 重引用符 (") を識別子の終わりに追加してください。

ORA-01741: 長さゼロの識別子は無効です。

原因: 2 つの 2 重引用符 (") を識別子として使用しようとしてしました。識別子の長さは少なくとも 1 文字なければなりません。

解決方法: 識別子の 2 重引用符の間に、少なくとも 1 文字を挿入してください。空白文字の識別子が必要であれば、2 重引用符の間に空白を入れてください。

ORA-01742: コメントが正しく終了していません。

原因: 表示されている /* トークンで始まるコメントまたはヒントが、終わりを示す */ トークンで終了していません。

解決方法: コメントまたはヒントが正しく終了していることを確認してください。

ORA-01743: 内部エラー : ユーザー定義の関数索引が無効です。

原因: これは現在実現されていません。

解決方法: 何もする必要はありません。

ORA-01744: INTO 句の指定が無効です。

原因: 副問合せで INTO 句は使用できません。

解決方法: 構文を調べて、最上位の問合せに INTO 句を配置してから、文を再試行してください。

ORA-01745: ホスト / バインド変数名が無効です。

原因: バインド変数のコロンの後または INTO 指定の後に不適切な名前 (予約語など) があります。

解決方法: 変数名を変更して、操作を再試行してください。

ORA-01746: ここでは標識変数は使用できません。

原因: 標識変数の使用は許されません。

解決方法: 標識変数を削除して再試行してください。

ORA-01747: user.table.column、table.column、または列の指定が無効です。

原因: SQL 文に列名が正しく指定されていません。

解決方法: 構文を (特に列名の参照について) 調べてから、文を再試行してください。

ORA-01748: ここでは修飾された列名は使用できません。

原因: この SQL 文では、username.table.column、table.column などの修飾された列名は使用できません。

解決方法: 列の修飾を取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-01749: 自分自身へまたは自分自身から権限を GRANT/REVOKE できません。

原因: 自分自身に対してオブジェクトまたはシステム権限を付与したり、取り消したりすることはできません。

解決方法: 別のデータベース管理者アカウントからシステム権限の GRANT または REVOKE を発行してください。

ORA-01750: UPDATE/REFERENCES は列ではなく表全体からしか REVOKE できません。

原因: 更新の権限は列単位で GRANT することができますが、REVOKE は表全体に対してだけ可能です。

解決方法: 特定の列を指定しないでください。特定の列の更新の権限を取消したい場合は、表全体に対して REVOKE を行い、次に、それらの特定列に対してユーザー権限を GRANT するようにしてください。

ORA-01751: ダンプ取消しオプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM DUMP UNDO コマンドに無効なオプションが指定されました。

解決方法: 構文の綴りが間違っていないか、または無効なオプション名を指定していないかを確認して、コマンドを再入力してください。

ALTER SYSTEM の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER SYSTEM」を参照してください。

ORA-01752: ちょうど 1 つのキー保護された表のビューからでなければ削除できません。

原因: 削除された表にはキー保護された表がない、または、複数のキー保護された表があります。または、キー保護された表がマージされていないビュー、または読み専用ビューからの表です。

解決方法: ビューを再定義するか、または、基礎となる実表からビューを削除してください。

結合ビューの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ビュー」の下にある情報、また、『Oracle 8 Server アプリケーション開発者ガイド』の「ビュー」の下にある情報を参照してください。また、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「更新可能な結合ビュー」を参照してください。

ORA-01753: 列定義がクラスタ列の定義と一致しません。

原因: クラスタに表を追加するときに、表の列の定義が、クラスタの列の定義と一致していません。

解決方法: すべてのクラスタ列定義が一致しない限り、表をクラスタには追加できません。

ORA-01754: LONG 型の列は表に 1 つしか含められません。

原因: データ型 LONG の列は表あたり 1 つだけ定義できます。

解決方法: LONG データ型の列は 1 つだけにして、操作を再試行してください。

ORA-01755: エクステント番号またはブロック番号が指定されていません。

原因: エクステント番号またはブロック番号が指定されていません。

解決方法: 適切なエクステント番号またはブロック番号を指定してください。

正しいエクステント数値あるいはブロック数値の選択の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TABLE コマンドの ALLOCATE EXTENT 句」を参照してください。

ORA-01756: 単一引用符が閉じられていません。

原因: 引用符付きの文字列は、単一引用符 (') で終らなければなりません

解決方法: 閉じる引用符を挿入して、文を再実行してください。

ORA-01757: オブジェクト番号が指定されていません。

原因: オブジェクト番号が指定されていません。

解決方法: 適切なオブジェクト番号を指定してください。

正しいオブジェクト数値の指定の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「オブジェクトのネーミング」を参照してください。

ORA-01758: 必須列 NOT NULL を追加するには表が空でなければなりません。

原因: 変更する表に、すでに行が存在する場合は新しい列を NOT NULL として定義できません。

解決方法: NOT NULL の指定を取消して、文を再試行してください。

ORA-01759: ユーザー関数が正しく定義されていません。

原因: あるユーザー関数が正しく定義されていません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01760: 関数の引数が無効です。

原因: この関数に対して指定した引数は、この文脈では無効です。

解決方法: 関数の定義を調べて、引数を訂正してください。

ORA-01761: DML 操作が、結合の中の一意的表にマップしません。

原因: 主表は、更新操作または挿入操作、削除操作が最後に実行される実表です。削除操作の場合、結合の中に主表がないか、または 2 つ以上の主表があります。更新操作または挿入操作の場合、指定された列が 2 つ以上の実表に対応します。

解決方法: 結合指定を変更して、上記の状況が生じないようにしてください。

ORA-01762: vopdrv: ビューの間合せブロックが FROM にありません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01763: 更新または削除に外部結合表が含まれています。

原因: 削除操作の場合、削除された表は他のいずれかの表に対して 外部結合になっています。更新操作の場合、更新された表が他のいずれかの表に対して外部結合になっているか、または主表から到達可能な表が主表から到達できない表に対して外部結合になっています。

解決方法: 結合指定を変更して、上記の状況が生じないようにしてください。

ORA-01764: 結合の新規更新値が一意であることを保証されていません。

原因: 結合間合せ表の行が、更新される行に対してただ 1 つの値だけを持つことが保証されていない表の行を使用して更新されています。

解決方法: 結合指定を変更して、上記の状況が生じないようにしてください。

ORA-01765: 指定された表の所有者名は使用できません。

原因: 表名またはビュー名の指定にピリオド (.) が含まれていた か、これらの名前が無効な接頭辞によって識別されました。

解決方法: そのオブジェクトが正しく識別されていることを確認し、必要に応じて名前からピリオドを取り除いてください。

ORA-01766: このコンテキストでディクショナリテーブルは使用できません。

原因: SELECT 文の FROM 句の範囲外でデータ・ディクショナリ・オブジェクトの名前を使用しました。データ・ディクショナリ・オブジェクトに対しては、SELECT することだけが許可されています。

解決方法: 間合せを実行するデータ・ディクショナリ・オブジェクト上の操作を制限してください。

ORA-01767: UPDATE SET 式は副問合せでなければなりません。

原因: 列のリストを更新しようとして副問合せのない単純式を使用しました。

解決方法: データの更新に使用する副問合せの構文を調べて、必要な副問合せを追加してください。

ORA-01768: 数値列が長すぎます。

原因: 入力した文字数が 255 文字 (数字、符号、小数点、指数も含む) の制限を超えています。

解決方法: 科学計算表記法を使用するなどして、数値列を短くしてください (たとえば、1,850,000,000 を 1.85E9 とする)。

ORA-01769: CLUSTER オプション指定が重複しています。

原因: クラスタ化された表の CREATE に対して、2 つ以上の CLUSTER オプションを指定しようとした。

解決方法: 重複する CLUSTER 句を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-01770: CREATE CLUSTER コマンドで CLUSTER オプションは使用できません。

原因: CREATE CLUSTER 文で CLUSTER オプションを使用しようとした。

解決方法: CLUSTER 句を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-01771: クラスタ表に対するオプションが無効です。

原因: CLUSTER オプションが、MAXTRANS オプションと競合しています。

解決方法: 無効なオプションを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-01772: LEVEL の値が指定されていません。

原因: LEVEL に値が指定されていません。

解決方法: LEVEL に適切な値を指定し、コマンドを再発行してください。

LEVEL に正しい値を指定する詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「LEVEL疑似列」と「SELECTコマンド内のLEVEL疑似列」を参照してください。

ORA-01773: この CREATE TABLE 文では列データ型は指定できません。

原因: 表を直接作成およびロードするのに使用される SELECT 文に列データ型が指定されました。

解決方法: 列データ型を取り除いてください。SELECT リスト式のデータ型が自動的に列データ型として使われます。

ORA-01774: dump undo オプションが複数指定されています。

原因: ALTER SYSTEM DUMP UNDO コマンドに同じオプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: 構文を確認し、オプションの不必要な指定を取り除いて、コマンドを再発行してください。

ALTER SYSTEM の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER SYSTEM」を参照してください。

ORA-01775: シノニム定義がループしています。

原因: CREATE SYNONYM 文の中で、あるシノニムが自身をもとにして 定義されました。たとえば、次のような定義はループします。

```
CREATE SYNONYM s1 for s2
CREATE SYNONYM s2 for s3
CREATE SYNONYM s3 for s1
```

解決方法: 1 つのシノニム定義を変更して実表またはビューに適用されるようにしてから、操作を再実行してください。

ORA-01776: 結合ビューを介して複数の基本表を変更できません。

原因: 複数の基礎となる表に属する列が挿入または更新されました。

解決方法: 文を 2 つ以上の別々の文として句にしてください。

結合ビューの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ビュー」の下にある情報、また、『Oracle8 Server アプリケーション開発者ガイド』の「ビュー」の下にある情報を参照してください。また、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「更新可能な結合ビュー」を参照してください。

ORA-01777: このシステムでは WITH GRANT OPTION は使用できません。

原因: Oracle のこのバージョンでは WITH GRANT OPTION はサポートされていません。

解決方法: WITH GRANT オプションを取り除いてください。

ORA-01778: 副問合せの最大ネ스팅・レベル制限数を超えました。

原因: 255 レベルを超えるネストされた副問合せを使用しようとしてしました。

解決方法: ネストのレベルが 255 未満になるように、いくつかの副問合せを上位の問合せにマージしてください。

ORA-01779: 複数表にマップする列を変更できません。

原因: キー保護されていない表にマップする結合ビューの列を挿入または更新しようとしてしました。

解決方法: 基礎となる実表を直接変更してください。

結合ビューの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ビュー」の下にある情報、また、『Oracle8 Server アプリケーション開発者ガイド』の「ビュー」の下にある情報を参照してください。また、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「更新可能な結合ビュー」を参照してください。

ORA-01780: リテラルが必要です。

原因: COMMENT 文では、キーワード IS の後の注釈は引用符付きのリテラルでなければなりません。

解決方法: 注釈がリテラルであることを確認してください。

ORA-01781: AS SELECT を使わずに UNRECOVERABLE を指定することはできません。

原因: 存在している副問合せを AS 句で指定しないで、CREATE TABLE 文に UNRECOVERABLE が指定されました。

解決方法: UNRECOVERABLE を指定しないでください。

ORA-01782: UNRECOVERABLE をクラスタまたはクラスタ化表に対して指定することはできません。

原因: CREATE CLUSTER 文またはクラスタ化された CREATE TABLE 文によって UNRECOVERABLE が指定されました。

解決方法: UNRECOVERABLE を指定しないでください。

ORA-01783: RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句は 1 つだけ指定できます。

原因: RECOVERABLE が複数回指定されたか、または UNRECOVERABLE が複数回指定されたか、RECOVERABLE と UNRECOVERABLE の両方が CREATE TABLE 文または CREATE INDEX 文で指定されました。

解決方法: RECOVERABLE 句または UNRECOVERABLE 句のうちのどちらか 1 つを残してその他はすべて削除して、文を再発行してください。

ORA-01784: データベースメディア回復が使用不能の状態では RECOVERABLE を指定できません。

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードで稼働しているときに、CREATE TABLE 文または CREATE INDEX 文が RECOVERABLE を指定しました。ログがアーカイブされていないので上書きされ、オブジェクトの作成前に取ったバックアップから、作成中のオブジェクトが回復できません。

解決方法: RECOVERABLE を指定しないか、メディア回復を使用可能にしてデータベースを再起動してください。

ORA-01785: ORDER BY 項目は SELECT リスト式の番号でなければなりません。

原因: 集合式に対する ORDER BY 項目が列番号ではないか、ORDER BY 項目が SELECT list 列の番号ではありません。

解決方法: ORDER BY 項目は、SELECT リストの列の数から 1 の間の数でなければなりません。列番号を調べて文を再実行してください。

ORA-01786: この問合せ式では FOR UPDATE 句は使用できません。

原因: UNION、INTERSECT、MINUS を含む集合式の結果に対して、FOR UPDATE 句を使用しようとしてしました。

解決方法: 構文を調べて、FOR UPDATE 句を取り除いてから、文を再試行してください。

ORA-01787: 問合せブロック 1 つにつき 1 つの句しか使用できません。

原因: 問合せの中で複数の WHERE、GROUP BY、CONNECT BY、HAVING 句を使用しようとしてしました。

解決方法: 重複する句を単一の句に組み合わせて、文を再試行してください。

ORA-01788: この問合せブロックでは CONNECT BY 句が必要です。

原因: CONNECT BY 句を指定せずに START WITH 句が指定されました。

解決方法: 構文を調べて、CONNECT BY 句を指定してから、文を再試行してください。

ORA-01789: 問合せブロックで結果の列数が正しくありません。

原因: 単一の集合式に含まれている副問合せの SELECT list 列の数が同じではありません。

解決方法: 集合式の中の副問合せの SELECT list 列の数がすべて同じになるようにしてください。

ORA-01790: 式には対応する式と同じデータ型がなければなりません。

原因: ある SELECT list 項目が、同じ集合式の別の問合せの異なるデータ型を含む SELECT list 項目に対応しています。

解決方法: 対応する SELECT list 項目には、すべて同じデータ型が含まれていることを確認してください。TO_NUMBER、TO_CHAR、TO_DATE の関数を使用して、明示的にデータ変換を実行してください。

ORA-01791: Select 式が無効です。

原因: 不適切な ORDER BY 項目があります。問合せは、ORDER BY 句を伴う SELECT DISTINCT です。この文脈では、ORDER BY 項目は、すべて定数、SELECT list 式、オペランドが定数または SELECT list 式である式のいずれかでなければなりません。

解決方法: 不適切な ORDER BY 項目を SELECT list から取り除いて、文を再試行してください。

ORA-01792: 表またはビューに指定できる最大列数は 254 です。

原因: 表またはビュー内の作成において、254 を超える列を指定しました。

解決方法: 表またはビューの定義から、制限を超える列を取り除いてください。情報がすべて必要であれば、列を 2 つの表またはビューに分割し、問合せの際にそれらの列を結合するようにしてください。

ORA-01793: 指定できる最大索引列数は 16 です。

原因: 索引の作成において、16 を超える列が指定されました。

解決方法: 索引の定義から、制限を超える列を取り除いてください。索引列がすべて必要であれば、2 つの索引に分割してください。

ORA-01794: 指定できる最大クラスタ列数は 16 です。

原因: クラスタ・キーに 16 を超える列が指定されました。

解決方法: クラスタ・キーの定義から、制限を超える列を取り除いてください。複数の文字列を単一列に連結することを考えてください。

ORA-01795: リストに指定できる式の最大数は 254 です。

原因: リスト中に 255 以上の列または式を指定しました。

解決方法: リストから、制限を超える式を取り除いてください。

ORA-01796: リストではこの演算子は使用できません。

原因: ここでは許されない関係演算子を使用しました。リストを比較するときは、等価値をテストする演算子（たとえば =、!=、IN）だけを使用してください。

解決方法: リストの比較が等価値をテストするためだけになるように、問合せを書き換えてください。たとえば、以下の句は無効です。

```
WHERE (A,B) > ((C,D), (E,F))
```

個々の列を別々に比較するようにしなければなりません。たとえば、A と B がそれぞれ C と D より大きいことをテストするためには、WHERE(A,B) > (C,D) ではなく、WHERE A > B AND C > D としてください。

ORA-01797: 演算子の後には ANY または ALL を指定しなければなりません。

原因: キーワード ANY または ALL が欠けています。

解決方法: 構文を調べて、適当な箇所に ANY または ALL を追加してください。

ORA-01798: EXCEPTION キーワードがありません。

原因: ENABLE 句に EXCEPTION キーワードが指定されていません。

解決方法: 構文を訂正してください。

ORA-01799: 列は副問合せに対して外部結合されません。

原因: 副問合せに対して式を結合することは認められません。

解決方法: 結合を削除するか、またはビューの副問合せを変更してください。

日付関数メッセージ: 01800 ~ 01899

この節には、Oracle 日付関数がアクセスされると生成されるメッセージが記載されています。

ORA-01800: 日付形式の文字が長すぎて処理できません。

原因: 日付形式で指定した文字が大きすぎます。文字を日付として入力する場合、長さは 220 文字以内でなければなりません。

解決方法: 日付形式には 220 文字より短い文字を使用してください。

ORA-01801: 日付形式が内部バッファに対して長すぎます。

原因: 日付形式の文字列が長すぎて処理できません。これは、日付の一部に長い文字を指定した場合に発生します。

解決方法: 日付形式の文字列から長い文字を取り除いてください。

ORA-01802: ユリウス暦の日付指定が有効範囲を超えています。

原因: 無効なユリウス日が入力されました。有効なユリウス日は 1 から 3,442,447 までです。

解決方法: 1 から 3,442,447 までの有効なユリウス日を入力してください。

ORA-01803: 日付 / 時間の取得中に障害が発生しました。

原因: これは通常は発生しない内部エラー・メッセージです。ほとんどの場合、システム・クロックの障害によって発生します。

解決方法: システム・クロックと日付または時間を要求したプロセスを調べてください。必要であれば、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-01810: 形式コードが 2 回現れています。

原因: 日付指定に形式コードが 2 度リストされました。各形式コードは TO_DATE 関数に 1 度だけ指定できます。

解決方法: 日付指定から重複する形式コードを削除してから、操作を再試行してください。

ORA-01811: ユリウス暦の日付では年間通算日は使用できません。

原因: TO_DATE 関数にユリウス日と年間通算日の両方が指定されました。ユリウス日を指定する場合、年間通算日 (DDD) はユリウス日に含まれるため指定できません。

解決方法: 指定から年間通算日またはユリウス日を削除してから、操作を再試行してください。

ORA-01812: 年は 1 度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の年形式コードがリストされました。日付には次の年形式コードの中のいずれか 1 つだけが指定できます。YYYY、YYY、YY、Y

解決方法: 日付指定から年形式を 1 つだけ残してその他はすべて取り除いてください。

ORA-01813: 時間は 1 度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の時間形式コードがリストされました。日付には、次の時間形式コードの中のいずれか 1 つだけが指定できます。HH、HH12、HH24

解決方法: 日付指定から時間形式を 1 つ残してその他はすべて取り除いてください。

ORA-01814: AM/PM と A.M./P.M. は混在できません。

原因: 両方の正午標識タイプ (AM と PM) が日付指定にリストされました。正午標識の形式マスク (AM または A.M.) のどちらかが日付に指定されると、もう一方は指定できません。

解決方法: ピリオド無しもしくは有りで 1 つの正午標識形式を一貫して使用するようにしてください。

ORA-01813: 時間は 1 度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の時間形式コードがリストされました。日付には、次の時間形式コードの中のいずれか 1 つだけが指定できます。HH、HH12、HH24

解決方法: 日付指定から時間形式を 1 つ残してその他はすべて取り除いてください。

ORA-01814: AM/PM と A.M./P.M. は混在できません。

原因: 両方の正午標識タイプ (AM と PM) が日付指定にリストされました。正午標識の形式マスク (AM または A.M.) のどちらかが日付に指定されると、もう一方は指定できません。

解決方法: ピリオド無しもしくは有りで 1 つの正午標識形式を一貫して使用するようにしてください。

ORA-01815: BC/AD と B.C./A.D. は混在できません。

原因: 2 つのタイプの標識 (BC/AD) が日付指定にリストされました。標識 (BC/AD) の形式マスク (BC または B.C.) のどちらかが日付に指定されると、もう一方は指定できません。

解決方法: ピリオド無しもしくは有りで 1 つの BC/AD 標識形式を一貫して使用してください。

ORA-01816: 月は 1 度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の月形式コードがリストされました。日付には、次の月形式コードの中のいずれか 1 つだけ指定できます。MM、MON、MONTH

解決方法: 日付指定から月形式を 1 つだけ残してその他はすべて取り除いてください。

ORA-01817: 曜日は 1 度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の曜日形式コードがリストされました。日付には、次の曜日形式コードの中のいずれか 1 つだけが指定できます。D、DY、DAY

解決方法: 日付指定から曜日形式を 1 つだけ残してその他はすべて取り除いてください。

ORA-01818: HH24 と AM/PM は混在できません。

原因: 日付指定に 24 時間形式コードと正午標識コードの両方が含まれています。24 時間形式 (HH24) を使用して時間を指定すると、正午標識 (AM または PM) は指定できません。

解決方法: 日付指定から正午標識形式コード (AM/PM か A.M./P.M.) または 24 時間形式コード (HH24) を取り除いてください。

ORA-01819: 符号付き年と BC/AD は混在できません。

原因: 日付指定に符号付き年と B.C./A.D. 標識の両方が含まれています。年が符号付きで指定されている場合 (SYYYY など) には、B.C. または A.D. は日付に含まれているので、入力しないでください。

解決方法: 日付指定から B.C./A.D. 標識を取り除いてください。

ORA-01820: 日付入力形式に含まれている形式コードが無効です。

原因: 日付指定に含まれている形式コードが無効です。日付を入力するときは、次のものしか指定できません。年、月、日、時、分、秒、ユリウス日、A.M./P.M.、B.C./A.D.

解決方法: 日付指定から無効な形式コードを取り除いてください。

ORA-01821: 日付形式が無効です。

原因: 日付指定に含まれている形式コードが無効です。

解決方法: 有効な日付形式コードだけを指定するようにしてください。

ORA-01822: このカレンダーでは era 形式コードは有効ではありません。

原因: era 情報を使用しないカレンダーに era 形式コード、E または EE を指定しました。

解決方法: era 形式コードを含まない日付形式マスクを使用して、操作を再試行してください。

ORA-01830: 日付形式の指定に不必要なデータが含まれています。

原因: 有効な日付形式ピクチャに余分なデータが含まれています。形式ピクチャの最初の部分は有効な日付に変換されましたが、不要なデータが残っています。

解決方法: 日付形式ピクチャの指定を調べて、文を修正してください。

ORA-01831: 年とユリウス暦の日付は混在できません。

原因: ユリウス日に対して誤った年が指定されました。ユリウス日に年を指定する場合、ユリウス日が発生する年でなければなりません。

解決方法: 日付指定から年の値を取り除くか、またはユリウス日の正しい年を入力してください。

ORA-01832: 年単位の日付とユリウス暦の日付は混在できません。

原因: 年間通算日と共にユリウス日が指定されましたが、日がユリウス日と一致しません。ユリウス日と共に年間通算日を指定する場合、同じ日でなければなりません。

解決方法: 日付指定から年間通算日の値を取り除くか、またはユリウス日の正しい日付を入力してください。

ORA-01833: 月とユリウス暦の日付は混在できません。

原因: ユリウス日付に対して誤った月が指定されました。ユリウス日と共に月を指定する場合、ユリウス日が発生する月でなければなりません。

解決方法: 日付指定から月の値を取り除くか、またはユリウス日の正しい月を入力してください。

ORA-01834: 月単位の日付とユリウス暦の日付は混在できません。

原因: 月単位の日と共にユリウス日が指定されましたが、月単位の日がユリウス日と一致しません。ユリウス日と共に月単位の日を指定する場合、ユリウス日と同じ月単位の日でなければなりません。

解決方法: 日付指定から月単位の日付の値を取り除くか、またはユリウス日の正しい月単位の日を入力してください。

ORA-01835: 曜日とユリウス暦の日付は混在できません。

原因: 曜日と共にユリウス日が指定されましたが、曜日がユリウス日と一致しません。ユリウス日と共に曜日を指定する場合、ユリウス日と同じ曜日でなければなりません。

解決方法: 日付指定から曜日の値を取り除くか、またはユリウス日の正しい曜日をを入力してください。

ORA-01836: 時と日単位の秒は混在できません。

原因: 日単位の秒と合わない時が指定されました。午前 0 時からの経過秒 (SSSSS) と共に時を指定する場合、その秒を含んでいる時でなければなりません。

解決方法: 日付指定から時の値を取り除くか、または午前 0 時からの経過秒を含んだ正しい時を入力してください。

ORA-01837: 時単位の分と日単位の秒は混在できません。

原因: 日付指定に時単位の分と日単位の秒の両方が含まれていますが、互いの値が一致しません。時単位の分 (MI) と午前 0 時からの経過秒 (SSSSS) の両方を指定する場合、分にはその秒の値が含まれなければなりません。

解決方法: 日付指定から分の値を取り除くか、または指定した秒の値に対する正しい分を入力してください。

ORA-01838: 分単位の秒と日単位の秒は混在できません。

原因: 日付指定に分単位の秒と日単位の秒の両方が含まれていますが、互いの値が一致しません。両方の秒を指定する場合、分単位の秒 (SS) は、午前 0 時からの経過秒 (SSSSS) に対応するものでなければなりません。

解決方法: 日付指定から分単位の秒の値を取り除くか、または指定された日単位の秒に対応する値を入力してください。

ORA-01839: 指定した月に対して日付が無効です。

原因: 日付に指定された月の日が、所定の月に対して無効です。月の日 (DD) は月の日数と 1 の間の数でなければなりません。

解決方法: 指定された月に有効な日を入力してください。

ORA-01840: 入力した値の長さが日付形式に対して不足しています。

原因: 日付形式に変換するデータが不完全です。入力データよりも日付形式ピクチャの方が長くなっています。

解決方法: 入力を追加するか、日付ピクチャ形式を短くして、操作を再試行してください。

ORA-01841: 年は -4713 と +9999 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した年が有効な日付範囲にありません。有効な日付は、4712 B.C.1 月 1 日と 4712 A.D.12 月 31 日の間の任意の日付です。

解決方法: 4712 B.C. から 4712 A.D. の間の有効な日付値を入力してください。

ORA-01842: 四半期は 1 から 4 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付の年の四半期に対して、指定した値が無効です。四半期 (Q) は 1 と 4 の間でなければなりません。

解決方法: 1 から 4 の間の有効な四半期の値を入力してください。

ORA-01843: 指定した月が無効です。

原因: 日付に指定した月は無効です。有効な月は、January-December (形式コード MONTH の場合) および Jan-Dec (形式コード MON の場合) です。

解決方法: 有効な月を正しい形式で指定してください。

ORA-01844: 年単位の週は 1 から 52 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付の年単位の週に指定した値が無効です。年単位の週 (WW) は 1 から 52 の間でなければなりません。

解決方法: 1 から 52 の間の年単位の週の値を入力してください。

ORA-01845: 月単位の週は 1 から 5 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付の月単位の週に指定した値が無効です。月単位の週 (W) は 1 から 5 の間でなければなりません。

解決方法: 1 から 5 の間の月単位の週の値を入力してください。

ORA-01846: 指定した曜日が無効です。

原因: 日付に指定した曜日は無効です。有効な曜日は次のとおりです。

- Monday-Sunday (形式コード DAY の場合)
- Mon-Sun (形式コード DY の場合)
- 1-7 (形式コード D の場合)

解決方法: 正しい形式で有効な曜日を指定してください。

ORA-01847: 月単位の日付は 1 から月末日の間で指定しなければなりません。

原因: 日付にリストされた月単位の日は指定月に対して無効です。月単位の日 (DD) は、1 からその月の日数との間でなければなりません。

解決方法: 指定された月に有効な日の値を入力してください。

ORA-01848: 年単位の日付は 1 から 365(閏年は 366) の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した年間通算日は無効です。年間通算日 (DDD) は、閏年以外は 1 から 365 の間、閏年の場合は 1 から 366 の間でなければなりません。

解決方法: 1 から 365(または 366) の間の年間通算日の値を入力してください。

ORA-01849: 時間は 1 から 12 の間で指定しなければなりません。

原因: 12 時間形式を使用する日付に指定した時の値が無効です。12 時間形式コード (HH または HH12) を使用する場合、時は 1 から 12 の間の値を指定しなければなりません。

解決方法: 1 から 12 の間の時の値を入力してください。

ORA-01850: 時間は 0 から 23 の間で指定しなければなりません。

原因: 24 時間形式を使用する日付に指定した時の値が無効です。24 時間形式コード (HH24) を使用する場合、時は 0 から 23 の間の値を指定しなければなりません。

解決方法: 0 から 23 の間の時の値を入力してください。

ORA-01851: 分は 0 から 59 の間でなければなりません。

原因: 日付に指定した分の値は無効です。分は 0 から 59 の間でなければなりません。

解決方法: 0 から 59 の間の分の値を入力してください。

ORA-01852: 秒は 0 から 59 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した秒の値は無効です。秒形式コード (SS) が使用されている場合は、秒は 0 から 59 の間でなければなりません。

解決方法: 0 から 59 の間の秒の値を入力してください。

ORA-01853: 日単位の秒は 0 から 86399 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した日単位の秒の値が無効です。午前 0 時からの経過秒形式コード (SSSSS) を使用する場合、秒は 0 から 86399 の間でなければなりません。

解決方法: 0 から 86399 の間の秒の値を指定してください。

ORA-01854: コリウス暦は 1 から 5373484 の間でなければなりません。

原因: 無効なコリウス日が入力されました。

解決方法: 修正して再試行してください。

ORA-01855: AM/A.M. または PM/P.M. が必要です。

原因: 日付指定には正午標識コードが含まれていますが、指定された正午標識が無効です。日付形式に正午標識コード (A.M./P.M. または AM/PM) が含まれている場合は、その日付に有効な正午標識が含まれていなければなりません。

解決方法: 正しい形式、すなわち A.M./AM または P.M./PM で正午標識を指定してください。

ORA-01856: BC/B.C. または AD/A.D. が必要です。

原因: 日付指定には BC/AD 形式コードが含まれていますが、指定された BC/AD 標識が無効です。日付形式に BC/AD 形式コードのどちらか (BC/AD または B.C./A.D.) が指定されている場合は、その日付に BC/B.C. または AD/A.D. が含まれていなければなりません。

解決方法: 正しい形式を使用して、日付に BC/AD 標識を指定してください。

ORA-01857: 時間帯が無効です。

原因: NEW_TIME 関数に使用している時間帯コードが不適切です。

解決方法: 時間帯コードを修正して、操作を再試行してください。

ORA-01858: 数値を指定すべき箇所に文字が指定されています。

原因: 日付形式ピクチャを使用して変換すべき入力データが、正しくありません。形式ピクチャの数値が入力されるところに文字があります。

解決方法: 入力データと日付形式ピクチャを調べて各要素の数値と型が一致するようにしてから、操作を再度試行してください。

ORA-01859: 文字を指定すべき箇所に数値が指定されています。

原因: 日付形式ピクチャを使用して変換すべき入力データが、正しくありません。形式ピクチャの文字が入力される場所に数値があります。

解決方法: 入力データと日付形式ピクチャを調べて各要素の数値と型が一致するようにしてから、操作を再度試行してください。

ORA-01860: 年単位の週は 1 から 53 の間で指定しなければなりません。

原因: 1 週から 53 週までの間がない週を使用しようとしてしました。

解決方法: 週の数として有効な範囲内の値だけを使用してください。

ORA-01861: 文字列が形式文字列とマッチしません。

原因: 入力文字列内のリテラルは、形式文字列内のリテラルと同じ長さでなければなりません（先行の空白文字は除く）。FX 修飾子が指定されている場合は、先行の空白も含めてリテラルが完全に一致しなければなりません。

解決方法: 形式文字列を訂正して、文字列リテラルを一致させてください。

ORA-01862: 形式項目に対して桁数が誤っています。

原因: この形式項目の桁数が、その形式に必要な桁数と等しくありません。FX 修正子が指定されているときに発生します。

解決方法: 形式マスクに必要な桁数を使用してコマンドを再実行してください。

ORA-01863: この年は現行のカレンダではサポートされません。

原因: この年は現行のカレンダではサポートされません。

解決方法: 現行のカレンダでサポートされている年を確認してください。

ORA-01864: 指定した日付は現行のカレンダの範囲を超えています。

原因: このカレンダがサポートしていない日付を指定しました。

解決方法: このカレンダに有効な日付を指定してください。

ORA-01865: 時代が無効です。

原因: 時代入力不明です。

解決方法: 有効な時代を入力してください。

ORA-01898: 指定した精度が多すぎます。

原因: 日付を簡潔にしようとしたところ、日付形式ピクチャに余分なデータが見つかりました。

解決方法: 日付形式ピクチャの構文を調べて、再試行してください。

ORA-01899: 精度指定子が正しくありません。

原因: 日付の指定に、無効なコードが使用されました。

解決方法: 日付形式に有効なコードを使用してください。有効な形式は、世紀、年、月、日、ユリウス日、時間、分、秒です。

SQL の解析メッセージ : 01900 ~ 02039

この節では、SQL 文が Oracle Server により解析されるときに出力されるメッセージを記載します。また、50 ページ「SQL の解析メッセージ : 00900 ~ 00999」を参照してください。

ORA-01900: LOGFILE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード LOGFILE が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に LOGFILE キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01901: ROLLBACK キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード ROLLBACK が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に ROLLBACK キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01902: SEGMENT キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード SEGMENT が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に SEGMENT キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01903: EVENTS キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード EVENTS が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に EVENTS キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01904: DATAFILE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード DATAFILE が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に DATAFILE キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01905: STORAGE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード STORAGE が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に STORAGE キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01906: BACKUP キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード BACKUP が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に BACKUP キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01907: TABLESPACE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード TABLESPACE が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に TABLESPACE キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01908: EXISTS キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード EXISTS が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に EXISTS キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01909: REUSE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード REUSE が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に REUSE キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01910: TABLES キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード TABLES が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に TABLES キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01911: CONTENTS キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード CONTENTS が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に CONTENTS キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01912: ROW キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード ROW が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に ROW キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01913: EXCLUSIVE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード EXCLUSIVE が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に EXCLUSIVE キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01914: 順序番号に対する監査オプションが無効です。

原因: 順序番号に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、表に対しては適切ですが、順序番号に対しては不適切です。

解決方法: 順序番号に次のオプションは使用できません。これらは文から取り除いてください。COMMENT、DELETE、INDEX、INSERT、LOCK、RENAME、UPDATE、REFERENCES、EXECUTE。

ORA-01915: ビューに対する監査オプションが無効です。

原因: ビューに対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、表に対しては適切ですが、ビューに対しては不適切です。

解決方法: 次のオプションはビューに対して使用できません。ALTER、INDEX、REFERENCES、EXECUTE。

ORA-01916: ONLINE または OFFLINE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード ONLINE もしくは OFFLINE が必要です。

解決方法: 構文を調べて、必要な箇所に ONLINE または OFFLINE キーワードを挿入し、文を再実行してください。

ORA-01917: ユーザーまたはロール :name は存在しません。

原因: 指定したユーザー名またはロール名が無効です。

解決方法: 有効なユーザー名またはロール名を指定してください。

ORA-01918: ユーザー :name が存在しません。

原因: 指定したユーザー名が見つかりません。

解決方法: 有効なユーザー名またはロール名を指定してください。

ORA-01919: ロール :name は存在しません。

原因: 無効なロール名を指定しました。

解決方法: 使用しているユーザー名またはロール名を訂正してください。

ORA-01920: ユーザー名 :name は他のユーザー名またはロール名と矛盾します。

原因: 指定した名前を持ったユーザーまたはロールがすでに存在しています。

解決方法: 別のユーザー名を選んでください。

ORA-01921: ロール名 :name は他のユーザー名またはロール名と矛盾します。

原因: 指定した名前を持ったユーザーまたはロールがすでに存在しています。

解決方法: 別のロール名を選んでください。

ORA-01922: name を削除するには CASCADE を指定する必要があります。

原因: ユーザーと共に削除しなくてはならないオブジェクトを、ユーザーが所有しています。

解決方法: CASCADE コマンドを使用してください。

ORA-01923: オブジェクトを別のユーザーがロックしているため CASCADE は中断されました。

原因: 指定したユーザーが、ロックされている（したがって削除できない）オブジェクトを所有しているため、CASCADE 操作は中断されました。

解決方法: ロック・モニターを使用して、オブジェクトをロックしているユーザーを確認します。指定のユーザーを削除する前に、オブジェクトはアンロックされている必要があります。

ORA-01924: ロール :name が付与されていないか存在しません。

原因: 付与されていないロールを使用可能にするため、またはそのサブロールを使用可能にするために、SET ROLE コマンドを使用しようとしてしました。あるいは、SET ROLE システム権限を持っていません。

解決方法: SET ROLE コマンドを使用するには、SET ROLE 文に指定するロールが付与されていなければなりません。また、SET ROLE システム権限を持っていることを確認します。

ORA-01925: 使用可能なロールの最大数 :num を超えました。

原因: 初期化パラメータ MAX_ENABLED_ROLES に定義されている、使用可能なロールの最大数を超えました。

解決方法: MAX_ENABLED_ROLES を増やしてから、インスタンスを再起動してください。

ORA-01926: WITH GRANT OPTION を使用してロールへ GRANT できません。

原因: GRANT オプション付きでロールに権限は付与できません。

解決方法: WITH GRANT OPTION は使用しないで権限を付与してください。

ORA-01927: 付与していない権限には REVOKE を実行できません。

原因: 付与していない権限を取り消そうとしてしました。

解決方法: データベース管理者に尋ねて取り消す権限を付与したユーザーを確認し、そのユーザーに依頼して権限を取り消してもらいます。

ORA-01928: GRANT オプションがすべての権限に対して付与されていません。

原因: 指定された権限の一部または全部に対して、権限付与者が GRANT OPTION を持っていません。これらの権限は付与されません。

解決方法: ユーザーまたはロールに付与する権限に対して、権限付与者が GRANT OPTION を持っていることを確認してください。

ORA-01929: GRANT を実行するための権限がありません。

原因: オブジェクト権限 ALL を使用して権限を付与しようとしてしましたが、そのために必要な WITH GRANT OPTION によって権限が付与されていません。

解決方法: GRANT OPTION によって必要な権限を付与されていることを確認してから、再試行してください。

ORA-01930: REVOKE するための権限がありません。

原因: 取り消す権限がないときに、REVOKE ALL コマンドがユーザーに対して発行されました。

解決方法: この処置は必要ありません。

ORA-01931: UNLIMITED TABLESPACE、REFERENCES、INDEX はロールに付与できません。

原因: UNLIMITED TABLESPACE、REFERENCES、INDEX 権限はロールに付与できません。

解決方法: これらの権限はユーザーに直接付与してください。

ORA-01932: ADMIN オプションはロール :name に付与されていません。

原因: ロールに対して操作を実行しようとしたますが、WITH ADMIN OPTION によってそのために必要な権限が付与されていません。

解決方法: WITH ADMIN OPTION の使用権限を付与されてから、操作を繰り返してください。

ORA-01933: ロールの権限を使用してストアド・オブジェクトを作成できません。

原因: ロールの権限を使用してストアド・オブジェクトを作成しようとした。ストアド・オブジェクトはロール権限を使用できません。

解決方法: 必要な権限をユーザーに直接付与してください。

ORA-01934: 循環的なロールの付与が検出されました。

原因: 1 次ロールをそのロール自体に付与したり、1 つまたは複数のロールが付与されているロールを 1 次ロールに付与することはできません。これによって循環定義が発生します。詳細は、Oracle8 Server SQL 言語リファレンスを参照してください。

解決方法: 使用するロールとユーザー構造を分析して、ロールが循環的に付与されないことを確認してください。

ORA-01935: ユーザー名またはロール名がありません。

原因: ユーザー名またはロール名を必要とする文を入力しましたが、指定されていません。

解決方法: 文にユーザー名またはロール名を指定してください。

ORA-01936: ユーザーまたはロールの作成時に所有者を指定することはできません。

原因: ユーザーまたはロールを作成中に所有者を指定しようとした。ユーザーやロールに所有者は存在しません。

解決方法: ユーザーまたはロールを作成するときには、所有者を指定しないでください。

ORA-01937: ロール名がないか、無効です。

原因: 指定したロール名が無効である可能性があります。

解決方法: 有効なロール名を指定してください。有効なロール名の指定の詳細は、Oracle8 Server SQL 言語リファレンスの索引項目「CREATE ROLE」を参照してください。

ORA-01938: CREATE USER では IDENTIFIED BY を指定しなければなりません。

原因: IDENTIFIED EXTERNALLY 句または IDENTIFIED BY パスワード句を使用せずに、ユーザーを作成しようとしてしました。

解決方法: CREATE USER 文では、IDENTIFIED BY パスワード句を使用してユーザーにパスワードを割当てるかまたは IDENTIFIED EXTERNALLY 句を使用して、オペレーティング・システムがユーザー認証を実行するようにします。

ORA-01939: ADMIN OPTION のみ指定できます。

原因: WITH GRANT OPTION (GRANT 形式 1) を指定した GRANT 文を使用して、ユーザーにシステム権限またはロールを付与しようとしてしました。システム権限またはロールを付与するには、WITH ADMIN OPTION (GRANT 形式 2) を使用しなければなりません。

解決方法: GRANT 文で、WITH GRANT OPTION ではなく WITH ADMIN OPTION を使用してください。

ORA-01940: 現在接続中のユーザーを削除することはできません。

原因: 現在ログインしているユーザーを削除しようとしてしました。

解決方法: ユーザーがログアウトしていることを確認して、コマンドを再実行してください。

ORA-01941: SEQUENCE キーワードが必要です。

原因: ここではキーワード SEQUENCE が必要です。

解決方法: 構文を調べ、キーワード SEQUENCE を必要な箇所に挿入して、文を再実行してください。

ORA-01942: IDENTIFIED BY と EXTERNALLY を両方指定することはできません。

原因: Oracle パスワードを持ち、さらに外部的に識別されるように、ユーザーを指定しました。

解決方法: これらのオプションはいずれか一方を指定してください。詳細および構文については、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01943: IDENTIFIED BY はすでに指定されています。

原因: 文に複数の IDENTIFIED BY <パスワード> 句を指定しています。

解決方法: IDENTIFIED BY キーワードは、文の中で一度だけ指定してください。必要であれば、ALTER USER コマンドを使用して、ユーザーのパスワードを後から変更することもできます。

ORA-01944: IDENTIFIED EXTERNALLY はすでに指定されています。

原因: 文に複数のIDENTIFIED EXTERNALLYキーワードを指定しています。

解決方法: IDENTIFIED EXTERNALLY キーワードは、文の中で一度だけ指定してください。

ORA-01945: DEFAULT ROLE はすでに指定されています。

原因: CREATE USER 文または ALTER USER 文に、複数の DEFAULT ROLE キーワードを使用しています。

解決方法: DEFAULT ROLE キーワードは、文の中で一度だけ指定してください。必要であれば、ALTER USER 文を使用して、ユーザーのロールを後から変更することもできます。

ORA-01946: DEFAULT TABLESPACE はすでに指定されています。

原因: CREATE USER 文または ALTER USER 文に、複数の DEFAULT TABLESPACE キーワードを指定しています。

解決方法: DEFAULT TABLESPACE キーワードは、文の中で一度だけ指定してください。必要であれば、ALTER USER 文を使用して、ユーザーの表領域を後から変更することもできます。

ORA-01947: TEMPORARY TABLESPACE はすでに指定されています。

原因: CREATE USER 文または ALTER USER 文に、複数の TEMPORARY TABLESPACE キーワードを指定しています。

解決方法: TEMPORARY TABLESPACE キーワードは、文の中で一度だけ指定してください。必要であれば、ALTER USER 文を使用して、ユーザーの表領域を後から変更することもできます。

ORA-01948: DEFAULT ROLE の指定が無効です。

原因: 無効なロール名を指定しました。

解決方法: ロール名が正しいことを確認してください。

ORA-01949: ROLE キーワードが必要です。

原因: DROP[ROLE] や DEFAULT [ROLE] などの ROLE キーワードが必要です。

解決方法: 構文を確認して、再実行してください。構文規則については、Oracle8 Server SQL 言語リファレンスを参照してください。

ORA-01950: 表領域 :name に対する権限がありません。

原因: ユーザーに表領域のクォータを割当てようとしたますが、そのユーザーは必要なシステム権限を持っていないために、その表領域を使用できません。

解決方法: ユーザーに、指定した表領域にオブジェクトを作成するために必要なシステム権限を付与するか、または表領域のスペース・リソースを付与してください。

ORA-01951: ロール name は、ユーザー name に付与されていません。

原因: ユーザーに付与していないロールを取り消そうとしました。

解決方法: ユーザーにロールが付与されていることを確認してください。

ORA-01952: システム権限は *name* に付与されていません。

原因: ユーザーに付与していないシステム権限を取り消そうとしました。

解決方法: ユーザーにシステム権限が付与されていることを確認してください。

ORA-01953: コマンドは無効になりました。ALTER USER を使用してください。

原因: 表領域に対する割当て制限を与えるための構文が変更されました。表領域に対する割当て制限を付与するには、ALTER USER コマンドを使用します。

解決方法: ALTER USER コマンドを使用してください。

ORA-01954: CREATE USER では DEFAULT ROLE 句は無効です。

原因: 原因: CREATE USER 文でデフォルト・ロールをユーザーに付与しよう としました。CREATE USER 文では、DEFAULT ROLE 句は使用できません。

解決方法: GRANT ROLE 文を使用してユーザーに初期ロールを付与してから、ALTER USER コマンドを使用してデフォルト・ロールをアサインしてください。

ORA-01955: DEFAULT ROLE:*name* はユーザーに付与されていません。

原因: 付与されていないロールに、ユーザーのデフォルト・ロールを設定しよう としました。

注意: DEFAULT ROLE 句にサブロールは指定できません。

解決方法: ユーザーにロールが付与されていることを確認してから、デフォルトとしてロールをアサインしてください。

ORA-01956: OS_ROLES が使用されているためコマンドは無効です。

原因: ユーザーにロールを付与できませんでした。これは、Oracle データベースのロールが使用禁止に、オペレーティング・システムのロールが使用可能になっているためです。このような状況は、初期化パラメータ・ファイルの OS_ROLES パラメータに TRUE を設定している時に発生します。

解決方法: データベース管理者またはセキュリティ管理者にオペレーティング・システムを介してロールをセットする方法を尋ねてください。詳しい説明は、使用している Oracle オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-01957: キーワード MIN または MAX がみつかりません。

原因: 引数としてキーワード MIN または MAX が必要です。

解決方法: キーワード MIN または MAX を入力して、操作を再試行してください。

ORA-01958: LAYER オプションには整数を指定してください。

原因: LAYER オプションに整数以外の項目が入力されました。

解決方法: LAYER オプションに整数を入力して、操作を再試行してください。

ORA-01959: OPCODE オプションには整数を指定してください。

原因: OPCODE オプションに整数以外の項目が入力されました。ALTER SYSTEM DUMP ... OPCODE で指定する値は、整数でなければなりません。

解決方法: OPCODE オプションに整数を入力して、操作を再試行してください。

OPCODE オプションの詳細は、Oracle8 Server SQL 言語リファレンスを参照してください。

ORA-01960: DUMP LOGFILE オプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM DUMP LOGFILE コマンドに無効なオプションが入力されました。

解決方法: DUMP LOGFILE の有効なオプションのリストは、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-01961: DUMP オプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM DUMP コマンドに無効なオプションが入力されました。

解決方法: ALTER SYSTEM DUMP に有効なオプションを入力してください。有効なオプションの例には、LOGFILE および UNDO があります。DUMP オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-01962: ファイル番号またはログ順序番号を指定しなければなりません。

原因: 無効なファイル番号またはログ順序番号が指定されました。

解決方法: 有効なファイル番号またはログ順序番号を入力して、操作を再試行してください。有効なファイルおよびログ順序番号の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-01963: ブロック番号を指定しなければなりません。

原因: 無効なブロック番号が指定されました。

解決方法: 有効なブロック番号を入力して、操作を再試行してください。有効なブロック番号の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-01964: TIME オプションに時間を指定しなければなりません。

原因: TIME オプションに、日付と解釈できない値が入力されました。

解決方法: 有効な日付を入力してください。TIME オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-01965: ピリオドを指定しなければなりません。

原因: ファイル番号とブロック番号の間のピリオドが欠落しています。

解決方法: ファイル番号とブロック番号の間にピリオドを入力して、操作を再試行してください。ファイル番号およびブロック番号の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-01967: CREATE CONTROLFILE のオプションが無効です。

原因：無効な CREATE CONTROLFILE オプションが存在します。

解決方法：有効な CREATE CONTROLFILE オプションだけを指定してください。

ORA-01968: RESETLOGS または NORESETLOGS は一度しか指定できません。

原因：CREATE CONTROLFILE 文に、複数の RESETLOGS または NORESETLOGS キーワードを指定しています。

解決方法：RESETLOGS または NORESETLOGS キーワードは一度だけ指定してください。

ORA-01969: RESETLOGS または NORESETLOGS を指定しなければなりません。

原因：CREATE CONTROLFILE 文に、RESETLOGS または NORESETLOGS オプションを指定していません。

解決方法：コマンド行に RESETLOGS または NORESETLOGS オプションを指定してください。

ORA-01970: CREATE CONTROLFILE ではデータベース名を指定しなければなりません。

原因：発行した CREATE CONTROLFILE 文には、データベース名が指定されていません。

解決方法：DATABASE キーワードを指定して、CREATE CONTROLFILE 文を再実行してください。

ORA-01971: ALTER TRACING オプションが無効です。

原因：無効な ALTER TRACING オプションが存在します。

解決方法：有効な ALTER TRACING オプションだけを指定してください。有効なオプションの例には、ENABLE および DISABLE があります。詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-01972: ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に対する文字列を指定しなければなりません。

原因：ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に有効な識別子以外が指定されました。

解決方法：ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に有効な識別子を指定して、操作を再試行してください。有効な識別子の詳細は、Oracle8 Server SQL 言語リファレンスを参照してください。

ORA-01973: 変更番号がありません。

原因：コマンド行に CHANGE キーワードを指定しましたが、変更番号を指定していません。

解決方法：コマンドの構文を調べて再試行してください。

ORA-01974: アークाइブ・オプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM ARCHIVE コマンドに無効なオプションを指定しました。

解決方法: コマンドの構文を調べて再試行してください。

ORA-01975: 変更番号 :num 内の文字は無効です。

原因: 無効な変更番号が指定されました。

解決方法: 有効な番号を指定してコマンドを再実行してください。

ORA-01976: 変更番号がありません。

原因: 必要な変更番号を指定していません。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。必要な箇所に変更番号を入れてから、コマンドを再試行してください。

ORA-01977: スレッド番号がありません。

原因: キーワード THREAD を指定しましたが、スレッド番号を指定していません。

解決方法: コマンドの構文を調べて再試行してください。

ORA-01978: 順序番号がありません。

原因: キーワード SEQUENCE を指定しましたが、順序番号を指定していません。

解決方法: コマンドの構文を調べて再試行してください。

ORA-01979: ロール :name のパスワードが無効です。

原因: ロールを使用可能にしようとしたますが、正しいパスワードを入力しませんでした。

解決方法: SET ROLE コマンドで IDENTIFIED BY 句を使用して、正しいパスワードを指定します。

ORA-01980: OS ROLE の初期化中にエラーが発生しました。

原因: ユーザーのオペレーティング・システムのロールをロード中、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システム・エラーを調べて、訂正してください。

ORA-01981: この取消しを実行するには CASCADE CONSTRAINTS を指定する必要があります。

原因: この取消し処理では、いくつかの外部キー制約を削除しなければなりません。これを自動的に実行するために、REVOKE コマンドで CASCADE CONSTRAINTS をオプションとして指定できます。

解決方法: 手動で制約を取り消すか、CASCADE CONSTRAINTS を指定してください。

ORA-01982: 表に対する監査オプションが無効です。

原因: AUDIT コマンドまたは NOAUDIT コマンドに、REFERENCES または EXECUTE がオプションとして指定されています。表に対してこれらのオプションは適当ではありません。

解決方法: 表に対してこれらの監査オプションを指定しないでください。

ORA-01983: DEFAULT に対する監査オプションが無効です。

原因: 無効なオプションが DEFAULT に指定されました。

解決方法: DEFAULT に REFERENCES オプションを指定しないでください。

ORA-01984: procedures/packages/functions に対する監査オプションが無効です。

原因: プロシージャ、パッケージ、またはファンクションの DEFAULT に指定されたオプションは無効です。

解決方法: プロシージャ、パッケージ、またはファンクションの DEFAULT として、適当な唯一のオプションは EXECUTE です。EXECUTE 以外のオプションは指定しないでください。

ORA-01985: LICENSE_MAX_USERS で指定された数を超えてユーザーを作成することはできません。

原因: データベース・ライセンスで許される最大数のユーザーが作成されています。

解決方法: 既存のユーザーを削除してください。または Oracle 社営業担当員に連絡して、ご使用のサイト・ライセンスをアップグレードしてください。

ORA-01986: OPTIMIZER_GOAL のオプションが無効です。

原因: 無効な OPTIMIZER_GOAL オプションが存在します。

解決方法: OPTIMIZER_GOAL の構文を調べて、有効なオプションを指定し、文を再実行してください。

ORA-01987: クライアント O/S ユーザー名が長すぎます。

原因: クライアントの O/S ユーザー名が長すぎて、O/S ログオンを続行できません。

解決方法: O/S ユーザー名を短くして使用してください。

ORA-01988: リモート O/S ログオンはできません。

原因: リモート O/S ログオンが許可されていないのに実行しようとした。

解決方法: ローカル・クライアントを使用するか、REMOTE_OS_AUTHENT 初期化パラメータを使用して、リモート O/S ログオンができるようにしてください。

ORA-01989: ロール name がオペレーティング・システムにより許可されていません。

原因: 指定されたオペレーティング・システムのロールが存在しないか、または付与されていません。または、正しいパスワードが指定されていません。

解決方法: 有効なオペレーティング・システムのロールおよびパスワードを使用して SET ROLE を再試行してください。十分な権限が付与されていない場合は、DBA に確認してください。

ORA-01990: パスワード・ファイル :name のオープン中にエラーが発生しました。

原因: 指定されたパスワード・ファイルをオープンしようとしたますが、次のいずれかのエラーによって失敗しました。

- オペレーティング・システムのエラーが発生した。
- ORAPWD がすでに動作しているので、パスワード・ファイルがロックされている。

環境変数 ORA_sid_PWFILE および ORA_PWFILE が設定されていない。

解決方法: 上記の原因を調べて、必要な修正を行ってください。

ORA-01991: パスワード・ファイル name が無効です。

原因: 指定されたパスワード・ファイル名は無効です。

解決方法: 正しいパスワード・ファイル名を指定してください。

ORA-01992: パスワード・ファイル :name のクローズ中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システムのエラーまたは認証処置の失敗のため、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。

解決方法: 上記の原因を調べて、必要な修正を行ってください。

ORA-01993: パスワード・ファイル :name の書き込み中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システムのエラーまたは認証処置の失敗のため、パスワード・ファイルを書き込めませんでした。

解決方法: 上記の原因を調べて、必要な修正を行ってください。

ORA-01994: GRANT 失敗: 共有パスワード・ファイルにユーザーを追加できません。

原因: ユーザーがパスワード・ファイルに追加されなかったため権限付与に失敗しました。これは、REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE 初期化パラメータの値が SHARED に設定されているためです。

解決方法: パスワード・ファイルにユーザーを追加するには、データベースをいったんシャットダウンし、REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE 初期化パラメータを EXCLUSIVE に変更してから、データベースを再起動してください。

ORA-01995: 読み込みパスワード・ファイル name がエラーです。

原因: パスワード・ファイルを読み込もうとした時に、オペレーティング・システムのエラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システムのエラーを直してください。

ORA-01996: パスワード・ファイル name が満杯のため GRANT に失敗しました。

原因: パスワード・ファイル中の使用可能なスロットがすでに使用されていたため、ユーザーをパスワード・ファイルに追加できず、権限付与に失敗しました。

解決方法: より大きなパスワード・ファイルを再作成するか、またはいくつかのリモート・ユーザーから SYSOPER 権限および SYSDBA 権限を取り消してパスワード・ファイル中の スロットを開放してください。どのリモート・ユーザーが有効でどんな権限を持っているかは、SQL*DBA で次の問合せを発行して調べることができます。

```
選択 * FROM V$REMOTE_USERS;
```

ORA-01997: ユーザー *name* は外部で識別されるため GRANT に失敗しました。

原因: IDENTIFIED EXTERNALLY 句で作成されたユーザーに SYSOPER 権限または SYSDBA 権限は付与できません。

解決方法: ユーザーに SYSOPER 権限または SYSDBA 権限を付与したい場合は、IDENTIFIED EXTERNALLY 句を使用せずに、いったんユーザーを削除してから再作成してください。

ORA-01998: ユーザー SYS は常に SYSOPER および SYSDBA であるため REVOKE に失敗しました。

原因: 必須の権限 SYSOPER または SYSDBA のひとつをユーザー SYS から削除しようとしてしました。これらの権限は削除できません。

解決方法: この操作は行わないでください。

ORA-01999: パスワード・ファイル・モードは、*mode* から *mode* に変更されました。

原因: FORCE_PASSWORD_FILEMODE 初期化パラメータを使用して、別のインスタンスが起動されました。これは、現在のインスタンスの起動 モードと互換性があります。

解決方法: インスタンスを停止し、もう一方のインスタンス用にパスワード・ファイルの変更が完了した後に再起動してください。

ORA-02000: *name* キーワードがありません。

原因: 文で必須となるキーワードを指定しませんでした。

解決方法: 指定されたキーワードを使用してください。

ORA-02001: ユーザー SYS が空きリスト・グループを持つ索引を作成することは許可されていません。

原因: SYS ユーザーで接続中に索引を作成しようとしてしました。

解決方法: 索引は、SYS 権限では作成できません。索引を作成しないでください。または、USER 権限に切り替えてください。

ORA-02002: 監査証跡への書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 監査機能によって AUDIT_TRAIL 表に書き込むことができません。このエラーが発生した場合、現在監査されている SQL 文は失敗します。このエラーは、SYSTEM 表領域が不足すると発生します。

解決方法: SYSTEM 表領域にスペースを追加するか、AUDIT_TRAIL 表から行を削除してください。それでも失敗し、問題が解消されない場合は、Oracle をいったん停止し、監査を使用不可にしてから再起動してください。これは、INIT.ORA パラメータ AUDIT_TRAIL を FALSE に設定することによって実行できます。

ORA-02003: USERENV パラメータが無効です。

原因: USERENV 関数に指定したパラメータが無効です。

解決方法: 有効なパラメータ (TERMINAL、SESSIONID、ENTRYID、NLS_LANG) のいずれかを指定してください。

ORA-02004: セキュリティ違反です。

原因: あるユーザーが適切な許可を得ずに、ある処理を行おうとしています。このことは AUDIT_TRAIL 表に記録されます。このエラー・メッセージは AUDIT_TRAIL 表の戻りコード列に出力されるだけです。

解決方法: 監査情報として使用されるだけです。処置は必要ありません。

ORA-02005: このバインド / データ型定義に対して暗黙の長さ (-1) は無効です。

原因: 定義変数に対して負の長さが定義関数に渡されました。

解決方法: ゼロまたは正の長さパラメータを明示的に渡す必要があります。

ORA-02006: バック 10 進形式文字列が無効です。

原因: バック 10 進データ型がバインドまたは定義関数に渡されたが、形式文字列パラメータがないか、無効でした。

解決方法: バック 10 進変数に対して有効な形式文字列パラメータを渡す必要があります。バック 10 進形式文字列の定義については、「プログラミング・マニュアル」を参照してください。

ORA-02007: ALLOCATE または DEALLOCATE オプションを REBUILD とともに使用できません。

原因: ALLOCATE STORAGE または DEALLOCATE STORAGE と、REBUILD INDEX は同時に使用できません。

解決方法: どちらかを選択してください。

記憶域割当ての変更に関する ALTER INDEX、および STORAGE 句の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」および「STORAGE 句」を参照してください。

ORA-02008: 非数値列に対してゼロ以外の位どりが指定されました。

原因: 非数値変数のバインドまたは定義に対して位どり因子が指定されました。

解決方法: 位どり因子をゼロに設定して、操作を再試行してください。

ORA-02009: ファイルのサイズを 0 に指定できません。

原因: ファイル指定で SIZE 句に 0 が設定されました。

解決方法: 正しいサイズを指定するか、または SIZE 句を削除してください。

ORA-02010: ホスト接続文字列がありません。

原因: CREATE DATABASE LINK 文の USING 句のキーワード USING の後に引用符付き文字列が指定されていません。

解決方法: ホスト接続文字列を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02011: データベース・リンク名が重複しています。

原因: CREATE DATABASE LINK 文で指定されたデータベース・リンク名はすでに存在します。

解決方法: 新しい名前を指定するか、既存のリンクを削除してください。

ORA-02012: USING キーワードがありません。

原因: CREATE DATABASE LINK 文の CONNECT TO 句の後にキーワード USING が指定されていません。

解決方法: CONNECT TO 句の後に USING 句を指定してください。

ORA-02013: CONNECT キーワードがありません。

原因: CREATE DATABASE LINK 文のデータベース・リンク名の後にキーワード CONNECT が指定されていません。

解決方法: データベース・リンク名の後に CONNECT 句を指定してください。

ORA-02014: DISTINCT, GROUP BY などを含むビューに対して FOR UPDATE 句を使用できません。

原因: ビューから SELECT... FOR UPDATE を試みましたが、そのビューの定義 SELECT 文には、その外部ブロック中の構造（外部結合、GROUP BY 句、集約関数、SELECT DISTINCT、CONNECT BY 句、または UNION、INTERSECT、MINUS などの集合演算）が少なくとも 1 つ使用されています。

解決方法: このビューでは SELECT... FOR UPDATE を使用しないでください。

ORA-02015: リモート表に対して FOR UPDATE 句は使用できません。

原因: リモート・データベースの表から SELECT... FOR UPDATE を作成しようとしました。

解決方法: 現在のところ、リモート・データベースの表から SELECT FOR UPDATE を実行することはできません。そのかわりに、その表に対して SELECT... FOR UPDATE を実行する前に、直接リモート・データベースにログインまたは接続してください。

ORA-02016: リモート・データベースでは START WITH 句に副問合せは使用できません。

原因: START WITH 句に副問合せを使用しようとしました。ツリー構造の問合せの FROM 句の表がリモート・データベースに格納されている場合、現在のところ、この種の副問合せは実行できません。

解決方法: リモート・データベースに直接接続してから、START WITH 句の副問合せを使用してください。

ORA-02017: 整数値が必要です。

原因: 指定する値は整数でなければなりません。

解決方法: 適切な整数値を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02018: 同じ名前のデータベース・リンクがオープン接続されています。

原因: ユーザーが現在接続している PUBLIC データベース・リンクは、CREATE または DROP DATABASE LINK 文に指定されているデータベース・リンク名と同じ名前です。

解決方法: その PUBLIC データベース・リンクを使用するカーソルをクローズしてください。

ORA-02019: 指定されたデータベース・リンクは存在しません。

原因: ユーザーは存在しないリモート・データベースに対して接続またはログオンしようとしてしました。

解決方法: 既存のデータベース・リンクを指定してください。データ・ディクショナリに問合せて、既存のデータベース・リンクをすべて調べてください。有効な接続記述子については、オペレーティング・システム固有の Net8 ドキュメンテーションを参照してください。

ORA-02020: 使用中のデータベース・リンクが多すぎます。

原因: ユーザー・ログインごとのリモート・データベースへのアクティブな接続の数が最大数に達しました。

解決方法: ユーザーがオープン・カーソルを有していなければ、現行の SQL 文は最大数の許されるリモート・データベースの数を超えてアクセスします。そうでなければ、データベースにアクセスするすべてのカーソルをクローズすることによって、リモート・データベースの接続をオープンすることができます。

このエラーが頻繁に発生する場合は、初期化パラメータ OPEN_LINKS の値を大きくしてください。このパラメータは、ユーザー・プロセスごとのリモート・データベースへの同時オープン接続の最大数を制御します。

ORA-02021: リモート・データベースに対する DDL 操作が無効です。

原因: リモート・データベースに対して DDL 操作を行おうとしてしました。(たとえば、「CREATE TABLE tablename@remotedbname...」など)

解決方法: リモート・データベース構造を変更するためには、適切な権限でリモート・データベースに接続しなければなりません。

ORA-02022: リモート文に、リモート・オブジェクトを参照する最適化されていないビューがあります。

原因: ローカル・ビューは最適化されていない上、リモート・データベース・オブジェクトを参照しています。そしてその文はリモート・データベースで実行されるようになっています。

解決方法: リモート・データベース上で同様なビューを作成し、新規の view@remote を使用して SQL 文内の違反しているビューを修正してください。

ORA-02023: リモート・データベースが START WITH,CONNECT BY 述語が評価できません。

原因: 文にはリモート・データベースに対するツリー構造の問合せが含まれており、そのツリー構造の問合せの START WITH または CONNECT BY 述語に、リモート・データベースで評価できない項目が含まれています。こうした項目には、ユーザー関数に対するコール、USERENV に対するコール、ROWID に対する参照が含まれます。

解決方法: 使用不可の語を取り除くか、リモート・データベースに直接接続してください。

ORA-02024: データベース・リンクが見つかりません。

原因: 削除するデータベース・リンクがディクショナリ内にありません。

解決方法: データベース・リンク名を訂正してください。

ORA-02025: SQL 文の中の表はすべてリモート・データベースになければなりません。

原因: SQL 文は複数のデータベースの表を参照していますが、リモート・データベースのうち 1 つ以上が Oracle Server ではありません。

解決方法: リモート更新は、SQL 文の中のデータベースがすべて Oracle Server の場合だけ、実行できます。前のバージョンのデータベースは個々の文で更新してください。

ORA-02026: LINK キーワードがありません。

原因: ここではキーワード LINK が必要です。

解決方法: 構文を調べ、必要な箇所に LINK キーワードを挿入して、文を再実行してください。

ORA-02027: LONG 列を複数行にわたって更新することはできません。

原因: 列の更新に 2000 バイトを超える長さのバインド変数が使用されており、UPDATE 文が複数の行に影響しています。

解決方法: このようなバインド変数の場合、単一行だけの更新となるように確かめてください。

ORA-02028: 正確な数の行の取出しはサーバーではサポートされていません。

原因: サーバーは UPIALL をサポートしていません。したがって、正確な行数の取出しをユーザー側でエミュレートすることはできません。

解決方法: 有効なサーバーに接続するか、または正確な取出しを使用しないでください。

ORA-02029: FILE キーワードがありません。

原因: ここではキーワード FILE が必要です。

解決方法: 構文を調べ、必要な箇所にキーワード FILE を挿入して、文を再実行してください。

ORA-02030: 固定表 / 固定ビューでは選択のみ可能です。

原因: 固定の動的パフォーマンス表またはビューに対して、SELECT 以外の操作を実行しようとした。固定表または固定ビューからは選択しかできません。

解決方法: SELECT 文から固定表またはビューの名前を取り除いてください。

ORA-02031: 固定表または索引付き編成表に対する ROWID はありません。

原因: 固定表または索引付き編成表から ROWID を選択しようとした。

解決方法: 固定表または索引付き編成表から ROWID は選択しないでください。

ORA-02032: クラスタ索引の作成前にクラスタ表は使用できません。

原因: クラスタ索引が作成されていないクラスタ表に対して DML 操作を実行しようとした。

解決方法: SQL 文でクラスタ表を参照する前に、クラスタ索引を作成しておく必要があります。

ORA-02033: このクラスタに対してすでにクラスタ索引が存在しています。

原因: クラスタ索引はすでに存在しています。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-02034: スピード・バインドは許可されていません。

原因: スピード・バインドはバインド変数で許可されていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-02035: バンドル操作の組合せが無効です。

原因: UPI の実行コールが要求している操作の組合せは不適です。

解決方法: 正しい操作の組合せを使用して再試行してください。

ORA-02036: 自動カーソル・オープンで記述されている変数が多すぎます。

原因: UPI の実行コールが、自動のカーソル・オープンとクローズの実行を要求しました。しかし、リストされた項目、またはバインド変数が多すぎて、実行できません。

解決方法: 明示的にカーソルをオープンおよびクローズしてください。

ORA-02037: スピード・バインド記憶領域が初期化されてません。

原因: スピード・バインド・コールを実行する前に、ホスト変数を含む SQL 文のスピード実行コールを実行しようとした。

解決方法: スピード実行コールの実行の前に、スピード・バインド・コールを実行してください。

ORA-02038: 配列型は定義できません。

原因: 「配列」型の選択リスト変数を定義しようとした。配列は、ホスト・バインド変数としてだけ機能します。

解決方法: 違反しているコードを訂正してください。

ORA-02039: 配列型の値によるバインドは使用できません。

原因: 配列ホスト変数を値でバインドしようとした。配列は、参照でだけバインドできます。

解決方法: 違反しているコードを訂正してください。

分散トランザクション・メッセージ : 02040 ~ 02099

この節には、分散トランザクション中に生成されるメッセージを記載しています。また、14ページ「分散トランザクション・メッセージ : 00160 ~ 00199:」を参照してください。

ORA-02040: リモート・データベース *name* は 2 フェーズ・コミットをサポートしていません。

原因: 複数のデータベースを分散更新しようとしたが、指定されたデータベースは 2 フェーズ・コミットの準備フェーズをサポートしていません。これはそのログオン・トランザクション特性によって決まっています。トランザクションはロールバックされました。

解決方法: 指定したデータベースが、トランザクションで更新する唯一のデータベースでない限り、更新しないようにしてください。単一トランザクション内での複数データベースの分散更新は、すべてのデータベースが 2 フェーズ・コミット機構をサポートしている場合にだけ実行できます。

ORA-02041: クライアント・データベースはトランザクションを開始しませんでした。

原因: コーディネータが分散トランザクションを開始しないまま、調整されたデータベースで更新が起こりました。ストアド・プロシージャがコミットしてから更新を行った場合、およびストアド・プロシージャをリモートで起動した場合、これが発生することがあります。外部トランザクション・モニターが XA プロトコルを侵した場合もこれが発生することがあります。

解決方法: 前者が原因の場合、どのコミットの後にも更新が行われていないことを確認してください。

ORA-02042: 分散トランザクションが多すぎます。

原因: 実行中の分散トランザクションが多すぎるため、分散トランザクション表がいっぱいになりました。

解決方法: 初期化パラメータ・ファイルの DISTRIBUTED_TRANSACTIONS パラメータの値を大きくし、Oracle をいったん停止してから再起動してください。または、実行

するトランザクションを少なくしてください。同時実行の分散トランザクションが多すぎないことが確認された場合は、内部エラーが発生している可能性がありますので、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。インスタンスをいったん停止してから再起動すると問題が解決する可能性があります。

ORA-02043: *command* を実行する前に、現行トランザクションを終了させてください。

原因: トランザクションの実行中に、COMMIT FORCE、ROLLBACK FORCE、シングル・プロセス・モードでの ALTER SYSTEM ENABLE DISTRIBUTED RECOVERY コマンドのいずれかが発行されました。

解決方法: 現在のトランザクションを COMMIT または ROLLBACK してからコマンドを実行してください。

ORA-02044: トランザクションが進行中なのでトランザクション・マネージャのログインは拒否されました。

原因: 分散トランザクションの処理中にリモート・トランザクション・マネージャがログインしようとした。リモート・トランザクション・マネージャでプロトコル・エラーが発生しました。

解決方法: 現在のトランザクションを終了してください。

ORA-02045: グローバル・トランザクションに関わるローカル・セッションが多すぎます。

原因: このサイトでは、セッションが多すぎるためこのトランザクションが処理できません。

解決方法: リモート・サイトで別のセッションを作成する必要があるようにするため、既存のデータベース・リンクを使用してください。

ORA-02046: 分散トランザクションはすでに開始しています。

原因: 通常は発生しない内部エラーです。サーバー・セッションは、先の分散トランザクションを終了する前に begin_tran RPC を受け取りました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02047: 動作中の分散トランザクションは結合できません。

原因: これは、Oracle バージョン 6 および Oracle7 データベースを同じトランザクションで更新しようとした場合に限り発生することがあります。その理由は次のどちらかです。

- トランザクションが 2 フェーズ・コミットをサポートしていないリモート・データベースに対して動作中である。
- 更新が保留中であり、2 フェーズ・コミットをサポートしていない別のデータベースを更新しようとした。

解決方法: 現行のトランザクションを完了してから、エラーの原因に対して必要な処置を行ってください。

ORA-02048: ログオンしないで分散トランザクションを開始しようとした。

原因: クライアント・プログラムは分散トランザクションのログインを実行しませんでした。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02049: Timeout: 分散トランザクションがロックを待機しています。

原因: 分散トランザクションにおけるロックの待機時間を超過しました。この時間は、初期パラメータ `DISTRIBUTED_LOCK_TIMEOUT` に指定されています。

解決方法: この状態はデッドロックとして処理され、文はロールバックされました。タイムアウト間隔を長くするには、初期化パラメータ `DISTRIBUTED_LOCK_TIMEOUT` を調整し、インスタンスをいったん停止してから再起動してください。

ORA-02050: リモート・データベースで障害が発生したためトランザクション *num* はロールバックされました。

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

解決方法: データベース管理者に連絡してください。障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期します。

ORA-02051: 同一トランザクション内の別セッションでエラーが発生しました。

原因: 同一サイトにおいて同じグローバル・トランザクション ID を持つセッションでエラーが発生しました。

解決方法: 何もする必要はありません。このトランザクションは自動的に回復します。

ORA-02052: *name* においてリモート・トランザクション・エラーが発生しました。

原因: 指定されたデータベース・リンクにおいてリモート・トランザクション・エラーが発生しました。

解決方法: 詳しいエラー・メッセージが続いて表示されます。このメッセージで示されている問題を訂正し、操作を再試行してください。

ORA-02053: リモート DB で障害が発生したためトランザクション *num* はコミットしました。

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

解決方法: データベース管理者に連絡してください。障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期します。

ORA-02054: トランザクション *num* の状態が不明です。

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

解決方法: データベース管理者に連絡してください。障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期します。必要であれば結果として `DBA_2PC_INDOUBT`

表と DBA_2PC_INCONSISTENT 表を監視し、トランザクションを再実行してください。

ORA-02055: 分散更新操作でエラーが発生しました。ロールバックが必要です。

原因: 分散操作において、その操作結果をすべてロールバックしないうちに障害が発生しました。一貫性のないサイトが存在する可能性もあるため、このトランザクションをセーブポイントまでロールバックするか、または全体をロールバックしなければなりません。

解決方法: セーブポイントまでロールバックするか、またはトランザクション全体をロールバックしてから、ロールバックされた文を再投入してください。

ORA-02056: 2PC: str: 2 フェーズ・コマンド番号 num (name) が間違っています。

原因: 2 フェーズ・コミットのプロトコル・エラーです。

解決方法: このトランザクションは自動的に回復します。DBA_2PC_INDOUBT 表と DBA_2PC_INCONSISTENT 表を監視して問題を解明してください。必要であればトランザクションを再入力します。また、必要であればオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02057: 2PC:str: 2 フェーズ回復状態番号 :num(name) が無効です。

原因: 2 フェーズ・リカバリ・プロトコルに内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02058: ID num を持つ準備完了状態のトランザクションがありません。

原因: トランザクションに対して COMMIT FORCE を実行しましたが、DBA_2PC_INDOUBT 表に LOCAL_TRAN_ID または GLOBAL_TRAN_ID を持つ、準備完了状態のトランザクションがありません。

解決方法: DBA_2PC_INDOUBT 表を調べて適切なトランザクション ID を使用していることを確認してから、もう一度コミットしてください。

ORA-02059: 2 フェーズ・コミットをテストするために使用される特別なコメントです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートと一緒になければ、この特別なコメントは使用しないでください。

ORA-02060: SELECT...FOR UPDATE で分散している表の結合を指定しました。

原因: SELECT... FOR UPDATE 文の中で、異なるリモート・データベースの表を結合しようとした。

解決方法: SELECT 文で FOR UPDATE 句を使用して結合する表は、同一データベースに存在しなければなりません。SELECT... FOR UPDATE 文を簡潔にし、同一データベースの表だけを結合するようにしてください。

ORA-02061: LOCK TABLE で分散している表を指定しました。

原因: LOCK TABLE 文を使って、異なるリモート・データベースの複数の表をロックしようとした。LOCK TABLE 文では同一データベースに存在する表を指定しなければなりません。

解決方法: LOCK TABLE コマンドを複数発行してください。

ORA-02062: 分散回復は DBID:num を受取りましたが num を待っていました。

原因: コーディネータ・ポイントのデータベース・リンクが目的のデータベースを指していません。このデータベース・リンクが再定義されたか、または異なるデータベースがマウントされている可能性があります。

解決方法: コーディネータ・ポイントのデータベース・リンクが再定義されているか調べてください。再定義されている場合は、リモート・データベース管理者に連絡して、リンクがリモート・サイトの有効なデータベースを参照しているかどうかを判断してください。必要であれば、リモート・サイトでこの有効なデータベースを参照するデータベース・リンクを再作成してください。

ORA-02063: 先行のエラーメッセージを参照してください。name, str

原因: リモート・データベース・リンクの Oracle エラーです。

解決方法: 先行するエラー・メッセージを参照してください。そこで示された問題を訂正してから操作を再実行してください。

ORA-02064: 副問合せを用いた反復または LONG 型のリモート更新はサポートされていません。

原因: 次のサポートされていない操作の 1 つを行おうとしました。

- データベース・リンクを参照する副問合せを使用してリモート更新の配列処理を実行しようとした。
- バインド変数を使った LONG 列の更新、およびデータベース・リンクとバインド変数の両方を参照する副問合せによる 2 番目の列の更新を行おうとした。
- コーディネイトセッションで OUT パラメータを使用するリモート・プロシージャ・コールからコミットが発行された。

解決方法: リモート更新文を単純にしてください。

ORA-02065: ALTER SYSTEM のオプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM にサポートされていないオプションを指定しました。

解決方法: ALTER SYSTEM コマンドの正しい構文は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』を参照してください。

ORA-02066: MTS_DISPATCHERS テキストがないか、または無効です。

原因: ALTER SYSTEM SET MTS_DISPATCHERS コマンドにおいて、必要な文字列が見つかりませんでした。

解決方法: ALTER SYSTEM SET MTS_DISPATCHERS コマンドに、ディスパッチャ指定を含む文字列を指定してください。

ORA-02067: トランザクション・ロールバックまたはセーブポイント・ロールバック が必要です。

原因: 複数のリモート更新を実行するトリガーまたはストアド・プロシージャでエラーが発生しました。トランザクション内のサイトの一部が一貫していない可能性があるため前の Oracle コールを実行できず、トランザクションをコミットできません。

解決方法: 直前のセーブポイント、またはトランザクションの初めまで ロールバックしてから、ロールバックされた文を再投入してください。

ORA-02068: name で重大なエラーが発生しました。

原因: 指定されたデータベース・リンクから重大なエラー（接続の切断、または致命的な Oracle エラー）を受け取りました。この問題の詳しい説明については、続いて表示されるメッセージを参照してください。

解決方法: リモート・システム管理者に連絡して、問題の原因と問題解決に必要なと思われる時間を判別してください。

ORA-02069: この操作を行うには、global_names パラメータを TRUE に設定しなければなりません。

原因: 文のリモート・マッピングが必要ですが、パラメータ GLOBAL_NAMES が TRUE に設定されていないので実行できません。

解決方法: 可能であれば、ALTER SESSION SET GLOBAL_NAMES = TRUE を発行してください。

ORA-02070: このコンテキストでは、データベース "name" は、name をサポートしません。

原因: リモート・データベースは、使用されているコンテキストにおいて指定された機能をサポートしていません。

解決方法: SQL 文を単純にしてください。

ORA-02071: リモート・データベース name の機能の初期化中にエラーが発生しました。

原因: 指定されたリモート・データベースから機能表をロードできませんでした。

解決方法: リモート SQL*Connect 製品に関して、オラクル社技術サポートに連絡してください。

ORA-02072: 分散データベース・ネットワーク・プロトコルが一致しません。

原因: このエラーは、製品版 Oracle ではリリースが異なっても発生しませんが、アルファ・リリース、ベータ・リリースなどとの間で発生することがあります。

解決方法: 古いリリースをアップグレードしてください。

ORA-02073: リモート更新では順序番号はサポートされません。

原因: リモート表の INSERT、UPDATES、または DELETES で順序番号は使用できません。

解決方法: 順序番号を指定しないで操作を実行してください。

ORA-02074: 分散トランザクションにおけるコミットまたはロールバックが無効です。

原因: 分散トランザクションの親セッション以外のセッションから、コミットまたはロールバックを行おうとしました。

解決方法: 親セッションだけがコミットまたはロールバックを発行できます。

ORA-02076: 順序が、更新される表または LONG 列と同じノードにありません。

原因: すべての参照される順序は、更新される表または LONG 列と同一ノードに位置しなければなりません。

解決方法: 問題を訂正してから文を再実行してください。

ORA-02077: LONG 列は同一ノード上の表から選択しなければなりません。

原因: SELECT 文で LONG 列の値を返す表はすべて同一ノードに位置しなければなりません。

解決方法: 問題を訂正してから文を再実行してください。

ORA-02078: ALTER SYSTEM FIXED_DATE の設定が無効です。

原因: 無効な値が使用されました。

解決方法: 正しい値を使用してください。

ORA-02079: 新しいセッションはコミット分散トランザクションに結合しません。

原因: 他のブランチでコミットを開始しているトランザクションのセッションで UPI2BG の呼出しが発行されました。すなわち、他のセッションで同じトランザクションのブランチに UPI2EN コールが発生しています。これは外部トランザクション・マネージャを使用している時にだけ起こります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02080: データベース・リンクは使用中です。

原因: データベース・リンクでは、トランザクションが動作しているか、またはカーソルがオープンしています。

解決方法: データベース・リンクをクローズする前に、最初にすべてのカーソルをクローズし、それからそのデータベース・リンクを使用するすべてのトランザクションを終了してください。

ORA-02081: データベース・リンクがオープンしていません。

原因: 現在オープンされていないデータベース・リンクを使用しようとしてしました。

解決方法: ネットワークの問題を解決してください。またはリモート・データベースの問題が解決されているかどうかを判断するためにリモート・データベース管理者に連絡してください。ネットワーク問題が解決済みかどうかは、ローカル・データベース管理者に問合せってください。リンクがオープンしてから再度操作を行ってください。

ORA-02082: ループバック・データベース・リンクには接続修飾子が必要です。

原因: 現行のデータベースと同じ名前のデータベース・リンクを作成しようとした。

解決方法: このデータベース・リンクには、名前を一意にするための後続の修飾子が必要です。これらの修飾子はオペレーティング・システムに固有なものです。データベース・リンクの作成に関する詳細は、使用しているオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-02083: データベース名に無効な文字 :str が含まれています。

原因: 指定されたデータベース名には無効な文字が含まれています。たとえば、データベース名には、ピリオド、セミコロン、引用符、二重引用符、ブランク、印字できない文字を含めることはできません。命名規則については、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

解決方法: 有効なデータベース名を指定してください。

ORA-02084: データベース名にコンポーネントがありません。

原因: 完全なデータベース名が与えられませんでした。

解決方法: 完全なデータベース名を指定してください。

ORA-02085: データベース・リンク :name は name に接続します。

原因: データベース・リンクは、リンク名とは別の名前のデータベースに接続しようとした。データベース・リンク名はそのデータベース名と同じ名前であればなりません。

解決方法: 接続するデータベースと同じ名前のデータベース・リンクを作成してください。

ORA-02086: データベース名またはデータベース・リンク名が長すぎます。

原因: データベース名またはデータベース・リンク名が長すぎます。データベース名とデータベース・リンク名は 128 文字以内で指定します。

解決方法: 正しいデータベース名またはデータベース・リンク名を指定するか、文字数を少なくして名前を指定してください。

ORA-02087: オブジェクトは同一トランザクション内の別プロセスがロックしています。

原因: パラレル・サーバー環境において、同一インスタンスをループバックするデータベース・リンクが使用され、あるセッションが別のセッションによって取得したロックを変換しようとしています。

解決方法: より制限的なロックを最初に取得します。たとえば、セッション 1 では共有ロックが必要であり、セッション 2 では排他ロックが必要である場合は、最初に排他ロックが獲得されるようにします。そうでなければ、オブジェクトをアクセスするために同じセッションを使用してください。

ORA-02088: 分散データベース・オプションがインストールされていません。

原因: 分散データベース・オプションがインストールされていません。要求した操作は実行できません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡して、分散データベース・オプションを取得してください。

ORA-02089: 下位セッションに COMMIT は使用できません。

原因: 2 フェーズ・コミット・グローバル・コーディネータでないセッションで COMMIT が発行されました。

解決方法: COMMIT はグローバル・コーディネータで発行してください。

ORA-02090: ネットワーク・エラー: コールバック + パス・スルー (callback+passthru) が試行されました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02091: トランザクションがロールバックされました。

原因: 分散トランザクションがシステム・ロールバック・セグメントに割当てられ、準備段階に入ろうとしました。しかし、必要な数の PREPARE でないスロットが得られないのでトランザクションがロールバックされました。

トランザクションがリモートサイトで中止された場合、ORA-2091 だけが表示されます。トランザクションがホストサイトで中止された場合、ORA-2091 と ORA-2092 の両方が表示されます。

解決方法: 現行のトランザクションを完了してから、必要な操作を実行してください。

ORA-02092: 分散トランザクションのトランザクション表スロットが不足しています。

原因: 分散トランザクションがシステム・ロールバック・セグメントに割当てられ、準備段階に入ろうとしました。しかし、必要な数の PREPARE でないスロットが得られないのでトランザクションがロールバックされました。

トランザクションがリモートサイトで中止された場合、ORA-2091 だけが表示されます。トランザクションがホストで中止された場合、ORA-2091 と ORA-2092 の両方が表示されます。

解決方法: ロールバック・セグメントを追加して、操作を再実行してください。

ORA-02093: TRANSACTIONS_PER_ROLLBACK_SEGMENT:name が最大可能数を超えました。

原因: 初期化パラメータで指定した値がこのポートで可能な最大値を超えています。

解決方法: デフォルト値を使用するか、最大可能数より小さな値にしてください。

ORA-02094: レプリケーション・オプションがインストールされていません。

原因: このサイトには、レプリケーション・オプションがインストールされていません。したがって、更新可能スナップショット、遅延リモート・プロシージャ・コール、およびその他のレプリケーション機能は使用できません。

解決方法: レプリケーション・オプションをインストールしてください。レプリケーション・オプションは、Oracle Server 製品の一部ではないので、別個に購入しなくてはなりません。複製オプションを購入する必要がある場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02095: 指定した初期化パラメータを変更できません。

原因: 指定された初期化パラメータは、このオプションでは変更できません。

解決方法: DBA ガイドを参照して、パラメータの変更可能範囲を確認してください。

初期化パラメータ変更の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「初期化パラメータの変更」を参照してください。

ORA-02096: 指定した初期化パラメータはこのオプションでは修正できません。

原因: 初期化パラメータの変更は可能ですが、指定されたコマンドを使用しての変更はできません。

解決方法: DBA ガイドを参照して、パラメータの変更可能範囲を確認してください。初期化パラメータ変更の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「初期化パラメータの変更」を参照してください。

ORA-02097: 指定した値が無効なので、パラメータを変更できません。

原因: 初期化パラメータの変更は可能ですが、パラメータに無効な値が割り当てられました。

解決方法: DBA ガイドを参照して、このパラメータの許容値の範囲を確認してください。

ORA-02098: 索引表参照 (:I) の解析でエラーが発生しました。

原因: 不適切な索引表 (:I) 構文があります。

解決方法: この構文は Oracle Internal Use Only です。

プリコンパイラ・ランタイム SQLLIB メッセージ: 02100 ~ 02139

この範囲のメッセージの原因および解決方法は、Vol.3 にリストされているものと同じです。たとえば、ORA-2100 は SQL-2100 と同じです。

SQL の解析メッセージ: 02140 ~ 02299

この節では、SQL 文が Oracle Server により解析されるときに出力されるメッセージを記載します。

ORA-02140: 表領域名が無効です。

原因: ALTER TABLESPACE の後に指定してある表領域名が無効です。

解決方法: ALTER TABLESPACE の後に有効な表領域名を指定してください。

ORA-02141: OFFLINE オプションが無効です。

原因: ALTER TABLESPACE 文の OFFLINE の後に NORMAL または IMMEDIATE 以外のオプションが指定されています。

解決方法: OFFLINE の後には、オプションを指定しないか、NORMAL または IMMEDIATE のいずれか 1 つを指定してください。

ORA-02142: ALTER TABLESPACE オプションがないか、または無効です。

原因: ALTER TABLESPACE の後に無効なオプションが指定されました。

解決方法: ADD DATAFILE、RENAME DATAFILE、DEFAULT STORAGE、ONLINE、OFFLINE、BEGIN BACKUP、END BACKUP などの有効なオプションを 1 つ指定してください。

ORA-02143: STORAGE オプションが無効です。

原因: INITIAL、NEXT、MINEXTENTS、MAXEXTENTS、FREELISTS、FREELIST GROUPS、PCTINCREASE 以外のオプションが、ALTER INDEX 文、または ALTER SNAPSHOT 文の USING INDEX 句で指定されました。

解決方法: 構文を調べ、有効なオプションだけを指定し、再試行してください。

ORA-02144: ALTER CLUSTER にオプションが指定されていません。

原因: ALTER CLUSTER オプションが無効です。

解決方法: PCTFREE、PCTUSED、SIZE、INITTRANS、MAXTRANS、STORAGE などの有効なオプションを 1 つ以上指定してください。

ORA-02145: STORAGE オプションがありません。

原因: キーワード STORAGE の後に STORAGE オプションが指定されていません。

解決方法: 構文を調べて、有効な STORAGE オプションを指定して、文を再実行してください。

ORA-02146: SHARED の指定が重複しています。

原因: CREATE DATABASE 文に SHARED オプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: SHARED オプションを 1 つだけ指定します。

ORA-02147: SHARED と EXCLUSIVE のオプションは混在できません。

原因: CREATE DATABASE 文に SHARED と EXCLUSIVE のオプションが両方指定されています。

解決方法: SHARED または EXCLUSIVE の一方だけを指定してください。

ORA-02148: EXCLUSIVE の指定が重複しています。

原因: CREATE DATABASE 文で EXCLUSIVE オプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: EXCLUSIVE オプションを 1 度だけ指定してください。

ORA-02149: 指定されたパーティションが存在しません。

原因: 基本オブジェクトにパーティションがありません。

解決方法: 正しいパーティション指定を入力して、操作を再試行してください。

ORA-02153: VALUES 句の後のパスワード文字列が正しくありません。

原因: VALUES 句の後に暗号化パスワード文字列が入力されていません。

解決方法: VALUES 句の後に暗号の正しいパスワード文字列を入力してください。

ORA-02155: DEFAULT の表領域識別子が無効です。

原因: DEFAULT TABLESPACE の後の表領域名が無効です。

解決方法: DEFAULT TABLESPACE の後に有効な表領域名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02156: TEMPORARY の表領域識別子が無効です。

原因: TEMPORARY TABLESPACE の後の表領域名が無効です。

解決方法: TEMPORARY TABLESPACE の後に有効な表領域名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02157: ALTER USER オプションが指定されていません。

原因: オプションの指定がありません。

解決方法: ALTER USER オプションを少なくとも 1 つ指定して、文を再実行してください。

ORA-02158: CREATE INDEX オプションが無効です。

原因: PCTFREE、INITRANS、MAXTRANS、NOSORT、STORAGE、TABLESPACE 以外のオプションが指定されています。

解決方法: 有効な CREATE INDEX オプションを 1 つ指定して、文を再実行してください。

ORA-02159: インストール済みの DLM は解放可能ロック・モードをサポートしません。

原因: GC_*PARAMETERS がパラメータ・ファイルで指定されました。これは、使用していないロックを LCK プロセスで解放できるようにします。このモードは DLM の追加サポートが必要ですが、DLM は使用できません。

解決方法: 追加機能を必要としない構成パラメータを指定してください。

分散ロック・マネージャ (DLM) の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「LCK」と、『Oracle8 Parallel Server 概要および管理』の索引項目「分散ロック・マネージャ」と「分散ロック・マネージャ LCKn プロセス」を参照してください。

ORA-02160: 索引で構成された表に、LONG 型の列は定義できません。

原因: 索引で構成された表に LONG 型の列が定義されています。

解決方法: 索引で構成された表に LONG 型の列を使用しないでください。

ORA-02161: MAXLOGFILES に対する値が無効です。

原因: MAXLOGFILES の後に数値が指定されていません。

解決方法: MAXLOGFILES の後に数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02162: MAXDATAFILES に対する値が無効です。

原因: MAXDATAFILES の後に数値が指定されていません。

解決方法: MAXDATAFILES の後に数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02163: FREELIST GROUPS に対する値が無効です。

原因: FREELIST GROUPS の後に数値が指定されていません。

解決方法: FREELIST GROUPS の後に数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02164: DATAFILE 句が 2 つ以上指定されています。

原因: CREATE DATABASE 文に 2 つ以上の DATAFILE 句が指定されています。

解決方法: DATAFILE 句を 1 つだけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02165: CREATE DATABASE オプションの指定が無効です。

原因: 無効な CREATE DATABASE オプションがあります。

解決方法: 有効な CREATE DATABASE オプションだけを指定して、文を再実行してください。

ORA-02166: ARCHIVELOG と NOARCHIVELOG が両方指定されています。

原因: CREATE DATABASE 文に ARCHIVELOG と NOARCHIVELOG の両方が指定されています。

解決方法: これらのオプションのどちらか 1 つを指定して、文を再実行してください。

ORA-02167: LOGFILE 句が 2 つ以上指定されています。

原因: CREATE DATABASE 文に 2 つ以上の LOGFILE 句が指定されています。

解決方法: LOGFILE 句を 1 つだけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02168: FREELISTS の値が無効です。

原因: CREATE TABLE 文または CREATE INDEX 文の FREELISTS 記憶領域オプションの後に数値が指定されていません。

解決方法: FREELISTS の後に数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02169: FREELISTS 記憶領域オプションは使用できません。

原因：CREATE TABLE または CREATE INDEX 以外の操作を実行するときに、FREELISTS 記憶領域オプションを指定しようとした。

解決方法：文の構文を調べて、このオプションを取り除き、文を再実行してください。

ORA-02170: FREELISTS 記憶領域オプションは使用できません。

原因：FREELIST GROUPS 記憶領域オプションを指定しようとした。このオプションは、CREATE TABLE コマンドを使用している場合と、初期化パラメータ・ファイルに ALLOW_FREELIST_GROUPS パラメータが指定されている場合にだけ指定できます。

解決方法：FREELIST GROUPS 記憶領域オプションなしで文を再試行するか、初期化パラメータ・ファイル内の ALLOW_FREELIST_GROUPS パラメータを設定してください。

ORA-02171: MAXLOGHISTORY の値が無効です。

原因：MAXLOGHISTORY の後に数値が指定されていません。

解決方法：MAXLOGHISTORY の後に数値を指定してください。

ORA-02172: 使用禁止のスレッドに対して PUBLIC キーワードは無効です。

原因：スレッドが使用禁止のときに PUBLIC キーワードを指定しました。

解決方法：コマンドの構文を調べて再試行してください。

ORA-02173: DROP TABLESPACE のオプションが無効です。

原因：表領域名の後に INCLUDING CONTENTS 以外のものが指定されていたか、INCLUDING CONTENTS の後に CASCADE CONSTRAINTS 以外のテキストが指定されていました。

解決方法：表領域名の後には何も指定しないか、INCLUDING CONTENTS だけを指定します。または、INCLUDING CONTENTS の後には何も指定しないか、CASCADE CONSTRAINTS だけを指定して、文を再実行します。

ORA-02174: 必須のスレッド番号がありません。

原因：THREAD キーワードの後にスレッド番号を指定しなければなりません。

解決方法：正しい構文を使用してください。

ORA-02175: ロールバック・セグメント名が無効です。

原因：CREATE または DROP ROLLBACK SEGMENT 文の ROLLBACK SEGMENT の後に、有効なロールバック・セグメント名が指定されていません。

解決方法：ROLLBACK SEGMENT の後に有効なロールバック・セグメント名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02176: CREATE ROLLBACK SEGMENT のオプションが無効です。

原因：CREATE ROLLBACK SEGMENT 文に無効なオプションが指定されました。

解決方法: 有効なオプション (TABLESPACE または STORAGE) をどちらか 指定して、文を再実行してください。

ORA-02177: 必須のグループ番号がありません。

原因: GROUP キーワードの後にグループ番号を指定しなければなりません。

解決方法: コマンドの構文を調べて、GROUP の後にグループ番号を指定してから、文を再実行してください。

ORA-02178: 正しい構文は SET TRANSACTION READ { ONLY | WRITE } です。

原因: ユーザーの文に構文エラーがあります。

解決方法: 示されているように構文を修正して、文を再実行してください。

ORA-02179: 有効オプション: ISOLATION LEVEL { SERIALIZABLE | READ COMMITTED }

原因: ユーザーの文に構文エラーがありました。

解決方法: 示されているように構文を修正してください。

ORA-02180: CREATE TABLESPACE のオプションが無効です。

原因: CREATE TABLESPACE の後に無効なオプションが指定されています。

解決方法: 有効なオプション (DATAFILE、DEFAULT、STORAGE、ONLINE、OFFLINE) を 1 つ指定して、文を再実行してください。

ORA-02181: ROLLBACK WORK のオプションが無効です。

原因: ROLLBACK [WORK] の後に TO 以外のトークンが指定されています。

解決方法: ROLLBACK [WORK] の後には、何も指定しないか、TO SAVEPOINT だけを指定して、文を再実行してください。

ORA-02182: セーブポイント名が予想されました。

原因: ROLLBACK [WORK] TO [SAVEPOINT] の後のセーブポイント名が無効です。

解決方法: TO [SAVEPOINT] の後にセーブポイント名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02183: 有効オプション: ISOLATION_LEVEL { SERIALIZABLE | READ COMMITTED }

原因: ユーザーの文に構文エラーがありました。

解決方法: 示されているように構文を修正してください。

ORA-02184: REVOKE ではリソース割当て量は使用できません。

原因: REVOKE 文に、リソースの割当て量が指定されました。

解決方法: 割当て量のないリソース権限を指定して、文を再実行してください。

ORA-02185: COMMIT の後に WORK 以外のトークンが指定されています。

原因: COMMIT の後に WORK 以外のトークンが指定されています。

解決方法: COMMIT の後に何も指定しないか、WORK を指定して、文を再実行してください。

ORA-02186: 表領域のリソース管理権限は他の権限と同時に指定できません。

原因: 他の権限を許可または取り消している文に、リソース割当て量の許可または取り消そうとしました。

解決方法: リソースの割当て量権限に対しては、別の GRANT 文または REVOKE 文を使用して、文を再実行してください。

ORA-02187: 割当て制限の指定が無効です。

原因: GRANT 文または REVOKE 文に、上限値を超える表領域の割当て量を許可しようとしてしました。

解決方法: 表領域割当て量を少なくして、文を再実行してください。

ORA-02189: 句 : ON tablespace が必要です。

原因: GRANT 文または REVOKE 文に、表領域割当て量を指定しましたが、その後に ON 表領域句を指定していません。

解決方法: 構文を修正して再試行してください。

ORA-02190: TABLES キーワード が必要です。

原因: DROP CLUSTER クラスタ名の INCLUDING の後にはキーワード TABLES を指定する必要があります。

解決方法: INCLUDING の後にキーワード TABLES を指定して、文を再実行してください。

ORA-02191: 正しい構文 : SET TRANSACTION USE ROLLBACK SEGMENT name

原因: SET TRANSACTION 文に構文エラーがあります。

解決方法: 構文エラーを訂正して、文を再実行してください。

ORA-02192: ロールバック・セグメントの記憶領域句に PCTINCREASE は使用できません。

原因: 記憶領域パラメータ PCTINCREASE を CREATE ROLLBACK SEGMENT コマンドまたは ALTER ROLLBACK SEGMENT コマンドに指定しました。

解決方法: PCTINCREASE 句なしでコマンドを再実行してください。

ORA-02194: イベント指定構文エラー :num(内部エラー :num) が name 付近で発生しました。

原因: イベント指定に構文エラーがあります。

解決方法: 構文および入力した綴りを調べて、操作を再試行してください。

ORA-02195: name オブジェクトを name 表領域に作成しようとしてしました。

原因: 表領域の内容とオブジェクト・タイプが一致していません。

解決方法: 別の表領域内にオブジェクトを作成するか、ユーザー・デフォルトを変更します。

監査スキーマ・オブジェクトの詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「AUDIT コマンド」を参照してください。

ORA-02196: PERMANENT/TEMPORARY オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE に PERMANENT か TEMPORARY (またはその両方の) オプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: REBUILD、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE の中から 1 つまたは複数を指定してください。

CREATE TABLESPACE パラメータの詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「CREATE TABLESPACE」を参照してください。

ORA-02197: ファイル・リストがすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE 文に DATAFILE 句が 2 つ以上指定されています。

解決方法: 複数の DATAFILE 句を、複数ファイルを指定する単一の句にまとめ、文を再実行してください。

ORA-02198: ONLINE/OFFLINE オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE 文に、ONLINE、OFFLINE オプションが 2 回以上指定されています。

解決方法: ONLINE か OFFLINE を 1 つだけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02199: DATAFILE 句がありません。

原因: CREATE TABLESPACE 文に DATAFILE 句がありません。

解決方法: 欠けている DATAFILE 句を指定して、文を再実行してください。

ORA-02200: WITH GRANT OPTION は PUBLIC に対して使用できません。

原因: PUBLIC に WITH GRANT OPTION を許可しようとしてしました。

解決方法: PUBLIC または WITH GRANT OPTION 句を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02201: ここでは順序は使用できません。

原因: FROM リストの中で順序を参照しようとしてしました。これは許可されません。順序は SELECT リストの中でだけ参照できます。

解決方法: 構文を調べて、参照を訂正してから、文を再実行してください。

ORA-02202: このクラスタには表をこれ以上作成できません。

原因: すでに 32 の表を含むクラスタに、表を作成しようとしてしました。クラスタあたり 32 を超える表は格納できません。

解決方法: クラスタに 32 を超える表を作成しないでください。

ORA-02203: INITIAL 記憶領域オプションは使用できません。

原因: ユーザーは、表、クラスタ、索引、ロールバック・セグメントの INITIAL 記憶領域オプションを変更しようとしていました。これらのオプションはオブジェクトを作成する時に限って指定できます。

解決方法: INITIAL オプションを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02204: ALTER, INDEX, REFERENCE, EXECUTE はビューに対して使用できません。

原因: ビューに対して無効な権限を許可または取り消そうとしていました。

解決方法: ビューに対して、ALTER、または INDEX、REFERENCES の権限を 許可または取り消さないでください。

ORA-02205: 順序に対して使用できるのは SELECT および、ALTER 権限だけです。

原因: 順序に対して、無効な権限を許可または取り消そうとしていました。

解決方法: 順序に対して、DELETE、INDEX、INSERT、UPDATE、REFERENCES または EXECUTE の権限を許可または取り消さないでください。

ORA-02206: INITRANS オプションが重複しています。

原因: INITRANS が複数指定されています。

解決方法: INITRANS を 1 回だけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02207: INITRANS オプションの値が無効です。

原因: INITRANS 値が 2 から 255 以内の整数でなく、MAXTRANS の値以下ではありません。

解決方法: 有効な INITRANS 値を指定し、文を再実行してください。

ORA-02208: MAXTRANS オプションが重複しています。

原因: MAXTRANS オプションが 2 回以上指定されています。

解決方法: MAXTRANS を 1 回だけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02209: MAXTRANS オプションの値が無効です。

原因: MAXTRANS 値が、2 から 255 以内の整数でなく、INITRANS の値以上ではありません。

解決方法: 有効な MAXTRANS の値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02210: ALTER TABLE にオプションが指定されていません。

原因: ALTER TABLE オプションが指定されていません。

解決方法: ALTER TABLE オプションを少なくとも 1 つ指定して、文を再実行してください。

ORA-02211: PCTFREE または PCTUSED に対する値が無効です。

原因: PCTFREE または PCTUSED に対して指定された値が 0 から 100 以内の整数ではありません。

解決方法: オプションに対する適切な値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02212: PCTFREE オプションが重複しています。

原因: PCTFREE オプションを 2 回以上指定しました。

解決方法: PCTFREE を 1 回だけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02213: PCTUSED オプションが重複しています。

原因: PCTUSED オプションを 2 回以上指定しました。

解決方法: PCTUSED オプションを 1 回だけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02214: BACKUP オプションが重複しています。

原因: ALTER TABLE に対して BACKUP オプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: BACKUP オプションを 1 回だけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02215: TABLESPACE 句が重複しています。

原因: 次のいずれかの文に TABLESPACE 句が 2 つ以上指定されています。GRANT/REVOKE RESOURCE 文、CREATE TABLE 文、CREATE INDEX 文、CREATE/DROP TABLESPACE 文、CREATE CLUSTER 文および CREATE ROLLBACK SEGMENTCREATE 文。

解決方法: 構文を調べ、TABLESPACE 句を 1 つだけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02216: 表領域名が必要です。

原因: 次のいずれかの文の必要な箇所に、有効な表領域名がありません。CREATE TABLE 文、CREATE INDEX 文、CREATE/DROP TABLESPACE 文、CREATE CLUSTER 文および CREATE ROLLBACK SEGMENT 文。

解決方法: 構文を調べ、必要な箇所に有効な表領域名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02217: 記憶領域オプションが重複しています。

原因: INITIAL、NEXT、MINEXTENTS、MAXEXTENTS、PCTINCREASE などの記憶領域オプションが複数回指定されました。

解決方法: 記憶領域オプションを 1 回だけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02218: INITIAL 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は整数でなければなりません。

解決方法: 適切な整数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02219: NEXT 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は整数でなければなりません。

解決方法: 適切な整数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02220: MINEXTENTS 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、MAXEXTENTSの値以下の正の整数でなければなりません。

解決方法: 適切な整数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02221: MAXEXTENTS 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、MINEXTENTS の値以上の正の整数でなければなりません。

解決方法: 適切な整数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02222: PCTINCREASE 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、正の整数でなければなりません。

解決方法: 適切な整数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02223: OPTIMAL 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は整数でなければなりません。

解決方法: OPTIMAL 記憶領域オプションに対して適切な整数値を選択してください。

ORA-02224: 表に対して EXECUTE 権限は使用できません。

原因: 表に対して無効の権限を GRANT または REVOKE しようとした。

解決方法: 表に対して EXECUTE 権限を GRANT または REVOKE しないでください。

ORA-02225: プロシージャに対しては EXECUTE 権限だけが有効です。

原因: プロシージャ、機能またはパッケージに対して無効な権限を GRANT または REVOKE しようとした。

解決方法: プロシージャ、機能またはパッケージに対して EXECUTE 以外のどの権限も GRANT または REVOKE しないでください。

ORA-02226: MAXEXTENTS の値が無効です (最大値 :num)。

原因: MAXEXTENTS に指定した値はデータベース・ブロックに対して大きすぎます。

解決方法: エラー・メッセージで指摘された数値よりも小さな値を MAXEXTENTS に指定してください。

ORA-02227: クラスタ名が無効です。

原因: クラスタ名が正しくありません。

解決方法: オブジェクト名の命名規則を調べ、適切なクラスタ名を入力してください。

ORA-02228: SIZE の指定が重複しています。

原因: SIZE オプションが 2 回以上指定されています。

解決方法: SIZE オプションを 1 回だけ指定して、文を再実行してください。

ORA-02229: SIZE オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は整数のバイト数でなければなりません。

解決方法: 適切な整数値を指定して、文を再実行してください。

ORA-02230: ALTER CLUSTER オプションが無効です。

原因: ALTER CLUSTER 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、SIZE 以外のオプションが指定されました。

解決方法: ALTER CLUSTER 文に有効なオプションだけを指定して、文を再実行してください。

ORA-02231: ALTER DATABASE のオプションがないか、または無効です。

原因: 文に無効なオプションが指定されました。

解決方法: ALTER DATABASE コマンドの構文を調べて、ALTER DATABASE 文に有効なオプションだけを指定して、文を再実行してください。

ORA-02232: MOUNT モードが無効です。

原因: ALTER DATABASE 文のキーワード MOUNT の後に、SHARED または EXCLUSIVE 以外のモードが指定されています。

解決方法: ALTER DATABASE 文中のキーワード CLOSE の後に何も指定しないか、SHARED または EXCLUSIVE を指定して、文を再実行してください。

ORA-02233: CLOSE モードが無効です。

原因: ALTER DATABASE 文中のキーワード CLOSE の後に、NORMAL または IMMEDIATE 以外のモードが指定されています。

解決方法: ALTER DATABASE 文中のキーワード CLOSE の後に何も指定しないか、NORMAL または IMMEDIATE を指定して、文を再実行してください。

ORA-02234: この表に対する変更はすでに記録されています。

原因: 追加するログ表が他と重複しています。

解決方法: この変更ログをシステムに追加しないでください。レプリケーション製品のシステム表の一貫性を確認してください。

ORA-02235: この表は別の表に対する変更をすでに記録しています。

原因: 変更する表は、別の表に対する変更をすでに記録しています。

解決方法: この表に指定された基本表への変更を記録しないでください。レプリケーション製品のシステム表の一貫性を確認してください。

ORA-02236: ファイル名が無効です。

原因: LOGFILE、DATAFILE、RENAME の句において、必要なリテラルがファイル名リスト中に指定されていません。

解決方法: リテラルを使用してファイル名を指定し、文を再実行してください。

ORA-02237: ファイル・サイズが無効です。

原因: LOGFILE または DATAFILE のファイル・リスト中の、SIZE の後に整数のファイル・サイズが指定されていません。

解決方法: キーワード SIZE の後に適切なファイル・サイズを指定して、文を再実行してください。

ORA-02238: ファイル名リストのファイル数が異なります。

原因: ALTER DATABASE または ALTER TABLESPACE の RENAME 句では、既存のファイル名の数と、新規ファイル名の数が等しくありません。

解決方法: 新しい各ファイル名が既存の各ファイル名と対応することを確認めて、文を再実行してください。

ORA-02239: この順序を参照しているオブジェクトがあります。

原因: 削除する順序は他のオブジェクトによって参照されています。

解決方法: 順序の名前が正しいことを確認するか、または順序を参照する制約やオブジェクトを削除してください。

ORA-02240: OBJNO または TABNO の値が無効です。

原因: OBJNO または TABNO の後に数値が指定されていません。

解決方法: OBJNO または TABNO の後に数値を指定してください。

ORA-02241: EXTENTS (FILE num BLOCK numSIZE num,...) でなければなりません。

原因: エクステンツの記憶領域句にエラーがあります。

解決方法: 正しい構文を使用して記憶領域句を再指定し、コマンドを再実行してください。

ORA-02242: ALTER INDEX のオプションが指定されていません。

原因: ALTER INDEX の後にオプションが指定されていません。

解決方法: ALTER INDEX 文に INITRANS、MAXTRANS、STORAGE オプションを指定して、文を再実行してください。

ORA-02243: ALTER INDEX の、または ALTER SNAPSHOT のオプションが無効です。

原因: ALTER INDEX 文、または ALTER SNAPSHOT 文の USING INDEX 句に、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE 以外のオプションが指定されました。

解決方法: 有効なオプションだけを指定し、文を再実行してください。

ORA-02244: ALTER ROLLBACK SEGMENT オプションが無効です。

原因: STORAGE 以外のオプションが指定されています。

解決方法: STORAGE オプションを指定して、文を再実行してください。

ORA-02245: ロールバック・セグメント名が無効です。

原因: ALTER [PUBLIC] ROLLBACK SEGMENT の後に、指定されるべきロールバック・セグメント名がありません。

解決方法: SEGMENT の後に、ロールバック・セグメント名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02246: ALTER SESSION SET EVENTS のテキストがありません。

原因: ALTER SESSION SET EVENTS コマンドの後に、指定されるべきリテラルがありません。

解決方法: キーワード EVENTS の後に、イベント・テキストを含む文字列定数を指定して、文を再実行してください。

ORA-02247: ALTER SESSION にオプションが指定されていません。

原因: ALTER SESSION コマンドの後に、指定されるべき SET EVENTS オプションがありません。

解決方法: ALTER SESSION コマンドの後に SET EVENTS オプションを指定して、文を再実行してください。

ORA-02248: ALTER SESSION のオプションが無効です。

原因: ALTER SESSION コマンドの後に、SET EVENTS 以外のオプションが指定されています。

解決方法: ALTER SESSION コマンドの後に SET EVENTS オプションを指定して、文を再実行してください。

ORA-02249: MAXLOGMEMBERS の値が見つからないか、無効です。

原因: MAXLOGMEMBERS の後に有効な数値が指定されていません。その指定された値は、1 からログファイル・メンバーのオペレーティング・システム固有の最小値の間でなければなりません。

解決方法: MAXLOGMEMBERS の後に有効な数値を指定してください。

ORA-02250: 制約名がないか、無効です。

原因: 制約名が指定されていないか、無効です。

解決方法: 有効な制約名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02251: ここでは副問合せは使用できません。

原因: 文のこの位置では副問合せは許されません。

解決方法: 副問合せの位置を変更するか、取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02252: 制約検査条件が正しく終了していません。

原因: 検査制約に対して指定された探索条件が正しく終了していません。

解決方法: 探索条件の構文を確認して訂正し、操作を再試行してください。

ORA-02253: ここでは制約は指定できません。

原因: 文のこの位置では制約を指定できません。

解決方法: 制約指定の位置を変更するか、取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02254: デフォルト <expression> は、ここでは使用できません。

原因: 文内のこの位置では、列に対してデフォルト式は許されていません。

解決方法: デフォルト式の位置を変更するか、取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02255: NOT NULL は DEFAULT NULL の後に使用できません。

原因: NOT NULL の指定と NULL のデフォルト式と一致しません。

解決方法: NOT NULL または DEFAULT NULL の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02256: 参照する列の数が、参照される列の数と一致しません。

原因: 参照する外部キー・リスト内の列数と参照されるリスト内の列数が一致しません。

解決方法: 参照する列と参照される列を一致させてください。

ORA-02257: 最大列数を超過しました。

原因: キー・リストの中の列の数が最大数を超過しています。

解決方法: リストの中の列の数を減らしてください。

ORA-02258: NULL と NOT NULL 指定が重複または混在しています。

原因: NULL または NOT NULL の指定が重複または一致しません。

解決方法: 一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02259: NULL と NOT NULL 指定が重複または混在しています。

原因: 重複する UNIQUE または PRIMARY KEY を指定しました。

解決方法: 重複する指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02260: 表には主キーを 1 つしか含められません。

原因: 同じ表に対して主キーを 2 つ以上指定しました。

解決方法: 余分な主キーを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02261: 表に一意キーまたは主キーがすでに存在しています。

原因: その表に対してすでに存在する一意キーまたは主キーを指定しました。

解決方法: 余分なキーを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02262: 列のデフォルト値の式の型を確認しているときに、ORA-:num が起きました。

原因: 列のデータ型を変更しようとして新しいデータ型を指定しましたが、既存の列のデフォルト値式と矛盾したため、データ型チェック・エラーが発生しました。

解決方法: デフォルト値式を取り除くか、または列のデータ型を変更しないで、再実行してください。

ORA-02263: この列に対してデータ型を指定しなければなりません。

原因: 列に対する必須データ型が指定されていません。

解決方法: 必須データ型を指定して、文を再実行してください。

ORA-02264: 既存の制約によってすでに使用されている名前です。

原因: 指定された制約名は一意ではありません。

解決方法: 制約に対して一意の制約名を指定して、文を再実行してください。

ORA-02265: 参照する列のデータ型が定義されていません。

原因: 参照列のデータ型が未定義です。

解決方法: 参照列のデータ型は、参照の前に定義するようにしてください。

ORA-02266: 表には使用可能な外部キーによって参照される一意キー / 主キーが含まれています。

原因: 別の表で使用可能な外部キーによって参照される一意キーまたは主キーのある表を削除または切り捨てようとした。

解決方法: 表を削除または切捨てる前に、他の表の外部キー制約を使用不可にしてください。次のコマンドを発行すると、どんな制約が表を参照しているか確認できます。

```
select constraint_name, table_name, status
from user_constraints
where r_constraint_name in (
    select constraint_name from user_constraints where table_name
    = 'tabnam');
```

ORA-02267: 列のデータ型が参照する列のデータ型と一致しません。

原因: 一致しないデータ型の列の対に操作を試みました。

解決方法: 参照する列に対して、一致するデータ型を指定してください。

ORA-02268: 参照された表に主キーがありません。

原因: 参照された表には主キーがありません。

解決方法: 一意キーを用いて表を参照しないでください。または、表に対して一意キーを作成してください。

ORA-02269: キー列は LONG データ型をとれません。

原因: キー列にデータ型 LONG を定義しようとした。これは許可されていません。

解決方法: 列のデータ型を変更するか、キーから LONG 型を取り除いてから、文を再実行してください。

ORA-02270: この列リストに対して一致する一意キーまたは主キーが存在しません。

原因: CREATE 文または ALTER TABLE 文を使用して表内の一意キーまたは主キーを参照しようとしたが、参照された表に該当する一意キーまたは主キーはありません。

解決方法: 表に一意キーまたは主キーを追加するか、一意キーまたは主キーを指定した列の正しい名前を確認してから、文を再実行してください。

ORA-02271: 表に制約はありません。

原因: 存在しない制約を使用して表を参照しようとした。

解決方法: 制約名の綴りを調べるか、表に制約を追加して、操作を再実行してください。

ORA-02272: 制約のある列は LONG データ型をとれません。

原因: 制約のある列はデータ型 LONG として定義できません。これは許可されていません。

解決方法: 列のデータ型を変更するか、列の制約を取り除いてから、文を再実行してください。

ORA-02273: この一意 / 主キーは外部キーによって参照されています。

原因: 外部キーによって参照される一意キーまたは主キーを削除しようとした。

解決方法: 削除する前に、そのキーに対する参照をすべて取り除いてください。

ORA-02274: 参照する制約の指定が重複しています。

原因: 一つの参照制約の指定が複数回指定されています。これは許可されていません。

解決方法: 重複する指定を取り除いてください。

ORA-02275: 参照する制約は表にすでに存在しています。

原因: すでに存在している参照制約を指定しようとした。指定が重複することになり、これは指定できません。

解決方法: 制約の指定は 1 回だけにしてください。

ORA-02276: デフォルトのデータ型が列のデータ型と一致しません。

原因: 評価されたデフォルトの型と列のデータ型が一致しません。

解決方法: デフォルトの式を修正するか、列のデータ型を変更して、操作を再試行してください。

ORA-02277: 順序名が無効です。

原因: 無効な順序名を指定しました。

解決方法: 構文と入力の綴りを調べ、有効な順序名を指定して、オペレーションを再実行してください。

ORA-02278: MAXVALUE/NOMAXVALUE の指定が重複または混在しています。

原因: 重複または矛盾した MAXVALUE、NOMAXVALUE が指定されました。

解決方法：一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02279: MINVALUE/NOMINVALUE の指定が重複または混在しています。

原因：重複または混在して MINVALUE、NOMINVALUE が指定されています。

解決方法：一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02280: CYCLE/NOCYCLE の指定が重複または混在しています。

原因：重複または混在して CYCLE、NOCYCLE が指定されました。

解決方法：一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02281: CACHE/NOCACHE の指定が重複または混在しています。

原因：重複または混在して CACHE、NOCACHE が指定されました。

解決方法：一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02282: ORDER/NOORDER の指定が重複または混在しています。

原因：重複または混在して ORDER、NOORDER が指定されました。

解決方法：一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02283: 開始順序番号は変更できません。

原因：開始順序番号を変更しようとしてしました。これは許可されていません。

解決方法：開始順序番号は変更しないでください。

ORA-02284: INCREMENT BY の指定が重複しています。

原因：INCREMENT BY 句が重複して指定されました。

解決方法：重複する指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02285: START WITH の指定が重複しています。

原因：START WITH 句が重複して指定されました。

解決方法：重複する指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02286: ALTER SEQUENCE のオプションが指定されていません。

原因：ALTER SEQUENCE オプションが指定されていません。

解決方法：構文を確認してください。ALTER SEQUENCE オプションを少なくとも 1 つ指定してください。

ORA-02287: ここでは順序番号は使用できません。

原因：指定された順序番号の参照 (CURRVAL または NEXTVAL) は、文のこの位置では不適切です。

解決方法：構文を確認してください。順序番号の位置を変更するか、取り除いてください。

ORA-02288: OPEN モードが無効です。

原因: ALTER DATABASE OPEN 文に、RESETLOGS 以外のモードが指定されました。RESETLOGS が唯一の有効な OPEN モードです。

解決方法: 文から無効なモードを取り除くか、かわりにキーワード RESETLOGS を指定して、操作を再実行してください。

ORA-02289: 順序が存在しません。

原因: 指定した順序番号が存在しないか、この操作の実行に必要なアクセス権限が認められていません。また、無効または存在していないデータベース・リンクでリモート順序番号にアクセスしようとした場合にも、このエラーが発生する可能性があります。

解決方法: 順序名の綴りを確認するか、必要なアクセス権限を取得してください。必要に応じて順序番号を作成してください。分散トランザクションでアクセスされたりリモート順序番号はすべて、同一ノード上になければなりません。

ORA-02290: チェック制約 *str.name* に違反しています。

原因: フィールドに入力された値は定義済みの検査制約に違反します。

解決方法: 制約に満足する値を入力してください。

ORA-02291: 整合性制約 (*str.name*) に違反しました。親キーがありません。

原因: 外部キーの値を挿入または更新しようとした。値が親キーに存在しませんでした。

解決方法: 親キーにある値を更新または挿入してください。

ORA-02292: 整合性制約 *str.name* に違反しました。子レコードが見つかりました。

原因: 外部キーが参照している行を削除しようとした。

解決方法: この行を変更するには、外部キーを削除または更新しなければなりません。

ORA-02293: 制約 (*name*) を使用可能にできません。違反している制約を確認してください。

原因: ALTER TABLE 文で該当する値を持たない表に検査制約を追加しようとした。

解決方法: 該当する値を含んでいる表に対して検査制約を指定する ALTER TABLE 文を再実行してください。ALTER TABLE の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「ALTER TABLE」を参照してください。

ORA-02294: 参照制約は追加できません。親キーがありません。

原因: ALTER TABLE 文で一致する親値を持たない表に参照制約を追加しようとした。

解決方法: 親表に有効な主キーを指定する ALTER TABLE 文を再実行してください。

ORA-02295: 制約に対する ENABLE 句または DISABLE 句が複数あります。

原因: CREATE 文または ALTER TABLE 文に、与えられた制約に対して ENABLE 句または DISABLE 句を複数指定しました。

解決方法: 与えられた制約に対して ENABLE 句または DISABLE 句を 1 つだけ指定してください。

ORA-02296: 制約 (name) を使用可能にできません。NULL 値が見つかりました。

原因: ENABLE CONSTRAINT ALTER TABLE コマンドは、表に制約を満足しない値が含まれていたためにエラーとなりました。

解決方法: 表の中のすべての値が制約を満足することを確認してから、ENABLE CONSTRAINT 句を指定した ALTER TABLE コマンドを実行してください。ALTER TABLE と ENABLE CONSTRAINT の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「ALTER TABLE」と「ENABLE 句」を参照してください。

ORA-02297: 制約 name.name を使用禁止にできません。依存関係が存在します。

原因: ALTER TABLE DISABLE CONSTRAINT コマンドは、表が制約に依存する外部キーを持っていたためにエラーとなりました。

解決方法: 外部キー制約を使用禁止にするか、または DISABLE CASCADE コマンドを指定してください。

ORA-02298: 制約 (name) を使用可能にできません。親キーがありません。

原因: ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドは、親を持たない子レコードが表に含まれていたためにエラーとなりました。

解決方法: 親を持たない子レコードが表に含まれていないことを確認してから、ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドを実行してください。ALTER TABLE と ENABLE CONSTRAINT の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「ALTER TABLE」と「ENABLE 句」を参照してください。

ORA-02299: 制約 (name) を使用可能にできません。キーが重複しています。

原因: ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドは、表に重複するキー値が含まれていたためにエラーとなりました。

解決方法: 表に重複するキー値が含まれていないことを確認してから、ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドを実行してください。ALTER TABLE と ENABLE CONSTRAINT の詳細は、『Oracle8 Server SQL 言語リファレンス』の索引項目「ALTER TABLE」と「ENABLE 句」を参照してください。

SQL へのオブジェクト拡張機能メッセージ : 02300 ~ 02350

ORA-02300: OIDGENERATORS の値が無効です。

原因: OIDGENERATORS の値に数値が指定されていません。

解決方法: OIDGENERATORS の後に数値を指定してください。

ORA-02301: OIDGENERATORS の最大値は 255 です。

原因: OIDGENERATORS の値に 255 より大きい数値が指定されました。

解決方法: OIDGENERATORS に指定する数値が 255 を超えないようにしてください。

ORA-02302: OIDGENERATORS の最大値は 255 です。

原因: 文中に、無効な型名が入力されました。または、型名が入力されませんでした。

解決方法: 文中に有効な型名を入力し、操作を再試行してください。

ORA-02303: 依存する型が表がある型は、削除または置換できません。

原因: 依存関係がある型を削除または置換しようとしてしました。

解決方法: 型に依存するすべての型および表を削除してからオペレーションを再試行するか、FORCE オプションを使用してください。

ORA-02304: オブジェクト識別子リテラルが無効です。

原因: CREATE TYPE に対し、次のいずれかのオブジェクト識別子リテラルを入力しようとしてしました。

- 32 文字の 16 進文字列以外
- すでに既存のオブジェクトを識別しているオブジェクト識別子
- その型に対してすでに割当て済みである元のオブジェクト識別子と異なるオブジェクト識別子

解決方法: オブジェクト識別子句を指定しないでください。指定する場合は、一意の、または最初に割当てられたオブジェクト識別子と同一の、32 文字の 16 進文字のオブジェクト識別子リテラルを指定してください。操作を再試行してください。

ORA-02305: 型に有効なのは EXECUTE 権限だけです。

原因: 型に対して、無効な権限 (EXECUTEE 以外) を GRANT または REVOKE しようとしてしました。

解決方法: 型に対しては、EXECUTE 権限だけを GRANT または REVOKE してください。

ORA-02306: すでに有効な依存関係のある型を作成できません。

原因: すでにいくつかの有効な依存関係のある型を作成しようとしてしました。(これらの依存関係は、その型が存在しないという事実に基づいています。)

解決方法: 先に依存関係を削除してから型を作成してください。または、その型を作成しないでください。

ORA-02307: REPLACE オプションで無効な型を変更できません。

原因: REPLACE オプションで無効な型を変更しようとしてしました。

解決方法: CREATE OR REPLACE TYPE コマンドを使用して型を変更してください。

ORA-02308: オブジェクト型の列にオプション *name* は無効です。

原因: オブジェクト型の列に対し、PACKED または UNPACKED などの無効なオプションが指定されました。

解決方法: 列の指定から無効なオプションを取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-02309: atomic NULL 違反です。

原因: 属性が NULL のオブジェクト・インスタンスにアクセスしようとした。

解決方法: オブジェクト・インスタンスが NULL でないことを確認してからアクセスしてください。

ORA-02310: 表の許容最大列を超えました。

原因: オブジェクト型の列の属性が 1 つの表の許容最大値を超えました。

解決方法: オブジェクト型の属性を少なくして、操作を再試行してください。

ORA-02311: 依存する型または表がある有効な型は、COMPILE オプションで変更できません。

原因: COMPILE オプションで、依存する型または表がある有効な型を ALTER しようとした。

解決方法: この操作を実行する必要はありません。

ORA-02312: VALUE ADT にエクステント表が作成できません。

原因: VALUE オブジェクト型に、エクステント表を作成しようとした。

解決方法: エクステント表を作成する時には、オブジェクト型を指定してください。

ORA-02313: オブジェクト型に問合せ不可型 :name の属性が含まれています。

原因: 指定のオブジェクト型に問合せ不可型のネストされた属性が含まれています。

解決方法: 問合せ可能型のオブジェクト型を使用してください。

ORA-02315: デフォルト・コンストラクタの引数の数が正しくありません。

原因: デフォルト・コンストラクタに指定された引数の数がオブジェクト型の属性の数と一致しません。

解決方法: デフォルト・コンストラクタに正しい数の引数を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02320: ネストされた表列 name に記憶領域表を作成しているときに、障害が発生しました。

原因: 指定のネストした表の列に記憶表を作成している間に、エラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。そのメッセージに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社技術サポートに連絡してください。

ORA-02322: ネストされた表の列の記憶表へのアクセス時にエラーが発生しました。

原因: ネストした表の列の記憶表で DML を実行している間にエラーが発生しました。

解決方法: 続いて表示されるメッセージに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02324: THE 副問合せの SELECT リストで列が複数選択されています。

原因: THE 副問合せで列が複数選択されています。

解決方法: THE 副問合せの SELECT リストで 1 列だけを指定して、操作を再試行してください。

ORA-02327: データ型が *name* の列に索引は作成できません。

原因: 索引を作成不可能な列に索引を作成しようとしてしました。

解決方法: 列のデータ型を変更してください。または、列のデータ型が VARRAY、ネストした表、オブジェクト、LOB、REF のいずれかの場合は、索引を作成しないでください。

ORA-02329: データ型 *name* の列は一意や主キーにできません。

原因: データ型が VARRAY、ネストした表、オブジェクト、LOB、FILE、REF の列に、UNIQUE または PRIMARY KEY 制約を指定しようとしてしました。

解決方法: 列のデータ型を変更してください。または、制約を取り除いてください。操作を再試行してください。

ORA-02330: データ型の指定はできません。

原因: オブジェクト表の列制約指定で、データ型を指定しようとしてしました。

解決方法: データ型指定を取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-02331: データ型が *name* の列に制約は作成できません。

原因: 制約を作成できないデータ型である VARRAY、ネストした表、オブジェクト、LOB、FILE または REF を持つ列に制約を作成しようとしてしました。

解決方法: 列のデータ型を変更してください。または、制約を取り除いてください。

ORA-02332: この列の属性に索引は作成できません。

原因: オブジェクト型の列の属性に索引を作成しようとしてしました。

解決方法: この属性には索引を作成しないでください。

ORA-02333: この列の属性に制約は作成できません。

原因: オブジェクト型の列の属性に制約を作成しようとしてしました。

解決方法: 制約を取り除いてください。または、オブジェクト型を変更してください。

ORA-02334: 列の型を推論できません。

原因: (CREATE TABLE で) この列に対するデータ型が宣言されていません。また、この列の属性に制約を作成しようとしてしました。

解決方法: 列に対してデータ型を宣言してください。

ORA-02335: クラスタ列のデータ型が無効です。

原因: データ型がオブジェクトまたは REF、ネストした表、VARRAY、LOB、FILE の CLUSTER 列を宣言しようとしてしました。

解決方法: CLUSTER 列を削除してください。または、列のデータ型を変更してください。

ORA-02336: 列の属性にアクセスできません。

原因: オブジェクト型の列の属性を取り出そうとしてしました。

解決方法: 列のオブジェクト型を変更して、操作を再試行してください。

ORA-02337: オブジェクト型の列ではありません。

原因: 原因: 非オブジェクト型の列にピリオド付表示をしようとしてしました。つまり、"a" がオブジェクト型でない場合に "a.b.c" という表示をしようとしてしました。

解決方法: 列の型をオブジェクト型に変更してください。または、この操作を実行しないでください。

ORA-02338: 列の制約が指定されていないか、または無効です。

原因: 列制約が指定されていません。

解決方法: 列指定を取り除いてください。または、列制約を指定してください。操作を再試行してください。

ORA-02339: 列の指定が無効です。

原因: 非オブジェクト型の列に PACKED または UNPACKED キーワードを指定しようとしてしました。

解決方法: 列指定から PACKED または UNPACKED キーワードを取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-02340: 列の指定が無効です。

原因: パックされた表内で UNPACKED 列を指定しようとしてしました。

解決方法: 列指定から UNPACKED キーワードを取り除いてください。

ORA-02341: SQL で問合せ不能な型 *name* は参照できません。

原因: SQL で問合せ不可型のオブジェクト型の属性を参照しようとしてしました。

解決方法: 属性の型を SQL 問合せ可能型に変更してください。または、3GL によって属性を参照してください。

ORA-02342: 置換型にコンパイル・エラーがあります。

原因: 有効な型に対して ALTER...REPLACE 文を使用しましたが、コンパイル・エラーが発生しました。

解決方法: ALTER...REPLACE 文を使用して、その型をコンパイル・エラーが起きない有効な型に置き換えてください。

ORA-02343: CASCADE が異常終了しました。型には他のスキーマに依存があります。

原因: 他のスキーマに依存関係がある型のユーザーを CASCADE 削除しようとした。

解決方法: 最初に他のスキーマの依存関係を削除してから、ユーザーを削除してください。

ORA-02344: 依存する表がある型で実行の取消しはできません。

原因: 依存関係がある型で実行を取り消そうとしました。

解決方法: 型に依存するすべての表を削除して、操作を再試行するか、FORCE オプションを使用してください。

ORA-02345: CURSOR オペレータに基づいた列をもつビューは作成できません。

原因: CURSOR オペレータを CREATE VIEW または CREATE TABLE ... AS SELECT 文の副問合せの中の SELECT 要素の 1 つとして使用されました。

解決方法: CURSOR オペレータを取り除いて、CAST オペレータと置き換えてください。

ORA-02347: オブジェクト表の列に権限は付与できません。

原因: オブジェクト表の列に権限を付与しようとした。

解決方法: 別の表を選択してください。オブジェクト表の列に権限を付与できません。

ORA-02349: ユーザー定義型が無効です。型が不完全です。

原因: 列または表のデータ型として不完全な型の定義を使用しようとした。

解決方法: 型の定義を完全にして、操作を再試行してください。